授業コード	学科名	科目名
1400310	鍼灸学科	生き物の科学（生物学）
1400311	柔道整復学科	生き物の科学（生物学）
1400320	鍼灸学科	物質の反応（化学）
1400321	柔道整復学科	物質の反応（化学）
1400330	鍼灸学科	物質の科学（物理学）
1400331	柔道整復学科	物質の科学（物理学）
1401310	鍼灸学科	学びの技法入門
1401320	鍼灸学科	法学（日本国憲法）
1401321	柔道整復学科	法学（日本国憲法）
1401330	鍼灸学科	社会保障の基礎
1401331	柔道整復学科	社会保障の基礎
1401340	鍼灸学科	心理学概論
1401341	柔道整復学科	心理学概論
1401350	鍼灸学科	健康の創造（体育理論）
1401351	柔道整復学科	健康の創造（体育理論）
1401360	鍼灸学科	健康スポーツ（体育実技）
1401361	柔道整復学科	健康スポーツ（体育実技）
1401362	柔道整復学科	健康スポーツ（体育実技）
1401370	柔道整復学科	教養特講
1402310	鍼灸学科	英語Ⅰ
1402311	柔道整復学科	英語Ⅰ
1402312	柔道整復学科	英語Ⅰ
1402320	鍼灸学科	英語Ⅱ
1402321	柔道整復学科	英語Ⅱ
1402340	鍼灸学科	中国語Ⅰ
1402350	鍼灸学科	中国語Ⅱ
1402360	柔道整復学科	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
1402370	柔道整復学科	中国語
1403310	鍼灸学科	情報リテラシーⅠ
1403311	柔道整復学科	情報リテラシーⅠ
1403320	鍼灸学科	情報リテラシーⅡ
1403321	柔道整復学科	情報リテラシーⅡ
1404310	看護学科	教養特講
1404320	看護学科	生き物の科学（生物学）
1404330	看護学科	物質の反応（化学）
1404340	看護学科	物質の科学（物理学）
1404350	看護学科	法学（日本国憲法）
1404360	看護学科	哲学
1404370	看護学科	社会学
1404380	看護学科	心理学概論Ⅰ
1404390	看護学科	心理学概論Ⅱ
1404400	看護学科	コミュニケーション論
1404410	看護学科	健康の創造（体育理論）
1404420	看護学科	健康スポーツ（体育実技）
1404421	看護学科	健康スポーツ（体育実技）
1404430	看護学科	英語Ⅰ
1404431	看護学科	英語Ⅰ
1404440	看護学科	英語Ⅱ
1404441	看護学科	英語Ⅱ
1404450	看護学科	英語Ⅲ
1404451	看護学科	英語Ⅲ
1404460	看護学科	英語Ⅳ
1404461	看護学科	英語Ⅳ
1404510	看護学科	英語コミュニケーション
1404511	看護学科	英語コミュニケーション
1404530	看護学科	中国語
1404540	看護学科	情報リテラシーⅠ
1404550	看護学科	情報リテラシーⅡ
1410020	鍼灸学科	関係法規
1410060	鍼灸学科	統合医療論（代替医療）

1410100	鍼灸学科	中薬学概論
1410110	鍼灸学科	中医方剤学（処方学）
1410120	鍼灸学科	中医栄養学(薬膳）
1410130	鍼灸学科	鍼灸経営論
1410320	鍼灸学科	医学概論（生命医療倫理を含む）
1410330	鍼灸学科	臨床心理学
1410340	鍼灸学科	医療人のための英語（医学英語）
1410350	鍼灸学科	カウンセリング入門
1410360	鍼灸学科	社会鍼灸学
1410400	鍼灸学科	手技療法入門
1411140	鍼灸学科	臨床検査学
1411150	鍼灸学科	臨床薬理学
1411310	鍼灸学科	人体構造学Ⅰ（総論・組織）
1411320	鍼灸学科	人体構造学Ⅱ
1411330	鍼灸学科	人体構造学Ⅲ
1411340	鍼灸学科	人体構造学実習
1411350	鍼灸学科	人体機能学Ⅰ
1411360	鍼灸学科	人体機能学Ⅱ（動物機能・運動生理を含む）
1411370	鍼灸学科	人体機能学Ⅲ
1411380	鍼灸学科	人体機能学実習
1411390	鍼灸学科	病理学
1411410	鍼灸学科	衛生学・公衆衛生学
1411440	鍼灸学科	免疫学
1411450	鍼灸学科	生化学
1412040	鍼灸学科	内科学ⅠⅠⅠ
1412080	鍼灸学科	画像診断学
1412090	鍼灸学科	外科学
1412100	鍼灸学科	臨床医学各論Ⅰ
1412110	鍼灸学科	臨床医学各論ⅠⅠ
1412120	鍼灸学科	リハビリテーション医学総論
1412130	鍼灸学科	リハビリテーション医学各論
1412140	鍼灸学科	救急法
1412170	鍼灸学科	栄養学（スポーツ栄養学を含む）
1412180	鍼灸学科	診療所実習
1412310	鍼灸学科	臨床医学総論Ⅰ
1412320	鍼灸学科	臨床医学総論Ⅱ
1412340	鍼灸学科	臨床医学各論Ⅰ
1412370	鍼灸学科	整形外科学（スポーツ医学を含む）
1412380	鍼灸学科	リハビリテーション医学Ⅰ
1412450	鍼灸学科	メンタルヘルスケア学
1412480	鍼灸学科	スポーツ指導論
1412490	鍼灸学科	発育発達論
1412500	鍼灸学科	トレーニング科学総論
1412510	鍼灸学科	スポーツ医学総論
1412520	鍼灸学科	スポーツ心理学総論
1412530	鍼灸学科	スポーツ組織論
1412540	鍼灸学科	アスレティックトレーナーの役割
1413070	鍼灸学科	鍼灸安全学
1413110	鍼灸学科	触診解剖と刺鍼手技
1413170	鍼灸学科	鍼灸治効理論演習
1413180	鍼灸学科	鍼灸治効理論基礎実習
1413190	鍼灸学科	最新鍼灸治効理論演習
1413220	鍼灸学科	中医診断学演習
1413240	鍼灸学科	東洋医学古典講読
1413320	鍼灸学科	鍼灸安全学
1413330	鍼灸学科	鍼灸の基礎
1413340	鍼灸学科	経絡経穴学Ⅰ
1413350	鍼灸学科	経絡経穴学Ⅱ
1413360	鍼灸学科	東洋医学概論Ⅰ
1413370	鍼灸学科	東洋医学概論Ⅱ
1413390	鍼灸学科	鍼灸治効理論Ⅰ
1413440	鍼灸学科	触診解剖と刺鍼手技

1413450	鍼灸学科	基礎施灸手技実習
1413460	鍼灸学科	基礎刺鍼手技実習
1413470	鍼灸学科	臨床鍼灸手技実習Ⅰ
1413480	鍼灸学科	臨床鍼灸手技実習Ⅱ
1413570	鍼灸学科	鍼灸施術と運動法
1414010	鍼灸学科	内科臨床鍼灸学Ⅰ
1414020	鍼灸学科	内科臨床鍼灸学ⅠⅠ
1414030	鍼灸学科	神経内科臨床鍼灸学
1414040	鍼灸学科	整形外科臨床鍼灸学Ⅰ
1414050	鍼灸学科	整形外科臨床鍼灸学ⅠⅠ
1414080	鍼灸学科	臨床効果の評価法
1414090	鍼灸学科	眼科・耳鼻科・歯科臨床鍼灸学
1414100	鍼灸学科	泌尿器・皮膚科臨床鍼灸学
1414110	鍼灸学科	レディース臨床鍼灸学
1414120	鍼灸学科	疼痛管理臨床鍼灸学
1414130	鍼灸学科	スポーツ鍼灸学Ⅰ
1414140	鍼灸学科	スポーツ鍼灸学ⅠⅠ
1414150	鍼灸学科	老年臨床鍼灸学
1414160	鍼灸学科	日本伝統鍼灸治療学
1414170	鍼灸学科	中医鍼灸治療学
1414180	鍼灸学科	医療面接
1414190	鍼灸学科	附属鍼灸センター実習Ⅰ
1414200	鍼灸学科	附属鍼灸センター実習ⅠⅠ
1414210	鍼灸学科	カンファレンス（症例検討）
1414220	鍼灸学科	症例報告の書き方・発表の仕方
1414230	鍼灸学科	鍼灸医学総合演習Ⅰ
1414240	鍼灸学科	鍼灸医学総合演習ⅠⅠ
1414250	鍼灸学科	学外関連施設実習（見学実習）
1414310	鍼灸学科	理学的検査法実習
1414320	鍼灸学科	整形外科臨床鍼灸学Ⅰ
1415040	鍼灸学科・柔道整復学科共通	発育発達論
1415050	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ心理学総論
1415070	鍼灸学科・柔道整復学科共通	トレーニング科学総論
1415080	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ医学総論
1416010	鍼灸学科・柔道整復学科共通	アスレティックトレーナーの役割
1416020	鍼灸学科・柔道整復学科共通	トレーニング科学
1416030	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ・バイオメカニクス
1416040	鍼灸学科・柔道整復学科共通	運動生理学
1416050	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ心理学
1416060	鍼灸学科・柔道整復学科共通	運動器の解剖と機能
1416070	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ外傷障害の基礎知識
1416080	鍼灸学科・柔道整復学科共通	健康管理とスポーツ医学
1416090	鍼灸学科・柔道整復学科共通	身体の検査・測定と評価（体力測定を含む）
1416100	鍼灸学科・柔道整復学科共通	予防とコンディショニングⅠ
1416110	鍼灸学科・柔道整復学科共通	予防とコンディショニングⅠⅠ（テーピング・ストレッチングを含む）
1416120	鍼灸学科・柔道整復学科共通	予防とコンディショニングⅠⅠⅠ
1416130	鍼灸学科・柔道整復学科共通	アスレティックリハビリテーションⅠ
1416140	鍼灸学科・柔道整復学科共通	アスレティックリハビリテーションⅠⅠ
1416150	鍼灸学科・柔道整復学科共通	アスレティックリハビリテーションⅠⅠⅠ
1416160	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ栄養学
1417010	鍼灸学科・柔道整復学科共通	エアロビック運動の実際Ⅰ
1417020	鍼灸学科・柔道整復学科共通	エアロビック運動の実際ⅠⅠ
1417030	鍼灸学科・柔道整復学科共通	トレーニングの理論と実際
1417040	鍼灸学科・柔道整復学科共通	健康づくりと運動プログラム
1418010	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習Ⅰ（見学実習）
1418020	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習ⅠⅠ（測定と評価、プログラミング）
1418030	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習ⅠⅠⅠ（スポーツ現場実習）
1418040	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習ⅠⅤ（アスレティックリハビリテーション）
1418050	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習Ⅴ（総合実習）
1419010	鍼灸学科	卒業研究
1420010	柔道整復学科	栄養学（スポーツ栄養学を含む）
1420030	柔道整復学科	生化学

1420320	柔道整復学科	薬物療法学
1420330	柔道整復学科	生化学
1421030	柔道整復学科	解剖学実習
1421060	柔道整復学科	生理学ⅠⅠⅠ
1421070	柔道整復学科	生理学実習
1421080	柔道整復学科	運動学
1421090	柔道整復学科	運動学実習
1421310	柔道整復学科	解剖学Ⅰ
1421320	柔道整復学科	解剖学Ⅱ
1421330	柔道整復学科	解剖学Ⅲ
1421340	柔道整復学科	解剖学実習
1421350	柔道整復学科	生理学Ⅰ
1421360	柔道整復学科	生理学Ⅱ
1421370	柔道整復学科	生理学Ⅲ
1421380	柔道整復学科	生理学Ⅳ
1422020	柔道整復学科	病理学ⅠⅠ
1422030	柔道整復学科	病理学実習
1422050	柔道整復学科	内科学各論Ⅰ
1422060	柔道整復学科	内科学各論ⅠⅠ（スポーツ医学を含む）
1422080	柔道整復学科	外科学各論
1422090	柔道整復学科	救急法
1422130	柔道整復学科	リハビリテーション医学実習（検査・測定を含む）
1422310	柔道整復学科	病理学Ⅰ
1422320	柔道整復学科	病理学Ⅱ
1422340	柔道整復学科	一般臨床医学　Ⅰ
1422350	柔道整復学科	一般臨床医学　Ⅱ
1422380	柔道整復学科	外科学概論Ⅰ
1422390	柔道整復学科	外科学概論Ⅱ
1422420	柔道整復学科	整形外科学Ⅰ
1422430	柔道整復学科	整形外科学Ⅱ
1422460	柔道整復学科	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学Ⅰ
1422470	柔道整復学科	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学Ⅱ
1423020	柔道整復学科	関係法規
1423050	柔道整復学科	研究の展開
1423080	柔道整復学科	柔道ⅠⅠⅠ
1423310	柔道整復学科	柔道整復の歴史
1423330	柔道整復学科	生命医療倫理学
1423340	柔道整復学科	柔整医療安全学
1423360	柔道整復学科	柔道Ⅰ
1423370	柔道整復学科	柔道Ⅱ
1423380	柔道整復学科	柔道Ⅲ
1423390	柔道整復学科	柔道Ⅳ
1423410	柔道整復学科	衛生学・公衆衛生学Ⅰ
1424310	柔道整復学科	運動器系の解剖Ⅰ
1424320	柔道整復学科	運動器系の解剖Ⅱ
1424330	柔道整復学科	骨の損傷概論Ⅰ
1424340	柔道整復学科	骨の損傷概論Ⅱ
1424350	柔道整復学科	関節の損傷概論
1424360	柔道整復学科	軟部組織損傷概論
1424370	柔道整復学科	後療法学
1425060	柔道整復学科	画像診断学
1425070	柔道整復学科	運動器系の解剖総合演習
1425080	柔道整復学科	骨折理論総合演習
1425090	柔道整復学科	脱臼理論総合演習
1425100	柔道整復学科	軟部組織損傷総合演習
1425310	柔道整復学科	上肢の骨折理論Ⅰ
1425320	柔道整復学科	上肢の骨折理論Ⅱ
1425330	柔道整復学科	下肢・体幹の骨折理論Ⅰ
1425340	柔道整復学科	下肢・体幹の骨折理論Ⅱ
1425350	柔道整復学科	上肢の脱臼理論Ⅰ
1425360	柔道整復学科	上肢の脱臼理論Ⅱ
1425380	柔道整復学科	軟部組織損傷各論

1425390	柔道整復学科	画像診断学
1426020	柔道整復学科	上肢の骨折実技Ⅰ
1426030	柔道整復学科	上肢の骨折実技Ⅰ Ⅰ
1426040	柔道整復学科	下肢の骨折実技
1426050	柔道整復学科	体幹の骨折実技
1426060	柔道整復学科	上肢の脱臼実技
1426070	柔道整復学科	下肢（顎関節を含む）の脱臼実技
1426080	柔道整復学科	軟部組織損傷の実技
1426100	柔道整復学科	臨床実習Ⅰ Ⅰ
1426110	柔道整復学科	臨床実習Ⅰ Ⅰ Ⅰ
1426310	柔道整復学科	包帯実技Ⅰ
1426320	柔道整復学科	包帯実技Ⅱ
1426450	柔道整復学科	臨床実習Ⅰ
1426460	柔道整復学科	臨床実習Ⅱ
1426470	柔道整復学科	臨床実習Ⅲ
1427010	柔道整復学科	卒業研究
1430310	看護学科	人体の構造Ⅰ
1430320	看護学科	人体の構造Ⅱ
1430330	看護学科	人体の機能Ⅰ
1430340	看護学科	人体の機能Ⅱ
1431310	看護学科	病理学概論
1431320	看護学科	臨床薬理学概論
1431330	看護学科	生化学
1431340	看護学科	臨床疾患学Ⅰ（内科系）
1431350	看護学科	臨床疾患学Ⅱ（一般外科系）
1431360	看護学科	臨床疾患学Ⅲ（整形・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ・老年医学）
1431370	看護学科	栄養学と食育
1431380	看護学科	生体防御学
1432310	看護学科	看護情報学
1432320	看護学科	看護研究の基礎
1433310	看護学科	公衆衛生学
1433330	看護学科	保健医療福祉行政論
1433340	看護学科	社会福祉の基礎
1433350	看護学科	医療関連法規
1434310	看護学科	看護学原論Ⅰ
1434320	看護学科	看護学原論Ⅱ
1434330	看護学科	看護形態機能学
1434340	看護学科	基礎看護学演習Ⅰ
1434350	看護学科	基礎看護学演習Ⅱ
1434360	看護学科	基礎看護学演習Ⅲ
1434370	看護学科	フィジカルアセスメントⅠ
1434390	看護学科	看護過程論
1434400	看護学科	看護倫理学
1434410	看護学科	導入基礎実習
1434420	看護学科	基礎看護学実習
1435310	看護学科	成人看護学概論
1435370	看護学科	老年看護学概論
1435400	看護学科	母性看護学概論
1435430	看護学科	小児看護学概論
1435460	看護学科	精神看護学概論
1435490	看護学科	疾病援助論
1436310	看護学科	在宅看護学Ⅰ
1436320	看護学科	在宅看護学Ⅱ
1436350	看護学科	公衆衛生看護学概論
1436410	看護学科	在宅ケア実習
1436420	看護学科	地域看護学実習
1436440	看護学科	公衆衛生看護学各論
1436450	看護学科	事例展開Ⅷ(在宅・地域)
1437340	看護学科	東洋医学特講
1437350	看護学科	セラピー看護論
1443140	看護学科	リスクマネジメント
1444010	看護学科	成人看護学概論Ⅰ（急性期）

1444020	看護学科	成人看護援助論Ⅰ（急性期）
1444030	看護学科	事例展開Ⅰ（成人・急性期疾患）
1444040	看護学科	成人看護学実習Ⅰ(急性期）
1444070	看護学科	事例展開ⅠⅠ（成人・慢性期疾患）
1444080	看護学科	成人看護学実習ⅠⅠ（慢性期）
1444110	看護学科	事例展開ⅠⅠⅠ（老年・慢性期疾患）
1444120	看護学科	老年看護学実習
1444140	看護学科	母性看護援助論
1444150	看護学科	事例展開ⅠⅤ（母性）
1444160	看護学科	母性看護学実習
1444190	看護学科	事例展開Ⅴ（小児）
1444200	看護学科	事例展開ⅤⅠ（障害児・者）
1444210	看護学科	小児看護学実習
1444220	看護学科	精神看護学概論
1444230	看護学科	精神看護援助論
1444240	看護学科	事例展開ⅤⅠⅠ（精神疾患）
1444250	看護学科	精神看護学実習
1445030	看護学科	保健指導論
1445050	看護学科	地域看護管理論
1445060	看護学科	地域ケア連携とシステム
1445070	看護学科	ケアマネジメントの理念と実際
1445080	看護学科	地域施設運営論
1446020	看護学科	国際看護論
1446030	看護学科	看護管理論
1446050	看護学科	看護理論特講
1446060	看護学科	原著講読
1447010	看護学科	統合実習
1448010	看護学科	卒業研究
1450010	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ組織論
1450020	鍼灸学科・柔道整復学科共通	発育発達論
1450030	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ指導論

生き物の科学（生物学）[1400310]

科目名	生き物の科学（生物学）[1400310]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	豊田 雅士[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 1.0〜1.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意
私語を慎み、授業へ集中する事

授業の形態
講義

教科書・参考文献
参考書: 理系総合のための生命科学 第３版（羊土社）（注）自分の実力に応じて以下でもよい 文系のための生命科学第２版（羊土社）（生物未履修者向け） 生命科学 改訂第３版 (羊土社）（より深く生命科学を理解したい人向け） 参考書: 進化医学-人への進化が生んだ疾患-（羊土社） Newton別冊 生命科学がわかる１００のキーワード（改訂版）（ニュートンプレス）

評価方法・評価割合
出席状況（出席回数、遅刻・途中退席＝２０％）、レポート（期末1回＝５０％）、授業中の課題（リアクションペーパー、小レポート＝３０％）、その他（授業への参加姿勢（加点要素として考慮する））

授業の目的および到達目標
本科目では、生物学の基本的事項を学習する。医学系の科目は生物学の知見を基礎としている部分が多く、生物学の基本的事項の理解は医学、医療全般を学習する上で重要である。特に基礎医学の内容と深く関わる事項について学習し、医学の理解の促進をはかる。

テーマおよび内容
[1回] なぜ生物学を学ぶのか：医学系専門科目を学んでいく上で基本となるのが生物学であるが、なぜ必要なのか、生物学を学ぶことでどんな利点があるのかを自ら考え認識を諮っていく。そのために生命の基本原理とは何かを考え、細胞生物学、進化生物学、遺伝学、分子生物学等にわたる基礎的な知識について講義していく。 [2回] 同上 [3回] 同上 [4回] 生物としてのヒト：生き物の中でも我々人は特別なものなのだろうか。発生、成長、老化といったヒトの一生を、発生学、分子遺伝学、分子細胞生物学等の科学的分析を通して見る事で、今後の専門的学問の基盤となる知識を身につける。 [5回] 同上 [6回] 同上 [7回] 同上

[8回] 同上

[9回] 同上

[10回] 生命科学と社会：先端生命科学は、いまや社会に与える影響が大きくなってきている。その影響には様々な側面を持っている。そこで、医療に携わるものとして今後の生命科学がどのようにあるべきかを、最新のトピックス（生殖技術、再生医療、遺伝子診断等）を取り上げ、議論することで考えていく。

[11回] 同上

[12回] 同上

[13回] 同上

[14回] 同上

[15回] 同上

学生へのメッセージ
単なる高校の生物学の延長としてではなく、また生物学の履修の有無に関係なく、教養としての生物学として自ら考えていくことを重視します。特にこれから医療人として活躍していく上で社会的な基本素養としての生命科学に関して身につけてもらいたいと思います。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生き物の科学（生物学）[1400311]

科目名	生き物の科学（生物学）[1400311]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	豊田 雅士[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 1.0〜1.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意
私語を慎み、授業へ集中する事

授業の形態
講義

教科書・参考文献
参考書: 理系総合のための生命科学 第３版（羊土社）（注）自分の実力に応じて以下でもよい 文系のための生命科学第２版（羊土社）（生物未履修者向け） 生命科学 改訂第３版 (羊土社）（より深く生命科学を理解したい人向け） 参考書: 進化医学-人への進化が生んだ疾患-（羊土社） Newton別冊 生命科学がわかる１００のキーワード（改訂版）（ニュートンプレス）砒

評価方法・評価割合
出席状況（出席回数、遅刻・途中退席＝２０%）、レポート（期末1回＝５０%）、授業中の課題（リアクションペーパー、小レポート＝３０%）、その他（授業への参加姿勢（加点要素として考慮する））

授業の目的および到達目標
本講義では生物学に関する基本的知識の習得を目指す。これから学ぶ医学系の専門科目は生物学の知見を基礎としており、基本的事項の理解は医学、医療全般を学習する上で重要となる。医学・生物系への関心を高めるとともに、社会とのつながりの中で「ヒト」についてより深く学び理解を深めていく。

テーマおよび内容
[1回] なぜ生物学を学ぶのか：医学系専門科目を学んでいく上で基本となるのが生物学であるが、なぜ必要なのか、生物学を学ぶことでどんな利点があるのかを自ら考え認識を諮っていく。そのために生命の基本原理とは何かを考え、細胞生物学、進化生物学、遺伝学、分子生物学等にわたる基礎的な知識について講義していく。 [2回] 同上 [3回] 同上 [4回] 生物としてのヒト：生き物の中でも我々人は特別なものなのだろうか。発生、成長、老化といったヒトの一生を、発生学、分子遺伝学、分子細胞生物学等の科学的分析を通して見る事で、今後の専門的学問の基盤となる知識を身につける。 [5回] 同上 [6回] 同上

[7回] 同上

[8回] 同上

[9回] 同上

[10回] 生命科学と社会：先端生命科学は、いまや社会に与える影響が大きくなってきている。その影響には様々な側面を持っている。そこで、医療に携わるものとして今後の生命科学がどのようにあるべきかを、最新のトピックス（生殖技術、再生医療、遺伝子診断等）を取り上げ、議論することで考えていく。

[11回] 同上

[12回] 同上

[13回] 同上

[14回] 同上

[15回] 同上

学生へのメッセージ
単なる高校の生物学の延長としてではなく、また生物学の履修の有無に関係なく、教養としての生物学として自ら考えていくことを重視します。特にこれから医療人として活躍していく上で社会的な基本素養としての生命科学に関して身につけてもらいたいと思います。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

物質の反応（化学）[1400320]

科目名	物質の反応（化学）[1400320]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 5.0〜5.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意
講義には必ず教科書を持参すること。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『大学生のための基礎シリーズ３化学入門 第２版』 下井守、村田滋著（東京化学同人）2013 参考書：『ブラディ 一般化学〈上〉〈下〉』若山信行ら監訳（東京化学同人）1991,1992 『一般化学（三訂版）』 長島弘三、富田功（裳華房）2007 『理系のための基礎化学』 増田芳男、澤田清（化学同人）2006 『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録 改訂版』数研出版編集部（数研出版）2007

評価方法・評価割合
出席状況（出席回数＝30%）、授業中の課題（毎授業の課題＝15%）、その他（小テスト＝55%）

授業の目的および到達目標
本科目では、生命活動の基本となる物質の変化を理解するための、基礎となる化学について学習する。生体を構成する物質の構造と、生命活動に不可欠な化学反応の基礎を習得する。特に医療分野で必須の生理学、生化学、臨床薬学などの学習に必要な化学分野の知識を、生体内での現象と関連させて習得し生体反応の理解を促進する。

テーマおよび内容
［1回］ オリエンテーション・科目全体概要説明：国際単位系、化学の基本とは ［2回］ 物質の構成と構造： ①元素、原子、周期表 ［3回］ 物質の構成と構造： ②分子、共有結合 ［4回］ 物質の構成と構造： ③極性、電気陰性度 ［5回］ 物質の状態： ①物質の三態、気体の圧力 ［6回］ 物質の状態： ②気体の圧力、分圧、実在気体

［7回］ 物質の状態： ③気体の溶解、ガス交換 【小テスト】

［8回］ 物質の状態： ④溶液、溶解度

［9回］ 物質の状態： ⑤浸透圧

［10回］ 物質の状態： ⑥浸透圧、Osm

［11回］ 物質の状態： ⑦浸透圧と生体 【小テスト】

［12回］ 物質の変化： ①反応速度、化学平衡

［13回］ 物質の変化： ②酸と塩基、電離平衡、ｐＨ

［14回］ 物質の変化： ③緩衝作用

［15回］ 物質の変化： ④生体内のpH 【小テスト】

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

物質の反応（化学）[1400321]

科目名	物質の反応（化学）[1400321]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 5.0〜5.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意
講義には必ず教科書を持参すること。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『大学生のための基礎シリーズ３化学入門 第２版』 下井守、村田滋著（東京化学同人）2013 参考書：『ブラディ 一般化学〈上〉〈下〉』若山信行ら監訳（東京化学同人）1991,1992 『一般化学（三訂版）』 長島弘三、富田功（裳華房）2007 『理系のための基礎化学』 増田芳男、澤田清（化学同人）2006 『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録 改訂版』数研出版編集部（数研出版）2007

評価方法・評価割合
出席状況（出席回数＝30%）、授業中の課題（毎授業の課題＝15%）、その他（小テスト＝55%）

授業の目的および到達目標
本科目では、生命活動の基本となる物質の変化を理解するための、基礎となる化学について学習する。生体を構成する物質の構造と、生命活動に不可欠な化学反応の基礎を習得する。特に医療分野で必須の生理学、生化学、臨床薬学などの学習に必要な化学分野の知識を、生体内での現象と関連させて習得し生体反応の理解を促進する。

テーマおよび内容
［1回］ オリエンテーション・科目全体概要説明：国際単位系、化学の基本とは ［2回］ 物質の構成と構造： ①元素、原子、周期表 ［3回］ 物質の構成と構造： ②分子、共有結合 ［4回］ 物質の構成と構造： ③極性、電気陰性度 ［5回］ 物質の状態： ①物質の三態、気体の圧力 ［6回］ 物質の状態： ②気体の圧力、分圧、実在気体

［7回］ 物質の状態： ③気体の溶解、ガス交換 【小テスト】

［8回］ 物質の状態： ④溶液、溶解度

［9回］ 物質の状態： ⑤浸透圧

［10回］ 物質の状態： ⑥浸透圧、Osm

［11回］ 物質の状態： ⑦浸透圧と生体 【小テスト】

［12回］ 物質の変化： ①反応速度、化学平衡

［13回］ 物質の変化： ②酸と塩基、電離平衡、ｐＨ

［14回］ 物質の変化： ③緩衝作用

［15回］ 物質の変化： ④生体内のpH 【小テスト】

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

物質の科学（物理学）[1400330]

科目名	物質の科学（物理学）[1400330]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	齋藤 善雄[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

・30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなします。・講義中の私語、飲食等は禁止します。

・筆記用具、配ったプリント、教科書等は毎回持ってきてください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『看護・医療技術者のためのたのしい物理』中野正博（日本理工出版会）

参考書:『看護と医療技術者のためのぶつり学 第2版』横田俊昭（共立出版）
『医歯系の物理学』 赤野松太郎他 (東京教学社)

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝60%）、出席状況（出席回数＋授業態度＝20%）、レポート（レポート＝20%）

授業の目的および到達目標

本科目では、生命現象を物理学の側面から理解できるようになることを目的としています。具体的な到達目標は、①運動の法則を理解し、力のモーメントや仕事・エネルギーを説明できること、②熱とエネルギーを理解すること、③弾性や流体現象を説明できること、④音や光に関する現象を説明できること、⑤電気現象と生体での電気活動を説明できることです。授業を行う上で受講者の専門分野の特徴に配慮し、概念や原理、更に例題をやさしいところから丁寧に解説します。

テーマおよび内容

[1回] 本授業のガイダンスを行い、単位系と有効数字について説明します。

[2回] 物体の運動をどう表すかを説明する。ベクトルと微分について解説します。

[3回] 重力、抗力、摩擦力などの力の例を紹介、作用・反作用の法則を解説します。

[4回] 力が働くと物体の運動がどうなるかを説明し、慣性の法則・運動方程式を解説します。

[5回] 力のモーメントとてこの原理を説明する。楽に作業をするための工夫を考えます。

[6回] 物体がぶつかったときのことを考え、力積と運動量を解説します。

[7回] 仕事とエネルギーの関係を説明し、エネルギー保存則を解説します。

[8回] 熱と温度および熱エネルギーを説明し、熱力学の法則を解説します。

[9回] 骨の力学的性質を説明し、物体の伸び・縮みと加えた力の関係を解説します。

[10回] 流体の圧力および流れを説明し、血圧や血液の流れを考えます。

[11回] 波の基本的性質を説明し、音に関する現象を考えます。

[12回] 光の性質を説明し、光に関する現象を考えます。

[13回] 電気の発生と２つの電気の間に働く力を説明し、電気に関する現象を考えます。

[14回] 電気が流れたときに生じる現象を説明し、磁場との関連を解説します。

[15回] 放射線に関する基礎的事項を説明し、医療への応用や被曝について考えます。

学生へのメッセージ
物理現象を記述するための基本的考え方はわりあい単純であり、物理以外の分野にも応用できるものです。せっかくの機会ですから、その一端を垣間見て、少しでも物理の素養を身につけて下さい。また、授業は学生のためのものであり、学生と教員の相互作用で作られるものでもあります。お互いに努力しましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

物質の科学（物理学）[1400331]

科目名	物質の科学（物理学）[1400331]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	齋藤 善雄[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

・30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなします。
・講義中の私語、飲食等は禁止します。
・筆記用具、配ったプリント、教科書等は毎回持ってきてください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『看護・医療技術者のためのたのしい物理』中野正博（日本理工出版会）

参考書:『看護と医療技術者のためのぶつり学 第2版』横田俊昭（共立出版）
『医歯系の物理学』 赤野松太郎他 (東京教学社)

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝60%）、出席状況（出席回数＋授業態度＝20%）、レポート（レポート＝20%）

授業の目的および到達目標

本科目では、生命現象を物理学の側面から理解できるようになることを目的としています。具体的な到達目標は、①運動の法則を理解し、力のモーメントや仕事・エネルギーを説明できること、②熱とエネルギーを理解すること、③弾性や流体現象を説明できること、④音や光に関する現象を説明できること、⑤電気現象と生体での電気活動を説明できることです。授業を行う上で受講者の専門分野の特徴に配慮し、概念や原理、更に例題をやさしいところから丁寧に解説します。

テーマおよび内容

[1回] 本授業のガイダンスを行い、単位系と有効数字について説明します。

[2回] 物体の運動をどう表すかを説明する。ベクトルと微分について解説します。

[3回] 重力、抗力、摩擦力などの力の例を紹介、作用・反作用の法則を解説します。

[4回] 力が働くと物体の運動がどうなるかを説明し、慣性の法則・運動方程式を解説します。

[5回] 力のモーメントとてこの原理を説明する。楽に作業をするための工夫を考えます。

[6回] 物体がぶつかったときのことを考え、力積と運動量を解説します。

[7回] 仕事とエネルギーの関係を説明し、エネルギー保存則を解説します。

[8回] 熱と温度および熱エネルギーを説明し、熱力学の法則を解説します。

[9回] 骨の力学的性質を説明し、物体の伸び・縮みと加えた力の関係を解説します。

[10回] 流体の圧力および流れを説明し、血圧や血液の流れを考えます。

[11回] 波の基本的性質を説明し、音に関する現象を考えます。

[12回] 光の性質を説明し、光に関する現象を考えます。

[13回] 電気の発生と２つの電気の間に働く力を説明し、電気に関する現象を考えます。

[14回] 電気が流れたときに生じる現象を説明し、磁場との関連を解説します。

[15回] 放射線に関する基礎的事項を説明し、医療への応用や被曝について考えます。

学生へのメッセージ
物理現象を記述するための基本的考え方はわりあい単純であり、物理以外の分野にも応用できるものです。せっかくの機会ですから、その一端を垣間見て、少しでも物理の素養を身につけて下さい。また、授業は学生のためのものであり、学生と教員の相互作用で作られるものでもあります。お互いに努力しましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

学びの技法入門[1401310]

科目名	学びの技法入門[1401310]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 水曜 4.0〜4.0
	前期 水曜 5.0〜5.0
教室	①304教室

受講条件・その注意
※４月１９日（土）に日本科学未来館にて１日（４コマ分）学外演習を実施します。

授業の形態
演習

教科書・参考文献
特に指定しない。

評価方法・評価割合
出席状況（60%）、授業中の課題（40%）

授業の目的および到達目標
学問の追求の場である大学教育の導入として、学生が主体的かつ能動的に取り組む基盤づくりを目指す。学生の創造性を培うべく、鍼灸師の資格取得に励む学生たちの学問的・人間的交流を図り、自らの専門性を確立する土台を培い、少人数制教育を通して学問の基礎を学ぶことを目的とする。

テーマおよび内容
［1回］ オリエンテーション・コミニュケーションワーク ［2回］ 特別講演「治療家・心の授業」 ［3回］ チームワーク技法 （課題解決コミュニケーション） ［4回］ セルフスタディ・グループスタディ 事前ワーク ［5回］ セルフスタディ入門① 情報調査（日本科学未来館・演習） ［6回］ セルフスタディ入門② 情報分析（日本科学未来館・演習） ［7回］ セルフスタディ入門③ 情報整理（日本科学未来館・演習） ［8回］ セルフスタディ入門④ 情報発信（日本科学未来館・演習） ［9回］ グループスタディ入門① 課題設定

［10回］ グループスタディ入門② 情報収集

［11回］ グループスタディ入門③ 情報分析

［12回］ グループスタディ入門④ プレゼンテーション準備

［13回］ グループスタディ入門⑤ プレゼンテーションI

［14回］ グループスタディ入門⑥ プレゼンテーションII

［15回］ グループスタディ入門【評価】 学びの技法入門【まとめ】

学生へのメッセージ
1．グループメンバー同士、互いに協力し合うこと。 2．各自が自分の意見を積極的に発言すること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

法学（日本国憲法）[1401320]

科目名	法学（日本国憲法）[1401320]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	早野 俊明[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意

・学籍番号順に着席する。・必ず予習をする。・私語は厳禁。私語を3度注意された場合には退室の上、欠席とみなす。・30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『憲法学事始』抱喜久雄＝野畑健太郎編著（一学舎）2009
参考書:『憲法判例［第6版］』戸松秀典＝初宿正典編著（有斐閣）2010
『憲法［第5版］』芦部信喜＝高橋和之補訂（岩波書店）2011

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み（授業中配布資料および自筆ノートのみ）可＝100%）

授業の目的および到達目標

本講義は、日本国憲法の基礎的理解と法令の機能の学習を目的とし、併せて法的思考力の涵養を図る。講義では、理解に資するため、判例及び実例を多用する。具体的には、日本国憲法の意味、基本原理、基本的人権、統治機構等を始め、憲法全体を体系的に学習し、憲法が国民生活に果たす役割、国家の機能、国家と国民の関係及び法と国民生活の関わりを学習し、これらの習得を到達目標とする。とくに人権を中心に講義を行う。

テーマおよび内容

[1回] 憲法総論1 1）憲法の意味、2）近代的憲法の特質、3）明治憲法、4）日本国憲法の成立過程

[2回] 憲法総論2 1）日本国憲法の基本原理、2）国民主権

[3回] 人権総論1 1）人権の意義と歴史、2）日本国憲法における人権保障、3）人権の享有主体

[4回] 人権総論2 1）人権の総則的権利、2）幸福追求権、3）法の下の平等、4）人権の制約

[5回] 精神的自由権1 1）内心の自由、2）心（思想・良心）の自由の意義とその保障内容

[6回] 精神的自由権2 1）信教の自由とその限界、2）政教分離原則、3）学問の自由とその限界

[7回] 精神的自由権3 1）表現の自由とその規制、2）知る権利、3）情報公開請求権、4）アクセス権、5）報道・取材の自由、6）放送の自由

[8回] 経済的自由権 1）職業選択の自由とその規制、2）規制目的二分論、3）居住・移転の自由、4）財産権の保障とその制限

[9回] 身体的自由権 1）奴隷的拘束及び苦役からの自由、2）人身の自由、3）刑事被告人・被疑者の権利保障

[10回] 参政権・国務請求権 1）参政権の意義、2）選挙権の法的性格・内容、3）請願権、4）裁判を受ける権利、5）公権力への賠償請求

[11回] 社会権 1）社会権の出現・特質、2）生存権の保障・法的性格、3）教育を受ける権利、4）勤労の権利、5）労働基本権

[12回] 国会 1）権力分立の原理、2）国会の組織、3）国会の活動、4）国会と議院の機能

[13回] 内閣 1）内閣と行政各部の組織、2）内閣の権限、3）議院内閣制

[14回] 裁判所 1）司法権とその限界、2）裁判所の組織・権能、3）司法権の独立、4）裁判員制度

[15回] 憲法保障 1）最高法規性、2）改正手続とその限界、3）違憲審査制

学生へのメッセージ

授業中、授業を静かに聴く自由とともに騒ぐ自由もあるが、当該時間に当該授業が開講されていることを前提で授業に出席している以上、授業を静かに聴く自由が騒ぐ自由に優先することはいわずもがなである。自由は、他人に迷惑をかけないという制約を伴ってこそ享受できるということを自覚してしていただきたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

法学（日本国憲法）[1401321]

科目名	法学（日本国憲法）[1401321]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	早野 俊明[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意

・学籍番号順に着席する。・必ず予習をする。・私語は厳禁。私語を3度注意された場合には退室の上、欠席とみなす。・30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『憲法学事始』抱喜久雄＝野畑健太郎編著（一学舎）2009
参考書:『憲法判例［第6版］』戸松秀典＝初宿正典編著（有斐閣）2010
『憲法［第5版］』芦部信喜＝高橋和之補訂（岩波書店）2011

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み（授業中配布資料および自筆ノートのみ）可＝100%）

授業の目的および到達目標

本講義は、日本国憲法の基礎的理解と法令の機能の学習を目的とし、併せて法的思考力の涵養を図る。講義では、理解に資するため、判例及び実例を多用する。具体的には、日本国憲法の意味、基本原理、基本的人権、統治機構等を始め、憲法全体を体系的に学習し、憲法が国民生活に果たす役割、国家の機能、国家と国民の関係及び法と国民生活の関わりを学習し、これらの習得を到達目標とする。とくに人権を中心に講義を行う。

テーマおよび内容

[1回] 憲法総論1 1）憲法の意味、2）近代的憲法の特質、3）明治憲法、4）日本国憲法の成立過程

[2回] 憲法総論2 1）日本国憲法の基本原理、2）国民主権

[3回] 人権総論1 1）人権の意義と歴史、2）日本国憲法における人権保障、3）人権の享有主体

[4回] 人権総論2 1）人権の総則的権利、2）幸福追求権、3）法の下の平等、4）人権の制約

[5回] 精神的自由権1 1）内心の自由、2）心（思想・良心）の自由の意義とその保障内容

[6回] 精神的自由権2 1）信教の自由とその限界、2）政教分離原則、3）学問の自由とその限界

[7回] 精神的自由権3 1）表現の自由とその規制、2）知る権利、3）情報公開請求権、4）アクセス権、5）報道・取材の自由、6）放送の自由

[8回] 経済的自由権 1）職業選択の自由とその規制、2）規制目的二分論、3）居住・移転の自由、4）財産権の保障とその制限

[9回] 身体的自由権 1）奴隷的拘束及び苦役からの自由、2）人身の自由、3）刑事被告人・被疑者の権利保障

[10回] 参政権・国務請求権 1）参政権の意義、2）選挙権の法的性格・内容、3）請願権、4）裁判を受ける権利、5）公権力への賠償請求

[11回] 社会権 1）社会権の出現・特質、2）生存権の保障・法的性格、3）教育を受ける権利、4）勤労の権利、5）労働基本権

[12回] 国会 1）権力分立の原理、2）国会の組織、3）国会の活動、4）国会と議院の機能

[13回] 内閣 1）内閣と行政各部の組織、2）内閣の権限、3）議院内閣制

[14回] 裁判所 1）司法権とその限界、2）裁判所の組織・権能、3）司法権の独立、4）裁判員制度

[15回] 憲法保障 1）最高法規性、2）改正手続とその限界、3）違憲審査制

学生へのメッセージ

授業中、授業を静かに聴く自由とともに騒ぐ自由もあるが、当該時間に当該授業が開講されていることを前提で授業に出席している以上、授業を静かに聴く自由が騒ぐ自由に優先することはいわずもがなである。自由は、他人に迷惑をかけないという制約を伴ってこそ享受できるということを自覚してしていただきたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

社会保障の基礎[1401330]

科目名	社会保障の基礎[1401330]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	千葉 喜久也[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 5.0〜5.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

新聞、テレビなどで社会保障関係のニュースに注目し、幅広い知識の習得に努めることを期待する。これにより、授業の理解が一層深まるものと思われる。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：最初の授業時に指示します。

参考書：必要に応じて授業の中で指示します。

評価方法・評価割合

定期試験（60%）、レポート（20%）、その他（授業への参加20%）

授業の目的および到達目標

少子高齢社会の中で、わが国の社会保障の体系と制度の内容について学習する。少子化の背景や子育て支援のあり方に注目し、児童手当から子ども手当てに至るまでの経過について概説を行う。また高齢化の中で、注目される年金、医療、介護といった社会保障制度の機能と役割について学習する。当該科目では、保健医療福祉専門職の実践に必要な各制度のしくみを当該目的に照らし考察することを通じて、全体像から社会保障の基礎を学ぶ。少子化、高齢化に伴う給付の拡大、世代間の負担の公平性、健康づくり・予防の推進、給付の見直しと効率化、高齢者医療の見直し、介護サービスの市場化と質の向上、財源及び公費負担のあり方などの課題を探り、持続可能な社会保障の構築に向けた政策に関する理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] 社会保障の理念と体系：社会保障の理念と概念・歴史、社会保障制度の持続可能性、少子高齢化と社会保障給付費の増加、体系と各制度の概要等

[2 回] 介護保険制度（1）：制度創設の経緯、制度改正の留意点、介護保険財政と保険料、介護給付と予防給付、食費・居住費の原則自己負担化等

[3 回] 介護保険制度（2）：介護予防への重点的な取組等、地域包括ケアの推進と新たなサービス体系、準市場化と質の向上、事業者規制等

[4 回] 年金保険制度（1）：制度の概要、高齢期の公的年金の位置付け、マクロ経済スライドの導入、将来の保険料水準の固定等

[5 回] 年金保険制度（2）：基礎年金の国庫負担割合の引上げ、厚生年金・国民年金の現状と課題、年金財政の現状と課題、年金資金の運用等

[6 回] 医療保険制度（1）：制度の体系と沿革、予防の重視と医療費適正化の総合的な推進、利用者負担・食費・居住費の一部自己負担化等

[7 回] 医療保険制度（2）：新たな医療保険制度の創設、療養病床の再編成、医療費の動向、医療提供体制、診療報酬制度、健康行政等

[8 回] 少子化の背景と子育て支援：少子化の背景と要因について、ライフ・スタイルの多様化と非婚化、これまでの子育て支援対策と次世代育成等

[9 回] 児童手当から子ども手当へ：児童手当から子ども手当への理念の転換、子育てと社会的養護、児童虐待の取り組み等

[10回] 生活保護：公的扶助の意義、生活保護制度の現状、根拠ある生活保護基準、公平・公正な運用、きめ細かな自立支援等

[11回] 社会福祉サービスと社会手当：高齢者福祉、障害者福祉と障害者自立支援法、児童福祉、児童手当等、少子化対策の課題、福祉の人材確保対策等

[12回] 社会保険と民間保険：社会保険の仕組み、民間保険の仕組みと種類・機能等

[13回] 社会保障の機能と財政：社会保障の機能、経済・財政とのバランス、厳しい財政状況下での制度の持続可能性等

[14回] 社会保障の現状と課題：社会保障給付の伸びの抑制、安全網としての水準確保、世代間の公平性の確保、社会保障の財源等

[15回] 授業のまとめ：授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

社会保障の基礎[1401331]

科目名	社会保障の基礎[1401331]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	千葉 喜久也[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 5.0〜5.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

新聞、テレビなどで社会保障関係のニュースに注目し、幅広い知識の習得に努めることを期待する。これにより、授業の理解が一層深まるものと思われる。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：最初の授業時に指示します。

参考書：必要に応じて授業の中で指示します。

評価方法・評価割合

定期試験（60%）、レポート（20%）、その他（授業への参加20%）

授業の目的および到達目標

少子高齢社会の中で、わが国の社会保障の体系と制度の内容について学習する。少子化の背景や子育て支援のあり方に注目し、児童手当から子ども手当てに至るまでの経過について概説を行う。また高齢化の中で、注目される年金、医療、介護といった社会保障制度の機能と役割について学習する。当該科目では、保健医療福祉専門職の実践に必要な各制度のしくみを当該目的に照らし考察することを通じて、全体像から社会保障の基礎を学ぶ。少子化、高齢化に伴う給付の拡大、世代間の負担の公平性、健康づくり・予防の推進、給付の見直しと効率化、高齢者医療の見直し、介護サービスの市場化と質の向上、財源及び公費負担のあり方などの課題を探り、持続可能な社会保障の構築に向けた政策に関する理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] 社会保障の理念と体系：社会保障の理念と概念・歴史、社会保障制度の持続可能性、少子高齢化と社会保障給付費の増加、体系と各制度の概要等

[2 回] 介護保険制度（1）：制度創設の経緯、制度改正の留意点、介護保険財政と保険料、介護給付と予防給付、食費・居住費の原則自己負担化等

[3 回] 介護保険制度（2）：介護予防への重点的な取組等、地域包括ケアの推進と新たなサービス体系、準市場化と質の向上、事業者規制等

[4 回] 年金保険制度（1）：制度の概要、高齢期の公的年金の位置付け、マクロ経済スライドの導入、将来の保険料水準の固定等

[5 回] 年金保険制度（2）：基礎年金の国庫負担割合の引上げ、厚生年金・国民年金の現状と課題、年金財政の現状と課題、年金資金の運用等

[6 回] 医療保険制度（1）：制度の体系と沿革、予防の重視と医療費適正化の総合的な推進、利用者負担・食費・居住費の一部自己負担化等

[7 回] 医療保険制度（2）：新たな医療保険制度の創設、療養病床の再編成、医療費の動向、医療提供体制、診療報酬制度、健康行政等

[8 回] 少子化の背景と子育て支援：少子化の背景と要因について、ライフ・スタイルの多様化と非婚化、これまでの子育て支援対策と次世代育成等

[9 回] 児童手当から子ども手当へ：児童手当から子ども手当への理念の転換、子育てと社会的養護、児童虐待の取り組み等

[10回] 生活保護：公的扶助の意義、生活保護制度の現状、根拠ある生活保護基準、公平・公正な運用、きめ細かな自立支援等

[11回] 社会福祉サービスと社会手当：高齢者福祉、障害者福祉と障害者自立支援法、児童福祉、児童手当等、少子化対策の課題、福祉の人材確保対策等

[12回] 社会保険と民間保険：社会保険の仕組み、民間保険の仕組みと種類・機能等

[13回] 社会保障の機能と財政：社会保障の機能、経済・財政とのバランス、厳しい財政状況下での制度の持続可能性等

[14回] 社会保障の現状と課題：社会保障給付の伸びの抑制、安全網としての水準確保、世代間の公平性の確保、社会保障の財源等

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

心理学概論[1401340]

科目名	心理学概論[1401340]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	山下 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 1.0〜1.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

受講希望者は初回の授業(ガイダンス)に、必ず、出席すること。
テスト形式のアンケート(成績そのものには反映しません)、第2回以降に追加購入すべき教科書の説明、そして、単位取得のための条件を説明ため、初回ガイダンスを欠席すると結果的に単位取得に不利になる可能性があるので要注意。。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書は以下の2冊である。
1)『心理学をつかむ Textbooks tukamu』 今井久登：平林秀美 （有斐閣）
2) 2冊目については初回ガイダンスで説明するので各自で(原則として第2回講義までに)購入すること。

評価方法・評価割合

定期試験（50%）、出席状況（原則として3分の2以上が必要(初回ガイダンスは出席すること)）、レポート（および 予習復習を兼ねた小テスト 20%）、授業中の課題（調べたものを発表してもらうなど20%）、その他（平常点10%）

授業の目的および到達目標

行動科学としての心理学では、人間の行動や態度に何らかの法則性や一貫性があると考え、科学的に人のこころの仕組みを理解しようと試みている。この科目では、心理学が行ってきた人間のこころへの様々なアプローチとその研究の方法論について理解する.

テーマおよび内容

人間の心と行動の仕組みについて基本的な知識を得るとともに、人間理解への行動科学的なアプローチについて学ぶことを目的とする。内容としては、研究法、情報を得るための感覚・知覚の働き、思考や記憶を司る認知の働き、環境刺激が心や行動に与える影響の仕組み、、そして対人認知や集団の中の個人の社会的行動等の各分野における基本的な知見に関する研究について学び、適宜簡単なワークを取り入れて理解を深める。

[1 回] ガイダンス、受講アンケート、及び購入する教科書の説明
[2 回] 心理学の研究法① ： 研究法の基礎
[3 回] 行動の基礎１①：レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習
[4 回] 行動の基礎② ：学習の成立過程
[5 回] 心理学の研究法② ：知覚・認知心理学研究
[6 回] 認知の心理学① ：記憶の分類
[7 回] 認知の心理学② ：記憶の機能
[8 回] 認知の心理学③ ：思考、日常認知
[9 回] 前半のまとめ
[10回] 知覚の心理学 ：感覚、知覚の基礎
[11回] 社会の心理学① ：推論、リスクの心理学
[12回] 心理学の研究法③：社会心理学研究
[13回] 社会の心理学２ ：個と個の心理学

[14回] 社会の心理学３ ：状況の力、集団の心理学
[15回] 授業のまとめ

学生へのメッセージ
受講人数によっては、講義とともに学生による発表(順番に担当)や討議を取り入れるので、積極的に参加されたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

心理学概論[1401341]

科目名	心理学概論[1401341]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	山下 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 1.0〜1.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

受講希望者は初回の授業(ガイダンス)に、必ず、出席すること。
テスト形式のアンケート(成績そのものには反映しません)、第2回以降に追加購入すべき教科書の説明、そして、単位取得のための条件を説明ため、初回ガイダンスを欠席すると結果的に単位取得に不利になる可能性があるので要注意。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書は以下の2冊である。
1)『心理学をつかむ Textbooks tukamu』 今井久登：平林秀美 （有斐閣）
2) 2冊目については初回ガイダンスで説明するので各自で(原則として第2回講義までに)購入すること。

評価方法・評価割合

定期試験（50%）、出席状況（原則として3分の2以上が必要(初回ガイダンスは出席すること)）、レポート（および 予習復習を兼ねた小テスト 20）、授業中の課題（調べたものを発表してもらうなど20%）、その他（平常点10%）

授業の目的および到達目標

行動科学としての心理学では、人間の行動や態度に何らかの法則性や一貫性があると考え、科学的に人のこころの仕組みを理解しようと試みている。この科目では、心理学が行ってきた人間のこころへの様々なアプローチとその研究の方法論について理解する.

テーマおよび内容

人間の心と行動の仕組みについて基本的な知識を得るとともに、人間理解への行動科学的なアプローチについて学ぶことを目的とする。内容としては、研究法、情報を得るための感覚・知覚の働き、思考や記憶を司る認知の働き、環境刺激が心や行動に与える影響の仕組み、、そして対人認知や集団の中の個人の社会的行動等の各分野における基本的な知見に関する研究について学び、適宜簡単なワークを取り入れて理解を深める。

[1 回] ガイダンス、受講アンケート、及び購入する教科書の説明
[2 回] 心理学の研究法① ： 研究法の基礎
[3 回] 行動の基礎１①：レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習
[4 回] 行動の基礎② ：学習の成立過程
[5 回] 心理学の研究法② ：知覚・認知心理学研究
[6 回] 認知の心理学① ：記憶の分類
[7 回] 認知の心理学② ：記憶の機能
[8 回] 認知の心理学③ ：思考、日常認知
[9 回] 前半のまとめ
[10回] 知覚の心理学 ：感覚、知覚の基礎
[11回] 社会の心理学① ：推論、リスクの心理学
[12回] 心理学の研究法③：社会心理学研究
[13回] 社会の心理学２ ：個と個の心理学

[14回] 社会の心理学３ ：状況の力、集団の心理学
[15回] 授業のまとめ

学生へのメッセージ
受講人数によっては、講義とともに学生による発表(順番に担当)や討議を取り入れるので、積極的に参加されたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康の創造（体育理論）[1401350]

科目名	健康の創造（体育理論）[1401350]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 4.0〜4.0
教室	①大講義室
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

【1】授業中の無意味な私語は禁止する。
【2】理由のない途中退室は、欠席とみなす。
【3】遅刻は2回で欠席1回とする。
【4】講義中の携帯使用は、退室してもらう。
【5】授業の妨げ、他学生の邪魔になると思われる学生は退室してもらう。
※将来医療人となる自覚を持つこと。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

資料を配付する.

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験 ： 持ち込み不可＝40% （60点以上をもって合格とする））、出席状況（出席回数・遅刻・途中＝退席30%）、授業中の課題（適宜＝10%）、その他（授業態度・授業への積極的な取り組み＝20%）

授業の目的および到達目標

健康で活力のある生活を営むために必要な諸条件を理解し、自ら実践する能力を身につけることは、将来、医療関係に進む学生にとって最も重要である。その上、自らが社会全体の健康度を高めるために貢献する人材であることを念頭に置き、健康増進の知識と技術を啓蒙する能力を養う。また健康を創造する手段のひとつである体育・スポーツという領域における事象を科学的に理解するため、具体的な事象をシステマチックに考察し、体育・スポーツについての理解を深める。

テーマおよび内容

［1回］ オリエンテーション：健康の概念と健康の創造

［2回］ 健康と安全管理：運動中のリスクと事故や突然死の実態

［3回］ 健康な生活を送るための生活習慣：生活習慣病予防の観点から

［4回］ 健康な生活と心理的要因：健康生活とメンタルヘルス

［5回］ 健康な人に健康を伝える難しさ：行動変容と手法

［6回］ 誰でもわかる運動生理学：エネルギー供給，筋肉の科学

［7回］ 美しいボディーコントロール：動き・姿勢の科学，体形維持の理論

［8回］ 運動学習のメカニズム：効率の良い運動課題の習得はどのようにおこなわれるか

［9回］ 発育発達と運動：子供の健全な発育発達に適した体育・スポーツ

［10回］ 高齢社会と社会福祉：高齢者および障害者福祉政策の概念

［11回］ 体力維持と生涯スポーツ：運動指針・運動基準等のガイドライン

［12回］ マネジメントの概念：ヘルスマネジメント，スポーツマネジメント

［13回］ 健康科学の研究手法：健康指導のための情報収集とデータ活用法

［14回］ 保健・体育学研究：学校保健・体育学研究の重要性と活用例

［15回］ 健康の創造：健康をクリエイトする手法と指導方法の獲得

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康の創造（体育理論）[1401351]

科目名	健康の創造（体育理論）[1401351]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 4.0〜4.0
教室	①大講義室
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

【1】授業中の無意味な私語は禁止する。
【2】理由のない途中退室は、欠席とみなす。
【3】遅刻は2回で欠席1回とする。
【4】講義中の携帯使用は、退室してもらう。
【5】授業の妨げ、他学生の邪魔になると思われる学生は退室してもらう。
※将来医療人となる自覚を持つこと。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

資料を配付する.

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験 ： 持ち込み不可＝40% （60点以上をもって合格とする））、出席状況（出席回数・遅刻・途中＝退席30%）、授業中の課題（適宜＝10%）、その他（授業態度・授業への積極的な取り組み＝20%）

授業の目的および到達目標

健康で活力のある生活を営むために必要な諸条件を理解し、自ら実践する能力を身につけることは、将来、医療関係に進む学生にとって最も重要である。その上、自らが社会全体の健康度を高めるために貢献する人材であることを念頭に置き、健康増進の知識と技術を啓蒙する能力を養う。また健康を創造する手段のひとつである体育・スポーツという領域における事象を科学的に理解するため、具体的な事象をシステマチックに考察し、体育・スポーツについての理解を深める。

テーマおよび内容

［1回］ オリエンテーション：健康の概念と健康の創造

［2回］ 健康と安全管理：運動中のリスクと事故や突然死の実態

［3回］ 健康な生活を送るための生活習慣：生活習慣病予防の観点から

［4回］ 健康な生活と心理的要因：健康生活とメンタルヘルス

［5回］ 健康な人に健康を伝える難しさ：行動変容と手法

［6回］ 誰でもわかる運動生理学：エネルギー供給，筋肉の科学

［7回］ 美しいボディーコントロール：動き・姿勢の科学，体形維持の理論

［8回］ 運動学習のメカニズム：効率の良い運動課題の習得はどのようにおこなわれるか

［9回］ 発育発達と運動：子供の健全な発育発達に適した体育・スポーツ

［10回］ 高齢社会と社会福祉：高齢者および障害者福祉政策の概念

［11回］ 体力維持と生涯スポーツ：運動指針・運動基準等のガイドライン

［12回］ マネジメントの概念：ヘルスマネジメント，スポーツマネジメント

［13回］ 健康科学の研究手法：健康指導のための情報収集とデータ活用法

［14回］ 保健・体育学研究：学校保健・体育学研究の重要性と活用例

［15回］ 健康の創造：健康をクリエイトする手法と指導方法の獲得

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康スポーツ（体育実技）[1401360]

科目名	健康スポーツ（体育実技）[1401360]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	石山 修盟[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0〜1.0
教室	①体育館
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

授業の形態
実習(共同)

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）

授業の目的および到達目標
本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技（ゲーム）することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。１年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容
［1回］ ガイダンス：授業内容、目的、評価内容
［2回］ 健康運動(1)：体操・ストレッチング
［3回］ 健康運動(2)：ジョギング・ウォーキング
［4回］ 健康運動(3)：ウォーキングの特性と指導方法
［5回］ 健康運動(4)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果
［6回］ 健康運動(5)：ジョギングの特性と指導方法
［7回］ 健康運動(6)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②
［8回］ レクレーションスポーツ：グループ対抗ゲーム
［9回］ 球技(1)：基礎知識と技能練習
［10回］ 球技(2)：運動ゲーム
［11回］ 球技(3)：基礎知識と技能練習
［12回］ 球技(4)：運動ゲーム
［13回］ 球技(5)：基礎知識と技能練習
［14回］ 球技(6)：運動ゲーム

［15回］ 授業のまとめ :

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康スポーツ（体育実技）[1401361]

科目名	健康スポーツ（体育実技）[1401361]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0〜3.0
教室	①体育館
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

授業の形態
実習

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）

授業の目的および到達目標
本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技（ゲーム）することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。１年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容
［1回］ ガイダンス：授業内容、目的、評価内容
［2回］ 健康運動(1)：体操・ストレッチング
［3回］ 健康運動(2)：ジョギング・ウォーキング
［4回］ 健康運動(3)：ウォーキングの特性と指導方法
［5回］ 健康運動(4)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果
［6回］ 健康運動(5)：ジョギングの特性と指導方法
［7回］ 健康運動(6)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②
［8回］ レクレーションスポーツ：グループ対抗ゲーム
［9回］ 球技(1)：基礎知識と技能練習
［10回］ 球技(2)：運動ゲーム
［11回］ 球技(3)：基礎知識と技能練習
［12回］ 球技(4)：運動ゲーム
［13回］ 球技(5)：基礎知識と技能練習
［14回］ 球技(6)：運動ゲーム

［15回］ 授業のまとめ :

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康スポーツ（体育実技）[1401362]

科目名	健康スポーツ（体育実技）[1401362]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0〜3.0
教室	①体育館
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

授業の形態
実習

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）

授業の目的および到達目標
本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技（ゲーム）することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。１年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容
［1回］ ガイダンス：授業内容、目的、評価内容
［2回］ 健康運動(1)：体操・ストレッチング
［3回］ 健康運動(2)：ジョギング・ウォーキング
［4回］ 健康運動(3)：ウォーキングの特性と指導方法
［5回］ 健康運動(4)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果
［6回］ 健康運動(5)：ジョギングの特性と指導方法
［7回］ 健康運動(6)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②
［8回］ レクレーションスポーツ：グループ対抗ゲーム
［9回］ 球技(1)：基礎知識と技能練習
［10回］ 球技(2)：運動ゲーム
［11回］ 球技(3)：基礎知識と技能練習
［12回］ 球技(4)：運動ゲーム
［13回］ 球技(5)：基礎知識と技能練習
［14回］ 球技(6)：運動ゲーム

［15回］ 授業のまとめ :

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

教養特講[1401370]

科目名	教養特講[1401370]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①406教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書は用いない。必要に応じて資料を配布する。

評価方法・評価割合
レポート

授業の目的および到達目標
大学生活を送るために必要な規則やマナーを学び勉学の方法、技術、知識を身につけて柔道整復師として創造的な活動を行える素養を涵養する。

テーマおよび内容
1 防災について: 災害への対処法を大学内だけでなく一般社会における対処法を会得する。 2 マナーと規則について: 大学や一般社会での基本的マナーやルールを学ぶ。 3 施設見学 4 医学の基礎知識（1） 医療従事者に求められる医学の基礎知識を学ぶ。 5 医学の基礎知識（2） 運動器の構造と機能（骨,軟骨,中枢神経・末梢神経,膠筋,腱,膠原線維の構造と機能） 6 医学の基礎知識（3） 外傷学（軟部組織損傷の修復と再生、骨折の治癒機序、骨・関節損傷の診断治療とリハ) 7 施設見学 8 図書館の活用法: 図書館の活用法を会得する。 9 文献検索の仕方: さまざまな文献検索の手法を学ぶ。 10 学術論文の読み方: 学術論文を検索してその内容を把握する。 11 学術論文の書き方: 学術論文の書き方の手法を学ぶ。 12 健康体育の実践企画 : 体育祭の企画について考える。 13 健康体育の実践企画: 体育祭の企画について考える。 14 文化の創造: 大学祭の企画について考える。

15 文化の創造: 大学祭の企画について考える。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅰ[1402310]

科目名	英語Ⅰ[1402310]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0〜2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
『キクタンメディカル 1．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の構造と機能（課題１） : Circulatory System（循環器系）

［3回］ 人体の構造と機能（課題２） : Blood（血液）

［4回］ 人体の構造と機能（課題３） : Respiratory System（呼吸器系）

［5回］ 人体の構造と機能（課題４） : Digestive System（消化器系）

［6回］ 人体の構造と機能（課題５） : Urinary System（泌尿器系）

［7回］ 人体の構造と機能（課題６）：Nervous System（神経系）

［8回］ 人体の構造と機能（課題７）：Musculoskeletal System（筋骨格系）

［9回］ 人体の構造と機能（課題８-１）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 1

［10回］ 人体の構造と機能（課題８-２）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 2

［11回］ 人体の構造と機能（課題９）：Reproductive System（生殖器系）

［12回］ 人体の構造と機能（課題１０）：Endocrine System（内分泌系）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅰ[1402311]

科目名	英語Ⅰ[1402311]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 2.0〜2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
キクタンメディカル 1．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の構造と機能（課題１） : Circulatory System（循環器系）

［3回］ 人体の構造と機能（課題２） : Blood（血液）

［4回］ 人体の構造と機能（課題３） : Respiratory System（呼吸器系）

［5回］ 人体の構造と機能（課題４） : Digestive System（消化器系）

［6回］ 人体の構造と機能（課題５） : Urinary System（泌尿器系）

［7回］ 人体の構造と機能（課題６）：Nervous System（神経系）

［8回］ 人体の構造と機能（課題７）：Musculoskeletal System（筋骨格系）

［9回］ 人体の構造と機能（課題８-１）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 1

［10回］ 人体の構造と機能（課題８-２）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 2

［11回］ 人体の構造と機能（課題９）：Reproductive System（生殖器系）

［12回］ 人体の構造と機能（課題１０）：Endocrine System（内分泌系）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅰ[1402312]

科目名	英語Ⅰ[1402312]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0〜3.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
『キクタンメディカル 1．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の構造と機能（課題１） : Circulatory System（循環器系）

［3回］ 人体の構造と機能（課題２） : Blood（血液）

［4回］ 人体の構造と機能（課題３） : Respiratory System（呼吸器系）

［5回］ 人体の構造と機能（課題４） : Digestive System（消化器系）

［6回］ 人体の構造と機能（課題５） : Urinary System（泌尿器系）

［7回］ 人体の構造と機能（課題６）：Nervous System（神経系）

［8回］ 人体の構造と機能（課題７）：Musculoskeletal System（筋骨格系）

［9回］ 人体の構造と機能（課題８-１）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 1

［10回］ 人体の構造と機能（課題８-２）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 2

［11回］ 人体の構造と機能（課題９）：Reproductive System（生殖器系）

［12回］ 人体の構造と機能（課題１０）：Endocrine System（内分泌系）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅱ[1402320]

科目名	英語Ⅱ[1402320]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0〜2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
キクタンメディカル 1．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンメディカル 4．保健医療編』押味貴之（アルク：医学英語シリーズ８）2011
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の機能と疾病（課題１） : Disorders of the Circulatory System（循環器系の疾病）

［3回］ 人体の構造と疾病（課題２） : Disorders of the Blood（血液の疾病）

［4回］ 人体の機能と疾病（課題３） : Disorders of the Respiratory System（呼吸器系の疾病）

［5回］ 人体の機能と疾病（課題４） : Disorders of the Digestive System（消化器系の疾病）

［6回］ 人体の機能と疾病（課題５） : Disorders of the Urinary System（泌尿器系の疾病）

［7回］ 人体の機能と疾病（課題６）：Disorders of the Nervous System（神経系の疾病）

［8回］ 人体の機能と疾病（課題７）：Disorders of the Musculoskeletal System（筋骨格系の疾病）

［9回］ 人体の機能と疾病（課題８-１）：Disorders of the Skin and Sensory System （皮膚および感覚器の疾病） 1

［10回］ 人体の機能と疾病（課題８-２）：Disorders of the Skin and Sensory System （皮膚および感覚器の疾病） 2

［11回］ 人体の機能と疾病（課題９）：Disorders of the Reproductive System（生殖器系の疾病）

［12回］ 人体の機能と疾病（課題１０）：Disorders of the Endocrine System（内分泌系の疾病）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅱ[1402321]

科目名	英語Ⅱ[1402321]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 2.0〜2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンメディカル ４．保健医療編』押味貴之（アルク：医学英語シリーズ８）2011
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の機能と疾病（課題１） : Disorders of the Circulatory System（循環器系の疾病）

［3回］ 人体の構造と疾病（課題２） : Disorders of the Blood（血液の疾病）

［4回］ 人体の機能と疾病（課題３） : Disorders of the Respiratory System（呼吸器系の疾病）

［5回］ 人体の機能と疾病（課題４） : Disorders of the Digestive System（消化器系の疾病）

［6回］ 人体の機能と疾病（課題５） : Disorders of the Urinary System（泌尿器系の疾病）

［7回］ 人体の機能と疾病（課題６）：Disorders of the Nervous System（神経系の疾病）

［8回］ 人体の機能と疾病（課題７）：Disorders of the Musculoskeletal System（筋骨格系の疾病）

［9回］ 人体の機能と疾病（課題８-１）：Disorders of the Skin and Sensory System （皮膚および感覚器の疾病） 1

［10回］ 人体の機能と疾病（課題８-２）：Disorders of the Skin and Sensory System （皮膚および感覚器の疾病） 2

［11回］ 人体の機能と疾病（課題９）：Disorders of the Reproductive System（生殖器系の疾病）

［12回］ 人体の機能と疾病（課題１０）：Disorders of the Endocrine System（内分泌系の疾病）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中国語Ⅰ[1402340]

科目名	中国語Ⅰ[1402340]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	弘兼 加奈子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0〜1.0
教室	①306教室

受講条件・その注意
講義中の私語は厳禁。断りなく退席しないこと。

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書:『どんどん吸収中国語』木村裕章 他（光生館）

評価方法・評価割合
定期試験（期末試験：持ち込み不可＝４５%）、出席状況（出席回数＝１0%）、その他（中間試験：持ち込み不可＝４５%）

授業の目的および到達目標
本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。中国語Ⅰは、初級段階の中国語の授業科目である。中国語をマスターするための基礎づくりと位置づけ、発音や初歩的な文法、及び簡単な会話の習得を目標とする。特に発音の学習にウェートをおき、日常的な挨拶や基礎的な語彙を学びつつ、平易な文章の読み書きができるよう練習を行う。また、文章の基本的な構造を学ぶとともに、身近なことをテーマとした簡単な会話が、より自然な形でできるように反復練習を行う。

テーマおよび内容
[1回] 自己紹介 中国語について 単母音の発音 他 [2回] 声調 そり舌母音 子音 [3回] 子音 有気音 無気音 復習 [4回] 複母音 鼻音 声調変化 r化 復習 [5回] 声調符号 隔音符号 固有名詞 復習 総合練習 [6回] 第1課 新出語句 本文（挨拶） 中国語とピンインの表記 他 [7回] 試験範囲の復習 練習問題 [8回] 中間のまとめ 第2課 新出語句 語法（平叙文 疑問代詞を使った疑問文 他） [9回] 課文の日本語訳 復習 練習問題 [10回] 第3課 新出語句 語法（的の用法 反復疑問文）課文の日本語訳

[11回] 復習 練習問題 第4課 新出語句

[12回] 語法（量詞 数詞 方位詞 存在を表す文）課文の日本語訳

[13回] 復習 練習問題 第5課 新出語句 語法（曜日 介詞 数量補語）

[14回] 課文の日本語訳 練習問題

[15回] 試験範囲の復習

学生へのメッセージ
欠席や遅刻をしないようにしてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中国語Ⅱ[1402350]

科目名	中国語Ⅱ[1402350]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	弘兼 加奈子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 5.0〜5.0
教室	①303教室

受講条件・その注意
講義中の私語は厳禁。断りなく退席しないこと。

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書:『どんどん吸収中国語』木村裕章 他（光生館）

評価方法・評価割合
定期試験（期末試験：持ち込み不可＝４５%）、出席状況（出席回数＝１0%）、その他（中間試験：持ち込み不可＝４５%）

授業の目的および到達目標
本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。「中国語Ⅰ」の成果を継承し、基本的な文法やより実践的な会話の習得を目標とする。発音の練習、基本的なパターン練習を通して、基礎的な文法に対する理解を深め、また初歩的な会話から発展させ、日常生活に必要な実践的な会話ができるように、ヒアリング、書き取り、及び応用的な会話練習などを取り入れ、反復練習を行う。また本学が医療系大学であることを配慮し、中国語の医療用語、および中国語で配信されるインターネット情報のアクセス法についても、わかりやすく講義する。

テーマおよび内容
[1回] 自己紹介 中国語について 単母音の発音 他 [2回] 声調 そり舌母音 子音 [3回] 子音 有気音 無気音 復習 [4回] 複母音 鼻音 声調変化 r化 復習 [5回] 声調符号 隔音符号 固有名詞 復習 総合練習 [6回] 第1課 新出語句 本文（挨拶） 中国語とピンインの表記 他 [7回] 試験範囲の復習 練習問題 [8回] 中間のまとめ 第2課 新出語句 語法（平叙文 疑問代詞を使った疑問文 他） [9回] 課文の日本語訳 復習 練習問題 [10回] 第3課 新出語句 語法（的の用法 反復疑問文）課文の日本語訳

[11回] 復習 練習問題 第4課 新出語句

[12回] 語法（量詞 数詞 方位詞 存在を表す文）課文の日本語訳

[13回] 復習 練習問題 第5課 新出語句 語法（曜日 介詞 数量補語）

[14回] 課文の日本語訳 練習問題

[15回] 試験範囲の復習

学生へのメッセージ
前期に引き続き、同じ教科書を学習していきます。予習、復習をしてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ[1402360]

科目名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ[1402360]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
	John Pak[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 4.0～4.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『Let's Chat!』 John Pak著（EFL Press）

参考書：『やさしい医学英語）』青野淳子、他（医学書院）2006
『キクタンメディカル 1．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ１）2007

授業の目的および到達目標

音声を中心とする英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングやシャドーイングやディクテーション等の様々な訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができるコミュニケーション活動を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

［1回］ Getting Acquainted : introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

［2回］ Experiences : talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

［3回］ Sport & Leisure : talking about sport and leisure activities / sport rules

［4回］ Shopping & Money : asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

［5回］ Food : talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

［6回］ Travel : talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

［7回］ Movies & Television : talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

［8回］ Work : talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

［9回］ Health : talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

［10回］ Love & Marriage : talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

［11回］ Music & Books : talking about music and books / talking about your favorite music artist

［12回］ Culture & Places in Japan : talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

［13回］ World Problem : talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

［14回］ Review and Discussion : overall review of important points and discussion

［15回］ Final Discussion : training methods for language skills and future perspectives

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中国語[1402370]

科目名	中国語[1402370]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	弘兼 加奈子[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0〜2.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

講義中の私語を慎むこと。断りなく退席しないこと。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『どんどん吸収中国語』木村裕章 他（光生館）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝20%）、その他（中間試験：持ち込み不可＝40%）

授業の目的および到達目標

本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。中国語Ⅰは、初級段階の中国語の授業科目である。中国語をマスターするための基礎づくりと位置づけ、発音や初歩的な文法、及び簡単な会話の習得を目標とする。特に発音の学習にウェートをおき、日常的な挨拶や基礎的な語彙を学びつつ、平易な文章の読み書きができるよう練習を行う。また、文章の基本的な構造を学ぶとともに、身近なことをテーマとした簡単な会話が、より自然な形でできるように反復練習を行う。

テーマおよび内容

[1回] 自己紹介 中国語について 単母音の発音 他

[2回] 声調 そり舌母音 子音

[3回] 子音 有気音 無気音 復習

[4回] 複母音 鼻音 声調変化 r化 復習

[5回] 声調符号 隔音符号 固有名詞 復習 総合練習

[6回] 第1課 新出語句 本文（挨拶） 中国語とピンインの表記 他

[7回] 試験範囲の復習 練習問題

[8回] 中間のまとめ 第2課 新出語句 語法（平叙文 疑問代詞を使った疑問文 他）

[9回] 課文の日本語訳 復習 練習問題

[10回] 第3課 新出語句 語法（的の用法 反復疑問文）課文の日本語訳

[11回] 復習 練習問題 第4課 新出語句

[12回] 語法（量詞 数詞 方位詞 存在を表す文）課文の日本語訳

[13回] 復習 練習問題 第5課 新出語句 語法（曜日 介詞 数量補語）

[14回] 課文の日本語訳 練習問題

[15回] 試験範囲の復習

学生へのメッセージ
欠席や遅刻をしないようにしてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

情報リテラシーⅠ[1403310]

科目名	情報リテラシーⅠ[1403310]
科目区分・科目種	情報処理
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田 樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0〜2.0
教室	①コンピューター教室

受講条件・その注意

・講義中の私語、当授業関連以外の作業（レポート作成等）、飲食は厳禁（退出を指示）・コンピュータ室での飲食は厳禁（授業時間外であっても）

授業の形態

演習

評価方法・評価割合

定期試験（授業時間を利用して試験を行なう(50%)）、授業中の課題（毎回小テストを行なう(50%)）

授業の目的および到達目標

ケア実践の基礎となるデータの収集、整理、情報化、表現、発信に資する代表的なツールとして、コンピュータおよびアプリケーション（サーチエンジン、データベース、ワードプロセッサー、プレゼンテーション、ドローイングの各アプリケーション）の基本的な使用方法を習得するとともに、それらを自ら発展させ応用するための技法について理解を深める。

テーマおよび内容

[1回] 情報とコミュニケーション・個人情報保護

[2回] コンピュータの基本機能・基本操作・ファイルの構成

[3回] ワードプロセッサー（WORD）：基本操作−1（文字列の検索・置換・移動・コピー）

[4回] ワードプロセッサー（WORD）：基本操作−2（罫線・図形・写真）

[5回] ワードプロセッサー（WORD）：文書ファイルの管理・例題文章作成

[6回] インターネット：ブラウザー・メール・サーチエンジン・医療情報検索

[7回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−1（データ入力・計算式・関数）

[8回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−2（表の編集・図形・写真）

[9回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−3（グラフ・グラフの編集）

[10回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−4（データベース・分析ツール・応用）

[11回] スプレッドシート（EXCEL）：例題データ分析・分析結果レポート作成（WORD使用）

[12回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作−1（スライド画面・文字入力）

[13回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作−2（表・図形・写真・動画）

[14回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作ー3（スライド表示技法）、 例題スライド作成

[15回] 授業のまとめ（課題データによる分析・検討結果を提出）

学生へのメッセージ
授業内容は今後、大学での他の授業および臨床の場でのレポート作成、データの分析・検討、プレゼンテーション等の道具として必須のものです。技能の学習、知識の習得だけではなく、実技としてしっかりと身につけてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

情報リテラシーⅠ[1403311]

科目名	情報リテラシーⅠ[1403311]
科目区分・科目種	情報処理
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田 樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0〜2.0
教室	①コンピューター教室

受講条件・その注意
・講義中の私語、当授業関連以外の作業（レポート作成等）、飲食は厳禁（退出を指示）・コンピュータ室での飲食は厳禁（授業時間外であっても）

授業の形態
演習

評価方法・評価割合
定期試験（授業時間を利用して試験を行なう(50%)）、授業中の課題（毎回小テストを行なう(50%)）

授業の目的および到達目標
ケア実践の基礎となるデータの収集、整理、情報化、表現、発信に資する代表的なツールとして、コンピュータおよびアプリケーション（サーチエンジン、データベース、ワードプロセッサー、プレゼンテーション、ドローイングの各アプリケーション）の基本的な使用方法を習得するとともに、それらを自ら発展させ応用するための技法について理解を深める。

テーマおよび内容
[1回] 情報とコミュニケーション・個人情報保護 [2回] コンピュータの基本機能・基本操作・ファイルの構成 [3回] ワードプロセッサー（WORD）：基本操作−1（文字列の検索・置換・移動・コピー） [4回] ワードプロセッサー（WORD）：基本操作−2（罫線・図形・写真） [5回] ワードプロセッサー（WORD）：文書ファイルの管理・例題文章作成 [6回] インターネット：ブラウザー・メール・サーチエンジン・医療情報検索 [7回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−1（データ入力・計算式・関数） [8回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−2（表の編集・図形・写真） [9回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−3（グラフ・グラフの編集） [10回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−4（データベース・分析ツール・応用） [11回] スプレッドシート（EXCEL）：例題データ分析・分析結果レポート作成（WORD使用） [12回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作−1（スライド画面・文字入力） [13回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作−2（表・図形・写真・動画）

[14回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作ー3（スライド表示技法）、 例題スライド作成

[15回] 授業のまとめ（課題データによる分析・検討結果を提出）

学生へのメッセージ
授業内容は今後、大学での他の授業および臨床の場でのレポート作成、データの分析・検討、プレゼンテーション等の道具として必須のものです。技能の学習、知識の習得だけではなく、実技としてしっかりと身につけてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

情報リテラシーII[1403320]

科目名	情報リテラシーII[1403320]
科目区分・科目種	情報処理
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田 樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 5.0〜5.0
教室	①コンピューター教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：特に定めない。資料等はすべて電子的に配布する。 参考書：適宜紹介する

評価方法・評価割合
定期試験（50%）、その他（各授業終了時の小テスト50%）

授業の目的および到達目標
情報リテラシーIで学習したアプリケーションをひとつの手段として利用しながら、質の高い情報の取捨選択、データの可視化と要約、効果的な表現および情報発信を実現するための方法を身に付けること、およびそれらの方法を自分自身で構築し自己評価するのに必要なメタ認知能力と批判的思考能力を涵養することを当該科目の学習目標とする。

テーマおよび内容
[1 回] オリエンテーション/学内情報基盤＝クラウドサービスの紹介 [2 回] 情報通信にかかわるイノベーション「モールス、ベル、マルコーニ」演習：学内情報基盤の習得(1)電子メールの送受信にかかわるTips [3 回] インターネットの仕組みと特徴「インターネットのサービス」演習：学内情報基盤の習得(2)ネット検索の資源あれこれ [4 回] 電子メールの仕組みと特徴「電子メールはなぜ届く」演習：学内情報基盤の習得(3)「連絡先」の使用法 [5 回] WWWの仕組みと特徴「サーバとクライアントの関係」演習：学内情報基盤の習得(4)「サイト」の作成 [6 回] 情報の定量化と情報量「両手の指でいくつまで数えられるか」演習：学内情報基盤の習得(5)「アンケートフォーム」の作成 [7 回] ビットとバイト「半角カタカナはなぜ化けるのか」演習：学内情報基盤の習得(6)「ドキュメント」の共有 [8 回] 情報セキュリティ「情報資産をどう守る」演習：学内情報基盤の習得(7)「プリゼンテーション」の作成 [9 回] コンピュータのセキュリティ「その情報、安全ですか」演習：学内情報基盤の習得(8)「テキストチャット」 [10回] 個人情報とプライバシー「なぜ経済協力開発機構なのか」演習：学内情報基盤の習得(9)「マルチメディアコミュニケーション」 [11回] 知的財産権の話「All rights reservedとは」演習：情報の可視化と表現(1)「個人制作」のオリエンテーション [12回] 情報の可視化と表現(2)「個人制作」演習

[13回] 情報の可視化と表現(4)「個人制作」完成および発表

[14回] 統計の基礎(要約統計)

[15回] 統計の基礎(推測統計)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

情報リテラシーⅡ[1403321]

科目名	情報リテラシーⅡ[1403321]
科目区分・科目種	情報処理
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田 樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 5.0〜5.0
教室	①コンピューター教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：特に定めない。資料等はすべて電子的に配布する。 参考書：適宜紹介する

評価方法・評価割合
定期試験（50%）、その他（各授業終了時の小テスト50%）

授業の目的および到達目標
情報リテラシーIで学習したアプリケーションをひとつの手段として利用しながら、質の高い情報の取捨選択、データの可視化と要約、効果的な表現および情報発信を実現するための方法を身に付けること、およびそれらの方法を自分自身で構築し自己評価するのに必要なメタ認知能力と批判的思考能力を涵養することを当該科目の学習目標とする。

テーマおよび内容
[1 回] オリエンテーション/学内情報基盤＝クラウドサービスの紹介 [2 回] 情報通信にかかわるイノベーション「モールス、ベル、マルコーニ」演習：学内情報基盤の習得(1)電子メールの送受信にかかわるTips [3 回] インターネットの仕組みと特徴「インターネットのサービス」演習：学内情報基盤の習得(2)ネット検索の資源あれこれ [4 回] 電子メールの仕組みと特徴「電子メールはなぜ届く」演習：学内情報基盤の習得(3)「連絡先」の使用法 [5 回] WWWの仕組みと特徴「サーバとクライアントの関係」演習：学内情報基盤の習得(4)「サイト」の作成 [6 回] 情報の定量化と情報量「両手の指でいくつまで数えられるか」演習：学内情報基盤の習得(5)「アンケートフォーム」の作成 [7 回] ビットとバイト「半角カタカナはなぜ化けるのか」演習：学内情報基盤の習得(6)「ドキュメント」の共有 [8 回] 情報セキュリティ「情報資産をどう守る」演習：学内情報基盤の習得(7)「プリゼンテーション」の作成 [9 回] コンピュータのセキュリティ「その情報、安全ですか」演習：学内情報基盤の習得(8)「テキストチャット」 [10回] 個人情報とプライバシー「なぜ経済協力開発機構なのか」演習：学内情報基盤の習得(9)「マルチメディアコミュニケーション」 [11回] 知的財産権の話「All rights reservedとは」演習：情報の可視化と表現(1)「個人制作」のオリエンテーション [12回] 情報の可視化と表現(2)「個人制作」演習

[13回] 情報の可視化と表現(4)「個人制作」完成および発表

[14回] 統計の基礎(要約統計)

[15回] 統計の基礎(推測統計)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

教養特講[1404310]

科目名	教養特講[1404310]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	千葉 喜久也[看護学部 看護学科]
	前田 樹海[看護学部 看護学科]
	山下 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①中講義室

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
前田樹海, 江藤裕之. (2013). APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール. 医学書院.

授業の目的および到達目標
大学教育の導入として、学生が主体的かつ能動的に学習に取り組むための基盤づくりを目指す。また看護を目指す学生として、思いやりの心や人との協力、対人理解の方法を身につけるための演習を行う。特に今後、社会・職業生活での対人コミュニケーションが、重要になっていることから自己を覚知しようとする働きかけ、そして他者の様々な立場や思いを親身に理解しようとする働きかけ、この双方向の働きかけが積極的に出来る心的態度の育成を目標とする。

テーマおよび内容
［1回］ オリエンテーション：授業の進め方、自己紹介 ［2回］ 大学で学ぶことは：高校と大学の違いは ［3回］ 先輩学生との交流（1）：2〜4年生の学生との交流（1） ［4回］ 先輩学生との交流（2）：2〜4年生の学生との交流（2） ［5回］ 図書館の利用について：図書館見学と利用の仕方 ［6回］ コミュニケーション技法（1）：言葉、態度、表情について ［7回］ コミュニケーション技法（2）：他者との協同、コミュニケーションの実際、マナー ［8回］ レポートの書き方：メモの活用、ノートの取り方、レポートの書き方 ［9回］ 大学における研究とは：研究の意義と方法 ［10回］ 文献検索と文献講読（1）：文献検索の方法と講読 ［11回］ 文献検索と文献講読（2）：論文の構成、APAスタイルによる引用の方法 ［12回］ 自己覚知について：自分を知る ［13回］ 他者理解について：相手の立場に立ち考える

［14回］ プレゼンテーション技法（1）：課題発表演習

［15回］ プレゼンテーション技法（2）：課題発表演習とまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生き物の科学（生物学）[1404320]

科目名	生き物の科学（生物学）[1404320]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	豊田 雅士[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 1.0〜1.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意
私語を慎み、授業へ集中する事

授業の形態
講義

教科書・参考文献
参考書: 理系総合のための生命科学 第３版（羊土社）（注）自分の実力に応じて以下でもよい 文系のための生命科学第２版（羊土社）（生物未履修者向け） 生命科学 改訂第３版 (羊土社）（より深く生命科学を理解したい人向け） 参考書: 進化医学-人への進化が生んだ疾患-（羊土社） Newton別冊 生命科学がわかる１００のキーワード（改訂版）（ニュートンプレス）

評価方法・評価割合
出席状況（出席回数、遅刻・途中退席＝２０％）、レポート（期末1回＝５０％）、授業中の課題（リアクションペーパー、小レポート＝３０％）、その他（授業への参加姿勢（加点要素として考慮する））

授業の目的および到達目標
本科目では、生物学の基本的事項を学習する。医学系の科目は生物学の知見を基礎としている部分が多く、生物学の基本的事項の理解は医学、医療全般を学習する上で重要である。特に基礎医学の内容と深く関わる事項について学習し、医学の理解の促進をはかる。

テーマおよび内容
[1回] なぜ生物学を学ぶのか：医学系専門科目を学んでいく上で基本となるのが生物学であるが、なぜ必要なのか、生物学を学ぶことでどんな利点があるのかを自ら考え認識を諮っていく。そのために生命の基本原理とは何かを考え、細胞生物学、進化生物学、遺伝学、分子生物学等にわたる基礎的な知識について講義していく。 [2回] 同上 [3回] 同上 [4回] 生物としてのヒト：生き物の中でも我々人は特別なものなのだろうか。発生、成長、老化といったヒトの一生を、発生学、分子遺伝学、分子細胞生物学等の科学的分析を通して見る事で、今後の専門的学問の基盤となる知識を身につける。 [5回] 同上 [6回] 同上 [7回] 同上

[8回] 同上

[9回] 同上

[10回] 生命科学と社会：先端生命科学は、いまや社会に与える影響が大きくなってきている。その影響には様々な側面を持っている。そこで、医療に携わるものとして今後の生命科学がどのようにあるべきかを、最新のトピックス（生殖技術、再生医療、遺伝子診断等）を取り上げ、議論することで考えていく。

[11回] 同上

[12回] 同上

[13回] 同上

[14回] 同上

[15回] 同上

学生へのメッセージ
単なる高校の生物学の延長としてではなく、また生物学の履修の有無に関係なく、教養としての生物学として自ら考えていくことを重視します。特にこれから医療人として活躍していく上で社会的な基本素養としての生命科学に関して身につけてもらいたいと思います。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

物質の反応（化学）[1404330]

科目名	物質の反応（化学）[1404330]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 5.0〜5.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意
講義には必ず教科書を持参すること。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『大学生のための基礎シリーズ３化学入門 第２版』 下井守、村田滋著（東京化学同人）2013 参考書：『ブラディ 一般化学〈上〉〈下〉』若山信行ら監訳（東京化学同人）1991,1992 『一般化学（三訂版）』 長島弘三、富田功（裳華房）2007 『理系のための基礎化学』 増田芳男、澤田清（化学同人）2006 『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録 改訂版』数研出版編集部（数研出版）2007

評価方法・評価割合
出席状況（出席回数＝30%）、授業中の課題（毎授業の課題＝15%）、その他（小）

授業の目的および到達目標
本科目では、生命活動の基本となる物質の変化を理解するための、基礎となる化学について学習する。生体を構成する物質の構造と、生命活動に不可欠な化学反応の基礎を習得する。特に医療分野で必須の生理学、生化学、臨床薬学などの学習に必要な化学分野の知識を、生体内での現象と関連させて習得し生体反応の理解を促進する。

テーマおよび内容
［1回］ オリエンテーション・科目全体概要説明：国際単位系、化学の基本とは ［2回］ 物質の構成と構造： ①元素、原子、周期表 ［3回］ 物質の構成と構造： ②分子、共有結合 ［4回］ 物質の構成と構造： ③極性、電気陰性度 ［5回］ 物質の状態： ①物質の三態、気体の圧力 ［6回］ 物質の状態： ②気体の圧力、分圧、実在気体

［7回］ 物質の状態： ③気体の溶解、ガス交換 【小テスト】

［8回］ 物質の状態： ④溶液、溶解度

［9回］ 物質の状態： ⑤浸透圧

［10回］ 物質の状態： ⑥浸透圧、Osm

［11回］ 物質の状態： ⑦浸透圧と生体 【小テスト】

［12回］ 物質の変化： ①反応速度、化学平衡

［13回］ 物質の変化： ②酸と塩基、電離平衡、ｐＨ

［14回］ 物質の変化： ③緩衝作用

［15回］ 物質の変化： ④生体内のpH 【小テスト】

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

物質の科学（物理学）[1404340]

科目名	物質の科学（物理学）[1404340]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	齋藤 善雄[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

・30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなします。
・講義中の私語、飲食等は禁止します。
・筆記用具、配ったプリント、教科書等は毎回持ってきてください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『看護・医療技術者のためのたのしい物理』中野正博（日本理工出版会）

参考書:『看護と医療技術者のためのぶつり学 第2版』横田俊昭（共立出版）
『医歯系の物理学』 赤野松太郎他 (東京教学社)

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝60%）、出席状況（出席回数＋授業態度＝20%）、レポート（レポート＝20%）

授業の目的および到達目標

本科目では、生命現象を物理学の側面から理解できるようになることを目的としています。具体的な到達目標は、①運動の法則を理解し、力のモーメントや仕事・エネルギーを説明できること、②熱とエネルギーを理解すること、③弾性や流体現象を説明できること、④音や光に関する現象を説明できること、⑤電気現象と生体での電気活動を説明できることです。授業を行う上で受講者の専門分野の特徴に配慮し、概念や原理、更に例題をやさしいところから丁寧に解説します。

テーマおよび内容

[1回] 本授業のガイダンスを行い、単位系と有効数字について説明します。

[2回] 物体の運動をどう表すかを説明する。ベクトルと微分について解説します。

[3回] 重力、抗力、摩擦力などの力の例を紹介、作用・反作用の法則を解説します。

[4回] 力が働くと物体の運動がどうなるかを説明し、慣性の法則・運動方程式を解説します。

[5回] 力のモーメントとてこの原理を説明する。楽に作業をするための工夫を考えます。

[6回] 物体がぶつかったときのことを考え、力積と運動量を解説します。

[7回] 仕事とエネルギーの関係を説明し、エネルギー保存則を解説します。

[8回] 熱と温度および熱エネルギーを説明し、熱力学の法則を解説します。

[9回] 骨の力学的性質を説明し、物体の伸び・縮みと加えた力の関係を解説します。

[10回] 流体の圧力および流れを説明し、血圧や血液の流れを考えます。

[11回] 波の基本的性質を説明し、音に関する現象を考えます。

[12回] 光の性質を説明し、光に関する現象を考えます。

[13回] 電気の発生と２つの電気の間に働く力を説明し、電気に関する現象を考えます。

[14回] 電気が流れたときに生じる現象を説明し、磁場との関連を解説します。

[15回] 放射線に関する基礎的事項を説明し、医療への応用や被曝について考えます。

学生へのメッセージ
物理現象を記述するための基本的考え方はわりあい単純であり、物理以外の分野にも応用できるものです。せっかくの機会ですから、その一端を垣間見て、少しでも物理の素養を身につけて下さい。また、授業は学生のためのものであり、学生と教員の相互作用で作られるものでもあります。お互いに努力しましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

法学（日本国憲法）[1404350]

科目名	法学（日本国憲法）[1404350]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	早野 俊明[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意

・学籍番号順に着席する。・必ず予習をする。・私語は厳禁。私語を3度注意された場合には退室の上、欠席とみなす。・30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『憲法学事始』抱喜久雄＝野畑健太郎編著（一学舎）2009
参考書:『憲法判例［第6版］』戸松秀典＝初宿正典編著（有斐閣）2010
『憲法［第5版］』芦部信喜＝高橋和之補訂（岩波書店）2011

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み（授業中配布資料および自筆ノートのみ）可＝100%）

授業の目的および到達目標

本講義は、日本国憲法の基礎的理解と法令の機能の学習を目的とし、併せて法的思考力の涵養を図る。講義では、理解に資するため、判例及び実例を多用する。具体的には、日本国憲法の意味、基本原理、基本的人権、統治機構等を始め、憲法全体を体系的に学習し、憲法が国民生活に果たす役割、国家の機能、国家と国民の関係及び法と国民生活の関わりを学習し、これらの習得を到達目標とする。とくに人権を中心に講義を行う。

テーマおよび内容

[1回] 憲法総論1 1）憲法の意味、2）近代的憲法の特質、3）明治憲法、4）日本国憲法の成立過程

[2回] 憲法総論2 1）日本国憲法の基本原理、2）国民主権

[3回] 人権総論1 1）人権の意義と歴史、2）日本国憲法における人権保障、3）人権の享有主体

[4回] 人権総論2 1）人権の総則的権利、2）幸福追求権、3）法の下の平等、4）人権の制約

[5回] 精神的自由権1 1）内心の自由、2）心（思想・良心）の自由の意義とその保障内容

[6回] 精神的自由権2 1）信教の自由とその限界、2）政教分離原則、3）学問の自由とその限界

[7回] 精神的自由権3 1）表現の自由とその規制、2）知る権利、3）情報公開請求権、4）アクセス権、5）報道・取材の自由、6）放送の自由

[8回] 経済的自由権 1）職業選択の自由とその規制、2）規制目的二分論、3）居住・移転の自由、4）財産権の保障とその制限

[9回] 身体的自由権 1）奴隷的拘束及び苦役からの自由、2）人身の自由、3）刑事被告人・被疑者の権利保障

[10回] 参政権・国務請求権 1）参政権の意義、2）選挙権の法的性格・内容、3）請願権、4）裁判を受ける権利、5）公権力への賠償請求

[11回] 社会権 1）社会権の出現・特質、2）生存権の保障・法的性格、3）教育を受ける権利、4）勤労の権利、5）労働基本権

[12回] 国会 1）権力分立の原理、2）国会の組織、3）国会の活動、4）国会と議院の機能

[13回] 内閣 1）内閣と行政各部の組織、2）内閣の権限、3）議院内閣制

[14回] 裁判所 1）司法権とその限界、2）裁判所の組織・権能、3）司法権の独立、4）裁判員制度

[15回] 憲法保障 1）最高法規性、2）改正手続とその限界、3）違憲審査制

学生へのメッセージ

授業中、授業を静かに聴く自由とともに騒ぐ自由もあるが、当該時間に当該授業が開講されていることを前提で授業に出席している以上、授業を静かに聴く自由が騒ぐ自由に優先することはいわずもがなである。自由は、他人に迷惑をかけないという制約を伴ってこそ享受できるということを自覚してしていただきたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

哲学[1404360]

科目名	哲学[1404360]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	早川 正祐[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
教室	①301教室

受講条件・その注意
授業中の私語は厳禁（私語のひどい学生には退席してもらう）。途中退席や30分以上の遅刻は欠席と見なす。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
参考書:『ケアの本質』ミルトン・メイヤロフ（ゆみる出版） 『医療現場に臨む哲学』清水哲郎（勁草書房）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験（1200文字、持ち込み不可）＝60%）、その他（毎回のリアクションペーパー（出席の確認を含む）＝40%）

授業の目的および到達目標
望ましい臨床ケアのあり方を下支えするような人間観および倫理観を育むことを目的とする。まずケアに関するさまざまな人間学的・哲学的考察を踏まえ、ケアする／される者としての人間のあり方について多角的に見ていく。その上で、医療における意思決定のあり方や生死をめぐる価値の問題について考察していく。

テーマおよび内容
[1回] ケアの広がり——関心の表現としてのケア [2回] 人間らしい生の基盤としてのケア [3回] ケアする／される間柄における共同注意と学び [4回] 依存を捉えなおす——自立を支えるものとしての依存 [5回] ケアと愛着 [6回] ケアにおける共感の役割 [7回] 生活の質（quality of life）をどう理解するか（1） [8回] 生活の質（quality of life）をどう理解するか（2） [9回] 医療における意思決定のあり方（1） [10回] 医療における意思決定のあり方（2）

[11回] 医療における意思決定のあり方（3）

[12回] エンハンスメントと優生思想（1）

[13回] エンハンスメントと優生思想（2）

[14回] エンハンスメントと優生思想（3）

[15回] 総復習

学生へのメッセージ
「人間とはどういう存在なのか」ということについて、一度立ち止まって考えてみたい学生を歓迎します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

社会学[1404370]

科目名	社会学[1404370]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	千葉 喜久也[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0〜3.0
教室	①304教室

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
複雑化して行く社会構造の中で、人々の生活は様々な問題を抱えている。とりわけこうした問題は社会的な弱者と言われる子どもや高齢者、障がい者、病気の人の生活の中に大きな影響を与えている。その例を挙げるならば犯罪や麻薬、アルコール依存、自殺、家庭崩壊、援助交際等の問題を出現させている。こうした問題の背景には、都市化問題や就労環境の問題が強く影響を与えている。そして今後は、高度情報化や国際化の中で、新たな問題の出現も予想される。発展社会から成熟社会への転換が今求められている現在、本講座では、学生が興味を持つ社会問題に焦点を当て、事実を正確に把握し、問題解決の方法について考える。

テーマおよび内容
［1回］ オリエンテーション：授業の進め方と学習計画について
［2回］ 社会学入門：社会学とは何か
［3回］ 少子高齢化社会（1）：少子高齢化社会の現状と課題（1）
［4回］ 少子高齢化社会（2）：少子高齢化社会の現状と課題（2）
［5回］ 家族の変化と社会変動（1）：家族の役割と未婚化（1）
［6回］ 家族の変化と社会変動（2）：家族の役割と未婚化（2）
［7回］ 家族とケア（1）：親の子育てと社会的養護（1）
［8回］ 家族とケア（2）：親の子育てと社会的養護（2）
［9回］ 家族とケア（3）：児童虐待（1）
［10回］ 家族とケア（4）：児童虐待（2）
［11回］ 家族とケア（5）：介護問題と介護保険（1）
［12回］ 家族とケア（6）：介護問題と介護保険（2）
［13回］ 社会学研究（1）：依存症の病理
［14回］ 社会学研究（2）：若者の病理
［15回］ 社会学研究（3）：情報化と国際化の課題

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

心理学概論Ⅰ[1404380]

科目名	心理学概論Ⅰ[1404380]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	山下 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 5.0〜5.0
教室	①303教室 ②基礎・成人実習室

受講条件・その注意

初回の授業(ガイダンス)は原則として必ず出席すること。テスト形式のアンケート(成績そのものには反映しません)、第2回以降に追加購入すべき教科書の説明、そして、単位取得のための条件を説明する。初回ガイダンスを欠席すると結果的に単位取得に不利になる可能性があるので要注意。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書は以下の2冊である。
1)『心理学をつかむ Textbooks tukamu』 今井久登：平林秀美 （有斐閣）
2) 2冊目については初回ガイダンスで説明するので各自で(原則として第2回講義までに)購入すること。

評価方法・評価割合

定期試験（50%）、出席状況（原則として3分の2以上が必要）、レポート（および 予習復習を兼ねた小テスト 20%）、授業中の課題（調べたものを発表してもらうなど20%）、その他（平常点10%）

授業の目的および到達目標

行動科学としての心理学では、人間の行動や態度に何らかの法則性や一貫性があると考え、科学的に人のこころを理解しようと試みている。この科目では、心理学が行ってきた人間のこころへの様々なアプローチについて理解する.

テーマおよび内容

人間の心と行動の仕組みについて基本的な知識を得るとともに、人間理解への行動科学的なアプローチについて学ぶことを目的とする。内容としては、情報を得るための感覚・知覚の働き、思考や記憶を司る認知の働き、環境刺激が心や行動に与える影響の仕組み、それらの個人差のあらわれ方、そして対人認知や集団の中の個人の社会的行動等の各分野における基本的な知見に関する研究について学び、適宜簡単なワークを取り入れて理解を深める。

[1 回] ガイダンス、受講アンケート、及び購入する教科書の説明
[2 回] 心理学の研究法１ ：研究法の基礎①
[3 回] 心理学の研究法２ ：研究法の基礎②
[4 回] 行動の基礎１ ：レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習
[5 回] 行動の基礎２ ：学習の成立過程
[6 回] 認知の心理学１ ：記憶の分類
[7 回] 認知の心理学２ ：記憶の機能
[8 回] 認知の心理学３ ：思考、日常認知
[9 回] 前半のまとめ
[10回] 知覚の心理学 ：感覚、知覚の基礎①
[11回] 知覚の心理学 ：感覚、知覚の基礎②
[12回] 社会の心理学１ ：推論、リスクの心理学
[13回] 社会の心理学２ ：個と個の心理学

[14回] 社会の心理学３ ：状況の力、集団の心理学
[15回] 授業のまとめ

学生へのメッセージ
iPad所持者が多い場合は授業内でiPad,iPadminiを使用する可能性があります。時期は未定です。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

心理学概論 II [1404390]

科目名	心理学概論 II [1404390]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	山下 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 2.0〜2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

「心理学概論 I 」は先修条件ではありませんが、「心理学概論 I 」の内容はすでに理解されたものとして「心理学概論 II 」の授業を行いますので、注意してください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

（心理学概論 I で使用した教科書2冊に加えて、）『図でわかる発達心理学』 新井邦二郎 編著（福村出版）

評価方法・評価割合

定期試験（50%）、出席状況（原則として3分の2以上が必要）、レポート（および 予習復習を兼ねた小テスト 20%）、授業中の課題（調べたものを発表してもらうなど20%）、その他（平常点10%）

授業の目的および到達目標

行動科学としての心理学では、人間の行動や態度に何らかの法則性や一貫性があると考え、科学的に人のこころを理解しようと試みている。この科目では、心理学概論 I において理解された知識に基づき，心理学が行ってきた人間のこころへの様々なアプローチについてさらに理解を深める.

テーマおよび内容

人間の心と行動の仕組みについての基本的な知識を基礎に、さらに人間理解への行動科学的なアプローチについて学ぶことを目的とする。内容としては、情動や動機づけ、発達、環境刺激が心や行動に与える影響の仕組み、個人差のあらわれ方、そして対人認知や集団の中の個人の社会的行動等の各分野における基本的な知見に関する研究について学び、適宜簡単なワークを取り入れて理解を深める。

[1 回] 心理学の方法 研究法
[2 回] 遺伝と環境との相互作用① 遺伝か環境か
[3 回] 遺伝と環境との相互作用② 相互作用とは
[4 回] 乳児の発達、愛着
[5 回] 認知的発達理論 ① 乳児期から幼児期
[6 回] 認知的発達理論 ② 幼児期から児童期
[7 回] 前半のまとめ
[8 回] 道徳的発達、心理社会的発達
[9 回] 個人差 ① 個人差の研究法
[10 回] 個人差 ② 「知能」と「パーソナリティ」
[11 回] 個人差 ③ 認知機能の個人差と障がい
[12 回] 情動と動機づけ①
[13 回] 情動と動機づけ②
[14 回] 情動と動機づけ③
[15回] 授業のまとめ

学生へのメッセージ
iPadの使用を予定しています。毎回使うとは限りませんが、原則的に授業には必ず持ってきてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

コミュニケーション論[1404400]

科目名	コミュニケーション論[1404400]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 登紀子[非常勤講師]
	近藤 和子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
	後期 火曜 5.0〜5.0
教室	①中講義室

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
教科書:「医療の接遇」基本テキスト＆演習（医療タイムス社）2012 『つながりあう「いのち」の心理臨床—患者と家族の理解とケアのために—』木村登紀子（新曜社）2009

評価方法・評価割合
出席状況（授業への出席＝30%）、レポート（期末レポート＝40%）、授業中の課題（授業中に指示する課題への取り組み＝30%）

授業の目的および到達目標
コミュニケ-ション（communication)の語源は、ラテン語のコミュニス(communis, 共通したもの)、あるいはコモン(common、共通の)、コムニオ(communio、交わり）であると言われている。 われわれは、常に、人、もの、社会、自然、そして自分自身と関わって生きており、それらの接点を、「コミュニケーション」という角度から捉えることもできる。そして、人が人を理解しケアするためには、双方向の言語的・非言語的コミュニケーションの在り方が重要となる。 この科目では、コミュニケーションについて、中核となる観点や理論、あるいは、実践に際しての基本的な態度や、日常生活やケアの現場に直結している具体的な技法のいくつかについて、体験的に学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] オリエンテーション コミュニケーションに関する基本的観点 担当 木村登紀子
[2回] 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 担当 木村登紀子
[3回] コミュニケーションにおける身体性（身体・自己・相互作用） 担当 木村登紀子
[4回] 相手の理解とケアのためのコミュニケーションの基本（1）担当 木村登紀子
[5回] 相手の理解とケアのためのコミュニケ—ションの基本（2） 担当 木村登紀子
[6回] 病床のケアにおけるコミュニケーション（1） 担当 木村登紀子
[7回] 病床のケアにおけるコミュニケーション（2） 担当 木村登紀子
[8回] 医療における接遇とは、医療機関とは 担当 近藤和子
[9回] 医療人としての接遇（第一印象の重要性、身だしなみ、表情、挨拶） 担当 近藤和子

[10回] 医療人としての接遇（態度・動作、言葉づかい、電話応対） 担当 近藤和子

[11回] 医療人としての接遇（自己表現・プレゼンテーション） 担当 近藤和子

[12回] 医療の場におけるコミュニケーションとケア（1） 担当 木村登紀子

[13回] 医療の場におけるコミュニケーションとケア（2） 担当 木村登紀子

[14回] 医療の場におけるコミュニケーションとケア（3） 担当 木村登紀子

[15回] 人間として、社会人として、健やかに生きよう。 講義全体の振り返り 担当 木村登紀子

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康の創造（体育理論）[1404410]

科目名	健康の創造（体育理論）[1404410]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 4.0〜4.0
教室	①大講義室
資格関連	保健師,養護教諭

受講条件・その注意

【1】授業中の無意味な私語は禁止する。
【2】理由のない途中退室は、欠席とみなす。
【3】遅刻は2回で欠席1回とする。
【4】講義中の携帯使用は、退室してもらう。
【5】授業の妨げ、他学生の邪魔になると思われる学生は退室してもらう。
※将来医療人となる自覚を持つこと。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

資料を配付する.

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験 ： 持ち込み不可＝40% （60点以上をもって合格とする））、出席状況（出席回数・遅刻・途中＝退席30%）、授業中の課題（適宜＝10%）、その他（授業態度・授業への積極的な取り組み＝20%）

授業の目的および到達目標

健康で活力のある生活を営むために必要な諸条件を理解し、自ら実践する能力を身につけることは、将来、医療関係に進む学生にとって最も重要である。その上、自らが社会全体の健康度を高めるために貢献する人材であることを念頭に置き、健康増進の知識と技術を啓蒙する能力を養う。また健康を創造する手段のひとつである体育・スポーツという領域における事象を科学的に理解するため、具体的な事象をシステマチックに考察し、体育・スポーツについての理解を深める。

テーマおよび内容

［1回］ オリエンテーション：健康の概念と健康の創造

［2回］ 健康と安全管理：運動中のリスクと事故や突然死の実態

［3回］ 健康な生活を送るための生活習慣：生活習慣病予防の観点から

［4回］ 健康な生活と心理的要因：健康生活とメンタルヘルス

［5回］ 健康な人に健康を伝える難しさ：行動変容と手法

［6回］ 誰でもわかる運動生理学：エネルギー供給，筋肉の科学

［7回］ 美しいボディーコントロール：動き・姿勢の科学，体形維持の理論

［8回］ 運動学習のメカニズム：効率の良い運動課題の習得はどのようにおこなわれるか

［9回］ 発育発達と運動：子供の健全な発育発達に適した体育・スポーツ

［10回］ 高齢社会と社会福祉：高齢者および障害者福祉政策の概念

［11回］ 体力維持と生涯スポーツ：運動指針・運動基準等のガイドライン

［12回］ マネジメントの概念：ヘルスマネジメント，スポーツマネジメント

［13回］ 健康科学の研究手法：健康指導のための情報収集とデータ活用法

［14回］ 保健・体育学研究：学校保健・体育学研究の重要性と活用例

［15回］ 健康の創造：健康をクリエイトする手法と指導方法の獲得

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康スポーツ（体育実技）[1404420]

科目名	健康スポーツ（体育実技）[1404420]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小柳 祐華[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 4.0〜4.0
教室	①体育館
資格関連	養護教諭

授業の形態
実習(共同)

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）

授業の目的および到達目標
本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技（ゲーム）することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。１年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容
[1回] ガイダンス：授業内容、目的、評価内容 [2回] 健康運動(1)：体操・ストレッチング [3回] 健康運動(2)：ジョギング・ウォーキング [4回] 健康運動(3)：ウォーキングの特性と指導方法 [5回] 健康運動(4)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果 [6回] 健康運動(5)：ジョギングの特性と指導方法 [7回] 健康運動(6)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果② [8回] レクレーションスポーツ：グループ対抗ゲーム [9回] 球技(1)：基礎知識と技能練習 [10回] 球技(2)：運動ゲーム [11回] 球技(3)：基礎知識と技能練習 [12回] 球技(4)：運動ゲーム [13回] 球技(5)：基礎知識と技能練習 [14回] 球技(6)：運動ゲーム

[15回] 授業のまとめめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康スポーツ（体育実技）[1404421]

科目名	健康スポーツ（体育実技）[1404421]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小柳 祐華[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 5.0〜5.0
教室	①体育館
資格関連	養護教諭

授業の形態
実習(共同)

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）

授業の目的および到達目標
本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技（ゲーム）することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。１年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容
[1回] ガイダンス：授業内容、目的、評価内容 [2回] 健康運動(1)：体操・ストレッチング [3回] 健康運動(2)：ジョギング・ウォーキング [4回] 健康運動(3)：ウォーキングの特性と指導方法 [5回] 健康運動(4)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果 [6回] 健康運動(5)：ジョギングの特性と指導方法 [7回] 健康運動(6)：ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果② [8回] レクレーションスポーツ：グループ対抗ゲーム [9回] 球技(1)：基礎知識と技能練習 [10回] 球技(2)：運動ゲーム [11回] 球技(3)：基礎知識と技能練習 [12回] 球技(4)：運動ゲーム [13回] 球技(5)：基礎知識と技能練習 [14回] 球技(6)：運動ゲーム

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅰ[1404430]

科目名	英語Ⅰ[1404430]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0〜1.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
『キクタンメディカル ５．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ９）2011
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007る

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の構造と機能（課題１） : Circulatory System（循環器系）

［3回］ 人体の構造と機能（課題２） : Blood（血液）

［4回］ 人体の構造と機能（課題３） : Respiratory System（呼吸器系）

［5回］ 人体の構造と機能（課題４） : Digestive System（消化器系）

［6回］ 人体の構造と機能（課題５） : Urinary System（泌尿器系）

［7回］ 人体の構造と機能（課題６）：Nervous System（神経系）

［8回］ 人体の構造と機能（課題７）：Musculoskeletal System（筋骨格系）

［9回］ 人体の構造と機能（課題８-１）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 1

［10回］ 人体の構造と機能（課題８-２）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 2

［11回］ 人体の構造と機能（課題９）：Reproductive System（生殖器系）

［12回］ 人体の構造と機能（課題１０）：Endocrine System（内分泌系）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅰ[1404431]

科目名	英語Ⅰ[1404431]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0〜3.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
『キクタンメディカル ５．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ９）2011
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の構造と機能（課題１） : Circulatory System（循環器系）

［3回］ 人体の構造と機能（課題２） : Blood（血液）

［4回］ 人体の構造と機能（課題３） : Respiratory System（呼吸器系）

［5回］ 人体の構造と機能（課題４） : Digestive System（消化器系）

［6回］ 人体の構造と機能（課題５） : Urinary System（泌尿器系）

［7回］ 人体の構造と機能（課題６）：Nervous System（神経系）

［8回］ 人体の構造と機能（課題７）：Musculoskeletal System（筋骨格系）

［9回］ 人体の構造と機能（課題８-１）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 1

［10回］ 人体の構造と機能（課題８-２）：Skin and Sensory System（皮膚および感覚器） 2

［11回］ 人体の構造と機能（課題９）：Reproductive System（生殖器系）

［12回］ 人体の構造と機能（課題１０）：Endocrine System（内分泌系）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅱ[1404440]

科目名	英語Ⅱ[1404440]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0〜2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
『キクタンメディカル ５．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ９）2011
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007祂

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、授業中の課題（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の機能と疾病（課題１） : Disorders of the Circulatory System（循環器系の疾病）

［3回］ 人体の構造と疾病（課題２） : Disorders of the Blood（血液の疾病）

［4回］ 人体の機能と疾病（課題３） : Disorders of the Respiratory System（呼吸器系の疾病）

［5回］ 人体の機能と疾病（課題４） : Disorders of the Digestive System（消化器系の疾病）

［6回］ 人体の機能と疾病（課題５） : Disorders of the Urinary System（泌尿器系の疾病）

［7回］ 人体の機能と疾病（課題６）：Disorders of the Nervous System（神経系の疾病）

［8回］ 人体の機能と疾病（課題７）：Disorders of the Musculoskeletal System（筋骨格系の疾病）

［9回］ 人体の機能と疾病（課題８-１）：Disorders of the Skin and Sensory System（皮膚および感覚器の疾病）１

［10回］ 人体の機能と疾病（課題８-２）：Disorders of the Skin and Sensory System （皮膚および感覚器の疾病）２

［11回］ 人体の機能と疾病（課題９）：Disorders of the Reproductive System（生殖器系の疾病）

［12回］ 人体の機能と疾病（課題１０）：Disorders of the Endocrine System（内分泌系の疾病）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅱ[1404441]

科目名	英語Ⅱ[1404441]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：
『キクタンメディカル ５．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ９）2011
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、医療分野の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする200語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 人体の機能と疾病（課題１） : Disorders of the Circulatory System（循環器系の疾病）

［3回］ 人体の構造と疾病（課題２） : Disorders of the Blood（血液の疾病）

［4回］ 人体の機能と疾病（課題３） : Disorders of the Respiratory System（呼吸器系の疾病）

［5回］ 人体の機能と疾病（課題４） : Disorders of the Digestive System（消化器系の疾病）

［6回］ 人体の機能と疾病（課題５） : Disorders of the Urinary System（泌尿器系の疾病）

［7回］ 人体の機能と疾病（課題６）：Disorders of the Nervous System（神経系の疾病）

［8回］ 人体の機能と疾病（課題７）：Disorders of the Musculoskeletal System（筋骨格系の疾病）

［9回］ 人体の機能と疾病（課題８-１）：Disorders of the Skin and Sensory System（皮膚および感覚器の疾病）１

［10回］ 人体の機能と疾病（課題８-２）：Disorders of the Skin and Sensory System （皮膚および感覚器の疾病）２

［11回］ 人体の機能と疾病（課題９）：Disorders of the Reproductive System（生殖器系の疾病）

［12回］ 人体の機能と疾病（課題１０）：Disorders of the Endocrine System（内分泌系の疾病）

［13回］ 総復習１（課題１～６）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習２（課題７～１０）：各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅲ[1404450]

科目名	英語Ⅲ[1404450]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 1.0〜1.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『看護師たまごの英語４０日トレーニング ワークブック基礎編 kit1』菱田治子ほか（アルク）2008

参考書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006
『キクタンメディカル ５．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ９）2011
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、看護関連の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする300語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 保健英語（課題１） : Nursing Practices in English（看護実践と英語）

［3回］ 保健英語（課題２） : Facilities in the Hospital（病院施設）

［4回］ 保健英語（課題３） : Medical Departments（診療科）

［5回］ 保健英語（課題４） : Body Parts（身体の部位）

［6回］ 保健英語（課題５） : Medical Terminology（医療専門用語の成り立ち）

［7回］ 保健英語（課題６） : Patients' Units（入院患者の身の回り）

［8回］ 保健英語（課題７） : Patient Observation and Vital Sighs（患者の観察とバイタルサイン）

［9回］ 保健英語（課題８） : Patient Comfort（安楽への援助）

［10回］ 保健英語（課題９） : Patient Positioning and Tranferring（体位変換と移動介助）

［11回］ 保健英語（課題１０） : Medication（与薬）

［12回］ 総復習１（課題１～５） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［13回］ 総復習２（課題６～７） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習３（課題８～１０） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望 : 英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅲ[1404451]

科目名	英語Ⅲ[1404451]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0〜2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『看護師たまごの英語４０日トレーニング ワークブック基礎編 kit1』菱田治子ほか（アルク）2008

参考書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006
『キクタンメディカル ５．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ９）2011
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、看護関連の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする300語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 保健英語（課題１） : Nursing Practices in English（看護実践と英語）

［3回］ 保健英語（課題２） : Facilities in the Hospital（病院施設）

［4回］ 保健英語（課題３） : Medical Departments（診療科）

［5回］ 保健英語（課題４） : Body Parts（身体の部位）

［6回］ 保健英語（課題５） : Medical Terminology（医療専門用語の成り立ち）

［7回］ 保健英語（課題６） : Patients' Units（入院患者の身の回り）

［8回］ 保健英語（課題７） : Patient Observation and Vital Sighs（患者の観察とバイタルサイン）

［9回］ 保健英語（課題８） : Patient Comfort（安楽への援助）

［10回］ 保健英語（課題９） : Patient Positioning and Tranferring（体位変換と移動介助）

［11回］ 保健英語（課題１０） : Medication（与薬）

［12回］ 総復習１（課題１～５） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［13回］ 総復習２（課題６～７） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習３（課題８～１０） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望 : 英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅳ[1404460]

科目名	英語Ⅳ[1404460]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 1.0〜1.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『看護師たまごの英語４０日トレーニング ワークブック基礎編 kit1』菱田治子ほか（アルク）2008

参考書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006
『キクタンメディカル ５．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ９）2011
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、看護関連の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする300語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 院内看護（課題１） : Critical Care（救急看護）

［3回］ 院内看護（課題２） : Perioperative Care（周手術期ケア）

［4回］ 院内看護（課題３） : Chronic Care Nursing（慢性期看護）

［5回］ 院内看護（課題４） : Cancer Nursing（がん看護）

［6回］ 院内看護（課題５） : Pregnancy and Childbirth（妊娠と出産）

［7回］ 院内看護（課題６） : Pediatric Nursing（小児看護）

［8回］ 地域看護（課題７） : Home Care Nursing（在宅看護）

［9回］ 地域看護（課題８） : Gerontological Nursing（老年看護）

［10回］ 地域看護（課題９） : Occupational Health Nursing（産業看護）

［11回］ 地域看護（課題１０） : Disaster Nursing（災害看護）

［12回］ 総復習１（課題１～３） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［13回］ 総復習２（課題４～６） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習３（課題７～１０） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望 : 英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語Ⅳ[1404461]

科目名	英語Ⅳ[1404461]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 3.0〜3.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：
『看護師たまごの英語４０日トレーニング ワークブック基礎編 kit1』菱田治子ほか（アルク）2008

参考書：
『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006
『キクタンメディカル ５．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ９）2011
『キクタンメディカル １．人体の構造編』 高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007呉

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEFLやTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行うと同時に、看護関連の英文に徐々に慣れ親しむ訓練を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語範囲内を基調とする300語程度の英語文章10課題が滑らかに音読でき、その要点を暗誦・再構成できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。

テーマおよび内容

［1回］ 訓練の心得、目的、目標 : Orientation （目標に向けた訓練方法の解説と実践）

［2回］ 院内看護（課題１） : Critical Care（救急看護）

［3回］ 院内看護（課題２） : Perioperative Care（周手術期ケア）

［4回］ 院内看護（課題３） : Chronic Care Nursing（慢性期看護）

［5回］ 院内看護（課題４） : Cancer Nursing（がん看護）

［6回］ 院内看護（課題５） : Pregnancy and Childbirth（妊娠と出産）

［7回］ 院内看護（課題６） : Pediatric Nursing（小児看護）

［8回］ 地域看護（課題７） : Home Care Nursing（在宅看護）

［9回］ 地域看護（課題８） : Gerontological Nursing（老年看護）

［10回］ 地域看護（課題９） : Occupational Health Nursing（産業看護）

［11回］ 地域看護（課題１０） : Disaster Nursing（災害看護）

［12回］ 総復習１（課題１～３） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［13回］ 総復習２（課題４～６） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［14回］ 総復習３（課題７～１０） : 各課題要点の再構成（リテンション）および暗誦（レシテーション）

［15回］ まとめと展望 : 英語文章（課題１～１０）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語コミュニケーション[1404510]

科目名	英語コミュニケーション[1404510]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
	John Pak[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0〜2.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『Let's Chat!』 John Pak著（EFL Press）

参考書：『看護英会話入門』 植木武（医学書院）2004
『キクタンメディカル 5．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ9）2011
『キクタンメディカル 1．人体の構造編』高橋玲（アルク：医学英語シリーズ5）2010
『トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語』高橋玲（アルク：医学英語シリーズ1）2007
『看護師たまごの英語４０日間』菱田治子（アルク：医学英語シリーズ3）2008

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

音声を中心とする英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングやシャドーイングやディクテーション等の様々な訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができるコミュニケーション活動を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

［1回］ Getting Acquainted : introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

［2回］ Experiences : talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

［3回］ Sport & Leisure : talking about sport and leisure activities / sport rules

［4回］ Shopping & Money : asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

［5回］ Food : talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

［6回］ Travel : talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

［7回］ Movies & Television : talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

［8回］ Work : talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

［9回］ Health : talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

［10回］ Love & Marriage : talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

［11回］ Music & Books : talking about music and books / talking about your favorite music artist

［12回］ Culture & Places in Japan : talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

［13回］ World Problem : talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

［14回］ Review and Discussion : overall review of important points and discussion

［15回］ Final Discussion : training methods for language skills and future perspectives

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

英語コミュニケーション[1404511]

科目名	英語コミュニケーション[1404511]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
	John Pak[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『Let's Chat!』 John Pak著（EFL Press）

参考書：『看護英会話入門』 植木武（医学書院）2004
『キクタンメディカル 5．看護とケア編』平野美津子（アルク：医学英語シリーズ9）2011
『キクタンメディカル 1．人体の構造編』高橋玲（アルク：医学英語シリーズ5）2010
『トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語』高橋玲（アルク：医学英語シリーズ1）2007
『看護師たまごの英語４０日間』菱田治子（アルク：医学英語シリーズ3）2008

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

音声を中心とする英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングやシャドーイングやディクテーション等の様々な訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができるコミュニケーション活動を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

［1回］ Getting Acquainted : introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

［2回］ Experiences : talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

［3回］ Sport & Leisure : talking about sport and leisure activities / sport rules

［4回］ Shopping & Money : asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

［5回］ Food : talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

［6回］ Travel : talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

［7回］ Movies & Television : talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

［8回］ Work : talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

［9回］ Health : talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

［10回］ Love & Marriage : talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

［11回］ Music & Books : talking about music and books / talking about your favorite music artist

［12回］ Culture & Places in Japan : talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

［13回］ World Problem : talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

［14回］ Review and Discussion : overall review of important points and discussion

［15回］ Final Discussion : training methods for language skills and future perspectives晲

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中国語[1404530]

科目名	中国語[1404530]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	弘兼 加奈子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0〜2.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

講義中の私語を慎むこと。断りなく退席しないこと。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『どんどん吸収中国語』木村裕章 他（光生館）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝20%）、その他（中間試験：持ち込み不可＝40%）

授業の目的および到達目標

本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。中国語Ⅰは、初級段階の中国語の授業科目である。中国語をマスターするための基礎づくりと位置づけ、発音や初歩的な文法、及び簡単な会話の習得を目標とする。特に発音の学習にウェートをおき、日常的な挨拶や基礎的な語彙を学びつつ、平易な文章の読み書きができるよう練習を行う。また、文章の基本的な構造を学ぶとともに、身近なことをテーマとした簡単な会話が、より自然な形でできるように反復練習を行う。

テーマおよび内容

[1回] 自己紹介 中国語について 単母音の発音 他

[2回] 声調 そり舌母音 子音

[3回] 子音 有気音 無気音 復習

[4回] 複母音 鼻音 声調変化 r化 復習

[5回] 声調符号 隔音符号 固有名詞 復習 総合練習

[6回] 第1課 新出語句 本文（挨拶） 中国語とピンインの表記 他

[7回] 試験範囲の復習 練習問題

[8回] 中間のまとめ 第2課 新出語句 語法（平叙文 疑問代詞を使った疑問文 他）

[9回] 課文の日本語訳 復習 練習問題

[10回] 第3課 新出語句 語法（的の用法 反復疑問文）課文の日本語訳

[11回] 復習 練習問題 第4課 新出語句

[12回] 語法（量詞 数詞 方位詞 存在を表す文）課文の日本語訳

[13回] 復習 練習問題 第5課 新出語句 語法（曜日 介詞 数量補語）

[14回] 課文の日本語訳 練習問題

[15回] 試験範囲の復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

情報リテラシーⅠ[1404540]

科目名	情報リテラシーⅠ[1404540]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田 樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0〜2.0
教室	①コンピューター教室

受講条件・その注意
・講義中の私語、当授業関連以外の作業（レポート作成等）、飲食は厳禁（退出を指示）・コンピュータ室での飲食は厳禁（授業時間外であっても）

授業の形態
演習

評価方法・評価割合
定期試験（授業時間を利用して試験を行なう(50%)）、授業中の課題（毎回小テストを行なう(50%)）

授業の目的および到達目標
ケア実践の基礎となるデータの収集、整理、情報化、表現、発信に資する代表的なツールとして、コンピュータおよびアプリケーション（サーチエンジン、データベース、ワードプロセッサー、プレゼンテーション、ドローイングの各アプリケーション）の基本的な使用方法を習得するとともに、それらを自ら発展させ応用するための技法について理解を深める。

テーマおよび内容
[1回] 情報とコミュニケーション・個人情報保護 [2回] コンピュータの基本機能・基本操作・ファイルの構成 [3回] ワードプロセッサー（WORD）：基本操作−1（文字列の検索・置換・移動・コピー） [4回] ワードプロセッサー（WORD）：基本操作−2（罫線・図形・写真） [5回] ワードプロセッサー（WORD）：文書ファイルの管理・例題文章作成 [6回] インターネット：ブラウザー・メール・サーチエンジン・医療情報検索 [7回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−1（データ入力・計算式・関数） [8回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−2（表の編集・図形・写真） [9回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−3（グラフ・グラフの編集） [10回] スプレッドシート（EXCEL）：基本操作−4（データベース・分析ツール・応用） [11回] スプレッドシート（EXCEL）：例題データ分析・分析結果レポート作成（WORD使用） [12回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作−1（スライド画面・文字入力） [13回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作−2（表・図形・写真・動画）

[14回] プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作ー3（スライド表示技法）、 例題スライド作成

[15回] 授業のまとめ（課題データによる分析・検討結果を提出）

学生へのメッセージ
授業内容は今後、大学での他の授業および臨床の場でのレポート作成、データの分析・検討、プレゼンテーション等の道具として必須のものです。技能の学習、知識の習得だけではなく、実技としてしっかりと身につけてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

情報リテラシーII[1404550]

科目名	情報リテラシーII[1404550]
科目区分・科目種	基礎教養科目
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田 樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0〜1.0
教室	①コンピューター教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：特に定めない。資料等はすべて電子的に配布する。 参考書：適宜紹介する

評価方法・評価割合
定期試験（50%）、その他（各授業終了時の小テスト50%）

授業の目的および到達目標
情報リテラシーIで学習したアプリケーションをひとつの手段として利用しながら、質の高い情報の取捨選択、データの可視化と要約、効果的な表現および情報発信を実現するための方法を身に付けること、およびそれらの方法を自分自身で構築し自己評価するのに必要なメタ認知能力と批判的思考能力を涵養することを当該科目の学習目標とする。

テーマおよび内容
[1 回] オリエンテーション/学内情報基盤＝クラウドサービスの紹介 [2 回] 情報通信にかかわるイノベーション「モールス、ベル、マルコーニ」演習：学内情報基盤の習得(1)電子メールの送受信にかかわるTips [3 回] インターネットの仕組みと特徴「インターネットのサービス」演習：学内情報基盤の習得(2)ネット検索の資源あれこれ [4 回] 電子メールの仕組みと特徴「電子メールはなぜ届く」演習：学内情報基盤の習得(3)「連絡先」の使用法 [5 回] WWWの仕組みと特徴「サーバとクライアントの関係」演習：学内情報基盤の習得(4)「サイト」の作成 [6 回] 情報の定量化と情報量「両手の指でいくつまで数えられるか」演習：学内情報基盤の習得(5)「アンケートフォーム」の作成 [7 回] ビットとバイト「半角カタカナはなぜ化けるのか」演習：学内情報基盤の習得(6)「ドキュメント」の共有 [8 回] 情報セキュリティ「情報資産をどう守る」演習：学内情報基盤の習得(7)「プリゼンテーション」の作成 [9 回] コンピュータのセキュリティ「その情報、安全ですか」演習：学内情報基盤の習得(8)「テキストチャット」 [10回] 個人情報とプライバシー「なぜ経済協力開発機構なのか」演習：学内情報基盤の習得(9)「マルチメディアコミュニケーション」 [11回] 知的財産権の話「All rights reservedとは」演習：情報の可視化と表現(1)「個人制作」のオリエンテーション [12回] 情報の可視化と表現(2)「個人制作」演習

[13回] 情報の可視化と表現(4)「個人制作」完成および発表

[14回] 統計の基礎(要約統計)

[15回] 統計の基礎(推測統計)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

関係法規[1410020]

科目名	関係法規[1410020]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	早野 俊明[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 5.0〜5.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

・必ず予習をする。・私語は厳禁。私語を3度注意された場合には退室の上、欠席とみなす。・30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:
『関係法規［第7版］』社団法人東洋療法学校協会編 前田和彦著（医歯薬出版株式会社）2009

参考書:
『「関係法規」合格プラン●あん摩マッサージ指圧師/はり師、きゅう師●』関係法規学習会編（源草社）2011

評価方法・評価割合

その他（初回を除き、毎回授業中に行う復習テスト＝100%）

授業の目的および到達目標

本科目では、法律の基本的事項および鍼灸業務に関わりの深い関係法規について学習する。具体的には、医師法、医療法、薬事法、その他の医療従事者に関する法規等について、それぞれの特徴と基本的内容、およびはり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師に関する法律の詳細について学習する。加えて、様々な事例や判例を紹介し、より理解を深められるようにする。

テーマおよび内容

[1回] 序論 1）法の意義、2）法の体系

[2回] あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律1
1）法制定の目的、2）免許と試験、3）業務、4）学校、養成施設、5）指定試験（登録）機関、6）審議会及び試験委員、7）罰則

[3回] あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律2 同上

[4回] あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律3 同上

[5回] あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律4 同上

[6回] あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律5 同上

[7回] あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律6 同上

[8回] あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律7 同上

[9回] 関係法規1
1）医事法規と医療制度、2）医療法、3）医師法（歯科医師法）、4）その他の医療従事者に関する法律、5）薬事法規、6）衛生関係法規、7）社会福祉関係法規、8）社会保険関係法規、9）その他の関係法規

[10回] 関係法規2 同上

[11回] 関係法規3 同上

[12回] 関係法規4 同上

[13回] 関係法規5 同上

[14回] 関係法規6 同上

[15回] 関係法規7 同上

学生へのメッセージ
授業中、授業を静かに聴く自由とともに騒ぐ自由もあるが、当該時間に当該授業が開講されていることを前提で授業に出席している以上、授業を静かに聴く自由が騒ぐ自由に優先することはいわずもがなである。自由は、他人に迷惑をかけないという制約を伴ってこそ享受できるということを自覚してしていただきたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

統合医療論（代替医療）[1410060]

科目名	統合医療論（代替医療）[1410060]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	佐治 順子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
曜日・時限	後期 金曜 3.0〜3.0
	後期 金曜 4.0〜4.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

佐治が担当する「相補･代替医療(5)(6)(7)(8)(9)(10)」の6回分は、3,4時限に2コマ連続で3回に分けて開講する。また、第14回と15回の総括、課題発表についても2コマ連続で、講義（総括）と課題に対するプレゼンテーションを行う。他の回は、原則として金曜日4時限に開講する。講義日程が変更する場合もあるので、掲示に注意すること。評価については、毎回の講義への参加姿勢を重視し、14回、15回でのプレゼンテーションの内容を加味して総合的に評価する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：特に定めない

参考書：『代替医療』蒲原聖可（中公新書）
『代替医療のトリック』サイモン・シン(新潮社)

評価方法・評価割合

出席状況、授業中の課題（予定：統合医療に関するPresentation （各自10分程度））、その他（講義への参加姿勢：出席・発言など）

授業の目的および到達目標

本科目では、種々の補完・代替医療（鍼灸、漢方、サプリメント、マッサージ、温泉療法、アロマテラピー、音楽療法など）について、それぞれの目的、適応症、方法、効果などについて学習するとともに、将来現代医学と併用して統合医療を実践する際に必要な事項について学んでいく。特に諸外国における補完・代替医療および統合医療の実践状況と我が国のそれとを比較し、我が国における医療の在り方について考えさせる。また、それぞれの項目については、グループに分かれて、それぞれテーマを決めて発表し、討論する。

テーマおよび内容

[1 回] Introduction：統合医療、相補・代替医療試論／東郷

[2 回] 相補・代替医療（1）：現代医療における「健康」と相補・代替医療／東郷

[3 回] 相補・代替医療（2）：相補・代替医療の種類と分類／東郷

[4 回] 相補・代替医療（3）：相補・代替医療ー伝統医学（中国医学・アーユルヴェーダなど）／東郷

[5 回] 相補・代替医療（4）：相補・代替医療ー生物学的療法（食事療法・アロマテラピーなど）／東郷

[6 回] 相補・代替医療（5）：相補・代替医療ー精神学的療法(音楽療法など）／佐治

[7 回] 相補・代替医療（6）：欧州における相補・代替医療の現状(ホメオパシー）／佐治

[8 回] 相補・代替医療（7）：欧州における相補・代替医療の現状(精神力動学的療法）／佐治

[9 回] 相補・代替医療（8）：米国における相補・代替医療の現状(創造的即興音楽療法)／佐治

[10回] 相補・代替医療（9）：米国における相補・代替医療の現状(行動療法）／佐治

[11回] 相補・代替医療(10)：日本における相補・代替医療の現状(認知症予防療法・固有テンポ)／佐治

[12回] 統合医療：現代医療への相補・代替医療の統合と課題点（国外の状況）／東郷

[13回] 統合医療：現代医療への相補・代替医療の統合と課題点（国内のアンケート調査結果から）／東郷

[14回] 総括１：全体のまとめと課題発表／東郷・佐治

[15回] 総括２：全体のまとめと課題発表／東郷・佐治

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中薬学概論[1410100]

科目名	中薬学概論[1410100]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0〜3.0
教室	①402教室

受講条件・その注意

本授業は、中医診断学の内容を踏まえて、日本で馴染みのある生薬の中医学的応用について概説する。そのため、在校生にとって中医診断学の関連授業の修了は、受講条件となる。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：プリントを配付する

参考書：『［新装版］中医臨床のための中薬学』 神戸中医学研究会（東洋学術出版社）
『［新装版］中医臨床のための方剤学』 神戸中医学研究会（東洋学術出版社）
『生薬単』 原島広至（株式会社エヌ・ティー・エス）

評価方法・評価割合

出席状況（20%）、授業中の課題（30%）、その他（個別課題プレゼンテーション50%）

授業の目的および到達目標

本科目では、代表的な漢方薬を取り上げ、それらに用いられる生薬とその作用について学習する。特に漢方薬の材料となる生薬については実物を観察させ、生薬の特徴を理解させる。中薬学（漢方）と鍼灸学は共通した診断学の基盤をもっていること、また「薬食同源」といわれるように、中薬学では、薬物と食物は、本来同源とされてきたことをふまえ、中薬学の基本的な理論、および薬物や食品として利用される生薬（植物・動物・鉱物）の概要（薬理作用・運用方法）について中心に学ぶ。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション、方剤研究（個別課題）について

[2 回] 中医学と中薬学について

[3 回] 中医学：概論、気・血・津液、病因、弁証論治

[4 回] 中薬学：概論、生薬（中薬）、作用 方剤学：方剤の構成、剤型、用法、選択

[5 回] 方剤研究 ① 芍薬甘草湯、六君子湯

[6 回] 方剤研究 ② 麦門冬湯、葛根湯

[7 回] 方剤研究 ③ 大柴胡湯、黄連解毒湯

[8 回] 方剤研究 ④ 大建中湯、半夏厚朴湯

[9 回] 方剤研究 ⑤ 桂枝茯苓丸、五苓散

[10回] 方剤研究 ⑥ 加味逍遙散、補中益気湯

[11回] 方剤研究 ⑦ 荊芥連翹湯、当帰芍薬散

[12回] 方剤研究 ⑧ 桔梗湯、抑肝散

[13回] 方剤研究 ⑨ 半夏瀉心湯、小青竜湯

[14回] 方剤研究 ⑩ 消風散、桃核承気湯

[15回] 中医営養学と薬膳

学生へのメッセージ
授業では受け身にならず、積極的に発言して下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中医方剤学（処方学）[1410110]

科目名	中医方剤学（処方学）[1410110]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

本授業は、東洋医学概論と中医診断学の授業内容を踏まえて、生薬処方の組立ならびにその応用を概説する。東洋医学概論及び中医診断学の関連授業の授業単位の修了を受講条件としている。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：プリントを配付する

参考書：『傷寒論を読もう』 高山宏世（東洋学術出版社）
『はじめての漢方診療』 三潴忠道（医学書院）
『［新装版］中医臨床のための方剤学』 神戸中医学研究会（東洋学術出版社）

評価方法・評価割合

出席状況（20%）、授業中の課題（30%）、その他（個別課題プレゼンテーション50%）

授業の目的および到達目標

本科目では、東洋医学の治療方法で鍼灸と並び大きな柱となる薬物療法の処方構成について学ぶ。中医方剤学の基本となる傷寒論の考え方を中心に講義する。実際には東洋医学の病理と病証の中でも六経病証の三陰三陽病に沿って、各病証で用いられる処方を理解できるようにする。また、薬物療法で重要視される腹診（特定腹証）についての学習も行い臨床で活用できる幅広い知識の習得を目指す。

テーマおよび内容

［1回］ オリエンテーション・東洋医学概論の復習

［2回］ 病理と病証：八綱

［3回］ 病理と病証：六経病証

［4回］ 四診：切診

［5回］ 四診：腹診の実際

［6回］ 太陽病①：桂枝湯、麻黄湯

［7回］ 太陽病②：葛根湯、桃核承気湯

［8回］ 太陽病③：小青竜湯、大青竜湯、半夏瀉心湯

［9回］ 少陽病①：小柴胡湯、大柴胡湯

［10回］ 少陽病②：柴胡桂枝湯

［11回］ 陽明病：白虎加人参湯、大承気湯、五苓散

［12回］ 太陰病：人参湯、桂枝加芍薬湯

［13回］ 少陰病①：四逆湯、真武湯

［14回］ 少陰病②：黄連阿膠湯、猪苓湯

［15回］ 厥陰病：烏梅丸 ＜まとめ＞

学生へのメッセージ
毎回、東洋医学概論の教科書を持って来て下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中医栄養学(薬膳）[1410120]

科目名	中医栄養学(薬膳）[1410120]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	和田 暁[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①401教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:レジュメを配布する

評価方法・評価割合
レポート（小レポートを課すことがある）

授業の目的および到達目標
本科目では、患者の病証や個体特性、ならびに季節・環境にも配慮した、オーダーメイドな弁証施膳の理論と実践について学習する。また、薬膳料理のメニューを各自で作成し発表会を行う。西洋に起源を有する近代栄養学と異なり、中医学では「薬食同源」と言われるように、薬物と食物は本来同源である。生薬の中には、一般でも料理に使用される品目が多数あり、鍼灸師としてこうした食品に対する知識を持つことは、患者の食生活を理解する上でも、また患者の病証を考慮に入れた食事指導をしていく上でも大切である。

テーマおよび内容
[1回] 食医の源流 未病と薬膳 現代栄養学と中医栄養学の同異
[2回] 食物の五味・五色・四性・帰経・効能
[3回] 陰陽五行と季節養生・体調別養生
[4回] 季節別薬膳養生（春、夏）
[5回] 季節別薬膳養生（梅雨、秋、冬）
[6回] 気血津液を調整する薬膳（気と血）
[7回] 気血津液を調整する薬膳（津液）
[8回] 八綱弁証と薬膳（陰陽の偏勝）
[9回] 八綱弁証と薬膳（陰陽の偏衰）
[10回] 生活習慣病と薬膳
[11回] 女性のライフサイクル変化と薬膳（生理期、妊娠出産、更年期）
[12回] 老化防止と薬膳
[13回] 運動系疾患と薬膳

[14回] 呼吸系疾患と薬膳

[15回] 自律神経系疾患と薬膳

学生へのメッセージ
中医栄養学(薬膳）は鍼灸、漢方方剤と同じく中医学の一角を担っています。本授業では、季節の養生と個々体質に合わせる薬膳養生、病態食における薬膳養生の理論と実践法を学びます。日常誰でもできる美味しい薬膳レシピー制作も一緒に考えましょう

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸経営論[1410130]

科目名	鍼灸経営論[1410130]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鳥海 一哉[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0〜3.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

独立開業に欠かせないマインドセット、最低限知っておくべき知識・ノウハウ、多くの人が陥りやすい過ち、集客手法、リスクマネジメント手法を身につけます。毎回の講義が「開業シミュレーション」だという意識を持つことで大きな効果を得られます。服装自由。15分以上の遅刻・早退は欠席扱い。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書: 毎回、レジュメを配布します。

参考書: 『ハイパワー・マーケティング』 ジェイ・エイブラハム（著）、金森重樹（監訳） （インデックス・コミュニケーションズ） 2005

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝30%）、出席状況（出席回数、授業への参加態度＝50%）、授業中の課題（毎回の課題＝20%）

授業の目的および到達目標

本科目では、施術所を経営するための基本的な事項について学習する。経営学の基礎、医療保険制度、税金の仕組み、広告、施術所の設計・デザイン、マーケティングなどについて学習する。加えて最近のインターネット上における施術所の提示の仕方などについても紹介し、経営に対する意識を喚起する。また、施術所を開設している鍼灸師による経営の実際について聴講し、討論する。

テーマおよび内容

[1回] 経営学の基礎とマインドセット：うまくいく人とうまくいかない人の決定的な違いを知る

[2回] 強みを持つ：多くの人が陥るワナに気付き、本当の強みを作る

[3回] 売上の正体を知る：リピーターを作る絶対条件

[4回] リスク・リバーサル：リスク・フリーとそれを上回る戦術

[5回] サービスラインナップの設定：フロントエンドとバックエンドを作る

[6回] 集客の方法：基本戦略、テストの意味、具体的戦術（紹介、提携、DM、Web等）

[7回] 経営学の基礎とマインドセット：うまくいく人とうまくいかない人の決定的な違いを知る

[8回] コピーライティング：盛り込むべき要素、オンラインとオフラインの違い

[9回] 数字に強くなる：利益、キャッシュ、税金（個人と会社の違い）

[10回] 事業計画：事業計画と収支計画の立て方を学ぶ

[11回] 開業シミュレーション１
[12回] 開業シミュレーション２

[13回] 開業シミュレーション３ （経営の実際（招待））

[14回] コンプライアンス：国別対抗戦

[15回] 事業継続計画とリスクマネジメント：事業を継続できるポイントをつかむ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

医学概論（生命医療倫理を含む）[1410320]

科目名	医学概論（生命医療倫理を含む）[1410320]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0〜3.0
教室	①301教室

受講条件・その注意

全講義日数の3分の2以上の出席を要する（30分以上の遅刻は欠席と見なす）。
自身の欠席状況に関しては必ず自分で管理すること。
教員がやむを得ない事情で休講にする場合は簡単なレポートを課してその提出を以て出席とする。
授業中の飲食・私語は禁止する。
他の受講生の妨げになると判断した場合は退出を命じることがある。その際は当該回の講義を欠席扱いとする。
成績評価は、最終講義で実施する試験の他、普段の出席状況、レポート内容などを総合的に判断して評価する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

適宜プリントを配布する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標

本科目においては、現代日本の医療を取り巻く社会状況（疾病構造の変化・少子高齢化）および現代医療の成り立ち（医療機関・医療従事者・医療保険制度等）を学ぶとともに、今日の医療が形成されてきた歴史についても主としてルネッサンス以降の医学発展の流れを概観する。そして医療技術の発展に伴い社会問題となってきた遺伝子医療、高度生殖医療、脳死・臓器移植問題などの諸問題について医療従事者として必要な知識を習得する。

テーマおよび内容

［1回］ イントロダクション：医学概論で何を学ぶか

［2回］ 現代の医療と社会（1）：疾病構造の変化と少子高齢化社会

［3回］ 現代の医療と社会（2）：現代の医療（医療施設・医療従事者・医療保険）

［4回］ 現代の社会保障制度：医療保険・介護サービスの現状など

［5回］ 医療の歴史（1）：ヴェサリウスの解剖学

［6回］ 医療の歴史（2）：ハーヴェイによる血液循環の発見

［7回］ 医療の歴史（3）：19世紀の医学 （細菌学・細胞病理学の成立）

［8回］ 医療の歴史（4）：消毒概念の成立 （ゼンメルワイスとリスター）

［9回］ 医療の歴史（５）：現代医学と伝統医学

［10回］ 医療の倫理 （１）：インフォームドコンセント・ヘルシンキ宣言

［11回］ 医療の倫理 （２）：脳死・臓器移植・遺伝子医療・クローン問題

［12回］ 医療の倫理 （３）：高度生殖医療

［13回］ 医療の倫理 （４）：ハンセン病患者隔離政策（1）

［14回］ 医療の倫理 （５）：ハンセン病患者隔離政策（２）

［15回］ 総括

学生へのメッセージ

この科目は、私たちが現代社会で享受している医療や福祉の基本的な仕組みを知るとともに、私たちが学んでいる医学の知識がどのような過程を経て形作られてきたのか、その歴史的な経緯について理解を深めることを目的としています。国家試験の出題領域でもあるので、しっかりと関心を持って受講してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床心理学[1410330]

科目名	臨床心理学[1410330]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	山口 創[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0〜2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

15分以上の遅刻・退席は、欠席とみなします。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書: 『よくわかる臨床心理学』山口創（川島書店）2001
『手の治癒力』山口創（草思社）2012

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝80%）、出席状況（出席回数、遅刻・途中退席＝20%）

授業の目的および到達目標

本科目では、発達段階を追って、心理的不適応や不適応行動についての理解を深め、さらに心理的アセスメントや種々の心理療法の技法についても学習することを目標とする。心理的不適応については、特に心身の問題を絡めて統合的な視点から学習する。また心理療法についても、単なる言葉によるカウンセリングだけではなく、動作療法やボディ・ワークなど、身体にはたらきかけるアプローチについても同時に学んでいく。患者への関わり技法についても理解することを目標とする。

テーマおよび内容

[1回] ガイダンス：臨床心理学とはなにか

[2回] 臨床心理学周辺の理論：パーソナリティ心理学、発達心理学を学ぶ

[3回] 子供の心の問題1：発達障害について

[4回] 子供の心の問題1：虐待について

[5回] 思春期の心の問題：摂食障害について

[6回] 成人期の心の問題：抑うつ、不安について

[7回] 心理療法について：認知行動療法

[8回] 心身相関の理論1：身体心理学について

[9回] 心身相関の理論2：皮膚心理学について

[10回] 心身相関の理論3：心身症について

[11回] 心身相関の理論４：NLPについて

[12回] ストレスについて１：心身の健康を学ぶ

[13回] ストレスについて２：コーピング

[14回] ストレスについて３：ストレス理論について

[15回] 心の健康と身体の健康：身体から心へ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

医療人のための英語（医学英語）[1410340]

科目名	医療人のための英語（医学英語）[1410340]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田 将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 1.0〜1.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：『やさしい医学英語』 青野淳子（医学書院）2006

参考書：『キクタンメディカル 1．人体の構造編』高橋玲（アルク：医学英語シリーズ５）2010
『トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語』高橋玲（アルク：医学英語シリーズ１）2007

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

本科目では、基礎的な英文医学用語を習得するための演習を行う。習得対象となる医学用語を含む英文原著を集中的に繰り返し読み、その和訳文のみを参照すれば、直ちに原文の英語を再現できるようになることを目標とする。音読サイトトランスレーションとリテンションを援用した訓練技法を用いて、自然な音律での原文の音読訓練と、原文の意味内容の要点をおさえた文章把握をする訓練を繰り返し行うことにより、英語文化圏における医療人の医療に対する考え方をよりよく理解するための英語運用能力を養う。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：部分と全体—専門英語の諸相

[2 回] 音声のしくみ：発話のしくみと言語コミュニケーション

[3 回] 音声言語のしくみ：音素・音節・韻律と言語コミュニケーション

[4 回] 語のしくみ（1）：音声と語形成

[5 回] 語のしくみ（2）：語形成と語の意味

[6 回] 語のしくみ（3）：語と語の意味

[7 回] 語のしくみ（4）：語の歴史的発達

[8 回] 語のしくみ（5）語と文化・社会

[9 回] 語のしくみ（6）専門用語の形成

[10回] 文のしくみ：語と語のネットワーク

[11回] 文章のしくみ：文章のなりたちと論文のなりたち

[12回] 英文講読演習（1）：音読サイトトランスレーション

[13回] 英文講読演習（2）：リテンション（保持）

[14回] 英文講読演習（3）：レシテーション（暗誦）

[15回] まとめと展望：訓練の成果の意義と今後の発展に向けてて

学生へのメッセージ

(1) 基本を最も大切にします。
(2) 基本をほんとうに知る人は，基本をさらに磨こうとする「自立した学習者」です。
(3) 「自立した学習者」として基本を究める醍醐味を味わいましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

カウンセリング入門[1410350]

科目名	カウンセリング入門[1410350]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	茶圓 暁美[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0〜3.0
教室	①302教室

受講条件・その注意
30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなします

授業の形態
講義

教科書・参考文献
参考書:『総説カウンセリング心理学』福島脩美著（金子書房）2008 『ヘルピングの心理学』ロバート・R・カーカフ著 国分康孝＝監修（講談社現代新書）1992 『図解雑学 臨床心理学』松原達哉＝編著（ナツメ社）2002

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み可＝60%）、出席状況（出席回数、遅刻・途中退席＝20%、授業への参加態度＝20%）

授業の目的および到達目標
本科目では、カウンセリングの本質と効果について学習する。よい援助関係の条件とは何か、傾聴、受容などカウンセリングに必要な基本的態度をロールプレイを通して実践的に学習する。その上でクライエントとカウンセラーという二者間の関係性について考察し、カウンセラーに求められる資質について学ぶ。幼少期から老年期まで各ライフステージを通過する上で課されている発達課題や、様々な心理療法、面接技法なども取り入れ、効果的なカウンセリングの用法を学習する。

テーマおよび内容
[1回] カウンセリングとは [2回] カウンセリングの目的 [3回] カウンセリングの歴史 [4回] 発達理論と発達課題について [5回] 自己理解について [6回] コミュニケーションについて [7回] ストレスが身体に及ぼす影響について [8回] リラクセーション方法について [9回] カウンセラーの基本的態度について

[10回] 自己主張について

[11回] カウンセリングのプロセス

[12回] うつ病について

[13回] カウンセリングの主要理論

[14回] 心理療法について

[15回] カウンセリング技法と実践

学生へのメッセージ
ロールプレイでは、カウンセラー役やクライエント役など、それぞれの役になりきることが重要です

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

社会鍼灸学[1410360]

科目名	社会鍼灸学[1410360]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	藤井 亮輔[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0〜2.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

鍼灸を含む医療一般に関する情報を新聞記事やニュース報道等から収集することと、関連の時事問題に対する自分の考えをまとめることの二つを習慣化するよう、日頃より努力していただきたい。

教科書・参考文献

参考書: 『地域理療と理療経営 第２版』藤井亮輔（東京ヘレンケラー協会）
社会鍼灸学に関する藤井の論文及び政府統計

評価方法・評価割合

出席状況（出席状況＝40%）、レポート（レポート＝60%）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸と地域社会とのかかわりについての基本的な視点を学習する。具体的には、疾病構造の変化や社会の高齢化を背景とした医療を取り巻く諸問題、鍼灸療法を含めた新たな社会医療システムの必要性などを理解する基礎として、社会保障制度、医療保障システムの概要、西洋医学と伝統医療、患者の捉え方、病気の意味論等を学習した上で、社会科学の観点から、鍼灸医療の業態と市場規模、医療保険、介護領域における鍼灸療法の役割と展望等について学習し、現代社会が求める鍼灸師の基本的資質を養う。

テーマおよび内容

[1回] 鍼灸療法と地域社会：１．鍼灸師になろうとした動機や進路希望等に関するアンケートを実施する。２．地域社会が期待する鍼灸師や鍼灸療法の在り方とは何かを考え学習する。

[2回] 少子高齢社会の現状・展望と課題：少子高齢化社会の実相を概観した上で、介護や医療ろ取り巻く現状と課題を学習する。

[3回] 疾病構造の変化と医療ニーズの多様化：超高齢社会等を背景とした疾病構造の変遷を概観し、病気や病者になることの社会的意味を考える。

[4回] 社会保障制度の概要：社会保障の理念や変遷を解説した上で、社会保険制度、社会保障制度改革の動向等を学習する。

[5回] 医療保険の概要：公的医療保険制度、公費負担医療制度の概要を学習する。

[6回] 介護保険制度の概要：介護保険制度の概要と利用システムについて学習する。

[7回] 医療保険と鍼灸Ⅰ：療養担当規則、療養費制度の概要を解説した上で医療保険における鍼灸の位置的関係を解説する。

[8回] 医療保険と鍼灸Ⅱ：医療保険を活用した鍼灸経営の実践例や介護保険制度との関わりについて学習する。

[9回] 鍼灸施術所の現状と課題１：医道の日本社が実施した「第５回業態調査」を題材に開業鍼灸師の現状と課題を概説する。

[10回] 鍼灸施術所の現状と課題２：衛生統計や藤井が実施した各種調査から鍼灸治療院や開業鍼灸師の現状と課題を概説し、今後を展望する。

[11回] 診療所と鍼灸：各種の調査や資料等を紹介し、一般診療所における鍼灸療法の現状を理解し課題を考える。

[12回] 病院と鍼灸：各種の調査や資料等を紹介し、病院における鍼灸療法の現状を理解し課題を考える。

[13回] 国民の目から見た鍼灸：国民を対象にした鍼灸に関する各種調査結果を解説し市民の視点から鍼灸の課題や未来を考える。

[14回] 教育と鍼灸：業の活性化を図る観点から、鍼灸教育の制度の概要と課題を概観した後、教育改革の必要性について、私見を述べる。

[15回] ディスカッション：鍼灸師になろうとした動機、今後の進路希望等に関するアンケート結果（調査票を事前に配布）を踏まえ、鍼灸師としての期待や夢を語り合う。

学生へのメッセージ
日本鍼灸はわが国が世界に誇る医療文化の一つである。この遺産の継承者として本学に学ぶ君たちにかけられる期待は大きい。受講に際しては、その自覚を胸に、リーダーとしての資質の一端を養う意識で臨んでいただきたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

手技療法入門[1410400]

科目名	手技療法入門[1410400]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	矢嶌 裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0〜3.0
教室	①303教室

授業の形態
実習

教科書・参考文献
あん摩マッサージ指圧実技（基礎編）医道の日本社

評価方法・評価割合
定期試験（実技試験を行います）、出席状況（出席数、毎回の授業態度を加味します。）

授業の目的および到達目標
あん摩マッサージ指圧の基本主手技を紹介し、四肢のマッサージの基本手技を中心に実技を行う。

テーマおよび内容
[1 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：押圧操作 [2 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：あん摩基本手技：軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法、叩打法、曲手 [3 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：押圧操作 [4 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：あん摩基本手技：軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法、叩打法、曲手 [5 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：押圧操作 [6 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：あん摩基本手技：軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法、叩打法、曲手 [7 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：押圧操作 [8 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：あん摩基本手技：軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法、叩打法、曲手 [9 回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：押圧操作 [10回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：あん摩基本手技：軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法、叩打法、曲手

[11回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：押圧操作

[12回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：あん摩基本手技：軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法、叩打法、曲手

[13回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：押圧操作

[14回]マッサージ基本手技：軽擦法、揉捏法、強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法、指圧基本手技：あん摩基本手技：軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法、叩打法、曲手

[15回]総まとめ

学生へのメッセージ

あん摩、マッサージ、指圧の基本的な手技を身につけることを目的とします。あん摩は肩、マッサージは上肢・下肢、指圧は背部への施術を中心に練習します。授業は基本手技の繰り返しが主な内容であること、受講人数や皆さんの上達具合に応じて、施術部位等の増減などの変更を行うことがありますので了解のうえ受講してください。服装はジャージなどの動きやすい服装の上に白衣を着て受講してください。スカートは不可とします。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床検査学[1411140]

科目名	臨床検査学[1411140]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林 洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
教室	①402教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『臨床医学総論 第２版』 奈良信雄（医歯薬出版） 参考書：『栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち』 田中 明他（羊土社）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝30%）、レポート（中間１回＝30%）

授業の目的および到達目標
本科目では、主要な臨床検査の目的と方法及び判定法などについて学習する。主な内容は、尿・糞便検査、血球、凝固関連検査、血液生化学検査、血液血清検査、内分泌検査、感染症関連検査、及び生理機能検査などである。このうち、特に鍼灸臨床を行う上で身につけておかなければならない主要な臨床検査の内容とその意義について理解させる。

テーマおよび内容
[1 回] 概論：臨床検査全体について [2 回] 一般検査１：尿検査 [3 回] 一般検査２：便検査他 [4 回] 血液検査１：赤血球系 [5 回] 血液検査２：白血球系 [6 回] 血液検査３：血小板、凝固系 [7 回] 髄液検査：髄液の採取と分析 [8 回] 生化学検査１：タンパク質、糖質、脂質 [9 回] 生化学検査２：酵素 [10回] 生化学検査３：老廃物、電解質 [11回] 内分泌検査：ホルモンの種類と意義 [12回] 免疫血清検査：炎症マーカーと抗体

[13回] 心電図検査：心電図検査の方法と意義

[14回] 生理学的検査：呼吸機能検査、脳波検査、筋電図検査

[15回] 画像検査：超音波検査、レントゲン検査、CT、MRI

学生へのメッセージ
臨床医学系の授業で学んだことを土台にして講義をします。 疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床薬理学[1411150]

科目名	臨床薬理学[1411150]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	荒井 裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：
『シンプル薬理学』野村隆英 石川直久（南江堂）

参考書：
『グッドマン・ギルマン 薬理書』上、下 高折ら（廣川書店）
『NEW 薬理学』 田中、加藤（南江堂）
『新薬理学テキスト』 佐藤 進 編 （廣川書店）

評価方法・評価割合

定期試験（持ち込み不可）

授業の目的および到達目標

鍼灸による治療の範囲は内科、神経科、耳鼻科などと限られた範囲での疾患の治療ではなく、その範囲は大変広く、複合範囲のものも多い。西洋医学での主流である薬物治療を理解するために、治療薬の薬理学、すなわち、薬物の作用点、生体内運命、薬効に影響を与える因子などを学ぶとともに、特に鍼灸治療で扱う疾患に用いる治療薬の作用機序、薬理作用、副作用、適用方法、注意点などについても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 総論：薬理学とは
[2回] 総論：薬物の作用点
[3回] 総論：薬物の生体内運命
[4回] 総論：薬物の生体内運命
[5回] 総論：薬効に影響を与える因子
[6回] 総論：薬効に影響を与える因子
[7回] 総論：薬物の毒性、新薬の開発
[8回] 自律神経系に作用する薬物：副交感神経系に作用する薬物
[9回] 自律神経系に作用する薬物：交感神経系に作用する薬物
[10回] 体性神経系に作用する薬物：運動神経薬、知覚神経薬
[11回] 中枢神経系に作用する薬物：抗パーキンソン病薬、全身麻酔薬など
[12回] 循環器系に作用する薬物：利尿薬、降圧薬など
[13回] 下熱・鎮痛・抗炎症薬：アレルギー・炎症・痛み
[14回] 下熱・鎮痛・抗炎症薬：抗アレルギー薬・抗潰瘍薬・鎮痛薬・抗炎症薬
[15回] その他の薬物：オータコイド、消毒薬などについて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

人体構造学Ⅰ（総論・組織）[1411310]

科目名	人体構造学Ⅰ（総論・組織）[1411310]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小泉 政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0〜2.0
	前期 木曜 3.0〜3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

複雑な人体構造を少しでも理解しやすくするため、講義では図を多用し、実際に自らの手で描くことにより理解をしてもらう。また、適宜模型などを使用する。そのため、欠席によるデメリットは大きいことを明記しておく。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：
『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著（医歯薬出版）

参考書：
『分担解剖学：.第１,2,3巻』（金原出版）
『人体解剖学』藤田恒太郎（南江堂）
『リハビリテーション解剖アトラス』佐藤達夫：坂本裕和 （医歯薬出版）

評価方法・評価割合

定期試験（中間筆記試験：持ち込み不可＋期末筆記試験：持ち込み不可）、出席状況（２／３以上欠席した者は定期試験の受験資格がない）、授業中の課題（毎回の授業で行うミニテストも評価の参照にする）

授業の目的および到達目標

本科目では人体の正常構造を理解するため、系統解剖学を学習する。特に前期では系統解剖学のうち、骨学（関節を含む）・靱帯学・筋学・神経学などの運動器系に関連する組織器官について主に学習する。また、人体を構成する構造の発生・細胞・組織等の基本構造、解剖学の基準となる正位と身体の区分、関節運動の用語等についても学習する。特に骨、筋および神経系については、系統的に学ぶだけでなく、運動器の機能作用からみたそれらの関係性についても取り上げながら、鍼灸師にとって重要な人体構造の基本についての理解を深めていく。

テーマおよび内容

［1回］ 解剖学序論：解剖学とは？ 解剖学的な人体の区分、体位、方向.
［2回］ 細胞：細胞の構造. 細胞分裂.
［3回］ 組織：組織の種類. 上皮・結合組織
［4回］ 骨格系総論１: 骨の種類、骨の基本構造、骨の発生，成長.
［5回］ 骨格系総論２: 骨の連結の種類と構造、全身の骨格の区分.
［6回］ 筋系総論１：筋組織の構造. 筋の種類、一般的形態.
［7回］ 筋系総論２：筋の分類、作用の種類.
［8回］ 神経系総論１: 神経系の構成、神経細胞、神経興奮の伝達、中枢神経概論.
［9回］ 神経系総論２: 脳・脊髄総論、末梢神経系概論、脳神経・脊髄神経総論.
［10回］ 体幹の骨１：椎骨、椎骨の連結と靭帯.
［11回］ 体幹の骨２：脊柱、胸郭（胸骨・肋骨）.

［12回］ 体幹の筋と神経１: 胸部の筋と肋間神経，横隔膜.
［13回］ 体幹の筋と神経２: 腹部の筋と神経、鼠径管.
［14回］ 体幹の筋と神経３: 頚部の筋と神経、背部の筋と神経.
［15回］ （中間試験）
［16回］ 四肢の骨１：上肢帯、下肢帯.
［17回］ 四肢の骨２：自由上肢の骨と関節.
［18回］ 四肢の骨３：自由下肢の骨と関節.
［19回］ 上肢の筋と神経１: 腕神経叢、上肢帯の筋と神経.
［20回］ 上肢の筋と神経２: 上腕の筋と神経.
［21回］ 上肢の筋と神経３: 前腕の筋と神経、手の筋と神経.
［22回］ 下肢の筋と神経１: 腰仙骨神経叢、下肢帯の筋と神経.
［23回］ 下肢の筋と神経２: 大腿の筋と神経，下腿の筋と神経.
［24回］ 下肢の筋と神経３: 足の筋と神経.
［25回］ 会陰の筋と神経，頭の骨１: 会陰の筋と神経、頭蓋骨の構成.
［26回］ 頭の骨２: 頭蓋骨の連結.
［27回］ 頭の筋と神経: 頭部の筋と脳神経
［28回］ 脊髄: 脊髄の一般的形態、内部構造.
［29回］ 脳１: 脳の区分、延髄、橋、小脳、中脳、間脳、大脳
［30回］ 脳２: 機能領域、基底核、脳の血管、脳室、脳脊髄液.

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体構造学Ⅱ[1411320]

科目名	人体構造学Ⅱ[1411320]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小泉 政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0〜2.0
	後期 火曜 3.0〜3.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

複雑な人体構造を少しでも理解しやすくするため、講義では図を多用し、実際に自らの手で描くことにより理解をしてもらう。また、適宜模型などを使用する。そのため、欠席によるデメリットは大きいことを明記しておく。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著（医歯薬出版）

参考書：『分担解剖学：.第1,2,3巻』（金原出版）
『人体解剖学』藤田恒太郎（南江堂）
『リハビリテーション解剖アトラス』佐藤達夫：坂本裕和 （医歯薬出版）

評価方法・評価割合

定期試験（中間筆記試験：持ち込み不可＋期末筆記試験：持ち込み不可）、出席状況（２／３以上欠席した者は定期試験の受験資格がない）、授業中の課題（毎回の授業で行うミニテストも評価の参照にする）

授業の目的および到達目標

本科目では人体の正常構造を理解するため、系統解剖学を学習する。特に後期では系統解剖学のうち、自律神経系、循環器系（心臓と血管・リンパ系）・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器系・感覚器系などの組織器官について主に学習する。内臓器の構造を知ることは、疾患の理解や刺鍼の際の重要な手がかりとなるため、鍼灸師にとっても非常に重要である。そのため、個々の組織器官の構造や機能だけでなく、各組織器官の関連性を学習することによって、鍼灸師にとって必要な人体の構造の基本を理解する。

テーマおよび内容

［1回］ 自律神経系：自律神経系総論、交感神経、副交感神経.
［2回］ 伝導路：伝導路総論、反射路、下行性伝導路、上行性伝導路.
［3回］ 内臓総論：内臓の区分、内臓を包む膜、消化管の構造
［4回］ 頭頚部の呼吸器：鼻腔、口蓋、咽頭、喉頭.
［5回］ 胸部の呼吸器：気管・気管支、肺、呼吸、肺の血管.
［6回］ 循環器系総論：循環路の概要、血管の構造、血液.
［7回］ 心臓１：心臓の位置、心膜、心臓外景・内景.
［8回］ 心臓２：刺激伝導系、冠状動脈・静脈.
［9回］ 体幹の動脈系：大動脈弓、胸大動脈、腹大動脈、総腸骨動脈と枝.
［10回］ 上肢・下肢の動脈系：鎖骨下動脈から手の動脈、外腸骨動脈から足の動脈.
［11回］ 頭部の動脈系：外頚動脈とその枝、内頚動脈とその枝、椎骨動脈.
［12回］ 体幹・上肢・下肢の静脈系：皮静脈、鎖骨下静脈から手の静脈、外腸骨静脈から足の静脈.
［13回］ 頭部の静脈系，血液循環：内頚静脈とその枝、顔面の静脈. 成体の循環路、胎児期の循環路.

［14回］ リンパ系：リンパ系総論、全身のリンパ管、リンパ節、脾臓.
［15回］ （中間試験）：
［16回］ 消化器１：概観、消化管の血管、口腔、咽頭、食道.
［17回］ 消化器２：胃、小腸、大腸.
［18回］ 消化器３：肝臓、胆嚢、膵臓.
［19回］ 泌尿器１：腎臓、尿管、尿の生成.
［20回］ 泌尿器２：膀胱、尿道，排尿・蓄尿反射
［21回］ 女性生殖器：子宮、卵管、卵巣、外生殖器.
［22回］ 男性生殖器：精巣、精巣上体、精嚢、前立腺、外生殖器、精子の形成.
［23回］ 発生１：受精、着床、初期発生と胎盤形成.
［24回］ 発生２：初期発生と胎盤形成、胎児の発生.
［25回］ 内分泌器１：内分泌とは．下垂体、松果体、甲状腺
［26回］ 内分泌器２：上皮小体、副腎、膵臓、卵巣、精巣.
［27回］ 感覚器１：皮膚.
［28回］ 感覚器２：嗅覚器、味覚器、視覚器（眼球およびその付属器）.
［29回］ 感覚器３：光の感受、平衡聴覚器、音の伝達.
［30回］ まとめ：授業のまとめ.

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体構造学Ⅲ[1411330]

科目名	人体構造学Ⅲ[1411330]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小泉 政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
	佐藤 達夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0〜3.0
	前期 水曜 2.0〜2.0
教室	①303教室 ②404教室

授業の形態
講義(共同)

教科書・参考文献
教科書：『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著（医歯薬出版） 参考書：『分担解剖学：.第1,2,3巻』（金原出版） 『人体解剖学』藤田恒太郎（南江堂） 『リハビリテーション解剖アトラス』佐藤達夫：坂本裕和 （医歯薬出版） 『新版 からだの地図帳』佐藤達夫監修 （講談社）

評価方法・評価割合
定期試験（中間筆記試験：持ち込み不可＋期末筆記試験：持ち込み不可）、出席状況（２／３以上欠席した者は定期試験の受験資格がない）、授業中の課題（授業で適宜行うミニテストも評価の参照にする）

授業の目的および到達目標
本科目では、1年次の人体構造学ⅠおよびⅡで学習した知識をもとにして、人体部位のうち鍼灸師として臨床上特に重要な部位を重点的にとりあげ、局所解剖学的な構造を学習する。人体において骨、筋、神経、血管、内臓などは単独で存在するのではなく局所的に相互に密接に関連した状態で存在する。そのような局所的な構造、特に断面構造における器官相互の位置関係を熟知していることが、体表からの刺鍼にはきわめて重要である。また内部構造だけではなく、体表から見た局所解剖学も学習する。最後には、人体の諸構造の成り立ち（発生学）についてまとめる。

テーマおよび内容
[1 回] 解剖学概論 ／ 佐藤 達夫 [2 回] 頚部の局所解剖学１ ／ 小泉 政啓 [3 回] 胸部の局所解剖学１ ／ 佐藤 達夫 [4 回] 頚部の局所解剖学２ ／ 小泉 政啓 [5 回] 胸部の局所解剖学２ ／ 佐藤 達夫 [6 回] 頚部の局所解剖学３ ／ 小泉 政啓 [7 回] 胸部の局所解剖学３ ／ 佐藤 達夫 [8 回] 腋窩・上腕の局所解剖学１ ／ 小泉 政啓 [9 回] 腹部の局所解剖学1 ／ 佐藤 達夫 [10 回] 腋窩・上腕の局所解剖学２ ／ 小泉 政啓 [11 回] 腹部の局所解剖学２ ／ 佐藤 達夫 [12 回] 腋窩・上腕の局所解剖学３ ／ 小泉 政啓 [13 回] 腹部の局所解剖学３ ／ 佐藤 達夫 [14 回] 前腕・手の局所解剖学 ／ 小泉 政啓

[15 回] （中間試験）
[16 回] 体表の構造 ／ 小泉 政啓
[17 回] 背部の局所解剖学１ ／ 佐藤 達夫
[18 回] 腰仙骨神経叢 ／ 小泉 政啓
[19 回] 背部の局所解剖学２ ／ 佐藤 達夫
[20 回] 殿部の局所解剖学 ／ 小泉 政啓
[21 回] 骨盤・会陰部の局所解剖学１ ／ 佐藤 達夫
[22 回] 大腿の局所解剖学１ ／ 小泉 政啓
[23 回] 骨盤・会陰部の局所解剖学２ ／ 佐藤 達夫
[24 回] 大腿の局所解剖学２ ／ 小泉 政啓
[25 回] 頭部の局所解剖学１ ／ 佐藤 達夫
[26 回] 下腿・足の局所解剖学 ／ 小泉 政啓
[27 回] 頭部の局所解剖学２ ／ 佐藤 達夫
[28 回] 人体の発生 ／ 小泉 政啓
[29 回] 頭部の局所解剖学３ ／ 佐藤 達夫
[30 回] 総まとめ ／ 小泉 政啓土曜

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体構造学実習[1411340]

科目名	人体構造学実習[1411340]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小泉 政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村 明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 1.0〜1.0
	後期 水曜 2.0〜2.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

後半の実習では、他大学医学部で実際のご遺体を観察するため、医療を学ぶ学生としてふさわしい態度が要求される．教員が不適切と判断した学生には即時実習を中止してもらう．

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著 （医歯薬出版）

参考書：『分担解剖学：第１、２、３巻』（金原出版）
『リハビリテーション解剖アトラス』佐藤達夫：坂本裕和 （医歯薬出版）
『臨床のための解剖学』佐藤達夫、坂井達夫 監訳（ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ）

評価方法・評価割合

定期試験（中間テスト：持ち込み不可＝約50%）、出席状況（出席が授業回数の4/5に満たない学生は評価の対象外とする）、レポート（後半の実習は毎回のレポートで評価する＝約50%）

授業の目的および到達目標

本科目では、人体を構成する諸器官の肉眼構造および顕微構造を人体標本・教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に学ぶ。前半は，各種教材を用いて、運動器解剖学（頭・上肢・下肢・体幹の骨、関節、靭帯、筋、神経、血管）、神経解剖学（脳と脊髄、末梢神経系）、内臓解剖学（心臓、肺、肝臓、腎臓など）について理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖学実習（組織学実習）を行う。後半は，実際の遺体を観察することにより、骨・筋などの運動器系、神経血管系、各内臓器系の位置や相互の関連性をあらゆる角度から観察し、教科書では得ることのできない人体構造の総合的理解を深めることを目標とする。また、各器官の体表からの深さや危険部位への実際の刺鍼等を想定し、刺鍼の危険性を十分に理解させ、鍼灸師として臨床上必要な触診や刺鍼に活かせるよう、学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 局所解剖学実習1 ／ 木村 明彦
[2 回] 局所解剖学実習2 ／ 木村 明彦
[3 回] 局所解剖学実習3 ／ 木村 明彦
[4 回] 局所解剖学実習4 ／ 木村 明彦
[5 回] 局所解剖学実習5 ／ 木村 明彦
[6 回] 局所解剖学実習6 ／ 木村 明彦
[7 回] 組織学実習 ／ 木村 明彦
[8 回] 中間のまとめ ／ 木村 明彦
[9 回] 肉眼解剖学実習講義（肉眼解剖学実習を受けるにあたっての事前講義） ／小泉 政啓 [10回] 肉眼解剖学実習1（東京医科歯科大学で実際のご遺体

を解剖・観察）／小泉 政啓
[11回] 肉眼解剖学実習2（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）／小泉 政啓
[12回] 肉眼解剖学実習3（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）／小泉 政啓
[13回] 肉眼解剖学実習4（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）／小泉 政啓
[14回] 肉眼解剖学実習5（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）／小泉 政啓
[15回] 肉眼解剖学実習6（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察）／小泉 政啓

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体機能学Ⅰ[1411350]

科目名	人体機能学Ⅰ[1411350]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	渡辺 信博[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 1.0〜1.0
	前期 金曜 2.0〜2.0
教室	①403教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『生理学』佐藤優子・佐藤昭夫 ほか著（医歯薬出版）2003 参考書:『人体の構造と機能 第3版』佐藤昭夫ほか（医歯薬出版）2012 『コンパクト生理学』佐藤昭夫監訳（医学書院）1997 『○×問題でマスター生理学 第３版』佐藤昭夫監修（医歯薬出版）2013

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝70%）、出席状況（授業への参加態度＝30%）

授業の目的および到達目標
本科目では、生理学の植物性機能について学習する。植物性機能とは、生物の生命維持に必須な機能であり、血液、循環、呼吸、消化、排泄、代謝、内分泌などがこれに含まれる。そしてこれらは、内臓機能ともいわれる。この内臓機能は、自律神経およびホルモンによる調節を受けるので、これらの調節系を含め、植物性機能として取り扱う。ここでは自律神経およびホルモン調節を含めた、内臓機能の基本的知識に重点をおき、これらを理解させる。

テーマおよび内容
[1回] 生理学とは、ホメオスターシスの維持 [2回] 細胞の構造と働き [3回] 物質代謝の仕組み [4回] 体液の組成とその働き・物質の移動 [5回] 血液1（血液成分とその機能1） [6回] 血液2（血液成分とその機能2） [7回] 血液3（血液凝固と血液型） [8回] 血液4（免疫） [9回] 循環1（心臓血管系） [10回] 循環2（心臓）

[11回] 循環3（血管の構造と機能）

[12回] 循環4（血圧）

[13回] 循環5（循環の調節）

[14回] 循環6（特殊な部位の循環）

[15回] 循環7（リンパ系）

[16回] 呼吸1（呼吸運動）

[17回] 呼吸2（肺機能）

[18回] 呼吸3（ガス交換とガスの運搬）

[19回] 呼吸4（呼吸運動の調節）

[20回] 消化と吸収1（消化器系の構造と機能）

[21回] 消化と吸収2（口腔内・胃内における消化）

[22回] 消化と吸収3（小腸・大腸内における消化吸収）

[23回] 消化と吸収4（消化管ホルモンと排便）

[24回] 栄養と代謝1（栄養素とエネルギー代謝）

[25回] 栄養と代謝2（各種栄養素およびビタミン）

[26回] 体温1（熱の産生と放熱の仕組み）

[27回] 体温2（体温調節）

[28回] 排泄1（尿の生成）

[29回] 排泄2（腎臓による体液の調節）

[30回] 排泄3（蓄尿と排尿）

学生へのメッセージ

教科書に沿って講義を進めるので、講義前に、教科書の予定範囲に目を通しておくこと。便宜上、章ごとに各器官系について学ぶが、実際には様々な器官が相互に関連しあいながら、身体の正常な働きを支えている。他章で学ぶほかの器官とのつながりを考慮しながら学習すること。疑問点は、時間の許す限り講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体機能学Ⅱ（動物機能・運動生理を含む）[1411360]

科目名	人体機能学Ⅱ（動物機能・運動生理を含む）[1411360]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	堀田 晴美[非常勤講師]
	渡辺 信博[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
	後期 木曜 4.0〜4.0
教室	①303教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『生理学』佐藤優子・佐藤昭夫 ほか著（医歯薬出版）2003 参考書:『人体の構造と機能 第3版』佐藤昭夫ほか（医歯薬出版）2012 『コンパクト生理学』佐藤昭夫監訳（医学書院）1997 『○×問題でマスター生理学 第２版』佐藤昭夫監修（医歯薬出版）2009

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝50%）、出席状況（授業への参加態度＝50%）

授業の目的および到達目標
本科目では、生理学の動物性機能について学習する。動物性機能は、骨格筋や神経系に代表される機能であり、筋、神経細胞の共通の特徴である興奮性組織の理解から始め、筋肉特有の収縮機構や神経の興奮伝道の仕組みについて理解した上で、神経系の動作機序をシステムとして理解していく。具体的には、脊髄・延髄レベルでの反射機構から、感覚情報処理、運動調節系などの中枢神経機能との理解、個体として外部および内部環境の変化に対する反応系の理解などが含まれる。また、言語機能・脳波・精神活動などの高次脳機能の神経科学的な理解も試みる。

テーマおよび内容
[1回] 内分泌1（内分泌とは） [2回] 内分泌2（視床下部・下垂体ホルモン） [3回] 内分泌3（甲状腺・上皮小体・膵臓ホルモン） [4回] 内分泌4（副腎髄質・副腎皮質・性ホルモン） [5回] 生殖 [6回] 成長と老化 [7回] 神経1（神経系とは） [8回] 神経2（ニューロンの構造と働き） [9回] 神経3（神経の興奮と伝導）

[10回] 神経4（興奮の伝達）

[11回] 神経5（末梢神経系）

[12回] 神経6（中枢神経系1 脊髄と脳幹）

[13回] 神経7（中枢神経系2 間脳・小脳・大脳）

[14回] 神経8（中枢神経系3 高次脳機能）

[15回] 内臓の自律神経性調節1（自律神経系の特徴）

[16回] 内臓の自律神経性調節2（伝達物質と受容体）

[17回] 内臓の自律神経性調節3（中枢と自律神経反射）

[18回] 筋1（骨格筋の構造と働き）

[19回] 筋2（筋収縮の仕組み）

[20回] 筋3（筋のエネルギー供給・心筋と平滑筋）

[21回] 運動1（骨格筋の神経支配1 運動単位・神経筋接合部）

[22回] 運動2（骨格筋の神経支配2 筋紡錘と腱受容器）

[23回] 運動3（運動の調節1 脊髄と脳幹）

[24回] 運動4（運動の調節2 小脳と大脳基底核）

[25回] 運動5（運動の調節3 大脳皮質）

[26回] 感覚1（感覚の一般）

[27回] 感覚2（体性感覚と内臓感覚）

[28回] 感覚3（痛覚）

[29回] 感覚4（特殊感覚－1）

[30回] 感覚5（特殊感覚－2）

学生へのメッセージ

教科書に沿って講義を進めるので、講義前に、教科書の予定範囲に目を通しておくこと。便宜上、章ごとに各器官系について学ぶが、実際には様々な器官が相互に関連しあいながら、身体の正常な働きを支えている。他章で学ぶほかの器官とのつながりを考慮しながら学習すること。疑問点は、時間の許す限り講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体機能学Ⅲ[1411370]

科目名	人体機能学Ⅲ[1411370]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	本間 生夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①404教室

受講条件・その注意
出欠を取る場合、遅刻3回を欠席1回とみなします。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『生理学 第2版』 (医歯薬出版株式会社) 2003年 参考書：『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010 『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009 『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫 （京都大学出版会） 2009 『Principles of Neural Science 4th ed.』 ER Kandel （McGraw Hill） 2000 『コスタンゾ 明解生理学』 L・コスタンゾ （エルゼビアジャパン） 2011

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験（持ち込み不可））、出席状況、レポート、授業中の課題（問題は講義担当者が提出するが、解答およびその解説は学生が行う。）

授業の目的および到達目標
1年前学期、後学期に行われた人体機能学Ⅰ、Ⅱの総括として人体機能学Ⅲを行う。生体内各組織・器官の基本的生理機能の理解を確実にすることを主目的にし、各組織・器官相互における有機的連関や調節機構にも重点を置いて講義を行う。

テーマおよび内容
[1回] 細胞生理学、血液生理学・問題 [2回] 細胞生理学、血液生理学・問題解説 [3回] 循環器生理学・問題 [4回] 循環器生理学・問題解説 [5回] 呼吸器生理学・問題 [6回] 呼吸器生理学・問題解説

[7回] 消化器生理学・問題

[8回] 消化器生理学・問題解説

[9回] 腎臓生理学・問題

[10回] 腎臓生理学・問題解説

[11回] 内分泌・問題

[12回] 内分泌・問題解説

[13回] 神経生理学基礎、自律神経・問題

[14回] 神経生理学基礎、自律神経・問題解説

[15回] 筋肉生理学・問題

[16回] 筋肉生理学・問題解説

[17回] 中枢神経系・問題

[18回] 中枢神経系・問題解説

[19回] 感覚生理学総論・問題

[20回] 感覚生理学総論・問題解説

[21回] 体性感覚、化学感覚・問題

[22回] 体性感覚、化学感覚・問題解説

[23回] 聴覚、平衡感覚・問題

[24回] 聴覚、平衡感覚・問題解説

[25回] 視覚・問題

[26回] 視覚・問題解説

[27回] 運動（末梢・中枢）・問題

[28回] 運動（末梢・中枢）・問題解説

[29回] 総括 1

[30回] 総括 2

学生へのメッセージ
予習をし、問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。問題解説を学生自身に行ってもらうので、必ず予習は必要となる。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体機能学実習[1411380]

科目名	人体機能学実習[1411380]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0〜3.0
	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①610基礎医学実習室 ②別途連絡

受講条件・その注意
実習回数のうち、出席が4／5に満たないものは評価の対象とならない。

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書：特に指定しない 参考書：『診察と手技がみえる、vol.1』古谷伸之編（メディックメディア）2010, 『病気がみえる（循環器、呼吸器、血液、糖尿病など）』（メディックメディア）2008-10, 『ガイトン生理学、原著第11版』A・Cガイトン：J・Eホール（エルゼビア・ジャパン）2010, 『オクスフォード・生理学、原書3版』G・ポーコック：C・Dリチャーズ（丸善）2009, 『標準生理学 Standard textbook 第7版』小澤瀞司：本郷利憲（医学書院）2009, 『Principles of Neural Science 4th ed.』ER Kandel（McGraw Hill）2000 『臨床検査法提要』金井正光監修、（金原出版）

評価方法・評価割合
出席状況（実習回数のうち、出席が4／5に満たないものは評価の対象とならない。）、レポート（各項目についてレポート提出が課せられる。）、授業中の課題（実習態度、発表会態度も評価の対象となる。）

授業の目的および到達目標
実験によって得られた生体（ヒトならびに実験動物）の反応を１年次、2年次の人体機能学講義Ⅰ、Ⅱで得られた知識を基に理解を深めることを目的とする。さらに個々の講義では得られない生体全体として生じる種々の調節反応（恒常性の維持を含む）を併せて体験・理解することは生体全体の生理機能を理解するうえで重要となる。

テーマおよび内容
実習は全15回（15日間、毎週月曜日午後）行われる。この内、実技は12回（12項目）について行われ、その他総合 オリエンテーション、実習発表会、総括が3回となる。 実習内容は１．ヒト循環・呼吸機能、２．ヒト心電図 ３．ヒト血液像、４．ブタ血液緩衝能 ５．カエル神経伝 導速度の計測、６．ラット自律神経機能、７．ヒト感覚機能（皮膚感覚・深部感覚）、８．ヒト感覚機能（視覚・

味覚）、１０．皮膚機能で、これらを12回に分けて実習する。

学生へのメッセージ
実習項目に関する生理学を予習して実習に臨むと理解しやすい。実習実技、実習発表会にはすすんで参加すること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

病理学[1411390]

科目名	病理学[1411390]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 5.0〜5.0
教室	①611基礎医学実習室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『新クイックマスター 病理学』 堤 寛（医学芸術社）
『好きになる免疫学』 多田富雄 萩原清文（講談社サイエンテイフィック）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝100%）

授業の目的および到達目標

病理学では病気の概念を原因から出発して系統的に説明する。内容としては、病気の時に細胞組織に生じる変化、先天異常、生体反応と疾病の機序、生体防御機構、循環障害、腫瘍等について学習する。病気を個体（ヒト）から臓器、組織、細胞、遺伝子レベルという具合に理解させる。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病理学の基本は西洋医学だが、東洋医学的な考え方と西洋医学的な考え方の両者を体得することで、将来的に幅広い考え方をもつ医療人になることを期待して、授業を行う。

テーマおよび内容

［1回］ 病理学と病理診断：医療における病理学、病理診断の役割について学ぶ
［2回］ 細胞障害：細胞障害の内因、外因について学ぶ
［3回］ 細胞障害：細胞障害の内因、外因について学ぶ
［4回］ 先天異常：先天奇形、染色体異常による疾患について学ぶ
［5回］ 循環障害：循環障害（詰まる、漏れる、溜まる）の病態について学ぶ
［6回］ 炎症：炎症のプロセス、炎症細胞について学ぶ
［7回］ 炎症：急性炎症、慢性炎症の詳細、創傷治癒について学ぶ
［8回］ 幹細胞と再生医学：幹細胞の生物学、幹細胞を用いた再生医療、細胞治療について学ぶ
［9回］ 免疫：抗原と抗体、主要組織適合抗原(MHC)、免疫担当細胞について学ぶ
［10回］ 免疫：免疫細胞どうしの情報交換について学ぶ
［11回］ 免疫異常とアレルギー：免疫異常（アレルギー、免疫不全、自己免疫疾患）について学ぶ
［12回］ 感染症：病原体の種類、感染経路、日和見感染について学ぶ
［13回］ 腫瘍：腫瘍（良性腫瘍、悪性腫瘍）の違い、腫瘍の特徴について学ぶ
［14回］ 腫瘍：悪性腫瘍の特徴について学ぶ
［15回］ 腫瘍：腫瘍発生の内因、外因について学ぶ

学生へのメッセージ

１年次で履修した解剖学、生理学の理解を前提にして授業が展開されます。しっかり復習しておいてください。 みなさんからの質問を十分に活用して授業を展開して、理解を深めていきます。積極的に参加してください。 出席しているだけ（わかっているつもり）では評価の対象になりません。試験のみ（理解したうえで説明ができる）で成績を判定します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

衛生学・公衆衛生学[1411410]

科目名	衛生学・公衆衛生学[1411410]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	一幡 良利[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	通年 月曜 2.0～2.0
教室	①302教室

受講条件・その注意
３０分以上の遅刻は欠席とみなします

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書: 『衛生学・公衆衛生学』（医歯薬出版） 『コメディカルのための微生物と感染予防』高橋昌巳・一幡良利（桜雲会出版） 参考書: 『国民衛生の動向』（厚生統計協会） 『疾病の成り立ちと予防Ｉ』（桜雲会出版）

評価方法・評価割合
定期試験（中間・期末筆記試験：持ち込み不可＝８０%）、レポート（手指消毒判定結果＝２０%）

授業の目的および到達目標
本科目では、身体的・精神的・社会的健康に関する歴史、意義、現状および社会の取り組みについての知識を習得する。特に、生活習慣病や環境問題、少子高齢化、新興感染症などの新しい問題の理解の一環として、疾病予防（主として健康の保持増進）、ライフスタイルと健康管理、衛生行政、環境の基礎的知識、産業保健、成人保健、老人保健、母子保健、感染症の歴史と課題・対策、疫学・統計学等について広く学習する。これらによって環境と健康の関わりや、こころと身体の健康などの面から、鍼灸師としての健康観と感染予防対策を自身で組み立て述べられるよう学習を深めていく。

テーマおよび内容
[1回] 衛生学・公衆衛生学の意義：歴史、包括医療、地域医療、プライマリーヘルスケア [2回] 健康の概念：ＷＨＯ、健康と不健康 [3回] 疾病予防と健康管理：健康診断、健康教育、予防医学（第一次から三次まで） [4回] 食生活と健康：食物、栄養素、食習慣、栄養所要量 [5回] 食中毒と食品衛生：食中毒の原因、食中毒の予防対策、食品衛生法 [6回] 生活環境衛生：地域の環境衛生、上水道、下水道 [7回] 公害：典型７公害、公害対策基本法、廃棄物、電波障害、 [8回] 地球環境問題：地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、放射能汚染、ダイオキシン

[9回] 産業保健・精神保健：労働衛生、職業病、産業災害、精神保健福祉、精神障害

[10回] 母子保健・学校保健：母子健康、母子保健法、母子健康手帳、出生率、乳児死亡率

[11回] 生活習慣病：悪性新生物、高血圧症、糖尿病、老人保健法

[12回] 疫学・衛生統計：人口静態統計、人口動態統計、平均寿命、生命表

[13回] 手指消毒：手洗い、消毒薬、手型用培地

[14回] 手指消毒の判定：正しい手洗い法、消毒効果、手指常在微生物

[15回] まとめ（これまでの講義についての総括）

[16回] 感染症：発生要因、感染経路、予防対策、感染症法、予防接種

[17回] 感染症の原因微生物の歴史：ミアズマ説、コッホの三原則、パスツールの論理

[18回] 感染症の原因微生物の相違：細菌、リケッチア、クラミジア、ウイルス

[19回] 細菌細胞の構造と機能：細胞壁、細胞質膜、細胞質、核、芽胞、莢膜、スライム

[20回] 鍼灸施術と滅菌法：高圧蒸気滅菌、ガス滅菌

[21回] 鍼灸施術と消毒法：消毒薬、アルコール、次亜塩素酸ナトリウム

[22回] 感染と発症1：病原性因子、宿主側因子、常在微生物叢、日和見感染、菌交代症

[23回] 感染と発症2：内因感染、院内感染、市中感染、新興・再興感染

[24回] 細菌感染症１：グラム陽性球菌感染、グラム陰性球菌感染

[25回] 細菌感染症2：グラム陽性桿菌感染、グラム陰性桿菌感染

[26回] リケッチア感染症：ツツガムシリケッチア、発疹チフスリケッチア

[27回] クラミジア感染症：トラコーマクラミジア、オウム病クラミジア、肺炎クラミジア

[28回] ＤＮＡウイルス感染症：ヘルペスウイルス群、Ｂ型肝炎ウイルス

[29回] ＲＮＡウイルス感染症：インフルエンザウイルス、ヒト免疫不全ウイルス

[30回] まとめ（これまでの講義についての総括）

学生へのメッセージ
日常に起こる衛生・公衆衛生関連の話題に興味を持つこと

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

免疫学[1411440]

科目名	免疫学[1411440]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 4.0〜4.0
教室	①611基礎医学実習室

受講条件・その注意

授業では免疫学の基本を丁寧に解説していきます。病理学の授業の内容とオーバーラップしている部分もあります。この免疫学の講義を通じて病理学の理解も深めてください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『好きになる免疫学』多田富雄 萩原清文（講談社サイエンテイフィック）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝100%）

授業の目的および到達目標

免疫学はヒトが病原微生物を含めたあらゆる異物（抗原）、様々なストレスに対して身を守ることが出来るのかを学ぶ。本科目では、主としてヒトにおける免疫応答の基本および免疫担当細胞などの役割と機能について、その基本を習得することを到達目標にする。ヒトにおける異物認識の特異性、免疫寛容、免疫記憶等の基本概念を把握する。リンパ球、マクロファージ、好中球等の免疫応答に関与する細胞の分化や機能を学習し、生体防御反応、自己免疫疾患、アレルギー反応などについて基本的概念を理解させる。

テーマおよび内容

[1 回] 免疫とは何をしているの？：自然免疫と獲得免疫について学ぶ
[2 回] どうして風邪が治るのか？：主要組織適合抗原(MHC)、抗原提示細胞、免疫担当細胞について学ぶ
[3 回] 免疫担当細胞はどこで作られるの？：免疫担当細胞、造血幹細胞について学ぶ
[4 回] 病原体の種類はいくつあっても大丈夫？：抗体の多様性を生む仕組みについて学ぶ
[5 回] 麻疹に二度かかりにくいのはなぜ？：中和、オプソニン化、補体、免疫学的記憶について学ぶ
[6 回] どのように病原体を見分けているの？：抗原特異性について学ぶ
[7 回] 免疫はどうして自分を攻撃しないの？：胸腺の役割、補助因子、免疫寛容について学ぶ
[8 回] 免疫の全体像のまとめ ：免疫細胞どうしの情報交換について学ぶ
[9 回] 花粉症、気管支喘息はなぜ起こる？：ヘルパーT細胞、制御性T細胞について学ぶ
[10回] アレルギーについて：クームス分類について学ぶ
[11回] 感染症について：病原体の種類、感染経路、日和見感染について学ぶ
[12回] エイズと免疫について：エイズと免疫のせめぎ合いについて学ぶ
[13回] がんと免疫について：がんと免疫のせめぎ合いについて学ぶ
[14回] 関節リウマチについて：関節リウマチはどのような病気かについて学ぶ
[15回] 移植と免疫について：臓器移植と拒絶反応、骨髄移植とGVH反応について学ぶぶ

学生へのメッセージ

一個の受精卵から個性豊かな６０兆個の細胞たちが生まれ、それらの細胞が相互に関係を結んでいくことで免疫のドラマが繰り広げられていきます。

「生命の技法」とでもいうべく技法の数々をこの授業を通じて学んでいってください。 みなさんからの質問を十分に活用して授業を展開して、理解を深めていきます。積極的に参加してください。 出席しているだけ（わかっているつもり）では評価の対象になりません。試験のみ（理解したうえで説明ができる）で成績を判定します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生化学[1411450]

科目名	生化学[1411450]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0〜2.0
教室	①303教室

受講条件・その注意
講義には必ず教科書を持参すること。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書： 『図解◇基礎生化学』池田和正（オーム社）2006 参考書： 『ハーパー・生化学（原著25版）』上代淑人監訳（丸善）2004 『ストライヤー・生化学（第5版）』入村ら監訳（東京化学同人）2001

評価方法・評価割合
定期試験（６０%）、その他（講義期間中に実施する小テスト４回の結果４０%）

授業の目的および到達目標
本科目では、生命活動の基本について化学物質の変化とその流れの観点から捉え、それらの基本について学習する。特に生体分子の化学構造と性質を学び、それを踏まえて代謝について、酵素の機能、ATPの働き、糖質や脂質の分解過程等について学習する。

テーマおよび内容
[1 回] 「生化学」の全体概要の説明と基本となる有機化学について：◇生化学とはどんな学問か？ ◇生化学ではどんなことを学ぶのか？◇基本となる有機化学に ついて [2 回] 糖質の構造：◇糖質の分類、◇単糖類（五炭糖、六炭糖）二糖類、多糖類の化学構造 [3 回] 糖質の代謝1：◇糖類の消化吸収、◇グルコースの代謝 [4 回] 糖質の代謝2：◇基本的なＡＴＰの生成系：解糖系 [5 回] 糖質の代謝3：◇ＴＣＡサイクル◇どのようにしてＡＴＰはできるのか？◇１分子のグルコースからのＡＴＰ数●【小テスト】糖質 [6 回] タンパク質の化学構造：◇アミノ酸の化学構造、◇タンパク質の化学構造、◇タンパク質の一般的性質 [7 回] タンパク質関連の代謝1：◇タンパク質の消化吸収 [8 回] タンパク質関連の代謝2：◇吸収されたアミノ酸はどのように代謝されるのか？

[9 回] 酵素：◇酵素の化学構造、◇酵素の活性、◇酵素の反応●【小テスト】タンパク質・酵素

[10回] 脂質の構造と性質：◇脂質の分類、◇脂質の構造と性質、◇脂肪酸の特徴、◇複合脂質の化学構造

[11回] 脂質の代謝1：◇脂質の消化吸収、◇脂肪酸の代謝

[12回] 脂質の代謝2：◇コレステロールの生合成●【小テスト】脂質

[13回] ビタミン1：◇ビタミンとは、◇脂溶性ビタミンＡ，Ｄ，Ｅ，Ｋ

[14回] ビタミン2：◇ビタミンＢ１，Ｂ２，Ｂ６，１２、ナイアシン

[15回] ビタミン3：◇パントテン酸、ビオチン、葉酸、ビタミンＣ●【小テスト】ビタミン

学生へのメッセージ
授業の進行状況で小テストを実施する回が変更にる場合があります。 小テストの実施は前週にアナウンスします。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

内科学ＩＩＩ[1412040]

科目名	内科学ＩＩＩ[1412040]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中 滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0〜1.0
教室	①403教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『臨床医学各論』（社）東洋療法協会編 奈良信雄・佐藤千史 他著（医歯薬出版）

参考書：『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄 総編集（朝倉書店）
『わかりやすい内科学』 井村裕夫編（文光堂）
『新臨床内科学』 高久史麿ほか編（医学書院）
『病気がみえる（糖尿病・代謝・内分泌、循環器、血液、リウマチ・膠原病）』（メデックメディア)

評価方法・評価割合

定期試験（定期試験と出席状況およびレポートを総合して判断する。）、出席状況（遅刻2回で欠席1回とみなします。）、レポート（必要に応じて提出。）、授業中の課題（小テストを行うことがあります。）

授業の目的および到達目標

本科目では、主要な代謝・栄養、循環器、血液、リウマチ・膠原病、内分泌疾患の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解する。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。

テーマおよび内容

[1 回] 代謝・栄養疾患1：糖代謝異常（糖尿病）、脂質代謝異常（脂質異常症、肥満症）

[2 回] 代謝・栄養疾患2：尿酸代謝異常（痛風）、その他（ビタミン欠乏症）

[3 回] 循環器疾患1：心臓疾患（心不全、心弁膜症:僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症）

[4 回] 循環器疾患2：冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）、動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離）

[5 回] 循環器疾患3：血圧異常（高血圧、低血圧）

[6 回] 血液・造血器疾患1：赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血）

[7 回] 血液・造血器疾患2：白血球疾患（急性白血病、慢性白血病）

[8 回] 血液・造血器疾患3：リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫）、出血性素因（紫斑病、血友病）

[9 回] リウマチ性疾患・膠原病、アレルギー：総論

[10 回] リウマチ性疾患・膠原病1：リウマチ性疾患（関節リュウマチ）、膠原病（全身性エリテマトーデス）

[11 回] 膠原病2：強皮症、ベーチェット病）

[12 回] 内分泌疾患1：内分泌総論

[13 回] 内分泌疾患2：下垂体疾患（クッシング病、下垂体性低身長症、尿崩症）

[14 回] 内分泌疾患3：甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、橋本病）

[15 回] 内分泌疾患4：副腎疾患（クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症）

学生へのメッセージ
多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。各単元毎に、生理・解剖の復習を行って下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

画像診断学[1412080]

科目名	画像診断学[1412080]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	川嶋 朗[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0〜2.0
教室	①403教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『運動器の画像診断』遠藤健司著（ＭＣメディカ出版） 必要により資料配布、スライド、ＤＶＤ、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。

評価方法・評価割合
定期試験

授業の目的および到達目標
本科目では、鍼灸師が医療従事者として医師と適切な連携を図るには、基本的知識が必要であることから、基本的な画像の成り立ちと、鍼灸と関連の深い主要疾患の画像を医師が如何に取り扱っているかについて学ぶ。特に、鍼灸臨床で取り扱うことの多い整形外科疾患においては病態把握を行い、適応と限界を判断するうえでも重要な位置にあることから、脊椎・脊髄疾患、骨関節疾患を中心としてＸ線写真、造影Ｘ線写真、血管造影、ＣＴ，ＭＲＩなどの画像を医師がどのように判読しているかについて事例を通して学ぶ。

テーマおよび内容
[1 回] 画像診断の基礎知識：単純X線、造影X線、CT、MRI、骨ｼﾝﾁ、ｻｰﾓｸﾞﾗﾌｨｲ [2 回] 事例検討１：１．進行性の腰背部痛を訴える高齢者の画像診断 [3 回] 事例検討２，３：2.転倒後股関節痛で歩行不能な患者、3.慢性膝関節痛 [4 回] 事例検討４，５：4．転倒後に後弯変形が進行 5.スキー捻挫後膝が不安定 [5 回] 事例検討６、７：6.バイク事故で右大腿部の変形 7.長時間歩行で左下肢痛 [6 回] 事例検討８，９：8.拇趾の痛みと変形 9.バイクで転倒して右肩を強打 [7 回] 事例検討１０，１１：10.両手のしびれと巧緻運動障害 11.進行する右鼠径部痛 [8 回] 事例検討１２．１３：12.転倒後に右肘関節の変形した小児 13.関節リウマチ [9 回] 事例検討１４，１５：14.バドミントンで右肩の激痛 15.２m高より足から落下 [10回] 事例検討１６，１７：16.飛び降りて殿部で着地 17.自転車で転倒し股関節痛 [11回] 事例検討１８：18.腰痛後に左下肢激痛 、左下肢脱力と知覚鈍麻 [12回] 事例検討１９：19.サッカーで捻挫後膝関節に引っかかり [13回] 事例検討２０、２１：20.交通事故で下腿圧挫創 21.肩から転倒皮下に骨が突出

[14回] 事例検討２２：22.柔道部員が腰痛と腰椎変形、下肢のしびれ感

[15回] 事例検討２３,２４：23.踵の痛み、腫脹 24.足変形、腰痛殿部陥凹、排尿障害　;

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

外科学[1412090]

科目名	外科学[1412090]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

授業中の飲食・私語は禁止します.
授業の妨げ及び他の学生の勉強の邪魔になると思われる学生は退室してもらいます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『臨床医学総論』（社）東洋療法学校協会編（医歯薬出版）
『臨床医学各論』（社）東洋療法学校協会編 （医歯薬出版）

参考文献：講義の内容に沿ったプリントを適宜配布する予定である。

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸師として必要と考えられる麻酔学および外科学について総合的に学習する。麻酔学においては、特にペインクリニックについて重点的に学習する。また、外科学として術後の管理等の基本について学習し、鍼灸臨床との関連性については事例を通して学習する。講義は、前半は外科学、後半は麻酔学とする。

テーマおよび内容

[1 回] 外科学の歴史と専門分化：紀元前にまで遡る外科学の歴史、19世紀からの外科学の発展、外科的治療技術の進歩と領域別専門分化の過程

[2 回][3 回] 損傷の概論：損傷の定義、創と傷、熱傷と凍傷

[4 回] ショック：ショックの原因別分類、ショックの診断と治療

[5 回] 出血と止血：出血の種類と止血法

[6 回] 外科的感染症：外科で扱う種々の感染症とその治療

[7 回] 救急処置：バイタルサインの見方とその評価、救急処置の実際、心肺蘇生術

[8 回] 全身麻酔：吸入麻酔：吸入麻酔薬、麻酔器の構造

[9 回] 全身麻酔：静脈麻酔：静脈麻酔薬

[10回] 全身麻酔：全身麻酔の手順

[11回][12回][13回][14回] 局所麻酔：脊髄クモ膜下麻酔（脊椎麻酔）、硬膜外麻酔、表面麻酔、浸潤麻酔、神経ブロック

[15回] まとめ

学生へのメッセージ
講義の内容に疑問があった場合は講義中、講義後に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床医学各論Ⅰ[1412100]

科目名	臨床医学各論Ⅰ[1412100]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林 洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 2.0〜2.0
教室	①404教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『臨床医学各論 第２版』 奈良信雄他（医歯薬出版） 参考書：『標準泌尿器科学 第7版』 折笠精一（医学書院） 『NEW 産婦人科学 改訂第2版』 矢嶋 聰他（南江堂） 『老年医学テキスト 改訂第3版』 日本老年学会（メジカルビュー社）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝30%）、レポート（中間１回＝30%）

授業の目的および到達目標
本科目では、鍼灸師として必要な泌尿器科・産婦人科疾患を取り上げ、それらの原因、症状、診断、治療の概要、および性差医療の概要について学習する。特に鍼灸臨床と関連の深い疾患（前立腺肥大、前立腺炎、性機能障害、男女更年期障害、月経異常、男女不妊、乳汁分泌不全、妊娠悪阻など）については、詳細な内容まで学習する。また、老年医学に関しては、老化の概念、老化のメカニズム、疫学、老年者および老年者疾患の特徴について学ぶ。

テーマおよび内容
[1 回] 泌尿器科：総論 [2 回] 泌尿器科：感染症 [3 回] 泌尿器科：尿路結石症 [4 回] 泌尿器科：腫瘍 [5 回] 泌尿器科：前立腺疾患 [6 回] 産婦人科：総論、月経 [7 回] 産婦人科：月経異常 [8 回] 産婦人科：妊娠の生理、不妊症 [9 回] 産婦人科：妊娠の異常 [10回] 産婦人科：分娩の生理と異常 [11回] 産婦人科：中高年女性の健康管理、婦人科腫瘍

[12回] 老年医学：老化の概念

[13回] 老年医学：老年病の臨床

[14回] 老年医学：高齢者に特有な症候

[15回] まとめ:授業全体の復習と総括

学生へのメッセージ
内科学系の授業で学んだことを土台にして講義をします。 疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床医学各論ⅠⅠ[1412110]

科目名	臨床医学各論ⅠⅠ[1412110]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中 滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0〜2.0
教室	①403教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『臨床医学各論』（社）東洋療法協会編 奈良信雄・佐藤千史 他著（医歯薬出版）

参考書：『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄 総編集（朝倉書店）
『わかりやすい内科学』 井村裕夫編（文光堂）
『新臨床内科学』 高久史麿ほか編（医学書院）
『病気がみえる（脳・神経）』（メデックメディア）
『診療と手技がみえる』（メデックメディア）

評価方法・評価割合

定期試験（定期試験と出席状況およびレポートを総合して判断する。）、出席状況（遅刻2回で1回欠席とみなす。）、レポート（小テストを行うことがあります。）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸師として必要となる神経疾患、皮膚科疾患、耳鼻科疾患、眼科疾患を取り上げ、それらの原因、症状、診断、治療の概要について学習する。特に鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 神経1：脳血管疾患（脳塞栓、脳血栓、脳出血、クモ膜下出血、一過性脳虚血発作）

[2 回] 神経2：感染性疾患（髄膜炎）、脳・脊髄腫瘍（脳腫瘍、脊髄腫瘍）

[3 回] 神経3：変性疾患（パーキンソン病、脳性麻痺）、認知症（アルツハイマー病、脳血管障害による認知症）
[4 回] 神経4：認知症（アルツハイマー病、脳血管障害による認知症）

[5 回] 神経・筋疾患 4：筋疾患（重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー症）、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）

[6 回] 神経5：末梢神経疾患（ギランバレー症候群、絞扼性末梢神経障害、末梢性顔面神経麻痺）

[7 回] 皮膚科疾患1：総論（色調の変化、発疹、血管拡張、出血斑、浮腫、発汗、体毛、レイノー現象、掻痒）

[8 回] 皮膚科疾患3：接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎

[9 回] 皮膚科疾患4：蕁麻疹、湿疹、円形脱毛症

[10 回] 耳鼻科疾患1：総論

[11 回] 耳鼻科疾患2：メニエール病、中耳炎、突発性難聴

[12 回] 耳鼻科疾患3：アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎

[13 回] 眼科疾患1：総論

[14 回] 眼科疾患2：結膜炎、角膜炎、麦粒腫

[15 回] 眼科疾患3：白内障、緑内障、眼精疲労

学生へのメッセージ
多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。各単元毎に、生理・解剖の復習を行って下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

リハビリテーション医学総論[1412120]

科目名	リハビリテーション医学総論[1412120]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	辰野 正和[非常勤講師]
	荒木 健[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0～3.0
教室	①403教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：リハビリテーション医学（改定第３版）三上真弘編、南江堂 必要により資料配布、スライド、ＤＶＤ、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。 参考書：なし

評価方法・評価割合
定期試験

授業の目的および到達目標
リハビリテーションの目的は運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにあり、これらの中には鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目ではリハビリテーション医学の基礎となる運動学や動作解析などについて学習する。また、リハビリテーションの概念、歴史、位置づけならびに医学的リハビリテーションの対象、評価、治療法（理学療法、作業療法、装具療法など）について理解させる。

テーマおよび内容
[1回] ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ（以下ﾘﾊと略）の理念：リハの概念と歴史、障害とは何かを学ぶ [2回] リハの基礎医学（Ⅰ）：関節運動、筋の活動、姿勢・歩行・運動のｺﾝﾄﾛｰﾙ [3回] リハの基礎医学（Ⅱ）：上肢、下肢、脊柱の運動と機能解剖 [4回] 障害学：関節拘縮・変形、筋萎縮、末梢神経および中枢神経麻痺 [5回] 治療学：関節拘縮・筋萎縮の治療、麻痺筋の再教育、痛の治療 [6回] リハ医学での評価（Ⅰ）：患者のとらえ方、身体計測法、関節可動域測定法 [7回] リハ医学での評価（Ⅱ）：徒手筋力テスト、中枢性運動障害評価法、痙縮の評価 [8回] リハ医学での評価（Ⅲ）：小児運動発達の評価法、協調性の評価法 [9回] リハ医学での評価（Ⅳ）：失認・失行の評価法、心理評価、障害の受容 [10回] リハ医学での評価（Ⅴ）：日常生活動作の評価、電気生理学的診断、画像診断 [11回] リハ治療学の総論（Ⅰ）：理学療法（運動療法、物理療法、牽引・徒手矯正）

[12回] リハ治療学の総論（Ⅱ）：作業療法（身体障害作業療法、精神領域作業療法）

[13回] リハ治療学の総論（Ⅲ）：補装具（義肢・装具の目的と種類、上肢の装具）

[14回] リハ治療学の総論（Ⅳ）：補装具（下肢の装具，体幹の装具）

[15回] リハ治療学の総論（Ⅴ）：補装具（義肢、義手と義足、移動用補助具）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

リハビリテーション医学各論[1412130]

科目名	リハビリテーション医学各論[1412130]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	辰野 正和[非常勤講師]
	荒木 健[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0〜1.0
教室	①402教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『リハビリテーション医学（改定第２版）』三上真弘編（南江堂） 必要により資料配布、スライド、ＤＶＤ、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。 参考書：なし

評価方法・評価割合
定期試験

授業の目的および到達目標
リハビリテーション医学の目的は運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにあり、これらの中には鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目では医学的リハビリテーションの対象疾患である脳血管疾患、脊髄損傷、脳性小児麻痺、閉塞性肺疾患、心疾患などのリハビリテーションについて、評価法、治療法、訓練プログラムなどを重点的に学習し、鍼灸治療と連携がはかれるようにする。

テーマおよび内容
[1 回] リハの実際（疾患別のリハ）：脳卒中（脳卒中の分類・障害、病期別のリハ） [2 回] リハの実際（疾患別のリハ）：脳卒中言語障害、構音障害と失語症の診断治療 [3 回] リハの実際（疾患別のリハ）：脊髄損傷（病態、合併症と対策、損傷高位別のリハ） [4 回] リハの実際（疾患別のリハ）：小児疾患（脳性小児麻痺、二分脊椎） [5 回] リハの実際（疾患別のリハ）：小児疾患（筋ジストロフィ、血友病、心疾患） [6 回] リハの実際（疾患別のリハ）：切断（切断の原因疾患、切断の原則、義肢装着訓練） [7 回] リハの実際（疾患別のリハ）：末梢神経損傷（神経の構造、損傷タイプと重症度） [8 回] リハの実際（疾患別のリハ）：関節リウマチ（ＲＡの診断・治療とリハの位置づけ） [9 回] リハの実際（疾患別のリハ）：整形外科疾患（腰痛、頸肩腕痛、五十肩） [10回] リハの実際（疾患別のリハ）：整形外科疾患（変形性関節症、骨折） [11回] リハの実際（疾患別のリハ）：心疾患（虚血性心疾患の評価法とリハ・プログラム）

[12回] リハの実際（疾患別のリハ）：呼吸器疾患（拘束性換気障害と閉塞性換気障害）

[13回] リハ医学と関連職種の連携：リハビリテーションにおけるチーム医療について

[14回] 高齢者のリハの特徴：廃用症候群に対するリハの取り組み

[15回] リハビリテーションと福祉：国際生活機能分類に基づいたリハ・北欧諸国の対比

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

救急法[1412140]

科目名	救急法[1412140]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①403教室 ②柔道場

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：特に指定しない 参考書：救急医学（30巻、10号、2006年9月、臨時増刊号）

評価方法・評価割合
定期試験、その他（成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある）

授業の目的および到達目標
救急を必要とする病態に対し、適切な対処ができるようになることを目的とする。まず、意識障害レベルの判定、出血・呼吸・心拍・脈拍・血圧・瞳孔などの状態確認について学ぶ。次いで、止血法、創傷部位の感染予防処置、気道の確保（異物の除去、下顎挙上法）、人工呼吸法（マウス・トゥー・マウス）、心臓マッサージ、AEDなどについて、各自が実技・実習を十分に行い、手技を確実なものとしていく。

テーマおよび内容
[1 回] 総論：正しい救急処置に求められる根拠と合理性は何か？救急法の基本 [2 回] バイタルサインの見方：呼吸、血圧、脈拍、体温、意識の評価 [3 回] 気道の確保：バイタルサインに異常を来す代表的な救急疾患用手的気道確保と人工呼吸、気道の異物除去 [4 回] 循環の確保：胸骨圧迫心マッサージと電気的除細動 [5 回] 体温のコントロール：低体温に対する対応（加温）、高体温に対する対応（冷却） [6 回] 頸椎・脊柱の保護：脊柱保護の適応、脊髄損傷を疑う身体所見 [7 回] 外出血の止血法：直接圧迫による止血、支配動脈の圧迫による止血、鼻出血の止血 [8 回] 創の洗浄とデブリードマン：創感染の病態生理、開放創の治療方針、破傷風の予防処置 [9 回] 捻挫・脱臼・骨折の処置：目的と適応、手技 [10回] 実習 [11回] 実習 [12回] 実習

[13回] 実習

[14回] 実習

[15回] まとめ

学生へのメッセージ
日本赤十字社や日本交通福祉協会などが主催した救命救急法講習会を受講し、修了証明書を授与された者は本講での実習を免除する。ただし、授与された修了証明書のコピーを提出すること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

栄養学（スポーツ栄養学を含む）[1412170]

科目名	栄養学（スポーツ栄養学を含む）[1412170]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	辰田 和佳子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0〜2.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

アスレティックトレーナーの資格を有するために必要な栄養学やスポーツ栄養学の知識やスキルを習得することを目的の1つとした科目であるため、授業の質を担保することとなり、試験の結果等の評価が得られなければ単位の取得が難しいことを理解したうえで履修すること。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:『新版コンディショニングのスポーツ栄養学』（市村出版）

評価方法・評価割合

定期試験（定期試験では、70点満点の試験を行う。）、出席状況（全授業に出席および授業に臨む姿勢を加味し、出席点（10点）を付与する。）、レポート（授業の進行等から必要となった場合のみ実施する。）、授業中の課題（数回実施（合計30点））

授業の目的および到達目標

健康の維持、体力向上のためには適切な運動と合わせ、栄養管理が重要な役割を果たす。この授業では健康づくりための運動と栄養のかかわりや栄養摂取について科学的に学び、日常の食事で実践・応用していく力を養う。さらにスポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] ガイダンス・基本栄養セミナー（復習）

[2回] 栄養アセスメント（身体組成等）

[3回] エネルギー代謝 エネルギー代謝を理解する 栄養アセスメント（エネルギー代謝）

[4回] 〃

[5回] 食事の構成とバランスの良い食事（食事バランスガイド）

[6回] ライフステージと食事･栄養管理（食育）

[7回] ライフステージと食事･栄養管理（メタボ・ロコモ）

[8回] 栄養素の基礎知識（糖質／脂質）

[9回] 栄養素の基礎知識（たんぱく質／ビタミン）

[10回] 栄養素の基礎知識（ミネラル）

[11回] 水分補給法

[12回] ウエイトコントロール①

[13回] ウエイトコントロール②

[14回] サプリメントと健康食品

[15回] 試合前・当日・後の食事・栄養管理

学生へのメッセージ
食べること（栄養補給）を一生やめることはできません。食生活を知識やスキルを持って自己管理することにより、コンディションを良好に保つことができます。生涯にわたり役立つ授業と考えて受講することを希望します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

診療所実習[1412180]

科目名	診療所実習[1412180]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中 滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
	林 洋[看護学部 看護学科]
	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通不定期
曜日・時限	通年 火曜 1.0〜1.0
	通年 火曜 2.0〜2.0
	通年 水曜 1.0〜1.0
	通年 水曜 2.0〜2.0
教室	①附属クリニック ②402教室

受講条件・その注意

実習は各グループごとに内科および外科・整形外科の外来にて行う。時間厳守のこと。服装はきちんとし、言葉遣いには十分に注意すること。スタッフの業務の妨げにならないように注意をすること。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『臨床医学総論』（社）東洋療法協会編 奈良信雄（医歯薬出版）

参考書：『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄 総編集（朝倉書店）
『診療と手技がみえる』（メデックメディア）

評価方法・評価割合

出席状況（出席状況およびレポート内容ににより判断する。）、レポート（毎回、各個人に課すレポート課題がある。）

授業の目的および到達目標

本科目では、診療所を見学実習する。現代医学の医療現場の見学を通じて、医療人としての鍼灸師の役割について理解する。特に、鍼灸臨床で扱うことの多い整形外科疾患については、整形外科の医師の医療面接、診察から診断までの流れや画像診断などを実習・研修し、鍼灸治療の目的を理解する。

テーマおよび内容

[1 回] 診療所実習（外来診療部門：内科；オリエンテーション・医療面接）／田中 滋城・林 洋

[2 回] 診療所実習（外来診療部門：内科；医療面接）／田中 滋城・林 洋

[3 回] 診療所実習（外来診療部門：内科；診察）／田中 滋城・林 洋

[4 回] 診療所実習（外来診療部門：内科；診察）／田中 滋城・林 洋

[5 回] 診療所実習（外来診療部門：内科；臨床検査）／田中 滋城・林 洋

[6 回] 診療所実習（外来診療部門：内科；臨床検査）／田中 滋城・林 洋

[7 回] 診療所実習（外来診療部門：内科；診断・治療）／田中 滋城・林 洋

[8 回] 診療所実習（外来診療部門：内科；診断・治療）／田中 滋城・林 洋

[9 回] 診療所実習（外来診療部門：外科・整形外科；医療面接）／柚木 脩・鈴木 秀一

[10回] 診療所実習（外来診療部門：外科・整形外科；医療面接）／柚木 脩・鈴木 秀一

[11回] 診療所実習（外来診療部門：外科・整形外科；診察）／柚木 脩・鈴木 秀一

[12回] 診療所実習（外来診療部門：外科・整形外科；診察）／柚木 脩・鈴木 秀一

[13回] 診療所実習（外来診療部門：外科・整形外科；画像診断）／柚木 脩・鈴木 秀一

[14回] 診療所実習（外来診療部門：外科・整形外科；画像診断）／柚木 脩・鈴木 秀一

[15回] 診療所実習（外来診療部門：外科・整形外科；画像診断）／柚木 脩・鈴木 秀一

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床医学総論Ⅰ[1412310]

科目名	臨床医学総論Ⅰ[1412310]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中 滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①303教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『臨床医学総論』（社）東洋療法協会編 奈良信雄・佐藤千史 他著（医歯薬出版）

参考書：『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄 総編集（朝倉書店）
『わかりやすい内科学』 井村裕夫編（文光堂）
『新臨床内科学』 高久史麿ほか編（医学書院）
『診療と手技がみえる』（メデックメディア）

評価方法・評価割合

定期試験（定期試験と出席状況およびレポートを総合して判断する。）、出席状況（遅刻2回で1回欠席とみなす。）、レポート（必要に応じて提出。）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床を実践する上で必要な臨床医学総論全般について学習する。特に、診察の概要、診察の方法、生命徴候の診察、全身の診察につき学習し、知識を身につける。

テーマおよび内容

[1回] 診察の概要 1 ： 診察の意義、診察の一般的心得、関連用語の理解、診察法の種類、診察の順序、記録の目的と内容

[2回] 診察の方法 1 ： 医療面接(意義都方法、注意事項、主訴、現病歴、既往歴、社会歴、家族歴、POS)

[3回] 診察の方法 2 ： 視診、触診、打診、聴診

[4回] 診察の方法 3 ： 神経系の診察

[5回] 生命徴候の診察 1 ： 体温、脈拍

[6回] 生命徴候の診察 2 ： 血圧、呼吸

[7回] 全身の診察 1 ： 顔貌・顔色、精神状態、言語、身体計測

[8回] 全身の診察 2 ： 体型・体格、栄養状態、姿勢と体位、歩行

[9回] 全身の診察 3 ： 皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態、リンパ節

[10回] 局所の診察 1 ： 頭部、顔面、眼

[11回] 局所の診察 2 ： 鼻、耳、口腔

[12回] 局所の診察 3 ： 頸部、胸部、乳房

[13回] 局所の診察 4 ： 肺・胸膜、心臓

[14回] 局所の診察 5 ： 腹部

[15回] 局所の診察 6 ： 背部、、四肢

学生へのメッセージ
総論においては、生理・解剖の知識も必要となる。単元ことに、生理・解剖の復習をして下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床医学総論Ⅱ[1412320]

科目名	臨床医学総論Ⅱ[1412320]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 3.0〜3.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

1.20分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。
2.授業中の飲食、私語は禁止とする。
3.授業の妨げまた他の学生さんの邪魔になるような場合には退室させる。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『臨床医学総論 第２版』東洋療法学校協会編・奈良信雄著（医歯薬出版社）2009

参考書：『診察と手技がみえる vol.1』田邊政裕編（MEDIC MEDIA）2005

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝90%）、出席状況（10%）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床を実践する上で必要な臨床医学総論全般について学習する。特に、局所の診察、神経系の診察、運動機能検査等につき学習し、知識を身につける。また、神経系の診察、運動機能検査については実践指導を行い内容、意義を理解する。

テーマおよび内容

【第1回】全身の診察(1)：顔貌・顔色、精神状態、言語、身体計測
【第2回】全身の診察(2)：体型・体格、栄養状態、姿勢・体位、歩行
【第3回】全身の診察(3)：皮膚・粘膜・皮下組織、リンパ節、その他の一般状態
【第4回】局所の診察(1)：頭部、顔面、眼、鼻、耳、口腔、頸部
【第5回】局所の診察(2)：胸部、乳房、肺・胸膜
【第6回】局所の診察(3)：心臓、腹部
【第7回】局所の診察(4)：背部、四肢
【第8回】神経系の診察（1）： 感覚検査
【第9回】神経系の診察（2）： 反射検査
【第10回】神経系の診察（3）：脳神経系の検査（1）
【第11回】神経系の診察（4）：脳神経系の検査（2）、髄膜刺激症状検査、その他の検査
【第12回】運動機能検査（1）：運動麻痺、不随意運動
【第13回】運動機能検査（2）：協調運動、起立と歩行
【第14回】運動機能検査（3）：関節可動域検査、徒手筋力検査法、日常生活動作
【第15回】運動機能検査（4）：徒手による整形外科的検査法

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床医学各論Ⅰ[1412340]

科目名	臨床医学各論Ⅰ[1412340]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中 滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0〜1.0
教室	①305教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書： 『臨床医学各論』（社）東洋療法協会編 奈良信雄・佐藤千史 他著（医歯薬出版） 参考書：『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄 総編集（朝倉書店） 『わかりやすい内科学』 井村裕夫編（文光堂） 『新臨床内科学』 高久史麿ほか編（医学書院） 『診療と手技がみえる』（メデックメディア） 『病気がみえる（呼吸器、消化器）』（メデックメディア）

評価方法・評価割合
定期試験（定期試験と出席状況およびレポートを総合して判断する。）、出席状況（遅刻2回で欠席1回とみなします。）、レポート（必要に応じて提出。）

授業の目的および到達目標
本科目では、主要な感染症、消化管疾患、肝・胆･膵疾患、呼吸器疾患、代謝疾患の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解する。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。

テーマおよび内容
[1回] 感染症 1 ： 総論、細菌性感染症（猩紅熱、百日咳、ジフテリア、破傷風、細菌性食中毒、淋菌感染症） [2回] 感染症 2 ： ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、流行性耳下腺炎、帯状疱疹） [3回] 感染症 3 ： 性感染症（梅毒、淋病、性器クラミジア感染症、エイズ） [4回] 消化管疾患 1 ： 口腔疾患、食道疾患（食道癌、食道炎）、胃・十二指腸疾患（胃炎） [5回] 消化管疾患 2 ： 胃・十二指腸疾患（胃・十二指腸潰瘍、胃癌）、腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病） [6回] 消化管疾患 3 ： 腸疾患（過敏性腸症候群、虫垂炎、大腸癌、腸閉塞） [7回] 肝・胆・膵疾患 1 ： 肝疾患（ウイルス性肝炎、肝硬変、肝細胞癌） [8回] 肝・胆・膵疾患 2 ： 胆道疾患（胆石症）、膵臓疾患（膵炎、膵癌） [9回] 呼吸器疾患 1 ： 総論、感染性呼吸器疾患（かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、肺結核）

[10回] 呼吸器疾患 2 ： 閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎、気管支喘息）、 拘束性肺疾患（肺線維症）

[11回] 呼吸器疾患 3 ： 腫瘍性疾患（肺癌）、その他（気胸、気管支拡張症）

[12回] 腎・泌尿器疾患 1 ： 原発性糸球体疾患（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）、腎不全（急性、慢性）、感染症（腎盂腎炎、膀胱炎）

[13回] 腎・泌尿器疾患 2 ： 腫瘍性疾患（腎細胞癌、膀胱癌）、結石症（腎・尿路結石）、前立 腺疾患（前立腺肥大、前立腺癌)

[14回] 代謝・栄養疾患 1 ： 糖代謝異常（糖尿病）、脂質代謝異常（脂質異常症、肥満症）

[15回] 代謝・栄養疾患 2 ： 尿酸代謝異常（痛風）、その他（ビタミン欠乏症）

学生へのメッセージ
多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。各単元毎に、生理・解剖の復習を行って下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

整形外科学（スポーツ医学を含む）[1412370]

科目名	整形外科学（スポーツ医学を含む）[1412370]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0〜1.0
教室	①303教室
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

授業の形態
講義

教科書・参考文献
整形外科学

評価方法・評価割合
定期試験（８０%）、出席状況（１０%）、レポート（５%）、その他（５%）

授業の目的および到達目標
本科目では、主要な運動器疾患（頭頚部、上肢部の骨関節疾患、神経・筋疾患など）の概念、原因、症状、診断、治療について理解し、運動器疾患における診断学を学ぶと共に治療学の概論を学習する。とくに鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。その際、人体構造学（運動器系）と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。

テーマおよび内容
教科書の流れに沿って、現代西洋医学としての整形外科学一般を講義する。運動器解剖学が理解されていることを前提に、前半は各疾患の特徴を系統的に解説する。後半は、各部位における整形外科的疾患や傷害を具体的に解説する。特に、鍼灸学と関連性の高い疼痛性疾患に重点を置いた講義を展開する。 臨床を前提に、口頭での質疑を活発に実施している。前回の講義と関連付けた講義を展開するので、復習していないとついてこれない学生があり留意を要する。 ＊３年生でクリニックの臨床実習があり、 単位を修得していないと内容が理解ができないことが想定されて不利になる。 ＊ 毎回、小試験を実施しているので欠席は不利となる。 ＊ ATコース希望者には関連講義があり、深い理解が求められる。 ＊ 運動器解剖学はすでに習得したものとする。 [1 回] 整形外科とは 4月10日 運動器の基礎知識（骨・関節の基礎知識） [2 回] 運動器の基礎知識（筋・靭帯・腱の基礎知識・運動器の科学） 整形外科診察法（姿勢，体幹と四肢のバランス・跛行） [3 回] 整形外科診察法（関節拘縮と強直・徒手筋力テスト・知覚の診断・反射） 整形外科的治療法（保存療法） [4 回] 整形外科的治療法（観血的治療Ⅰ・Ⅱ） 骨・関節損傷総論（骨折総論・関節の損傷）

[5回] スポーツ整形外科とは・スポーツ外傷・障害総論
整形外科的メディカルチェック

[6回] 上肢のスポーツ外傷・障害
体幹のスポーツ外傷・障害

[7回] 下肢のスポーツ外傷・障害
スポーツ活動中の重篤な外傷・年齢性別による特徴（女性、高齢者、発育期、等）

[8 回] 疾患別総論Ⅰ（炎症・腫瘍・変性疾患・全身性疾患・骨端症）
疾患別総論Ⅱ（循環障害・神経疾患・筋疾患）

[9 回] 感染性疾患・腫瘍
非感染性軟部・骨関節疾患

[10回] 全身性の骨・軟部疾患
四肢循環障害、神経・筋疾患

[11回] 体幹の疾患
肩甲帯の疾患

[12回] 上腕から肘関節の疾患
前腕から手指の疾患

[13回] 骨盤から股関節の疾患
大腿から膝関節の疾患

[114回] 下腿から足関節の疾患
スポーツ障害別各論

[15回] まとめ
7月

学生へのメッセージ
講義内での質疑応答に全員でついてこれるようになること。そこからはみ出た学生が本試験に合格しないで、再試になっている。（成績優良者と不良者の二極化が、毎年、発生しているので注意）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

リハビリテーション医学Ⅰ[1412380]

科目名	リハビリテーション医学Ⅰ[1412380]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	辰野 正和[非常勤講師]
	荒木 健[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
教室	①302教室

授業の目的および到達目標
リハビリテーション医学の目的は、運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにあり、これらの中には、鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目では、リハビリテーション医学の基礎となる運動学や動作解析などについて学習する。また、リハビリテーションの概念、歴史、位置づけならびに医学的リハビリテーションの対象、評価、治療法（理学療法、作業療法、装具療法など）について理解させる。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

メンタルヘルスケア学[1412450]

科目名	メンタルヘルスケア学[1412450]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	茶圓 暁美[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 2.0〜2.0
教室	①302教室

受講条件・その注意
30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなします

授業の形態
講義

教科書・参考文献
参考書: 『メンタルヘルスと心理学』吉武光世編（学術図書出版社）1995 『健康とくらしに役立つ心理学』金政祐司・大竹恵子編著（北樹出版）2009 『メンタルヘルス入門 事例と対応法』藤本修・藤井久和編（創元社）2002

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み可＝60%）、出席状況（出席回数、遅刻・途中退席＝20%、授業への参加態度＝20%）

授業の目的および到達目標
本科目では、心の健康とは何か、メンタルヘルスの基礎知識を学習する。適度なストレスやプレッシャーは向上心の糧ともなるが、過度なストレスはうつやパニック障害、その他様々な心因性の身体疾患の原因となりうる。ストレス、ストレッサーとは何か、精神的ストレスの評価法とその対処法などについて学習する。特にストレスが身体に及ぼす影響や不調のサイン、対応上の留意点などについて考える。さらにストレスマネージメントの方法、リラクセーション法について理解し、それらを鍼灸臨床に活かせるようにする。

テーマおよび内容
[1回] こころの健康とは [2回] 人間理解 [3回] こころの発達 [4回] こころの病気 [5回] ストレスについて [6回] ストレスコーピング [7回] 痛みについて [8回] スポーツとこころの関係 [9回] 組織の力

[10回] 集団の中で生きる

[11回] 社会的なつながり

[12回] 災害がもたらす影響

[13回] パーソナリティについて

[14回] クオリティ・オブ・ライフ（QOL)

[15回] こころの健康をめざして

学生へのメッセージ
社会に出たときに役立つ知識満載なので真面目に出席してください

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ指導論[1412480]

科目名	スポーツ指導論[1412480]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	守屋 志保[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
身体を動かした指導実践することがあるため、必ず着替えを準備して授業に望むこと

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目は、国民の一人一人が、豊かで活力のある生活･暮らしを目指し、生涯を通じたライフステージにおいて、自己の能力・適正・興味・関心など、主体的にスポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツを構築していくという社会、いわゆる生涯スポーツ社会を実現していくための助言者と成りえるための知識を理解、習得させる。また、競技者育成システムという観点から、将来性豊かな競技者をいち早く「見つけ・育てて・世界で活躍させる」ための長期的展望に立脚した指導計画の重要性を認識させる。講義のポイントとして１週間、１年間などの一定期間内に行う指導を、どのように実施するかを示す指導計画立案に含まれるべき内容、項目の理解、さらに一定期間内だけではなく、将来、競技者として最高のパフォーマンスを発揮できるようにするために、指導計画に考慮すべき内容、項目を理解させる。

テーマおよび内容
（守屋志保） [1回] スポーツ指導者とは [2回] 指導者の心構え・視点 [3回] 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割 [4回] 指導計画のたて方 [5回] スポーツ活動と安全管理 [6回] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 [7回] スポーツと人権 [8回] プレーヤーと指導者の望ましい関係

[9回] ミーティングの方法

[10回] 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割

（堀野博幸）

[11回] トップアスリートを育てるために～指導者が持つべき視点～

[12回] トップアスリートの育成・強化の方法とその評価

[13回] 競技力向上のためのチームマネジメント

[14回] 競技力向上のための情報とその活用

[15回] 試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

発育発達論[1412490]

科目名	発育発達論[1412490]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	広瀬 統一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,スポーツプログラマー

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、子どもの発育発達特性、スポーツ活動・運動が子どもの心身の成長に与える影響、発育発達期に過重負荷をかけることによる弊害などについて学習し、子どもたちのスポーツ活動・運動のあり方についての理解を深める。講義のポイントとして、発育発達過程の一般的ステージ分け（スキャモンの発育発達曲線）の理解や各ステージにおける身体的特徴や心理的特徴を理解させる。また、老化と体力運動能力、作業能力についてや、体力に及ぼす先天性や後天性の要因についても理解させる。

テーマおよび内容
[1回] 発育発達期の身体的特徴
[2回] 発育発達期の心理的特徴
[3回] 発育発達期に多いケガや病気
[4回] 発育発達期のプログラム
[5回] 中高年者とスポーツプログラム
[6回] 老化の過程と生体の構造と機能変化
[7回] 女性とスポーツ/身体的特徴について
[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

トレーニング科学総論[1412500]

科目名	トレーニング科学総論[1412500]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	角南 俊介[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』 （日本体育協会）
『健康運動実践指導者養成用テキスト』 （健康・体力づくり事業財団）

参考書：『トレーニングの科学的基礎－現場に通じるトレーニング科学の基礎』 宮下充正（ブックハウスHD）
『競技力向上のトレーニング戦略』 ポンパ・テューダー（大修館書店）
『トレーニングによる体の適応』 平野裕一、加賀谷淳子（杏林書店）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、体力と体力の諸要素を高めるためのトレーニングについて学習する。体力とは大きく身体的要素と精神的要素があり、それぞれに「防衛力」としての体力と、「行動力」としての体力に分けられる。この概念を把握するとともに、さまざまな体力の特性や分類について理解を深める。またトレーニングを実行する際の効果的なトレーニング処方や、ウォーミングアップとクーリングダウンの目的、方法を理解する。さまざまなバリエーションがあるトレーニングを形態別、体力要素別に分類し、それによって得られる効果の違いを理解させるとともに指導者が専門種目に必要な体力要素を強化できるよう、さまざまなトレーニングの目的、方法を正しく理解させる。特に、体力についてとトレーニングの種類や進め方、トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テスト、スポーツバイオメカニクスの基礎、スキルの獲得やその習得過程等について教授し理解させる。

テーマおよび内容

（髙橋 康輝）

[1回] 体力とは

[2回] トレーニングの進め方

（伊藤 良彦）

[3回] トレーニングの種類

[4回] トレーニング理論とその方法

[5回] トレーニング計画とその実際

[6回] トレーニングの評価方法

[7回] コーチング理論

[8回] 体力テストとその活用

（髙橋 康輝）

[9回] 形態および身体組成の測定と評価について

[10回] 筋力・筋パワーの測定と評価について

[11回] 無酸素・有酸素性能力の測定と評価について

[12回] スキルの獲得とその獲得過程

[13回] スポーツバイオメカニクスの基礎

[14回] スポーツバイオメカニクスの実際

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ医学総論[1412510]

科目名	スポーツ医学総論[1412510]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	中村 格子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

講義の時間割に十分注意して受講すること
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書：『スポーツ指導者のためのスポーツ医学－改訂第２版』小出清一、福林徹（南江堂）2009
『スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・傷害－改訂第２版』市川宣恭（南江堂）2000

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツと健康を中心に外科系ではスポーツ活動中の外傷・障害について、内科系では内科的障害や健康管理、アンチドーピングについて学ばせる。またアスレティックリハビリテーションからコンディショニングの基本を学ばせる。アスリートの健康管理としてメディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて理解させる。アスリートの内科的障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい内科的障害とそれに対する具体的な予防法、対処法を理解させる。アスリートの外傷・障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい外傷・障害を各部位ごとに理解するとともに、その予防法や対処法、テーピング、ストレッチング、アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画として、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解させる。アスリートの精神障害と対策として、アスリートは過剰なストレスによる精神的な障害も起り得るということを理解し、適切な対応ができるよう学習する。特殊環境下での対応として、特殊環境（高所、高圧、低圧、暑熱）での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。

テーマおよび内容

（柚木 脩）

[1回] スポーツと健康（健康の概念について）

[2回] 我が国における健康づくり施策（特定健診・特定保健指導事業・運動基準・エクササイズガイド等）

（村松 秀樹）

[3回] スポーツ活動中に多いケガや病気（内科・外科）

[4回] 健康運動およびスポーツ実施者の健康管理

[5回] 健康運動およびスポーツ実施者の内科的障害と対策

[6回] 運動器のしくみと働き（筋系）

[7回] 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給機構

[8回] スポーツによる精神障害と対策

[9回] 特殊環境下での対応

[10回] アンチドーピング

（星川 吉光／今井 一博／中村 格子 ）

[11回] 健康運動およびスポーツ実施者の外傷・障害と対策

[12回] 救急処置（救急蘇生法・外科的応急処置・RICE処置）

[13回] アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画

[14回] コンディショニングの手法（ストレッチング・テーピング・アイシング・スポーツマッサージ）

（柚木 脩）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ心理学総論[1412520]

科目名	スポーツ心理学総論[1412520]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	堀野 博幸[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』 （日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』 （健康・体力づくり事業財団）

参考書：『新版 運動心理学入門』 松田岩男、杉原隆（大修館書店），『最新スポーツ心理学－その奇跡と展望』 日本スポーツ心理学会（大修館書店）
『スポーツメンタルトレーニング教本』 日本スポーツ心理学会（大修館書店）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目ではスポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的な内容として、「パフォーマンスの向上」と「スポーツへの適応」をスポーツ心理学アプローチによって考察する。また、生活習慣病予防の行動変容やなりやすい性格、行動パターン、ストレス解消の生理・心理・社会的側面を理解させるとともにスポーツ相談についても学ばせる。

テーマおよび内容

[1回] スポーツと心

[2回] スポーツにおける動機づけ（生活習慣病の人に対する行動変容）

[3回] 行動心理学（個人・集団）

[4回] コーチングの心理

[5回] メンタルマネジメント

[6回] 指導者のメンタルマネジメント

[7回] スポーツ心理学の現状と今後の課題

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ組織論[1412530]

科目名	スポーツ組織論[1412530]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田簑 健太郎[非常勤講師]
	田中 宏和[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする。

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
今やスポーツは人々の生活に分かちがたく深く切り結んでいるが、スポーツは単独で存在しているのではなく、社会事象の一部として存在する。したがって、スポーツを社会学的に理解しようとするとき、社会事象を踏まえることが必要不可欠である。とりわけ、現代の我が国に焦点を当てると、価値観の多様化、少子高齢化は、スポーツの側面からも看過することのできないものである。そこで、本講義では、スポーツを歴史・文化・社会の側面から捉えることによって、現代社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割について学習することによって、スポーツについて理解を深めるものである。また、わが国における行政とスポーツのかかわりの現状と課題について認識を深める。本講義では、スポーツ組織の経営や運営に必要な基礎的知識について学習するとともに、スポーツに関わる現代的課題について解説する。特に、我が国のスポーツ振興政策と行政とスポーツのかかわり、地域スポーツクラブや広域スポーツセンターの機能と役割、スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価等について教授する。

テーマおよび内容
（田簑健太郎） [1回] スポーツとは [2回] スポーツの概念と歴史について [3回] 文化としてのスポーツとその特性 [4回] 社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割 [5回] 我が国のスポーツプロモーション [6回] スポーツプロモーションの課題と展望 [7回] 高齢者及び障害者のためのスポーツ

（田中 宏和）

[8回] 総合型地域スポーツクラブの育成と運営

[9回] スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング

[10回] 地域スポーツクラブの機能と役割

[11回] スポーツ事業のプロモーション
[12回] 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり

[13回] 我が国のスポーツ振興施策①

[14回] 我が国のスポーツ振興施策②

[15回] 試験試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

アスレティックトレーナーの役割[1412540]

科目名	アスレティックトレーナーの役割[1412540]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	溝口 秀雪[非常勤講師]
	村木 良博[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

受講条件・その注意

特になし
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会)
『公認スポーツ指導者養成テキストⅠ～Ⅲ』 （日本体育協会）

参考書：『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』 ウィリアム・E.プレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、アスレティックトレーナーの変遷と日本体育協会が掲げるアスレティックトレーナーの役割を学ばせる。スポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に示し、日体協公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を教授し理解させる。アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなどさまざまな分野の専門家といかに連携を取ってサポートしていく方法について教授し理解させる。アスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、社会的秩序やアスレティックトレーナーと倫理について教授し、倫理観を身につけさせるよう学ばせる。

テーマおよび内容

（泉 秀幸）

[1回] アスレティックトレーナーとは

[2回] アスレティックトレーナー制度の歴史

[3回] 諸外国におけるアスレティックトレーナーに相当する制度

（村木 良博）

[4回] アスレティックトレーナーの任務と役割

[5回] アスレティックトレーナーの業務

[6回] アスレティックトレーナーの活動（合宿・遠征・試合）

[7回] 競技別アスレティックトレーナー活動①

[8回] 競技別アスレティックトレーナー活動②

[9回] 医科学スタッフの構成と役割

[10回] スポーツドクターとの連携協力、コーチとの連携協力

（溝口 秀雪）

[11回] アスレティックトレーナーの組織・運営・管理

[12回] アスレティックトレーナーの目的と社会的立場

[13回] アスレティックトレーナーの倫理

[14回] アスレティックトレーナーと法的諸問題

（泉 秀幸）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸安全学[1413070]

科目名	鍼灸安全学[1413070]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0〜2.0
教室	①402教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：適宜資料を配付する 参考書：『鍼灸医療安全ガイドライン』尾崎昭弘・坂本歩／鍼灸安全性委員会編（医歯薬出版株式会社） 『鍼灸禁忌マニュアル』矢野忠著（医歯薬出版株式会社）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、その他（受講態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、鍼灸臨床における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的として、（1）鍼灸臨床現場での感染防止対策としての感染症の基礎知識、手指・施術野の消毒法、クリーンニードルテクニック、および器具類の衛生管理の実際 （2）低周波鍼通電装置等の鍼灸臨床に関連する管理医療機器の基礎知識と安全管理の実際 （3）鍼灸治療の禁忌例等の過誤防止のための基礎知識 （4）鍼灸臨床現場において生じ得る有害事象の具体例と、予防・対応策 （5）リスクマネジメントの基本的な考え方とインシデントレポート等の実践方法を中心として、近年国内外で整備されつつある当該分野におけるガイドラインをふまえて学習する。

テーマおよび内容
[1 回] 総論・鍼灸安全学とは [2 回] 鍼灸医療における感染予防（1） [3 回] 鍼灸医療における感染予防（2） [4 回] 鍼灸医療における感染予防（3） [5 回] 鍼灸医療器具の安全管理（1） [6 回] 鍼灸医療器具の安全管理（2） [7 回] 鍼灸臨床施設の安全管理 [8 回] 鍼灸の適応と禁忌 [9 回] 鍼灸臨床における過誤と予防・対応策（1） [10回] 鍼灸臨床における過誤と予防・対応策（2）

[11回] 鍼灸臨床における有害事象（1）

[12回] 鍼灸臨床における有害事象（2）

[13回] リスクマネジメントシステム

[14回] 鍼灸カルテとインシデントレポートの活用

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

触診解剖と刺鍼手技[1413110]

科目名	触診解剖と刺鍼手技[1413110]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 1.0〜1.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意
初回の授業で指導する

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ（文光堂） そのほか、授業中に資料を配布する 参考書：授業の中で紹介する

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験＝80％）、出席状況（＝20％）

授業の目的および到達目標
本科目では、鍼灸臨床において必要となる体表解剖学・局所解剖学の知識を確認しつつ、身体各部の触察について学習する。とくに臨床上重要な部位を選定し、触察することで解剖学的構造（骨、筋・神経・血管など）を理解し、触察技術を習得する。その上で、特定の部位（筋や神経の走行上）へ的確に刺鍼できるようにする。その際、特に適応疾患と関連させ、その重要性を理解する。また、神経・血管の近傍への刺鍼では、その安全性について配慮できるように理解を深める。

テーマおよび内容
[1回]授業概要の説明、刺鍼技術の確認（2年次の復習） [2回] 刺鍼技術の確認（2年次の復習） [3回] 肩背部の触診と刺鍼手技１ [4回] 肩背部の触診と刺鍼手技２ [5回] 肩背部の触診と刺鍼手技３ [6回] 肩背部の触診と刺鍼手技４ [7回] 腰背部の触診と刺鍼手技１ [8回] 腰背部の触診と刺鍼手技２ [9回] 腰背部の触診と刺鍼手技３

[10回] 頚部の触診と刺鍼手技１

[11回] 頭頚部の触診と刺鍼手技２

[12回] 頭頚部の触診と刺鍼手技３

[13回] まとめ・復習

[14回] まとめ・復習

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸治効理論演習[1413170]

科目名	鍼灸治効理論演習[1413170]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 5.0〜5.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

1）20分以上の遅刻退席は欠席とみなします。
2）授業中の飲食、私語はしないこと。
3）授業の妨げまた他の学生さんの邪魔になるような場合には退室してもらいます。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：『はりきゅう理論』 東洋療法学校協会編 （医道の日本社）

参考書：『東洋医学を学ぶ人のために』 （医学書院） 1984年
『鍼灸臨床の科学』 （医歯薬出版） 2000年
『Clinical acupuncture』 (Springer) 2001年
『感覚生理学』 （金芳堂） 1987年
『Principles of Neural Science』 2000年
『神経生理学』 （金芳堂） 1986年
その他関連文献

評価方法・評価割合

出席状況（評価の対象は必要出席回数2/3以上を満たした者とする）、レポート（期末一回）、授業中の課題（毎回のテーマについて作成したノートをレポートとする。）、その他（授業態度、発表）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸刺激が生体機能に影響を及ぼすことを示した報告をテーマとして取り上げ、学生はそれらの要点をまとめて発表することを通して鍼灸の治効機序を理解する。テーマの選定やまとめに必要な各種文献の検索方法も併せて学び、学生が自主性をもって学びたい報告を検索し、要点の発表を実施できるようにする。発表形式はグループ発表とし、発表後は、学生同士の討論を行う。各グループで数編の報告をした後、それらを総合し、各グループで検討した鍼灸の治効機序を発表し、個別の報告発表と同様に学生同士の討論を行う。

テーマおよび内容

[1 回] １神経系の成り立ち、神経系の分類を図で理解する:中枢神経、末梢神経

[2 回] 神経系の成り立ち、神経系の分類を図をもとに文章にまとめる：中枢神経、末梢神経

[3回] 神経系の成り立ち、神経系をまとめたものを発表する：中枢神経、末梢神経

[4 回] 皮膚受容器・体性求心性神経、皮膚受容器と体性求心性神経との関係を図で理解する：
特殊神経終末、自由神経終末、神経線維の文字式並びに数字式分類

[5 回] 皮膚受容器・体性求心性神経、皮膚受容器と体性求心性神経との関係を文章にまとめる：
特殊神経終末、自由神経終末、神経線維の文字式並びに数字式分類

[6 回] 皮膚受容器・体性求心性神経、皮膚受容器と体性求心性神経との関係をまとめたものを発表：
特殊神経終末、自由神経終末、神経線維の文字式並びに数字式分類
[7 回] 皮膚受容器・体性求心性神経、鍼灸刺激と皮膚受容器と体性求心性神経の関係：
非侵害受容器、侵害受容器、Aβ線維、Aδ線維、C線維、温熱刺激、機械的刺激、非侵害刺激、侵害刺激

[8 回] 脊髄、脊髄神経の構造を理解する：レクシードの10層、膠様質、前根、後根、前枝、後枝

[9 回] 脊髄、脊髄神経の構造を図示し文章にしてまとめる：横断面、レクシードの10層、前角、側角、後角、前根、後根、前枝、後枝

[10 回] 脊髄、脊髄神経の構造をまとめたものを発表する：横断面、レクシードの10層、前角、側角、後角、前根、後根、前枝、後枝

[11 回] 求心性神経の脊髄への入力について：感覚神経、体性運動神経、自律神経遠心路、上行性伝導路、固有脊髄路

[12 回] 上行性伝道路、後索路、脊髄視床路、特殊投射系を理解する：後索路、脊髄視床路、脊髄網様体路、視床、後腹側角

[13 回] 上行性伝道路、後索路、脊髄視床路、特殊投射系を図示し文章にまとめる：後索路、脊髄視床路、脊髄網様体路、視床、後腹側角

[14 回] 上行性伝道路、後索路、脊髄視床路、特殊投射系のまとめを発表する：後索路、脊髄視床路、脊髄網様体路、視床、後腹側角

[15 回] １回から１４回までの内容についてまとめながら口頭試問をする：鍼灸刺激と神経系系

学生へのメッセージ
授業に積極的に参加し学んだことをきちんと整理してレーポートとしてノートをまとめてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸治効理論基礎実習[1413180]

科目名	鍼灸治効理論基礎実習[1413180]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
教室	①410実技実習室 ②402教室

受講条件・その注意

1）原則として遅刻は認めない。
2）授業中の飲食、私語はしないこと。
3）授業の妨げまた他の学生さんの邪魔になるような場合には退室してもらいます。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

参考書：『東洋医学を学ぶ人のために』（医学書院） 1984年
『鍼灸臨床の科学』（医歯薬出版） 2000年
『Clinical acupuncture』 (Springer) 2001年
『感覚生理学』（金芳堂） 1987年
『Principles of Neural Science』 2000年
『神経生理学』（金芳堂） 1986年
その他関連文献

評価方法・評価割合

出席状況（評価の対象は必要出席回数4/5以上を満たした者とする）、レポート（期末＝１回）、授業中の課題（授業中のテーマについてまとめたもノートをレポートする）、その他（授業態度、発表）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸治効理論で取り上げた報告から実習に適切な課題を精選し、これらについて小グループによる追試的な実験実習を行う。このことを通して、科学における基本概念のひとつである再現性についてを理解する。また同様の実験をすることにより、研究目的に応じた各種の実験手法の適応と限界についてを学ぶ。このように実際に鍼灸刺激の生体に及ぼす効果を実験により体験させ、鍼灸治療の効果に対する実証的な態度を習得する。

テーマおよび内容

[1 回] 自律神経、自律神経の特徴:二重支配、拮抗支配、トーヌス、神経節

[2 回] 自律神経、自律神経の特徴を図示しまとめる:二重支配、拮抗支配、トーヌス、神経節

[3 回] 自律神経、自律神経の特徴を発表する:二重支配、拮抗支配、トーヌス、神経節

[4 回] 自律神経、自律神経の中枢を理解する：頭仙系、胸腰系、側角、脳神経

[5 回] 自律神経、自律神経の中枢を図示しまとめる：頭仙系、胸腰系、側角、脳神経

[6 回] 自律神経、自律神経の中枢をまとめたものを発表する：頭仙系、胸腰系、側角、脳神経

[7 回] 自律神経の走行：節前線維、節後線維、自律神経節、化学伝達物質、収束と発散

[8 回] 自律神経の走行：節前線維、節後線維、自律神経節、化学伝達物質、収束と発散を図示しまとめる

[9 回] 自律神経の走行：節前線維、節後線維、自律神経節、化学伝達物質、収束と発散をまとめと者を発表する

[10 回] 鍼灸刺激と自律神経反射：循環機能に対する鍼の効果

[11 回] 鍼灸刺激と自律神経反射：循環機能に対する鍼の効果

[12 回] 鍼灸刺激と自律神経反射：循環機能に対する鍼の効果

[13 回] 鍼灸刺激と感覚：皮膚刺激とvisual analogue scale

[14 回] 鍼灸刺激と感覚：皮膚刺激とvisual analogue scale

[15 回] 鍼灸刺激と感覚：皮膚刺激とvisual analogue scale

学生へのメッセージ
授業に積極的に参加し学んだことをきちんと整理してレーポートとしてノートをまとめてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

最新鍼灸治効理論演習[1413190]

科目名	最新鍼灸治効理論演習[1413190]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
	高梨 知揚[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0〜3.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

1）20分以上の遅刻退席は欠席とみなします。
2）授業中の飲食、私語はしないこと。
3）授業の妨げまた他の学生さんの邪魔になるような場合には退室してもらいます。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『はりきゅう理論』 東洋療法学校協会編 （医道の日本社）、「解剖学」医歯薬出版,「生理学」医歯薬出版

参考書：『東洋医学を学ぶ人のために』 （医学書院） 1984年
『鍼灸臨床の科学』 （医歯薬出版） 2000年
『Clinical acupuncture』 (Springer) 2001年
『感覚生理学』 （金芳堂） 1987年
『Principles of Neural Science』 2000年
『神経生理学』 （金芳堂） 1986年
その他関連文献

評価方法・評価割合

出席状況（評価の対象は必要出席回数2/3以上を満たした者とする）、レポート（期末に実施する）、授業中の課題（適宜レポートを提出する）、その他（授業態度、発表等）

授業の目的および到達目標

本科目では、最新の鍼灸に関する臨床および基礎研究論文を教材として呈示し、現在、どのような研究が行われているのか、またその研究に至るまでの経緯等を学ぶ。鍼灸治効理論演習同様に小グループを編成して呈示された研究論文の経緯や要点を発表し、その後は、学生同士の討論を行う。学生同士の討論を通してデスカッションの能力を習得する。

テーマおよび内容

[第1 回] オリエンテーション

[第2 回] 鍼灸刺激と自律神経（1）

[第3 回] 鍼灸刺激と自律神経（2）

[第4 回] 鍼灸刺激と自律神経（3）

[第5 回] 鍼灸刺激と自律神経（まとめ・発表）

[第6 回] 鍼灸刺激と体性神経（1）

[第7 回] 鍼灸刺激と体性神経（2）

[第8 回] 鍼灸刺激と体性神経（3）

[第9 回] 鍼灸刺激と体性神経（まとめ・発表）

[第10 回] 今日の臨床研究（1）

[第11 回] 今日の臨床研究（2）

[第12 回] 鍼灸の臨床研究（1）

[第13 回] 鍼灸の臨床研究（2）

[第14 回] 鍼灸の臨床研究（3）

[第15 回] 鍼灸の臨床研究（まとめ・発表）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中医診断学演習[1413220]

科目名	中医診断学演習[1413220]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	高梨 知揚[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 1.0〜1.0
教室	①404教室 ②411実技実習室

受講条件・その注意
中医診断学と中医診断学実習の授業単位の取得を、本授業の受講条件としている。

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
教科書：『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社），プリント 参考書：『鍼灸学・臨床編』 劉公望他（東洋学術出版社） 『中医鍼灸臨床発揮』李世珍他（東洋学術出版社） 他は随時提示する

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、その他（数回の小テスト）

授業の目的および到達目標
本科目では、2年次までに履修した東洋医学概論、中医診断学および中医診断学実習の内容を受け、より実践的な中医診断に必要となる知識と技術の習得を目的とする。前半は主に気血津液弁証・臓腑弁証・経脈病証に関連した講義および症例問題の演習を通じて、基本的な弁証を立てられるようになるための学習を行う。後半は経絡経穴の触診を中心として、身体診察から中医学的な証を導く実技を行い、総合的な東洋医学診断能力を身につけられるようにする。

テーマおよび内容
第1回：総論-証とは 気血津液病証（1） 第2回：気血津液病証（2） 第3回：臓腑弁証（1） 第4回：臓腑弁証（2） 第5回：臓腑弁証（3） 第6回：経絡経穴の触診と身体観察—上肢（1）陰経 5/23 第7回：経絡経穴の触診と身体観察—上肢（2）陽経 5/30 第8回：経脈病証 第9回：奇経治療 第10回：経絡経穴の触診と身体観察—下肢（1）陰経 第11回：経絡経穴の触診と身体観察—下肢（2）陽経 第12回：経絡経穴の触診と身体観察—体幹（1）背部 第13回：経絡経穴の触診と身体観察—体幹（2）腹部 第14回：経絡経穴の触診と身体観察—頭顔面部（1）

第15回：経絡経穴の触診と身体観察―頭顔面部（２）と総括

学生へのメッセージ
演習形式で適宜小テストを実施するため、出席を重視する。また、後半は触診を中心とした実技形式の演習となるため、四肢が露出しやすいような服装を心がけること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

東洋医学古典講読[1413240]

科目名	東洋医学古典講読[1413240]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0〜3.0
教室	①401教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
プリントは講義の際に随時配布する。 辞書として『新字源』（小川環編、角川書店）を購入することを奨める

評価方法・評価割合
出席状況、授業中の課題

授業の目的および到達目標
本科目では、東洋医学の基本的な古典文献資料の読解を通じ、二千年以上の歴史をもつ東洋医学の基礎理論、診断体系および疾病観、身体観について理解を深めることを目的とする。具体的には、中国の古典文献を読むための基礎的な知識（辞書・各種工具書の使用法、古典漢語の文法体系）を習得した後に、現在の東洋医学の成り立ちを知る上で重要な文献（『黄帝内経』、『難経』、『傷寒論』、『千金方』、『十四経発揮』）を精選し、原文（白文）で読むことができるように指導を行う。また東洋医学の成立には、中国古代の思想文化が大きく関与していることから、これらの事項についても、関連する文献の読解を行い、東洋医学の理解を深める。

テーマおよび内容
[1 回] オリエンテーション [2 回] 東洋医学の書の世界 [3 回] 医学書の系譜１（前漢〜唐代：『黄帝内経』、『傷寒論』、『千金方』など」） [4 回] 医学書の系譜２（宋代〜金元期：医書校訂と金元四大家） [5 回] 医学書の系譜３（医心方と中世日本の医書） [6 回] 医学書の系譜４（近世日本の医書１） [7 回] 医学書の系譜５（近世日本の医書２） [8 回] 養生書の系譜 １（中国の養生書） [9 回] 養生書の系譜 ２（日本の養生書） [10回] 本草書と薬物療法について １ [11回] 本草書と薬物療法について ２ [12回] 医書購読 １ （医学書専門店見学）

[13回] 医書購読 2

[14回] 医書購読 3

[15回] 講義総括

学生へのメッセージ
1年次の東洋医学概論の内容を原典に即して読解し、随時小テストを実施することにより、理解を深めていきます。また、演習の一環として東洋医学関連の書籍を扱っている書店、図書館への見学を予定しています

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸安全学[1413320]

科目名	鍼灸安全学[1413320]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0〜2.0
教室	①303教室

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
教科書：適宜資料を配付する 参考書：『鍼灸医療安全ガイドライン』尾崎昭弘・坂本歩／鍼灸安全性委員会編（医歯薬出版株式会社） 『鍼灸禁忌マニュアル』矢野忠著（医歯薬出版株式会社）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、その他

授業の目的および到達目標
本科目では、鍼灸臨床における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的として、（1）鍼灸臨床現場での感染防止対策としての感染症の基礎知識、手指・施術野の消毒法、クリーンニードルテクニック、および器具類の衛生管理の実際 （2）低周波鍼通電装置等の鍼灸臨床に関連する管理医療機器の基礎知識と安全管理の実際 （3）鍼灸治療の禁忌例等の過誤防止のための基礎知識 （4）鍼灸臨床現場において生じ得る有害事象の具体例と、予防・対応策 （5）リスクマネジメントの基本的な考え方とインシデントレポート等の実践方法を中心として、近年国内外で整備されつつある当該分野におけるガイドラインをふまえて学習する。

テーマおよび内容
[1 回] 総論・鍼灸安全学とは [2 回] 鍼灸医療における感染予防（1） [3 回] 鍼灸医療における感染予防（2） [4 回] 鍼灸医療における感染予防（3） [5 回] 鍼灸医療器具の安全管理（1） [6 回] 鍼灸医療器具の安全管理（2） [7 回] 鍼灸の適応と禁忌 (1) [8 回] 鍼灸の適応と禁忌 (2) [9 回] 鍼灸臨床における過誤と予防・対応策（1） [10回] 鍼灸臨床における過誤と予防・対応策（2）

[11回] 鍼灸臨床における有害事象（1）

[12回] 鍼灸臨床における有害事象（2）

[13回] リスクマネジメントシステム

[14回] 鍼灸カルテとインシデントレポートの活用

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸の基礎[1413330]

科目名	鍼灸の基礎[1413330]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①301教室

受講条件・その注意

1）20分以上の遅刻退席は欠席とみなします。 2）授業中の飲食、私語はしないこと。 3）授業の妨げまた他の学生さんの邪魔になるような場合には退室してもらいます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『はりきゅう理論』 （医道の日本社） 参考書：『図解鍼灸臨床手技マニュアル』（医歯薬出版）1984 年

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

本科目では鍼の各部の名称、太さ、長さ、材質と特徴、灸の材料、主な成分と艾の品質、製法などの基礎知識、鍼や灸の術式や手技、鍼灸の適応症や禁忌、リスク管理とくに鍼灸による過誤や副作用など鍼灸施術の際に必要な知識について講義をする。

テーマおよび内容

［1回］ 鍼灸施術の定義と意義について：鍼刺激と灸刺激

［2回］ 鍼の構造と鍼管について：鍼の各部の名称、形状、材質と鍼管の材質、形状

［3回］ 古代九鍼について：破る鍼、刺入する鍼、刺入しない鍼

［4回］ 刺鍼の方式と術式について：撚鍼法、打鍼法、管鍼法、押手、刺手、弾入

［5回］ 鍼施術の手技について：刺鍼中の手技

［6回］ 特殊鍼法について：小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、電気鍼

［7回］ 灸の材料、もぐさの品質、灸術の種類について：艾の製法、有痕灸、無痕灸

［8回］ 鍼灸施術の刺激量と個体の感受性について：刺激量を決定する条件

［9回］ 鍼灸療法の適応症と禁忌部位について：禁忌の部位と場合

［10回］ 鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について（1）：リスク管理の基本、出血

［11回］ 鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について（２）：気胸

［12回］ 鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について（３）：折鍼、渋鍼

［13回］ 鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について（４）：脳貧血、遺感覚、化膿、灸あたり

［14回］ 消毒法と感染症対策：消毒法と感染症対策

［15回］ まとめ：総復習と重要ポイントの再確認

学生へのメッセージ
この科目では鍼灸の施術に関するもっとも基本的な内容を講義します。鍼灸に関する基礎知識をしっかり身に着けてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

経絡経穴学Ⅰ[1413340]

科目名	経絡経穴学Ⅰ[1413340]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	矢嶌 裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本 英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 5.0〜5.0
	前期 火曜 3.0〜3.0
教室	①301教室 ②410実技実習室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『経穴経絡概論』東洋療法学校協会編（医道の日本社）

参考書：『鍼灸師･柔道整復師のための局所カラーアトラス』北村清一郎：大阪大学歯学部口腔解剖学第2講座鍼灸解剖（南江堂）1998
『針灸学：日中共同編集.経穴篇 第2版』天津中医薬大学：後藤学園（東洋学術出版社）2006
『運動療法のための機能解剖学的触診技術.上肢』林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2005
『運動療法のための機能解剖学的触診技術.下肢・体幹』林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2006

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可）、その他（講義期間中におこなう小テスト）

授業の目的および到達目標

本科目では、主として経絡経穴学の基本的な概要、取穴法で基準となる寸法（骨度法、同身寸法）、要穴について学習し、奇経八脈の任脈、督脈と十二正経の経穴について学習する。特に十二正経の経穴については、要穴、経穴名の字義・取穴部位・各経穴の作用等について学習する。経穴名と取穴部位を関連させることはもとより、各経穴の部位については、その経穴の目印となる体表から確認することのできる筋、腱、骨、あるいは各経穴の近くを走行する動脈、静脈、神経などもあわせて学習し、体表解剖学、局所解剖学と関連して各経穴を位置づけられるように学習を進める。こうした机上での学習後、実際に取穴する部位をお互いの体を使って確認する。

テーマおよび内容

［1回］ 取穴に際し必要な知識を学ぶ：解剖学的肢位と方向に関する用語、骨度法、同身寸法を学ぶ
［2回］ 督脈について学ぶ：督脈に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［3回］ 督脈について学ぶ：督脈に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［4回］ 督脈について学ぶ：督脈に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［5回］ 督脈について学ぶ：第2,3,4回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［6回］ 任脈について学ぶ：任脈に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［7回］ 任脈について学ぶ：任脈に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［8回］ 任脈について学ぶ：第6,7回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［9回］ 肺経について学ぶ：肺経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［10回］ 肺経について学ぶ：肺経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［11回］ 肺経について学ぶ：第9,10回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［12回］ 大腸経について学ぶ：大腸経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［13回］ 大腸経について学ぶ：大腸経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［14回］ 大腸経について学ぶ：大腸経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる

［15回］ 大腸経について学ぶ：第12,13,14回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［16回］ 胃経について学ぶ：胃経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［17回］ 胃経について学ぶ：胃経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［18回］ 胃経について学ぶ：胃経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［19回］ 胃経について学ぶ：第16,17,18回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［20回］ 胃経について学ぶ：胃経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［21回］ 胃経について学ぶ：胃経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［22回］ 胃経について学ぶ：胃経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［23回］ 胃経について学ぶ：第20,21,22回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［24回］ 脾経について学ぶ：脾経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［25回］ 脾経について学ぶ：脾経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［26回］ 脾経について学ぶ：脾経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［27回］ 脾経について学ぶ：第24,25,26回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［28回］ 心経について学ぶ：心経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［29回］ 心経について学ぶ：心経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［30回］ 心経について学ぶ：第28,29回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

経絡経穴学Ⅱ[1413350]

科目名	経絡経穴学Ⅱ[1413350]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	矢嶌 裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0〜2.0
	後期 火曜 4.0〜4.0
教室	①410実技実習室 ②別途連絡

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『経穴経絡概論』東洋療法学校協会編（医道の日本社） 参考書：『鍼灸師･柔道整復師のための局所カラーアトラス』北村清一郎：大阪大学歯学部口腔解剖学第2講座鍼灸解剖（南江堂）1998 『針灸学：日中共同編集.経穴篇 第2版』天津中医薬大学：後藤学園（東洋学術出版社）2006 『運動療法のための機能解剖学的触診技術.上肢』林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2005 『運動療法のための機能解剖学的触診技術.下肢・体幹』林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2006

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可）、その他（講義期間中におこなう小テスト）

授業の目的および到達目標
本科目では、主として経絡経穴学の基本的な概要、取穴法で基準となる寸法（骨度法、同身寸法）、要穴について学習し、奇経八脈の任脈、督脈と十二正経の経穴について学習する。特に十二正経の経穴については、要穴、経穴名の字義・取穴部位・各経穴の作用等について学習する。経穴名と取穴部位を関連させることはもとより、各経穴の部位については、その経穴の目印となる体表から確認することのできる筋、腱、骨、あるいは各経穴の近くを走行する動脈、静脈、神経などもあわせて学習し、体表解剖学、局所解剖学と関連して各経穴を位置づけられるようにする。

テーマおよび内容
［1回］ 小腸経について学ぶ：小腸経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［2回］ 小腸経について学ぶ：小腸経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［3回］ 小腸経について学ぶ：小腸経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［4回］ 小腸経について学ぶ：第1,2,3回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する ［5回］ 膀胱経について学ぶ：膀胱経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［6回］ 膀胱経について学ぶ：膀胱経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［7回］ 膀胱経について学ぶ：第5,6回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する ［8回］ 膀胱経について学ぶ：膀胱経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［9回］ 膀胱経について学ぶ：膀胱経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［10回］ 膀胱経について学ぶ：膀胱経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［11回］ 膀胱経について学ぶ：第8,9,10回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する ［12回］ 膀胱経について学ぶ：膀胱経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［13回］ 膀胱経について学ぶ：膀胱経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［14回］ 膀胱経について学ぶ：第12,13回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する ［15回］ 腎経について学ぶ：腎経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［16回］ 腎経について学ぶ：腎経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる ［17回］ 腎経について学ぶ：第15,16回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する

［18回］ 心包経について学ぶ：心包経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［19回］ 心包経について学ぶ：第18回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［20回］ 三焦経について学ぶ：三焦経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［21回］ 三焦経について学ぶ：三焦経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［22回］ 三焦経について学ぶ：第20,21回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［23回］ 胆経について学ぶ：胆経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［24回］ 胆経について学ぶ：胆経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［25回］ 胆経について学ぶ：第23,24回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［26回］ 胆経について学ぶ：胆経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［27回］ 胆経について学ぶ：胆経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［28回］ 胆経について学ぶ：第26,27回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する
［29回］ 肝経について学ぶ：肝経に所属する各穴の解剖学的な特徴を学び、実際に取穴させる
［30回］ 肝経について学ぶ：第29回で学んだ事の理解度を確認する目的で試験を実施する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

東洋医学概論Ⅰ[1413360]

科目名	東洋医学概論Ⅰ[1413360]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 4.0〜4.0
	後期 水曜 3.0〜3.0
教室	①301教室 ②405教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『東洋医学概論』（東洋療法学校協会 教科書執筆小委員会編・医道の日本社刊） 参考書：『中医基礎理論』（滝沢健司 東洋学術出版社刊） 辞典：『鍼灸医学大辞典』（医歯薬出版社）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況（前期、後期それぞれ3分の2以上出席していない学生は成績評価の対象としない）、レポート（前期、後期に各1回課す予定している）、その他（随時小テスト（理解度チェックテスト）を実施する）

授業の目的および到達目標
本講義においては、東洋医学理論のうち、もっとも基礎となる知識について学ぶ。すなわち、前期においては、1) 陰陽五行論をはじめとする基本概念、2) 東洋医学の身体観（臓腑経絡）、3) 東洋医学の生理観（気血津液・五臓の働き）を学び、東洋医学的な身体観、生理観を習得し、これを基礎として後期は、4) 東洋医学の病因論、5) 東洋医学の病理病証、といった、東洋医学独特の病理観を学び、最後に6) 東洋医学の治療法において、東洋医学における基礎的な治療原則の立て方について学ぶ。

テーマおよび内容
［1回］ イントロダクション：東洋医学への招待 ［2回］ 東洋医学の基本概念（1）：陰陽論 ［3回］ 東洋医学の基本概念（2）：五行説（1） 五行とは（相生・相克関係） ［4回］ 東洋医学の基本概念（3）：五行説（2） 五行色体について ［5回］ 東洋医学の基本概念（4）：理解度チェックテスト ［6回］ 東洋医学の身体観（1）：臓腑 ［7回］ 東洋医学の身体観（2）：経脈（十二正経・奇経八脈）・絡脈・孫脈 ［8回］ 東洋医学の身体観（3）：理解度チェックテスト ［9回］ 東洋医学の生理観（1）：気血津液 （真気・宗気・衛気・営気） ［10回］ 東洋医学の生理観（2）：気血津液 （血・津液・痰飲・血瘀） ［11回］ 東洋医学の生理観（3）：五臓 （肝・心・脾） ［12回］ 東洋医学の生理観（4）：五臓 （肺・腎） ［13回］ 東洋医学の生理観（5）：六腑・奇恒の府 ［14回］ 東洋医学の生理観（6）：理解度チェックテスト ［15回］ 前期の総括： ［16回］ 東洋医学の病因論（1）：外因（六淫） ［17回］ 東洋医学の病因論（2）：外因（六淫） ［18回］ 東洋医学の病因論（3）：内因（七情） ［19回］ 東洋医学の病因論（4）：不内外因・理解度チェックテスト

［20回］ 東洋医学の病理病証（1）：気血津液病証（気の病証）
［21回］ 東洋医学の病理病証（2）：気血津液病証（血・津液の病証）
［22回］ 東洋医学の病理病証（3）：五臓六腑の病証 （肝・心）
［23回］ 東洋医学の病理病証（4）：五臓六腑の病証 （脾・肺）
［24回］ 東洋医学の病理病証（5）：五臓六腑の病証 （腎・六腑）
［25回］ 東洋医学の病理病証（6）：陽虚と陰虚
［26回］ 東洋医学の病理病証（7）：理解度チェックテスト
［27回］ 東洋医学の治療法（1）：治療原則（証の立て方・本治・標治など）
［28回］ 東洋医学の治療法（2）：古代刺法1（五刺・九刺）
［29回］ 東洋医学の治療法（3）：古代刺法2（十二刺）
［30回］ 東洋医学の治療法（4）：鍼灸の補瀉

学生へのメッセージ

国家試験の出題（160問）のうち、東洋医学概論はその一割近くを占めます。また、本科目は2年生以降の中医診断学や臨床鍼灸学関係の科目の基礎となりますので、一年生のうちにしっかりと理解していくこと。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

東洋医学概論Ⅱ[1413370]

科目名	東洋医学概論Ⅱ[1413370]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	高梨 知揚[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
	通年 火曜 5.0〜5.0
教室	①301教室 ②302教室

授業の形態
講義(共同)

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、授業中の課題

授業の目的および到達目標
一年次の東洋医学概論Ⅰを踏まえ、まず前期では教科書（『東洋医学概論』東洋療法学校協会編）の第4章（診断論）、第5章（治療論）の内容を中心に講述する。診断論については既に東洋医学概論Ⅰでも触れているが、教科書に記載される診断法、治療法の多くは古典文献に依拠していることから、本講では出典となっている古典医学文献の成り立ちについて講述するとともに、これらが現代日本で実践されている鍼灸治療法や漢方療法においてどのように活用されているのかも言及しながら講義を進め、東洋医学に対する理解を総合的に深めていく。

テーマおよび内容
前期 第1回：鍼灸医学の歴史1—主な古代中国医学文献—どのような文献に依拠しているのか？ 第2回：鍼灸医学の歴史2—日本における鍼灸と漢方の歴史 （管鍼法と杉山和一） 第3回：鍼灸医学の歴史3—古代医学文献に見る経脈—馬王堆医書と『霊枢』経脈篇— 第4回：東洋医学における疾病観—虚実と鍼灸の補瀉について 第5回：古典理論に基づく診断1—経絡治療と六部定位脈診による治療方針の決定と選穴 第6回：古典理論に基づく診断2—望診（視覚） 5/20 第7回：古典理論に基づく診断3—ツボの反応と触診（撮診・背候診・原穴診・募穴診など） 第8回：古典理論に基づく診断4—漢方古典（『傷寒論』『金匱要略』）と腹診 第9回：古代医書に見る鍼と鍼法1—古代九鍼 （『霊枢』九鍼十二原） 第10回：古代医書に見る鍼と鍼法2—五刺・九刺・十二刺（1） 第11回：古代医書に見る鍼と鍼法3—五刺・九刺・十二刺（2） 第12回：古代医書にもとづく灸と灸法1—原志免太郎と深谷伊三郎 第13回：古代医書にもとづく灸と灸法2—特殊灸法・家伝灸 第14回：特殊鍼法—奇経治療・刺絡療法など 第15回：前期の総括と理解度チェックテスト 後期 第16回：Narrative based medicine（「物語に基礎をおく医学）について 第17回：終末期医療における鍼灸治療の果たすもの 第18回：東洋医学における疾病—病名と証 第19回：証を立てる（弁証論）1—八綱弁証・気血津液弁証 第20回：証を立てる（弁証論）2—臓腑弁証（1） 第21回：証を立てる（弁証論）3—臓腑弁証（2）

第22回：証を立てる（弁証論）4—臓腑弁証（3）
第23回：証を立てる（弁証論）5—臓腑弁証（4）
第25回：証を立てる（弁証論）6—臓腑弁証（5）
第26回：証を立てる（弁証論）7—臓腑弁証（6）
第27回：証を立てる（弁証論）8—経脈病証と奇経八脈病証（1）
第28回：証を立てる（弁証論）9—経脈病証と奇経八脈病証（2）
第29回：証を立てる（弁証論）10—経脈病証と奇経八脈病証（3）
第30回：. 総括と理解度チェックテスト

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸治効理論Ⅰ[1413390]

科目名	鍼灸治効理論Ⅰ[1413390]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0〜3.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

1）20分以上の遅刻退席は欠席とみなします。
2）授業中の飲食、私語はしないこと。
3）授業の妨げまた他の学生さんの邪魔になるような場合には退室してもらいます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『はりきゅう理論』 東洋療法学校協会編 （医道の日本社）

参考書：『東洋医学を学ぶ人のために』 （医学書院） 1984年
『鍼灸臨床の科学』 （医歯薬出版） 2000年
『Clinical acupuncture』 (Springer) 2001年
『感覚生理学』 （金芳堂） 1987年
『Principles of Neural Science』 2000年
『神経生理学』 （金芳堂） 1986年
その他関連文献

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験）

授業の目的および到達目標

本科目では鍼灸刺激によって起こる生体反応を理解するために必要な神経系の構造と機能の概要、特に体性器官からの入力に関わる神経生理学について、そして鍼刺激による鎮痛機序について講義をする。

テーマおよび内容

[1 回] 神経系の基礎（1）：鍼灸治効理論を理解するために必要な基礎

[2 回] 神経系の基礎（2）：感覚の分類と体性感覚

[3 回] 神経系の基礎（3）：皮膚受容器

[4 回] 神経系の基礎（4）：神経線維の分類

[5 回] 神経系の基礎（5）：脊髄の概要

[6 回] 神経系の基礎（6）：伝導路（後索路・脊髄視床路）

[7 回] 鍼灸治効の基礎（1）：痛みの分類

[8 回] 鍼灸治効の基礎（2）：鍼鎮痛のメカニズム

[9 回] 鍼灸治効の基礎（3）：鍼鎮痛のメカニズム

[10回] 鍼灸治効の基礎（4）：鍼鎮痛のメカニズム

[11回] 鍼灸治効の基礎（5）：鍼鎮痛のメカニズム

[12回] 鍼灸治効の基礎（6）：鍼鎮痛のメカニズム

[13回] 鍼灸治効の基礎（7）：鍼鎮痛のメカニズム

[14回] 鍼灸治効の基礎（8）：鍼鎮痛のメカニズム

[15回] 前学期の復習

学生へのメッセージ
分からないことがあったらその場で積極的に質問してください。分からないことをそのままにしとくと次回以降の授業についていけなくなります。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

触診解剖と刺鍼手技[1413440]

科目名	触診解剖と刺鍼手技[1413440]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0〜3.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意
初回の授業で指導する

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ（文光堂） 参考書：授業の中で紹介する

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験：持ち込み不可＝60%）、授業中の課題（＝10%）、その他（小テスト＝30%）

授業の目的および到達目標
本科目では、鍼灸臨床において必要となる体表解剖学・局所解剖学の知識を確認しつつ、身体各部の触察について学習する。とくに臨床上重要な部位を選定し、触察することで解剖学的構造（骨、筋・神経・血管など）を理解し、触察技術を習得する。その上で、特定の部位（筋や神経の走行上）へ的確に刺鍼できるようにする。その際、特に適応疾患と関連させ、その重要性を理解する。また、神経・血管の近傍への刺鍼では、その安全性について配慮できるように理解を深める。

テーマおよび内容
[1 回] 授業概要の説明および低周波鍼通電療法の理論 [2 回] 下肢の触診と低周波鍼通電療法 その1 [3 回] 下肢の触診と低周波鍼通電療法 その2 [4 回] 下肢の触診と低周波鍼通電療法 その3 [5 回] 下肢の触診と低周波鍼通電療法 その4 [6 回] 腰殿部の触診と低周波鍼通電療法 [7 回] 小テスト [8 回] 頚肩背部の触診と低周波鍼通電療法 その1 [9 回] 頚肩背部の触診と低周波鍼通電療法 その2

[10回] 頚肩背部の触診と低周波鍼通電療法 その3

[11回] 上肢のの触診と低周波鍼通電療法 その1

[12回] 上肢のの触診と低周波鍼通電療法 その2

[13回] 上肢のの触診と低周波鍼通電療法 その3

[14回] まとめ・復習

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

基礎施灸手技実習[1413450]

科目名	基礎施灸手技実習[1413450]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	矢嶌 裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
	後期 水曜 4.0〜4.0
教室	①411実技実習室

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
矢野忠 他 編集 『鍼灸療法治療技術ガイドⅠ』（文光堂）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況（授業回数の５分の４以上出席した者に対して評価を行う。評価は施灸練習の取り組み方と実技試験を踏まえて行う。）

授業の目的および到達目標
本科目では、施灸における基本手技を習得させることを目的とする。基本施灸手技の習得の初期段階では、1)モグサを捻り出す動作、2)捻り出したモグサを切り取り施灸部位へ置くまでの動作、3)ここまでの動作により作成された艾炷が一定の大きさに形成出来るようにさせる。中期段階においては、艾炷作成速度を上げる訓練や艾炷の点火の仕方を習得させる。後期段階においては、ヨモギの葉からモグサを作成し、良質モグサと粗悪モグサの燃焼温度の違いを測定機器を用いて確認させる。その後、前および中段階で習得した技術で形成できるようになった艾炷の温度を測定し、温度上昇が抑制された密度の艾炷を形成させる事を習得させる。

テーマおよび内容
［1回］ 施灸について：灸の基礎知識について学ぶ。 ［2回］ 施灸について：灸術の種類やその方法について学ぶ。 ［3回］ 艾炷の形成の仕方：モグサの捻り出し方について学ぶ。 ［4回］ 艾炷の形成の仕方：モグサの捻り出し方を習得する。 ［5回］ 艾炷の形成の仕方：捻り出したモグサを切り取り置くまでの動作を習得する。 ［6回］ 艾炷の形成の仕方：捻り出したモグサを切り取り置くまでの動作を習得する。 ［7回］ 艾炷の形成の仕方：艾炷が一定の大きさに形成できるようにする。 ［8回］ 艾炷の形成の仕方：艾炷が一定の大きさに形成できるようにする。 ［9回］ 艾炷の形成の仕方：艾炷が一定の大きさに形成できるようにする。 ［10回］ 艾炷の形成の仕方：艾炷作成速度が上がるようにする。 ［11回］ 艾炷の形成の仕方：艾炷作成速度が上がるようにする。 ［12回］ 艾炷の形成の仕方：艾炷作成速度が上がるようにする。 ［13回］ 艾炷の点火の仕方：艾炷の点火の仕方を習得する。 ［14回］ 艾炷の点火の仕方：艾炷の点火の仕方を習得する。 ［15回］ 艾炷の点火の仕方：艾炷の点火の仕方を習得する。 ［16回］ モグサの作成：実際にヨモギの葉からモグサを作成する。 ［17回］ モグサの作成：実際にヨモギの葉からモグサを作成する。 ［18回］ モグサの作成：作成したモグサの温度を計測する。 ［19回］ モグサの作成：作成したモグサからどのような事が分かったを発表する。 ［20回］ 灸温度センサーを用いての練習：灸温度センサーを用いて自分の作成した艾炷の硬度を知る。

［21回］ 灸温度センサーを用いての練習：灸温度センサーを用いて自分の作成した艾炷の硬度を知る。
［22回］ 灸温度センサーを用いての練習：灸温度センサーを用いて自分の作成した艾炷の硬度を知る。
［23回］ 灸温度センサーを用いての練習：灸温度センサーを用いて自分の作成した艾炷の硬度を知る。
［24回］ 灸温度センサーを用いての練習：温度上昇が抑制された密度の艾炷を形成する訓練を行う。
［25回］ 灸温度センサーを用いての練習：温度上昇が抑制された密度の艾炷を形成する訓練を行う。
［26回］ 灸温度センサーを用いての練習：温度上昇が抑制された密度の艾炷を形成する訓練を行う。
［27回］ 灸温度センサーを用いての練習：温度上昇が抑制された密度の艾炷を形成する訓練を行う。
［28回］ 灸温度センサーを用いての練習：温度上昇が抑制された密度の艾炷を形成する訓練を行う。
［29回］ 灸温度センサーを用いての練習：温度上昇が抑制された密度の艾炷を形成する訓練を行う。
［30回］ 灸温度センサーを用いての練習：温度上昇が抑制された密度の艾炷を形成する訓練を行う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

基礎刺鍼手技実習[1413460]

科目名	基礎刺鍼手技実習[1413460]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	矢嶌 裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
	高梨 知揚[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 2.0〜2.0
	後期 水曜 2.0〜2.0
教室	①410実技実習室

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
矢野忠 他 編集 『鍼灸療法治療技術ガイド1』（文光堂）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況（授業回数の５分の４以上出席した者に対して評価を行う。評価は刺鍼練習の取り組み方と実技試験を踏まえて行う。）

授業の目的および到達目標
本科目では、施鍼における基本刺鍼手技を習得させることを目的とする。基本施鍼手技の初期段階では、1)片手で鍼と鍼管を扱う片手挿管の習得、2)押手および刺手の意義や実際の方法の習得、3)管鍼法の手順を習得させる。中期段階においては、刺鍼練習器を用いて基本的な刺鍼方法を習得させる。後期段階では自らの身体に刺鍼をさせどのような感覚が生じるのかを体験させより痛みの発生を抑制した刺鍼法を習得させる。

テーマおよび内容
［1回］ 施鍼について：鍼の基礎知識について学ぶ。 ［2回］ 施鍼について：鍼術の種類やその方法について学ぶ。 ［3回］ 片手挿管について：片手挿管の方法を習得する。 ［4回］ 片手挿管について：片手挿管の方法を習得する。 ［5回］ 片手挿管について：片手挿管の方法を習得する。 ［6回］ 押手、刺手について：押手および刺手の意義を理解し、実際の方法の習得する。 ［7回］ 押手、刺手について：押手および刺手の意義を理解し、実際の方法の習得する。 ［8回］ 管鍼法について：管鍼法の手順を理解させ、鍼管の割り込ませ方法を習得させる。 ［9回］ 管鍼法について：管鍼法の手順を理解させ、弾入、切皮法を習得させる。 ［10回］ 管鍼法について：管鍼法の手順を理解させ、排管の方法を習得させる。 ［11回］ 管鍼法について：管鍼法の手順を理解させ、一連の方法を習得させる。 ［12回］ 刺鍼法ついて：送り込み刺法や撚鍼法を習得させる。 ［13回］ 刺鍼法ついて：送り込み刺法や撚鍼法を習得させる。 ［14回］ 刺鍼法ついて：送り込み刺法や撚鍼法を習得させる。 ［15回］ 刺鍼法ついて：送り込み刺法や撚鍼法を習得させる。 ［16回］ 刺鍼法ついて：管鍼法の手順を用いて刺鍼練習器に送り込み刺法や撚鍼法での直刺を習得させる。 ［17回］ 刺鍼法ついて：管鍼法の手順を用いて刺鍼練習器に送り込み刺法や撚鍼法での直刺を習得させる。 ［18回］ 刺鍼法ついて：管鍼法の手順を用いて刺鍼練習器に送り込み刺法や撚鍼法での直刺を習得させる。 ［19回］ 刺鍼法ついて：管鍼法の手順を用いて刺鍼練習器に送り込み刺法や撚鍼法での直刺を習得させる。 ［20回］ 刺鍼法ついて：管鍼法の手順を用いて刺鍼練習器に送り込み刺法や撚鍼法での直刺を習得させる。 ［21回］ 刺鍼法ついて：管鍼法の手順を用いて刺鍼練習器に送り込み刺法や撚鍼法での直刺を習得させる。 ［22回］ 消毒法ついて：施術部や手指の消毒方法について学ぶ。

［23回］ 刺鍼法ついて：自分の下腿部もしくは大腿部への刺鍼する。
［24回］ 刺鍼法ついて：自分の下腿部もしくは大腿部への刺鍼する。
［25回］ 刺鍼法ついて：自分の下腿部もしくは大腿部への刺鍼する。
［26回］ 刺鍼法ついて：自分の下腿部もしくは大腿部への刺鍼する。
［27回］ 刺鍼法ついて：自分の下腿部もしくは大腿部への刺鍼する。
［28回］ 刺鍼法ついて：自分の下腿部もしくは大腿部への刺鍼する。
［29回］ 刺鍼法ついて：自分の下腿部もしくは大腿部への刺鍼する。
［30回］ 刺鍼法ついて：自分の下腿部もしくは大腿部への刺鍼する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床鍼灸手技実習Ⅰ[1413470]

科目名	臨床鍼灸手技実習Ⅰ[1413470]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 1.0〜1.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意
初回の授業で指導する

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ（文光堂） 参考書：授業の中で紹介する

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験：持ち込み不可＝70%）、出席状況、授業中の課題（＝15%）、その他（小テスト（筆記）＝15%）

授業の目的および到達目標
本科目では、身体各部（頭部・頸部・顔面部・上肢・背部・腹部・下肢）への刺鍼を行いながら、刺鍼中の17種類の手技や皮内鍼、円皮鍼、小児鍼、灸頭鍼などの特殊鍼法について学習する。 加えて、身体各部に存在する経穴近傍にある血管、神経、内臓などの重要臓器に損傷を与え、医療過誤を引き起こすことがないよう刺鍼上の諸注意を理解し、過誤を未然に防ぐ鍼施術のスキルを身につける。なお、身体各部への刺鍼では取穴学実習と関連づけ、経穴の解剖学的位置を理解し、その部位に刺鍼するようなかたちで実習を行う。

テーマおよび内容
[1 回] 授業概要の説明および１年次の復習 [2 回] 身体各部（おもに上肢・下肢）の刺鍼と刺鍼中の手技（17手技） その1 [3 回] 身体各部（おもに上肢・下肢）の刺鍼と刺鍼中の手技（17手技） その2 [4 回] 身体各部（おもに上肢・下肢）の刺鍼と刺鍼中の手技（17手技） その3 [5 回] 身体各部（おもに上肢・下肢）の刺鍼と刺鍼中の手技（17手技） その4 [6 回] 頭部の経穴への刺鍼 [7 回] 頸部の経穴への刺鍼 [8 回] 胸腹部の経穴への刺鍼 [9 回] 背部の経穴への刺鍼

[10回] 皮内鍼および円皮鍼の実際

[11回] 小児鍼の実際

[12回] 灸頭鍼の実際

[13回] 低周波鍼通電療法の実際

[14回] まとめ・復習

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床鍼灸手技実習Ⅱ[1413480]

科目名	臨床鍼灸手技実習Ⅱ[1413480]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	古賀 義久[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0〜2.0
教室	①411実技実習室

受講条件・その注意
実習にあたり必要に応じてTシャツ、短パンを準備してください

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書： 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ』（文光堂） 参考書： 『図解鍼灸臨床手技マニュアル』（医歯薬出版） 『はりきゅう理論』（医道の日本社）

評価方法・評価割合
定期試験（40%）、出席状況（ 30%）、その他（授業態度＝ 30%）

授業の目的および到達目標
本科目は、焦灼灸、知熱灸、隔物灸（しょうが灸、にんにく灸、塩灸）、温灸（棒灸、間接灸）等の技術および、家伝の灸等の特殊な灸法について実習する。これらは家庭でもできる灸法であることから、一般市民に対する指導法についても習得する。

テーマおよび内容
本科目は、焦灼灸、知熱灸、隔物灸（しょうが灸、にんにく灸、塩灸）、温灸（棒灸、間接灸）等の技術および、家伝の灸等の特殊な灸法について実習する。これらは家庭でもできる灸法であることから、一般市民に対する指導法についても習得する。 [1 回] 総論：各種応用施灸の概要 [2 回] 知熱灸1：目的・注意事項。温度センサーを用いた練習 [3 回] 知熱灸2：知熱灸の身体各部位への施灸練習 ① [4 回] 知熱灸3：知熱灸の身体各部位への施灸練習 ② [5 回] 隔物灸1：目的・注意事項。温度センサーを用いた練習 [6 回] 隔物灸2：隔物灸の身体各部位への施灸練習 ① [7 回] 隔物灸3：隔物灸の身体各部位への施灸練習 ②

[8 回] 隔物灸4：隔物灸の身体各部位への施灸練習 ③

[9 回] 温灸1：目的・注意事項。温度センサーを用いた練習

[10回] 温灸2：温灸の身体各部位への施灸練習 ①

[11回] 温灸3：温灸の身体各部位への施灸練習 ②

[12回] 電気灸1：目的・注意事項。温度センサーを用いた練習

[13回] 電気灸2：電気灸の身体各部位への施灸練習 ①

[14回] 焦灼灸・打膿灸：目的・注意事項。温度センサーを用いた練習

[15回] 授業のまとめ：各種応用施灸のまとめと練習

学生へのメッセージ
教員の指示に従ってください

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸施術と運動法[1413570]

科目名	鍼灸施術と運動法[1413570]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	藤井 亮輔[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 1.0〜1.0
教室	①404教室 ②411実技実習室

受講条件・その注意

解剖学（運動器）及び鍼の基礎実技を履修していることが望ましい。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

参考書: 『オーバーユースのスポーツ傷害』藤井亮輔（エンタプライズ社） ※コピーを配布

評価方法・評価割合

定期試験（実技試験＝70%）、出席状況（出席状況＝30%）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床において、臨床効果を高めるために、鍼灸治療の補助的な運動法や患者に対する指導法として用いる運動法の意義、運動法を行う際の適応と禁忌、運動法の実際について学習する。内容は、可動域訓練、ストレッチ、筋力増強運動などで、整形外科疾患、神経性疾患、慢性疼痛性疾患などから主要な疾患や症状を取り上げ、実習する。特に、腰痛、肩こり、五十肩、変形性膝関節症など鍼灸臨床で遭遇しやすい疾患や症状について、鍼灸臨床に応用できるようにするとともに、患者に説明し、指導できるようにする。

テーマおよび内容

[1回] 運動療法の基礎：身体の基本面、運動軸、関節運動の表現法など、運動療法を行う上で必須の知識を体験的に学ぶ。

[2回] 関節の構造と機能（上肢）：運動療法の基礎として上肢帯及び上肢の主な関節の構造と機能を学習する。

[3回] 関節の構造と機能（下肢）：運動療法の基礎として下肢帯及び下肢の主な関節の構造と機能を学習する。

[4回] 上肢の主な関節の可動域制限に対する評価と運動療法：肩関節、肘関節、手関節の運動制限に対する各種評価法と他動的可動域訓練法の実際を学習する。

[5回] 下肢の主な関節の可動域制限に対する評価と運動療法：股関節、膝関節、足関節の運動制限に対する各種評価法と他動的可動域訓練法の基本を学習する。

[6回] 主な関節に対する関節モビライゼーション１：関節モビライゼーションに必要な関節運動学に関する基本事項を学習する。

[7回] 主な関節に対する関節モビライゼーション２：手関節に対する関節モビライゼーションの実際を体験的に学習する。

[8回] 主な関節に対する関節モビライゼーション３：肩関節・肘関節に対する関節モビライゼーションの実際を体験的に学習する。
[9回] 主な関節に対する関節モビライゼーション４：膝関節に対する関節モビライゼーションの実際を体験的に学習する。
[10回] 主な関節に対する関節モビライゼーション５：膝関節・足関節に対する関節モビライゼーションの実際を体験的に学習する。

[11回] 肩・肘の痛みに対する運動療法と鍼施術：五十肩に対する運動療法と鍼灸療法の実際を学習する。

[12回] 腰下肢の痛みに対する運動療法と鍼施術１：坐骨神経痛に対する運動療法と鍼灸療法の複合施術の実際を学習する。

[13回] 腰下肢の痛みに対する運動療法と鍼施術２：変形性膝関節症に対する運動療法と鍼灸療法の複合施術の実際を学習する。

[14回] 片麻痺の維持期リハビリテーション１：腰痛に対するテーピング・鍼灸療法の複合施術の実際を学習する。

[15回] 片麻痺の維持期リハビリテーション２：テニス肘に対するテーピング・鍼灸療法の複合施術の実際を学習する。

学生へのメッセージ
運動器疾患を扱うことの多い鍼灸師にとって運動療法は必須の技術である。この科目では、その基礎とともに、疼痛性疾患に対する神経パルス療法を複合した施術の実際を体験的に学習する。臨床応用性のきわめて高い内容なので、求道心をもって臨んでいただきたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

内科臨床鍼灸学Ⅰ[1414010]

科目名	内科臨床鍼灸学Ⅰ[1414010]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	野口 栄太郎[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 1.0〜1.0
教室	①403教室 ②410実技実習室

授業の形態
実習

教科書・参考文献
参考書: 鍼灸療法技術ガイドII 文光堂 体性-自律神経反射の生理学 丸善出版

評価方法・評価割合
定期試験（筆記試験＝100%）

授業の目的および到達目標
本科目では、内科学で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ学習する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習を進める。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。鍼灸治療の方法については、過去の文献を基にしたシミュレーション実習により習得する。本講座では、主に呼吸器・循環器系疾患、消化器系疾患について学習する。

テーマおよび内容
[1回] 医療面接総説 [2回] フィジカル・アセスメント [3回] 呼吸器疾患総論 [4回] 胸部のアセスメント（呼吸器） [5回] 胸部疾患の鍼灸臨床１ [6回] 胸部疾患の鍼灸臨床２ [7回] 循環器疾患総論 [8回] 胸部のアセスメント（循環器器） [9回] 循環器疾患の鍼灸臨床１ [10回] 循環器疾患の鍼灸臨床２ [11回] 消化器疾患総論 [12回] 腹部部のアセスメント

[13回] 消化器疾患の鍼灸臨床 1

[14回] 消化器疾患の鍼灸臨床 2

[15回] まとめと筆記試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

内科臨床鍼灸学ⅠⅠ[1414020]

科目名	内科臨床鍼灸学ⅠⅠ[1414020]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	粕谷 大智[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
	後期 月曜 5.0〜5.0
教室	①402教室 ②410実技実習室

受講条件・その注意
実技が主であるため、授業開始時には、手の消毒を済ませ、白衣は着て受講。

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書: 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 2012

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験）、レポート（なし）、授業中の課題（施術者としての態度、服装について自覚し、基本実技は反復練習において 身につけるように学習する）

授業の目的および到達目標
本科目では、内科学で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習を進める。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に自己免疫疾患、アレルギー疾患、血液・造血器疾患について学習する。

テーマおよび内容
[1回] 自己免疫疾患１：関節リウマチ（1）病態把握と診察法
[2回] 自己免疫疾患１：関節リウマチ（2）鍼灸治療の効果、治療の注意点
[3回] 自己免疫疾患１：関節リウマチ（3）上肢の治療の実際
[4回] 自己免疫疾患１：関節リウマチ（4）下肢の治療の実際
[5回] 自己免疫疾患１：関節リウマチ（5）全身の不定愁訴に対する治療の実際１
[6回] 自己免疫疾患１：関節リウマチ（6）全身の不定愁訴に対する治療の実際２
[7回] 自己免疫疾患２：糖尿病（1）病態と治療法
[8回] 自己免疫疾患２：糖尿病（2）足病変に対するフットケア 糖尿病性神経障害に対する鍼灸
[9回] 自己免疫疾患２：糖尿病（3）足病変に対するフットケア 血流障害に対する鍼灸

[10回] 自己免疫疾患２：糖尿病（4）足病変に対するフットケア 感染症（水虫）に対する鍼灸

[11回] 自己免疫疾患２：糖尿病（5）インスリン抵抗性に対する鍼灸

[12回] 自己免疫・アレルギー疾患：脱毛症（1）

[13回] 自己免疫・アレルギー疾患：脱毛症（2）

[14回] 自己免疫・アレルギー疾患：アトピー性皮膚炎（1）

[15回] 自己免疫・アレルギー疾患：アトピー性皮膚炎（2）

学生へのメッセージ
疾患や症状を理解し、その病態に応じた実技を行うことを中心にします。 鍼灸臨床の楽しさ、奥深さ、触診の重要さが理解できるよう頑張りましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

神経内科臨床鍼灸学[1414030]

科目名	神経内科臨床鍼灸学[1414030]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	山口 智[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
	後期 月曜 5.0〜5.0
	後期 月曜 6.0〜6.0
教室	①402教室 ②410実技実習室

受講条件・その注意

・骨、筋肉、神経、血管などの解剖学的知識がベースとなるので事前に学習しておくこと。
・実習にあたる時間はTシャツ、短パンなど軽装であること。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『図解鍼灸療法技術ガイドⅠ』矢野忠、坂井友実、安野富美子編集（文光堂）2012
『図解鍼灸療法技術ガイドⅡ』矢野忠、坂井友実、安野富美子編集（文光堂）2012
参考書:なし

評価方法・評価割合

定期試験（期末実技試験（口頭試問も含む） 持ち込み不可）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床と関連の深い、神経内科疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、神経変性疾患（パーキンソン病など）、機能性疾患（頭痛、神経痛、顔面神経麻痺など）について学習する。

テーマおよび内容

[1回] 脳血管障害（1）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応

[2回] 脳血管障害（2）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察、鍼灸治療（1）

[3回] 脳血管障害（3）：診察法、鍼灸治療（2）

[4回] 脳血管障害（4）：診察法、鍼灸治療（3）

[5回] パーキンソン病（1）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応

[6回] パーキンソン病（2）：診察、鍼灸治療

[7回] 頭痛（1）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応

[8回] 頭痛（2）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察、鍼灸治療（1）

[9回] 頭痛（3）：診察法、鍼灸治療（2）

[10回] 頭痛（4）：診察法、鍼灸治療（3）

[11回] 顔面神経麻痺（1）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察・評価、鍼治療の意義、適応

[12回] 顔面神経麻痺（2）：診察、鍼灸治療

[13回] 神経痛：三叉神経痛、診察・評価、鍼灸治療

[14回] 神経痛：後頭神経痛、診察・評価、鍼灸治療

[15回] まとめ

学生へのメッセージ
医科大学病院における鍼灸臨床の実際を紹介し、神経内科領域における鍼灸治療の有効性や有用性について概説する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

整形外科臨床鍼灸学Ⅰ[1414040]

科目名	整形外科臨床鍼灸学Ⅰ[1414040]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	山口 智[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 月曜 4.0〜4.0
	前期 月曜 5.0〜5.0
	前期 月曜 6.0〜6.0
教室	①402教室 ②510実技実習室

受講条件・その注意

・30分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・実習にあたる時間はTシャツ、短パンなど軽装であること。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：図説 鍼灸療法技術ガイド 矢野忠、坂井友実他 編集（文光堂） II

参考書：『標準整形外科学』 鳥巣武彦、国分正一、総編集（医学書院）
『頚部の痛み』 寺山和雄、片岡浩、監修（南江堂）
『腰痛診療のコツ』 菊地臣一（永井書店）

評価方法・評価割合

定期試験（80%）、出席状況（10%）、その他（10%(授業態度)）

授業の目的および到達目標

本科目では整形外科学で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針及び治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてはシミュレーション実習を行う。本科目は主として頸肩腕痛と腰下肢痛についてオムニバス方式で行う。

（坂井 友実／15回）
頚肩腕痛を呈する頚部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は頚椎症、頚椎椎間板ヘルニア、外傷性頚部症候群、胸郭出口症候群などである。

（山口 智／15回）
腰下肢痛を呈する腰部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、いわゆる腰痛症、骨粗鬆症などである。

テーマおよび内容

[1 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（1）：疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井 友実

[2 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（2）：診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療（1）／坂井 友実

[3 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（3）：診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療（2）／坂井 友実

[4 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（4）：診察法の実際（頚椎の触診）と関節刺鍼／坂井 友実

[5 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（5）：低周波鍼通電療法（1）／坂井 友実

[6 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（6）：低周波鍼通電療法（2）／坂井 友実

[7 回] 胸郭出口症候群（1）：疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井 友実

[8 回] 胸郭出口症候群（2）：診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼治療（1）／坂井 友実

[9 回] 胸郭出口症候群（3）：診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼治療（2）／坂井 友実

[10回] 胸郭出口症候群（4）：鍼治療（3）／坂井 友実

[11回] 外傷性頸部症候群（1）：疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井 友実

[12回] 外傷性頸部症候群（2）：鍼灸治療／坂井 友実

[13回] 頚肩腕症候群・肩こり：疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応、低周波鍼通電療法 ／坂井 友実

[14回] まとめ（1）／坂井 友実

[15回] まとめ (2)／坂井 友実

[16回] 腰痛症（1）疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口 智

[17回] 腰痛症（2）診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療／山口 智

[18回] 腰痛症（3）低周波鍼通電療法（1）／山口 智

[19回] 腰痛症（4）低周波鍼通電療法（2）／山口 智

[20回] 腰椎椎間板ヘルニア（1）疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口 智

[21回] 腰椎椎間板ヘルニア（2）診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療／山口 智

[22回] 腰椎椎間板ヘルニア（3）低周波鍼通電療法（1）／山口 智

[23回] 腰椎椎間板ヘルニア（4）低周波鍼通電療法（2）／山口 智

[24回] 腰部脊柱管狭窄症（1）疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口 智

[25回] 腰部脊柱管狭窄症（2）診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療／山口 智

[26回] 腰部脊柱管狭窄症（3）低周波鍼通電療法（1）／山口 智

[27回] 腰部脊柱管狭窄症（4）低周波鍼通電療法（2）／山口 智

[28回] まとめ(1)／山口 智

[29回] まとめ(2)／山口 智

[30回] まとめ(3)／山口 智

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

整形外科臨床鍼灸学ⅠⅠ[1414050]

科目名	整形外科臨床鍼灸学ⅠⅠ[1414050]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	野口 栄太郎[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 4.0〜4.0
	前期 金曜 5.0〜5.0
教室	①404教室 ②410実技実習室

受講条件・その注意

解剖学、整形外科学、経絡経穴学などについて、テーマに関連した事項を復習しておくこと。

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：なし

参考書：『現代鍼灸臨床の実際 改訂第2版』松本勅,医歯薬出版,2009年
『東洋医学臨床論』教科書編纂委員会編,1993年,医道の日本社

評価方法・評価割合

定期試験（80%）、出席状況（10%）、その他（授業態度や取り組む姿勢＝10%）

授業の目的および到達目標

本科目では整形外科学で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針及び治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。本科目は四肢の関節疾患についてオムニバス方式で行う。

（水出 靖／15回）
肩関節、肘関節、手関節の疾患を取り上げ学習する。主な疾患は肩関節周囲炎、肘部管症候群、テニス肘、手根管症候群などである。

（野口 栄太郎／15回）
股関節、膝関節、足関節の疾患を取り上げ学習する。主な疾患は変形性股関節症、変形性膝関節症、足根管症候群などである。

テーマおよび内容

[1 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／水出 靖

[2 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／水出 靖

[3 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／水出 靖

[4 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／水出 靖

[5 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(5)／水出 靖

[6 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(6)／水出 靖

[7 回] 肘関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／水出 靖

[8 回] 肘関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／水出 靖

[9 回] 肘関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／水出 靖

[10回] 肘関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／水出 靖

[11回] 手・手関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／水出 靖

[12回] 手・手関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／水出 靖

[13回] 手・手関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／水出 靖

[14回] 手・手関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／水出 靖

[15回] まとめ／水出 靖

[16回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／野口 栄太郎

[17回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／野口 栄太郎

[18回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／野口 栄太郎

[19回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／野口 栄太郎

[20回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(5)／野口 栄太郎

[21回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／野口 栄太郎

[22回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／野口 栄太郎

[23回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／野口 栄太郎

[24回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／野口 栄太郎

[25回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(5)／野口 栄太郎

[26回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／野口 栄太郎

[27回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／野口 栄太郎

[28回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／野口 栄太郎

[29回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／野口 栄太郎

[30回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(5)／野口 栄太郎

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床効果の評価法[1414080]

科目名	臨床効果の評価法[1414080]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 5.0〜5.0
教室	①402教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『図解鍼灸療法技術ガイドⅠ』・『図解鍼灸療法技術ガイドⅡ』 矢野忠ほか（文光堂）2012

参考書：『リハビリテーション評価データブック』 道免和久編集 （医学書院） 2010

評価方法・評価割合

定期試験（80%）、出席状況（10%）、その他（授業態度や取り組む姿勢＝10%）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床で遭遇することの多い疾患や症状、ADL（Activity of daily living；日常生活動作）・QOL（Quality of life；生活の質）に関する評価尺度や治療効果判定基準について、その目的、種類・内容・使用法・判定方法を学習し、これらを用いた評価を行うことのできる能力を習得する。適切な臨床判断をするためには、臨床効果の正確な評価が不可欠である。授業では、提示された事例を実際に評価する演習を行うことで、より実践的な能力を身につける。

テーマおよび内容

[1 回] 臨床評価の意義・方法

[2 回] 疼痛の評価法

[3 回] ADL・QOLの評価

[4 回] 整形外科領域の評価(1)

[5 回] 整形外科領域の評価(2)

[6 回] 整形外科領域の評価(3)

[7 回] 整形外科領域の評価(4)

[8 回] 整形外科領域の評価(5)

[9 回] 神経内科領域の評価

[10回] 内科領域の評価

[11回] 泌尿器科領域の評価

[12回] 産科・婦人科領域の評価

[13回] 心療内科領域の評価

[14回] その他の評価

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

眼科・耳鼻科・歯科臨床鍼灸学[1414090]

科目名	眼科・耳鼻科・歯科臨床鍼灸学[1414090]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	粕谷 大智[非常勤講師]
	岡村 興一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 木曜 4.0〜4.0
	前期 木曜 5.0〜5.0
	前期 金曜 4.0〜4.0
	前期 金曜 5.0〜5.0
教室	①401教室 ②411実技実習室

受講条件・その注意
授業開始時には実習着を着用のこと。

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『図解鍼灸療法技術ガイド』ⅠⅡ 矢野忠、坂井友実、安野富美子編集（文光堂）

評価方法・評価割合
定期試験（＝５０％）、出席状況（＝５０％）

授業の目的および到達目標
本科目では、眼科・耳鼻科・歯科で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように理解を深める。また、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づく治療法について学習する。更に、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。本科目はオムニバス方式で行う。 （安野 富美子／５回）眼科領域の鍼灸治療。眼精疲労、仮性近視、緑内障など。 （粕谷 大智／６回）耳鼻科領域の鍼灸治療。耳鳴、難聴、アレルギー性鼻炎など。 （岡村 興一／４回）歯科領域の鍼灸治療。歯痛、顎関節症、歯肉炎など。

テーマおよび内容
［1回］眼科鍼灸（近視） ［2回］眼科鍼灸（眼精疲労） ［3回］眼科鍼灸（眼循環と鍼灸、緑内障と鍼灸） ［4回］耳鼻科鍼灸（めまい、メニエール病）

［5回］耳鼻科鍼灸（耳鳴り）

［6回］耳鼻科鍼灸（難聴、突発性難聴）

［7回］耳鼻科鍼灸（アレルギー性鼻炎）

［8回］耳鼻科鍼灸（扁桃炎）

［9回］耳鼻科鍼灸（耳鼻科鍼灸まとめ）

［10回］歯科鍼灸（歯科鍼灸とは）

［11回］歯科鍼灸（顎関節症）

［12回］歯科鍼灸（歯痛、う歯）

［13回］歯科鍼灸（歯痛、歯肉炎）

［14回］総合実習

［15回］まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

泌尿器・皮膚科臨床鍼灸学[1414100]

科目名	泌尿器・皮膚科臨床鍼灸学[1414100]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小俣 浩[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
	前期 火曜 5.0〜5.0
教室	①401教室 ②510実技実習室

受講条件・その注意
講義中、医学系大学生として、最低限の常識を持つこと。教室座学は平服、実技は白衣、短パン、Tシャツ等を準備。

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書: その他、関連する参考文献（和文・英文）を毎回提示し講義中に紹介し、解説する。 参考書: 『維持透析患者の補完代替医療ガイド』阿岸鉄三編集（医歯薬出版）2010. 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ－鍼灸臨床の場で必ず役立つ実践のすべて－』矢野 忠（文光堂）2012. その他、関連する参考文献（和文・英文）を毎回提示し講義中に紹介し、解説する。

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験：講義最終日、講義の総括後に実技試験を行う。）

授業の目的および到達目標
本科目では、泌尿器科・皮膚科で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシュミレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。

テーマおよび内容
4/8[1回] オリエンテーション－統合医療と鍼灸（医療機関における鍼治療方法の考え方） 4/15[2回] 腎疾患１－腎臓内科領域における鍼灸総論【実技実習】 4/15[3回] 腎疾患１－慢性腎不全１（維持透析医療・腹膜透析） 4/22[4回] 腎疾患２－慢性腎不全２（維持透析医療・血液透析１、２） 4/22[5回] 腎疾患２－慢性腎不全（維持透析患者）の鍼治療【実技実習】 5/20[6回] 泌尿器疾患１－泌尿器科領域の鍼灸総論【実技実習】 5/20[7回] 泌尿器疾患１－過活動膀胱、慢性前立腺炎 5/27[8回] 泌尿器疾患２－インポテンツ・夜尿症

5/27[9回] 泌尿器疾患２－泌尿器疾患の鍼治療【実技実習】

6/3[10回] 皮膚疾患１－皮膚科・形成美容外科・内科領域の鍼灸総論【実技実習】

6/3[11回] 皮膚疾患１－末梢循環障害・褥瘡・膠原病皮膚病変

6/10[12回] 皮膚疾患２－掻痒症（アトピー性皮膚炎・皮膚掻痒症）・美容

6/10[13回] 皮膚疾患２－皮膚疾患の鍼治療【実技実習】

6/17[14回] 授業内容の総括と試験－授業総括

6/17[15回] 授業内容の総括と試験－実技試験

学生へのメッセージ
医学としての鍼灸治療の可能性を“腎疾患・泌尿器科疾患・皮膚疾患”の中で一緒に学びましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

レディース臨床鍼灸学[1414110]

科目名	レディース臨床鍼灸学[1414110]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	辻内 敬子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①405教室 ②411実技実習室

受講条件・その注意
授業開始時には実習着を着用していること。

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：レディース鍼灸学、矢野忠監修、医歯薬出版 参考書：疾患別治療大百科 シリーズ7 産婦人科疾患、早乙女智子他、医道の日本社

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験＝50%）、出席状況（＝５０％）

授業の目的および到達目標
本科目では、東西医学からみた女性の身体の捉え方と診方、女性のライフサイクルに応じたヘルスプロモーションと鍼灸治療、およびマイナートラブルケアと鍼灸治療について学習する。特に、鍼灸臨床と関連の深い特定の女性科疾患や愁訴を取り上げ、それらに関係する現代医学的な病態および東洋医学的な病証について学習するとともに鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、適応と禁忌の判断ができるように学習する。

テーマおよび内容
[1 回] レディス鍼灸とは：女性のライルサイクルに応じた「レディス鍼灸」の概要について。 [2 回] 東洋医学の診察学：レディス鍼灸を行う際の東洋医学的診察法について学ぶ。 [3〜4 回] 健康美と鍼灸：美容鍼灸の概要とシミュレーション実習を行う。 [5 〜7 回] 性成熟期と鍼灸： 月経困難症、月経前症候群に関する現代医学的な病態、東洋医学的な病証について学習し、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。 [8〜11回] 妊娠期と鍼灸： 妊娠期のマイナートラブル（つわり、骨盤位、和痛分娩、乳汁分泌不全、妊娠期の腰痛、妊娠期の便秘）に対する現代医学的な病態、東洋医学的な病証について学習し、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。 [12〜13回]

更年期のマイナートラブル（更年期障害）に対する現代医学的な病態、東洋医学的な病証について学習し、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。

[14回]まとめと総合実習

[15回]まとめ祓

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

疼痛管理臨床鍼灸学[1414120]

科目名	疼痛管理臨床鍼灸学[1414120]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 1.0〜1.0
教室	①401教室 ②411実技実習室

受講条件・その注意
初回の授業で指導する

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ（文光堂） 参考書：授業の中で紹介する

評価方法・評価割合
定期試験（実技および筆記試験）、出席状況、授業中の課題

授業の目的および到達目標
本科目では、疼痛管理に必要な知識として痛みの概念および評価と麻酔科・ペインクリニック領域で取り扱う疾患（Complex regional pain syndrome、帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛、癌性疼痛など）の概念、原因、症状、現代医学的治療法（神経ブロック療法など）について学習する。実習では、鍼灸で取り扱うことの多い難治性の慢性疼痛疾患や病態に対する評価法と鍼灸治療法についてシミュレーション実習により習得する。その際、適応と禁忌の判断ができるように学習する。

テーマおよび内容
[1 回] 授業概要の説明、ペインクリニックとは？ [2 回] 疼痛の評価方法の実際 [3 回] ペインコントロールの実際 [4 回] 難治性慢性疼痛疾患の紹介 その1 [5 回] 難治性慢性疼痛疾患の紹介 その2 [6 回] 各種疾患の鍼灸治療 その1 [7 回] 各種疾患の鍼灸治療 その2、筆記試験 [8 回] 各種疾患の鍼灸治療 その3 [9 回] 各種疾患の鍼灸治療 その4

[10回] 各種疾患の鍼灸治療 その5

[11回] 各種疾患の鍼灸治療 その6

[12回] 各種疾患の鍼灸治療 その7

[13回] まとめ・復習1

[14回] まとめ・復習2

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ鍼灸学Ⅰ[1414130]

科目名	スポーツ鍼灸学Ⅰ[1414130]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	藤本 英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
	宮本 俊和[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
曜日・時限	後期 月曜 1.0〜1.0
	後期 月曜 2.0〜2.0
教室	①402教室 ②510実技実習室

受講条件・その注意
各授業毎に、次回のテーマに触れるので、予習・復習をしておくこと。

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書：『スポーツ鍼灸の実際』福林徹・宮本俊和編（医道の日本社） 参考書：授業毎に資料を配付する。

評価方法・評価割合
定期試験（筆記試験）、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、スポーツ領域における鍼灸治療の実際について、スポーツ傷害の概念、各種疾患や症状についての原因、症状、診察方法および鍼灸治療の実際を中心に学習する。スポーツ鍼灸学Ⅰでは、代表的なスポーツ傷害として、特に日常的によく見られるスポーツ傷害を部位別に取りあげ、それらの鍼灸治療についてシミュレーション実習により診察・治療のポイントを習得する。

テーマおよび内容
[1 回] スポーツ分野の鍼灸師の役割：現代の健康観、スポーツ鍼灸の目的、鍼灸師の役割 [2 回] スポーツ外傷・障害とは：スポーツ外傷・障害とは、発生機序、検査法 [3 回] スポーツ外傷・障害の鍼灸法：スポーツ外傷・障害の鍼灸治療法 [4 回] 腰部のスポーツ外傷・障害①：スポーツ選手の腰部障害と鍼灸治療（総論） [5 回] 腰部のスポーツ外傷・障害②：検査法 [6 回] 腰部のスポーツ外傷・障害③：鍼灸治療法 [7 回] 腰部のスポーツ外傷・障害④：鍼灸治療と運動療法 [8 回] 膝関節のスポーツ外傷・障害①：スポーツ選手の膝関節障害と鍼灸治療（総論）

[9 回] 膝関節のスポーツ外傷・障害②：検査法

[10回] 膝関節のスポーツ外傷・障害③：鍼灸治療法

[11回] 膝関節のスポーツ外傷・障害④：鍼灸治療と運動療法

[12回] 肩関節のスポーツ外傷・障害①：スポーツ選手の肩関節障害と鍼灸治療（総論）

[13回] 肩関節のスポーツ外傷・障害②：検査法

[14回] 肩関節のスポーツ外傷・障害③：鍼灸治療法

[15回] 肩関節のスポーツ外傷・障害④：鍼灸治療と運動療法a

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ鍼灸学ＩＩ[1414140]

科目名	スポーツ鍼灸学ＩＩ[1414140]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	藤本 英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
	宮本 俊和[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 月曜 1.0〜1.0
	前期 月曜 2.0〜2.0
教室	①401教室 ②510実技実習室

受講条件・その注意

各授業毎に、次回のテーマに触れるので、予習・復習をしておくこと。
実習にあたりTシャツ、短パンを準備してください。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：福林徹・宮本俊和編「スポーツ鍼灸の実際」医道の日本社

参考書：授業毎に資料を配布する。

評価方法・評価割合

定期試験（期末実技試験）、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツ領域における鍼灸治療の実際について、スポーツ鍼灸学Ｉの内容に続いて、下肢の代表的なスポーツ傷害（シンスプリント、ジャンパー膝等）について取り上げ、それらの鍼灸治療についてシミュレーション実習により診察・治療のポイントを習得する。鍼灸の目的は、発生した症状や病態の治療以外に、傷害を予防するためのコンディショニング、競技能力の向上など様々である。これらに加え、基本的なスポーツ傷害におけるテーピング法についても学習する。

テーマおよび内容

［1回］ 肘のスポーツ障害①

［2回］ 肘のスポーツ障害②

［3回］ 肘のスポーツ障害③

［4回］ シンスプリント・アキレス腱炎①

［5回］ シンスプリント・アキレス腱炎②

［6回］ 足関節捻挫①

［7回］ 足関節捻挫②

［8回］ 足関節捻挫③

［9回］ 肉離れ①

［10回］ 肉離れ②

［11回］ 肉離れ③

［12回］ 全身の診かた①

［13回］ 全身の診かた②

［14回］ まとめ

［15回］ まとめ

学生へのメッセージ
質問がある場合には、授業前後に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

老年臨床鍼灸学[1414150]

科目名	老年臨床鍼灸学[1414150]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 5.0〜5.0
教室	①401教室 ②411実技実習室

受講条件・その注意

・授業開始時には実習着着用のこと
・授業開始とともに小テストを毎回行います。遅刻者は小テストが受けられません。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：『図解臨床鍼灸技術ガイド』Ⅰ・Ⅱ、矢野忠、坂井友実、安野富美子編集（文光堂）２０１２

評価方法・評価割合

定期試験（期末実技試験＝30%）、出席状況（・成績評価に反映する割合＝40%）、授業中の課題（実技評価）

授業の目的および到達目標

本科目では、加齢に伴い、身体機能がさまざまな面で低下している老年者の鍼灸治療のあり方について学習する。特に、老年者の鍼灸臨床と関連の深い疾患や症状を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシュミレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。また、高齢者を取り巻く社会的環境や高齢社会における鍼灸医療の役割について理解する。

テーマおよび内容

［1回］高齢者の特徴（身体的特徴、心理的特徴）と鍼灸治療

［2回］高齢者疾患の特徴と鍼灸治療

［3回］高齢者に対する鍼灸施術と診察上の注意

［4回］高齢者に対する鍼灸施術と臨床上の問題点、施術の注意点と特徴

［5回］〜［8回］高齢者疾患と鍼灸治療（骨粗鬆症、老年者の腰痛）

［9回］〜［12回］高齢者疾患と鍼灸治療（間欠跛行、脊柱管狭窄症、閉塞性動脈硬化症）

［13回］〜［14回］高齢者に対する鍼灸治療のまとめとシュミレーション実習

［15回］まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

日本伝統鍼灸治療学[1414160]

科目名	日本伝統鍼灸治療学[1414160]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	岡田 明三[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0〜2.0
教室	①401教室 ②411実技実習室

受講条件・その注意
日本伝統鍼灸の診断法と治療法

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書:『東洋医学概論』（学校協会） 『日本鍼灸医学基礎編』(経絡治療学会)

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験１回「診断カルテ」提出：持ち込み可＝試験６０％）、出席状況（出席回数＝４０％）、レポート（随時）、授業中の課題（診断カルテ）

授業の目的および到達目標
本科目では、日本における伝統的な鍼灸治療、特に戦前の日本で興った「経絡治療」について総合的に学習する。経絡治療の歴史から日本の鍼灸治療の特徴を学ぶ。また、経絡治療における蔵象および病理や、基礎となる四診（望診・聞診・問診・切診）、特に脈診や腹診、切経などについて実習を交えて学習する。これによって、臓腑経絡・虚実寒熱の理論に基づく病態把握、およびそれに基づく鍼灸治療体系について述べられることを目標とする。更に経絡治療に特徴的な運鍼法についても、より臨床に近い形での実技実習を通して学びを深めていく。

テーマおよび内容
[1回] 日本伝統鍼灸の診断法と治療法の概説 [2回] 診断法各論 四診法について [3回] 望診 [4回] 聞診 [5回] 問診 [6回] 切診 脈診 [7回] 切診 腹診 [8回] 四診の実習１（臨床カルテの作成） [9回] 四診の実習２（臨床カルテの作成）

[10回] 治療法各論 刺鍼法

[11回] 虚実補瀉 要穴

[12回] 虚実補瀉 腹部・背部

[13回] 随証治療１

[14回] 随証治療２

[15回] 日本伝統鍼灸の診断法と治療法のまとめと評価

学生へのメッセージ
随証療法を修得する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

中医鍼灸治療学[1414170]

科目名	中医鍼灸治療学[1414170]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	郭 珍[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①401教室 ②510実技実習室

受講条件・その注意

・30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなします。・肘と膝までを出しやすい服装が望ましい。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』東洋療法学校協会編（医道の日本社）1993

参考書:『東洋医学概論（はりきゅう編）』東洋療法学校協会編（医道の日本社）
『鍼灸学・臨床編』日中共同編集（東洋学術出版社）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験）

授業の目的および到達目標

本科目では、中国の鍼灸治療について学習する。中医鍼灸学の特徴としての弁証選穴、弁経選穴を取り上げ、その基礎から臨床までの診療体系について演習を通じて学習する。特に中国鍼毫鍼の刺法、得気の意義、候気法、催気法、行気法などの基本技術、補瀉基本手技などについて実習を交えて習得する。さらに三稜鍼、皮膚鍼、皮内鍼、頭皮鍼などの応用について、適応範囲、基本操作、注意事項などをシミュレーション実習により学習させる。

テーマおよび内容

[1回] 中医学的診断プロセス（一）理・法・方（穴）・術 弁証法：経絡弁証

[2回] 中医学的診断プロセス（二）弁証法：八綱弁証、臓腑弁証、気血津液弁証

[3回] 中医学的診察法：四診法（重点的） 望診：顔色、舌診 聞診：声、呼吸 問診：寒熱、汗、痛み 切診：脈診、腹診

[4回] 中医学的治療（一）治療原則：補虚瀉実、本治標治、因人因時因地施治

[5回] 中医学的治療（二）弁証施術：臓腑経絡弁証選穴、穴性選穴、手技、鍼具による補法瀉法

[6回] 症候、疾患に対する中医学的治療 1.下痢と便秘：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示

[7回] 2.冷え：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示

[8回] 3.肥満：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示 耳穴減肥演習

[9回] 4.めまい：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示、頭部取穴演習

[10回] 5.耳鳴りと難聴：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示

[11回] 6.不眠：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示、皮内鍼演習

[12回] 7.不妊：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示

[13回] 8.更年期障害：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示

[14回] 9.高血圧：弁証分型、症状、所見、治法、基本穴と手技および解説、症例提示 刺絡演習

[15回] 10.定期試験および授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

医療面接[1414180]

科目名	医療面接[1414180]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀 義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
曜日・時限	後期 水曜 4.0〜4.0
	後期 水曜 5.0〜5.0
教室	①402教室 ②別途連絡

受講条件・その注意
1．本実習では、出席および受講態度（身だしなみ等も含む）を重視します。 2．これまでに学んできた疾患に関する知識が必要とされる実習です。各疾患の臨床症状や所見等を復習しておいてください。

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書：必要に応じ、適宜配布する。 参考書：『鍼灸臨床における医療面接』 丹澤章八著（医道の日本社） 『臨床の知とは何か』 中村雄二郎著(岩波新書)

評価方法・評価割合
出席状況、その他（受講態度、総合実技の結果）

授業の目的および到達目標
本科目では、基本的臨床技能としてOSCE（客観的臨床能力試験）の中で重要な位置にある医療面接の目的、意義、技法を学習する。その主な内容は、医療面接と問診の違い、医療面接に必要な態度と技法、医療面接とコミュニケーション、質問法、患者の解釈モデルの呈示、患者への説明と教育、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、これらの医療面接の基本的な理論を学んだ後、学生同士が患者役と面接者役となってロールプレーを行うシミュレーション実習を行う。

テーマおよび内容
[1 回] オリエンテーション：本実習の概要、学習の進め方と留意事項等 [2 回] 医療面接における基本技術(1)：医療面接の基本技能、態度、解釈モデル等について [3 回] 医療面接における基本技術(2)：患者の特性に応じた医療面接の基本について [4 回] 医療面接結果のカルテ記載：医療面接結果の整理と鍼灸カルテへの記載の実際

[5 回] ロールプレイ実習（1）

[6 回] ロールプレイ実習（2）

[7 回] ロールプレイ実習（3）

[8 回] ロールプレイ実習（4）

[9 回] ロールプレイ実習（5）

担当教員1名につき５～６名の小グループに分かれ、一連の医療面接をシミュレートしたロールプレイ形式の実習を行う。
ロールプレイ実習の後は、グループディスカッションを実施する。

[10回] ロールプレイ実習（6）

[11回] ロールプレイ実習（7）

[12回] ロールプレイ実習（8）

[13回] ロールプレイ実習（9）

[14回] まとめ・総合実技(1)

[15回] まとめ・総合実技(2)

担当教員を模擬患者としたOSCE型式の医療面接実技実習を行う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

附属鍼灸センター実習Ⅰ[1414190]

科目名	附属鍼灸センター実習Ⅰ[1414190]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀 義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本 英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
	矢嶌 裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
曜日・時限	前期 火曜 1.0〜1.0
	前期 火曜 2.0〜2.0
	前期 水曜 1.0〜1.0
	前期 水曜 2.0〜2.0
	前期 木曜 1.0〜1.0
	前期 木曜 2.0〜2.0
	前期 金曜 1.0〜1.0
	前期 金曜 2.0〜2.0
教室	①附属鍼灸センター

受講条件・その注意
・本実習は附属鍼灸センターで、グループごとに行う。 ・現場実習であることを自覚し、真面目な態度で臨むこと。 ・実習中の私語や飲食、つけ爪、指輪は禁止する。 ・教員の指示に従わない場合は退室を命じるとともに、以後の実習を不可とする場合がある。

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
「実習の手引き」を配布する。

評価方法・評価割合
出席状況（20%）、レポート（中間1回＝40%）、授業中の課題（実習の達成状況を評価する＝40%）

授業の目的および到達目標
本科目では、これまで学習した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法をベースとして附属鍼灸治療センターにおいて患者の診療を通して実習する。問診、診察による病態把握や病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の評価等の実際を見修する。さらに、医療スタッフの一員として施術者の補助をするなど、診療行為の一部分を担うことによって鍼灸師および医療人としての使命を自覚させ、医療人としての資質を養う。

テーマおよび内容
[1回] オリエンテーション [2回] 鍼灸臨床の実際 [3回] 鍼灸臨床の実際 [4回] 鍼灸臨床の実際 [5回] 鍼灸臨床の実際 [6回] 鍼灸臨床の実際 [7回] 鍼灸臨床の実際 [8回] 鍼灸臨床の実際 [9回] 鍼灸臨床の実際 [10回] 鍼灸臨床の実際 [11回] 鍼灸臨床の実際 [12回] 鍼灸臨床の実際 [13回] 鍼灸臨床の実際 [14回] 鍼灸臨床の実際 [15回] 試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

附属鍼灸センター実習ⅠⅠ[1414200]

科目名	附属鍼灸センター実習ⅠⅠ[1414200]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀 義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本 英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
	矢嶌 裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後不定期
曜日・時限	後期 火曜 1.0〜1.0
	後期 火曜 2.0〜2.0
	後期 水曜 1.0〜1.0
	後期 水曜 2.0〜2.0
	後期 木曜 1.0〜1.0
	後期 木曜 2.0〜2.0
	後期 金曜 1.0〜1.0
	後期 金曜 2.0〜2.0
教室	①附属鍼灸センター

受講条件・その注意

・本実習は附属鍼灸センターで、グループごとに行う。
・現場実習であることを自覚し、真面目な態度で臨むこと。
・実習中の私語や飲食、つけ爪、指輪は禁止する。
・教員の指示に従わない場合は退室を命じるとともに、以後の実習を不可とする場合がある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

「実習の手引き」を配布する。

評価方法・評価割合

出席状況（20%）、レポート（中間1回＝40%）、授業中の課題（実習の達成状況を評価する＝40%）

授業の目的および到達目標
本科目では、これまで学習した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法をベースとして附属鍼灸治療センターにおいて患者の診療を通して実習する。鍼灸治療センターに来所する患者に対して問診、診察の実際を行い、病態の把握、鍼灸治療の適否の判断、病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の実際、評価等を教員の指導の下に行う。これら一連の診療行為を行うことによって鍼灸師および医療人としての自覚を更に高めるとともに、自立して鍼灸臨床が行える資質を養う。

テーマおよび内容
[１回] オリエンテーション
[２回] 鍼灸臨床の実際
[３回] 鍼灸臨床の実際
[４回] 鍼灸臨床の実際
[５回] 鍼灸臨床の実際
[６回] 鍼灸臨床の実際
[７回] 鍼灸臨床の実際
[８回] 鍼灸臨床の実際
[９回] 鍼灸臨床の実際
[10回] 鍼灸臨床の実際
[11回] 鍼灸臨床の実際
[12回] 鍼灸臨床の実際
[13回] 鍼灸臨床の実際
[14回] 鍼灸臨床の実際
[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

カンファレンス（症例検討）[1414210]

科目名	カンファレンス（症例検討）[1414210]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀 義久[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後不定期
曜日・時限	後期 水曜 3.0〜3.0
教室	①附属鍼灸センター

授業の形態
実習(共同)

評価方法・評価割合
出席状況（評価の対象は必要出席回数の4/5以上を満たした者とする）、レポート、授業中の課題（適宜担当教員より課題が出される）、その他（実習態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、附属鍼灸治療センターで実際に治療した患者について症例を報告し、討論する。実際に治療した患者の問診や身体診察によって得られた所見を基にプレゼンテーションを行い、考察した病態を中心に討論する。また、治療プランの立て方、評価方法、得られた結果の考察についても討論する。このことを通して、症例報告の重要性とその意義について学ぶ。加えて、鍼灸臨床における問題点の把握の仕方と問題解決の方法についても学習する。

テーマおよび内容
[第１回] オリエンテーション [第２回]〜[第15回] 担当教員の指導のもとで、症例報告作成実習を段階的に実施する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

症例報告の書き方・発表の仕方[1414220]

科目名	症例報告の書き方・発表の仕方[1414220]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀 義久[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
教室	①401教室 ②附属鍼灸センター

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
適宜担当教員より指示する。

評価方法・評価割合
出席状況（評価の対象は必要出席回数の4/5以上を満たした者とする）、レポート、授業中の課題（適宜担当教員より課題が出される）、その他（実習態度、発表会）

授業の目的および到達目標
本科目では、症例報告の書き方、スライドの作成の仕方、発表の仕方などについて学習する。症例報告の書き方については、独自に作成した書式に従い、附属鍼灸治療センターで担当した症例をまとめ、発表し、学生同士で討論を行う。スライドの作成の仕方、発表の仕方については、情報リテラシーⅠ、Ⅱで学んだ技法を活かし、症例報告のひな形の例示を通して学ぶところから始め、学生自らがPCを活用して発表を行う。このことを通して症例報告の仕方を学ぶと共に、学会発表できる能力を養う。

テーマおよび内容
[1回] オリエンテーション [2回]〜[第14回] 担当教員の指導のもとで、症例報告作成実習を段階的に実施し、発表用資料を作成する。 [第15回] 症例発表会（ケースカンファレンス）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

鍼灸医学総合演習Ⅰ[1414230]

科目名	鍼灸医学総合演習Ⅰ[1414230]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
	高梨 知揚[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 木曜 4.0〜4.0
	通年 火曜 3.0〜3.0
教室	①402教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

1）20分以上の遅刻退席は欠席とみなします。
2）授業中の飲食、私語はしないこと。
3）授業の妨げまた他の学生さんの邪魔になるような場合には退室してもらいます。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『解剖学』（医歯薬出版）
『生理学』（医歯薬出版）
『新版 経絡経穴概論』（医道の日本社）
『衛生学・公衆衛生学』（医歯薬出版）
『病理学概論』（医歯薬出版）

参考書：『国家試験出題基準』 改定版

評価方法・評価割合

定期試験（中間筆記試験、期末筆記試験。）、出席状況（評価の対象は必要出席回数2/3以上を満たした者とする。）、授業中の課題（それぞれのまとめの授業内に試験を行い成績に勘案する。）

授業の目的および到達目標

本科目では、現代医学および鍼灸医学の各科目で学習した主要事項を総合的、統合的に関連づけられるように学習する。特に、現代医学系、鍼灸医学系の基礎科目の主要事項について関連づけられるよう演習を行う。現代医学系では、人体の構造と機能、公衆衛生学、病理学、鍼灸医学系では経絡経穴学、鍼灸手技総論などを中心に、主要事項を取り上げ各科にまたがり総合的に演習を行う。

テーマおよび内容

[1 回] 人体の機能：細胞・代謝

[2 回] 人体の機能：血液・免疫

[3 回] 人体の機能：循環

[4 回] 人体の機能：呼吸

[5 回] まとめ：細胞・代謝・血液・免疫・循環・呼吸

[6 回] 人体の機能：消化と吸収

[7 回] 人体の機能：栄養と代謝・体温

[8 回] 人体の機能：排泄

[9 回] 人体の機能：内分泌・生殖

[10回] まとめ：消化と吸収・栄養と代謝・体温・排泄・内分泌・生殖

[11回] 人体の機能：神経

[12回] 人体の機能：筋

[13回] 人体の機能：運動

[14回] 人体の機能：感覚

[15回] まとめ：神経・筋・運動・感覚

[16回] 人体の構造：人体の構成

[17回] 人体の構造：循環器系

[18回] 人体の構造：呼吸器系

[19回] 人体の構造：消化器系

[20回] まとめ：人体の構成・循環器系・呼吸器系・消化器系

[21回] 人体の構造：泌尿器系・生殖器系

[22回] 人体の構造：内分泌系

[23回] 人体の構造：神経系

[24回] 人体の構造：感覚器系

[25回] まとめ：泌尿器系・生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系

[26回] 人体の構造：運動器系：全身の骨格・体幹

[27回] 人体の構造：運動器系：上肢

[28回] 人体の構造：運動器系：下肢

[29回] 人体の構造：運動器系：頭頸部

[30回] 運動器系のまとめ

＊各授業内で適宜、人体の構造・機能にかかわる疾病、鍼灸手技・経絡経穴との関連性について学ぶ。

学生へのメッセージ
人体の構造と機能を有機的に結び付けて学び、診察、治療、東洋医学的考え方を総合的に復習します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

鍼灸医学総合演習ⅠⅠ[1414240]

科目名	鍼灸医学総合演習ⅠⅠ[1414240]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
	高梨 知揚[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 4.0〜4.0
	前期 火曜 3.0〜3.0
	後期 水曜 4.0〜4.0
	後期 木曜 3.0〜3.0
	前期 木曜 5.0〜5.0
	前期 金曜 5.0〜5.0
	後期 火曜 4.0〜4.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

1）20分以上の遅刻退席は欠席とみなします。
2）授業中の飲食、私語はしないこと。
3）授業の妨げまた他の学生さんの邪魔になるような場合には退室してもらいます。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『臨床医学各論』 （東洋療法学会編）
『臨床医学総論』 （東洋療法学会編）
『東洋医学臨床論 はりきゅう編』 （東洋療法学会編）、「解剖学」医歯薬出版、「生理学」医歯薬出版

評価方法・評価割合

定期試験（中間筆記試験、期末筆記試験）、授業中の課題（それぞれのまとめの授業内に試験を行い成績に勘案する。）

授業の目的および到達目標

本科目では、現代医学および鍼灸医学の各科目で学習した主要事項を総合的、統合的に関連づけられるように学習する。特に、現代医学系、鍼灸医学系の臨床科目の主要事項について関連づけられるよう演習を行う。現代医学系では、内科学、整形外科学、スポーツ医学、産婦人科学、泌尿器科、耳鼻科、眼科、皮膚科、鍼灸医学系では現代医学系の科目に準じた内容について、主要事項を取り上げ、総合的に学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 感染症：細菌性感染症、ウイルス性感染症、性感染症

[2 回] 感染症：鍼灸治療における感染症対するリスク管理

[3 回] 消化管疾患：口腔疾患、食道疾患、胃十二指腸疾患、腸疾患、肝臓・胆のう・膵臓疾患

[4 回] 消化管疾患：腹痛、悪心・嘔吐、便秘と下痢に対する鍼灸治療
[5 回] 呼吸器疾患：感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患、気胸、肺癌

[6 回] 呼吸器疾患：鼻閉、鼻汁、咳嗽、喘息、胸痛に対する鍼灸治療

[7 回] 腎・尿器疾患：原発性糸球体腎炎、腎不全、感染症、腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患

[8 回] 腎・尿器疾患：排尿障害、浮腫、インポテンツに対する鍼灸治療

[9 回] 循環器疾患：心臓疾患、冠動脈疾患、動脈疾患、血圧異常

[10回] 循環器疾患：高血圧症、低血圧症、のぼせと冷えに対する鍼い治療

[11回] 整形外科疾患：関節疾患

[12回] 整形外科疾患：筋・腱疾患

[13回] 整形外科疾患：脊椎疾患

[14回] 整形外科疾患：外傷

[15回] 整形外科疾患：その他の整形外科疾患

[16回] 整形外科疾患：骨代謝性疾患、骨腫瘍、脊髄損傷、外傷、先天異常

[17回] 整形外科疾患：肩こり、五十肩、頚肩腕痛、肩関節痛、上肢痛に対する鍼灸治療

[18回] 整形外科疾患：腰下肢痛に対する鍼灸治療

[19回] 整形外科疾患：ひざ痛に対する鍼灸治療

[20回] 神経疾患：脳血管疾患

[21回] 神経疾患：感染性疾患、脳・脊髄腫瘍、基底核変性疾患、認知症性疾患、

[22回] 神経疾患：筋疾患、運動ニューロン疾患

[23回] 神経疾患：末梢神経疾患、神経痛、機能性疾患

[24回] 神経疾患：頭痛、顔面痛、歯痛、顔面麻痺に対する鍼灸治療

[25回] 神経疾患：顔面麻痺、運動麻痺に対する鍼灸治療

[26回] 血液・造血器疾患,代謝・栄養疾患,内分泌疾患：
赤血球疾患、白血球疾患、リンパ網内疾患、出血性素因,糖代謝以上、脂質代謝異常、尿酸代謝異常,下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患

[27回] その他の領域：小児科疾患、婦人科疾患、眼疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科、一般外科

[28回] その他の領域：眼精疲労、めまい、耳鳴り、不眠、疲労と倦怠、

[29回] その他の領域：月経異常、肥満、発熱、発疹、小児の症状、脱毛

[30回] 症例検討：整形外科的疾患、神経疾患c

学生へのメッセージ
基礎専門科目と専門科目を有機的に結び付けて、疾病、診察、鍼灸治療について総復習をする。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

学外関連施設実習（見学実習）[1414250]

科目名	学外関連施設実習（見学実習）[1414250]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	古賀 義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原 正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本 英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通不定期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

評価方法・評価割合
出席状況（ 20%）、レポート（ 50%）、その他（実習先の評価＝ 30%）

授業の目的および到達目標
本科目では、学外の大学附属病院などの現代医学の医療施設で行われている鍼灸の見学実習、および介護鍼灸、レディース鍼灸、中医鍼灸などの特色ある鍼灸治療院での見学実習を行う。医療現場の見学を通じて、医療人としての鍼灸師の役割について理解する。また、開業鍼灸の現場を見学し、開業鍼灸師の役割を理解する。

テーマおよび内容
〔１～２回〕オリエンテーション、実習上の諸注意など 〔３～１２回〕各実習先での見学実習（1名、1施設） 大学病院：東京大学医学部附属病院（リハビリテーション科、麻酔科） 埼玉医科大学（東洋医学センター） 介護鍼灸：北原治療院他 レディス鍼灸：せりえ鍼灸治療室、豊倉助産院他 中医鍼灸：郭鍼灸治療室他 〔１３～１５回〕まとめと発表

学生へのメッセージ
担当教員、見学実習先の指示に従う事

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

理学的検査法実習[1414310]

科目名	理学的検査法実習[1414310]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

・30分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・白衣を着用すること。

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：図説 鍼灸療法技術ガイド 矢野忠、坂井友実他 編集（文光堂）2012 I

参考書：『標準整形外科学』 鳥巣武彦、国分正一、総編集（医学書院）
『頚部の痛み』 寺山和雄、片岡浩、監修（南江堂）
『腰痛診療のコツ』 菊地臣一（永井書店）
：『標準理学療法学 理学療法評価学』 内山靖編（医学書院）2006
『目でみる運動機能療法』 竹内義亨、澤田規（南光堂）2005
『エビデンスに基づく整形外科徒手検査法』 柳澤健、赤坂清和監訳（エルゼピアジャパン）2007

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、理学的検査法について、その目的・意義・方法・判定法などを学習する。医療は患者の病態に応じて方針をたて治療を行うことが必要となるが、病態を把握するための手段が制約を受ける鍼灸臨床においては、徒手による検査・評価が必要不可欠である。各検査項目について、その解釈の歴史的な経緯、解剖学や運動学をふまえた検査のメカニズムや信頼性・妥当性を理解するとともに、実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。主として頭頸部、上肢部、腰下肢部、四肢関節の理学的検査法を取り扱う。

テーマおよび内容

[1 回] 頚部整形外科疾患と理学的検査：理学検査の意義、各種の理学テストの解説と実際①（坂井）

[2 回] 頚部整形外科疾患と理学的検査：各種の理学テストの解説と実際②（坂井）

[3 回] 頚部整形外科疾患と理学的検査：ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）①（坂井）

[4 回] 頚部整形外科疾患と理学的検査：ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）②（坂井）

[5 回] 腰部整形外科疾患と理学的検査：各種の理学テストの解説と実際①（坂井）

[6 回] 腰部整形外科疾患と理学的検査： 各種の理学テストの解説と実際②（坂井）

[7 回] 腰部整形外科疾患と理学的検査：ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）①（坂井）

[8 回] 腰部整形外科疾患と理学的検査：ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）②（坂井）

[9 回] 頚部、腰部整形外科疾患と理学的検査：まとめ、テスト（坂井）

[10回] 測定法：関節可動域（ROM）,四肢長・周径、徒手筋力検査法（水出）

[11回] 関節疾患と理学的検査：肩関節（水出）

[12回] 関節疾患と理学的検査：肘関節、手関節、指関節（水出）

[13回] 関節疾患と理学的検査：膝関節（水出）

[14回] 関節疾患と理学的検査：股関節、足関節（水出）

[15回]測定法および関節疾患 まとめ（水出））

学生へのメッセージ

・実技の際には当該部の露出が可能なTシャツ、短パンなどの軽装であること。
・解剖学的知識がベースとなるので事前に学習しておくこと。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

整形外科臨床鍼灸学Ⅰ[1414320]

科目名	整形外科臨床鍼灸学Ⅰ[1414320]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	山口 智[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 水曜 4.0〜4.0
	後期 水曜 5.0〜5.0
	後期 金曜 4.0〜4.0
	後期 金曜 5.0〜5.0
教室	①510実技実習室 ②別途連絡

受講条件・その注意

・30分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・実習にあたる時間はTシャツ、短パンなど軽装であること。

授業の形態

演習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：図説 鍼灸療法技術ガイド 矢野忠、坂井友実他 編集（文光堂） II

参考書：『標準整形外科学』 鳥巣武彦、国分正一、総編集（医学書院）
『頚部の痛み』 寺山和雄、片岡浩、監修（南江堂）
『腰痛診療のコツ』 菊地臣一（永井書店）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では整形外科学で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針及び治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてはシミュレーション実習を行う。

1)頚肩腕痛を呈する頚部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は頚椎症、頚椎椎間板ヘルニア、外傷性頚部症候群、胸郭出口症候群などである。

2)腰下肢痛を呈する腰部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、いわゆる腰痛症、骨粗鬆症などである。

テーマおよび内容

[1 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（1）：疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井 友実

[2 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（2）：診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療（1）／坂井 友実

[3 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（3）：診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療（2）／坂井 友実

[4 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（4）：診察法の実際（頚椎の触診）と関節刺鍼／坂井 友実

[5 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（5）：低周波鍼通電療法（1）／坂井 友実

[6 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア（6）：低周波鍼通電療法（2）／坂井 友実

[7 回] 胸郭出口症候群（1）：疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井 友実

[8 回] 胸郭出口症候群（2）：診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼治療（1）／坂井 友実

[9 回] 胸郭出口症候群（3）：診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼治療（2）／坂井 友実

[10回] 胸郭出口症候群（4）：鍼治療（3）／坂井 友実

[11回] 外傷性頸部症候群（1）：疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井 友実

[12回] 外傷性頸部症候群（2）：鍼灸治療／坂井 友実

[13回] 頚肩腕症候群・肩こり：疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応、低周波鍼通電療法 ／坂井 友実

[14回] まとめ（1）／坂井 友実

[15回] まとめ (2)／坂井 友実

[16回] 腰痛症（1）疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口 智

[17回] 腰痛症（2）診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療／山口 智

[18回] 腰痛症（3）低周波鍼通電療法（1）／山口 智

[19回] 腰痛症（4）低周波鍼通電療法（2）／山口 智

[20回] 腰椎椎間板ヘルニア（1）疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口 智

[21回] 腰椎椎間板ヘルニア（2）診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療／山口 智

[22回] 腰椎椎間板ヘルニア（3）低周波鍼通電療法（1）／山口 智

[23回] 腰椎椎間板ヘルニア（4）低周波鍼通電療法（2）／山口 智

[24回] 腰部脊柱管狭窄症（1）疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口 智

[25回] 腰部脊柱管狭窄症（2）診察法の実際（理学的検査と評価）と鍼灸治療／山口 智

[26回] 腰部脊柱管狭窄症（3）低周波鍼通電療法（1）／山口 智

[27回] 腰部脊柱管狭窄症（4）低周波鍼通電療法（2）／山口 智

[28回] まとめ(1)／山口 智

[29回] まとめ(2)／山口 智

[30回] まとめ(3)／山口 智

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

発育発達論[1415040]

科目名	発育発達論[1415040]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	広瀬 統一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,スポーツプログラマー

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、子どもの発育発達特性、スポーツ活動・運動が子どもの心身の成長に与える影響、発育発達期に過重負荷をかけることによる弊害などについて学習し、子どもたちのスポーツ活動・運動のあり方についての理解を深める。講義のポイントとして、発育発達過程の一般的ステージ分け（スキャモンの発育発達曲線）の理解や各ステージにおける身体的特徴や心理的特徴を理解させる。また、老化と体力運動能力、作業能力についてや、体力に及ぼす先天性や後天性の要因についても理解させる。

テーマおよび内容
[1回] 発育発達期の身体的特徴
[2回] 発育発達期の心理的特徴
[3回] 発育発達期に多いケガや病気
[4回] 発育発達期のプログラム
[5回] 中高年者とスポーツプログラム
[6回] 老化の過程と生体の構造と機能変化
[7回] 女性とスポーツ/身体的特徴について
[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ心理学総論[1415050]

科目名	スポーツ心理学総論[1415050]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	堀野 博幸[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書：『新版 運動心理学入門』 松田岩男、杉原隆（大修館書店），『最新スポーツ心理学－その奇跡と展望』 日本スポーツ心理学会（大修館書店）
『スポーツメンタルトレーニング教本』 日本スポーツ心理学会（大修館書店）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的には、スポーツ活動や運動を行うことによって、気分や自己概念、パーソナリティーなどに関する長期的、短期的効果がもたらされることについての理解やスポーツ活動や運動に対する考え方や活動（行動）は、その人のもつ性格や、おかれている環境によって大きく異なること、また、それらの相違はスポーツ・運動の選択、さらにはスポーツ・運動のパフォーマンスにも影響することなどについて学習する。

テーマおよび内容

[1回] スポーツと心

[2回] スポーツにおける動機づけ（生活習慣病の人に対する行動変容）

[3回] 行動心理学（個人・集団）

[4回] コーチングの心理

[5回] メンタルマネジメント

[6回] 指導者のメンタルマネジメント

[7回] スポーツ心理学の現状と今後の課題

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

トレーニング科学総論[1415070]

科目名	トレーニング科学総論[1415070]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
	伊藤 良彦[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団） 参考書：『トレーニングの科学的基礎－現場に通じるトレーニング科学の基礎』 宮下充正（ブックハウスHD） 『競技力向上のトレーニング戦略』 ポンパ・テューダー（大修館書店） 『トレーニングによる体の適応』 平野裕一、加賀谷淳子（杏林書店）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、体力と体力の諸要素を高めるためのトレーニングについて学習する。体力とは大きく身体的要素と精神的要素があり、それぞれに「防衛力」としての体力と、「行動力」としての体力に分けられる。この概念を把握するとともに、さまざまな体力の特性や分類について理解を深める。またトレーニングを実行する際の効果的なトレーニング処方や、ウォーミングアップとクーリングダウンの目的、方法を理解する。さまざまなバリエーションがあるトレーニングを形態別、体力要素別に分類し、それによって得られる効果の違いを理解させるとともに指導者が専門種目に必要な体力要素を強化できるよう、さまざまなトレーニングの目的、方法を正しく理解させる。 （髙橋 康輝／９回）体力についてとトレーニングの種類や進め方について教授する。スポーツバイオメカニクスの基礎、スキルの獲得やその習得過程においても教授し理解させる。 （伊藤 良彦／６回）トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストについて教授する。

テーマおよび内容
（髙橋 康輝） [1回] 体力とは [2回] トレーニングの進め方   （伊藤 良彦）

[3回] トレーニングの種類

[4回] トレーニング理論とその方法

[5回] トレーニング計画とその実際

[6回] トレーニングの評価方法

[7回] コーチング理論

[8回] 体力テストとその活用

（髙橋 康輝）

[9回] 形態および身体組成の測定と評価について

[10回] 筋力・筋パワーの測定と評価について

[11回] 無酸素・有酸素性能力の測定と評価について

[12回] スキルの獲得とその獲得過程

[13回] スポーツバイオメカニクスの基礎

[14回] スポーツバイオメカニクスの実際

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ医学総論[1415080]

科目名	スポーツ医学総論[1415080]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	星川 吉光[非常勤講師]
	今井 一博[非常勤講師]
	中村 格子[非常勤講師]
	村松 秀樹[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

講義の時間割に十分注意して受講すること
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書：『スポーツ指導者のためのスポーツ医学－改訂第２版』 小出清一、福林徹（南江堂）2009
『スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・傷害－改訂第２版』 市川宣恭（南江堂）2000

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツと健康を中心に外科系ではスポーツ活動中の外傷・障害について、内科系では内科的障害や健康管理、アンチドーピングについて学ばせる。またアスレティックリハビリテーションからコンディショニングの基本を学ばせる。

（柚木 脩／３回）
アスリートの健康管理としてメディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて理解させる。

（村松 秀樹／４回）
アスリートの内科的障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい内科的障害とそれに対する具体的な予防法、対処法を理解させる。

（星川 吉光、今井 一博、中村 格子／４回）
アスリートの外傷・障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい外傷・障害を各部位ごとに理解するとともに、その予防法や対処法、テーピング、ストレッチング、アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画として、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解させる。

（村松 秀樹／４回）
アスリートの精神障害と対策として、アスリートは過剰なストレスによる精神的な障害も起り得るということを理解し、適切な対応ができるよう学習す

る。特殊環境下での対応として、特殊環境（高所、高圧、低圧、暑熱）での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。

テーマおよび内容

（柚木 脩）

[1回] スポーツと健康（健康の概念について）

[2回] 我が国における健康づくり施策（特定健診・特定保健指導事業・運動基準・エクササイズガイド等）

（村松 秀樹）

[3回] スポーツ活動中に多いケガや病気（内科・外科）

[4回] 健康運動およびスポーツ実施者の健康管理

[5回] 健康運動およびスポーツ実施者の内科的障害と対策

[6回] 運動器のしくみと働き（筋系）

[7回] 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給機構

[8回] スポーツによる精神障害と対策

[9回] 特殊環境下での対応

[10回] アンチドーピング

（星川 吉光／今井 一博／中村 格子 ）

[11回] 健康運動およびスポーツ実施者の外傷・障害と対策

[12回] 救急処置（救急蘇生法・外科的応急処置・RICE処置）

[13回] アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画

[14回] コンディショニングの手法（ストレッチング・テーピング・アイシング・スポーツマッサージ）

（柚木 脩）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

アスレティックトレーナーの役割[1416010]

科目名	アスレティックトレーナーの役割[1416010]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	村木 良博[非常勤講師]
	溝口 秀雪[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

特になし
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会)
『公認スポーツ指導者養成テキストⅠ～Ⅲ』 （日本体育協会）

参考書：『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』 ウィリアム・E.プレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、アスレティックトレーナーの変遷と日本体育協会が掲げるアスレティックトレーナーの役割を学ばせる。

（泉 秀幸／６回）
スポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に示し、日体協公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を教授し理解させる。

（村木 良博／６回）
アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなどさまざまな分野の専門家といかに連携を取ってサポートしていく方法について教授し理解させる。

（溝口 秀雪／３回）
アスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、社会的秩序やアスレティックトレーナーと倫理について教授し、倫理観を身につけさせるよう学ばせる。

テーマおよび内容

（泉 秀幸）

[1回] アスレティックトレーナーとは

[2回] アスレティックトレーナー制度の歴史

[3回] 諸外国におけるアスレティックトレーナーに相当する制度

（村木 良博）

[4回] アスレティックトレーナーの任務と役割

[5回] アスレティックトレーナーの業務

[6回] アスレティックトレーナーの活動（合宿・遠征・試合）

[7回] 競技別アスレティックトレーナー活動①

[8回] 競技別アスレティックトレーナー活動②

[9回] 医科学スタッフの構成と役割

[10回] スポーツドクターとの連携協力、コーチとの連携協力

（溝口 秀雪）

[11回] アスレティックトレーナーの組織・運営・管理

[12回] アスレティックトレーナーの目的と社会的立場

[13回] アスレティックトレーナーの倫理

[14回] アスレティックトレーナーと法的諸問題

（泉 秀幸）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

トレーニング科学[1416020]

科目名	トレーニング科学[1416020]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	伊藤 良彦[非常勤講師]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
時間割に注意して受講すること

授業の形態
講義

教科書・参考文献
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ワークブック スポーツ科学』（日本体育協会）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標
本科目では、競技者のパフォーマンス向上に必要なトレーニングとは何か。各トレーニングの目的・効果・方法を理解し、正確に指導できる知識を身につける。また、トレーニング計画を立てる際に、トレーニング環境や負荷の増減、疲労などの問題があることを理解し、それらに対する対処・解決策を身につける。また講義の中で実技指導を実施し、スポーツ選手をサポートする現場で役立つ知識を習得させる。

テーマおよび内容
[1回] トレーニング条件の設定 [2回] トレーニングプラン [3回] 筋力トレーニング① [4回] 筋力トレーニング② [5回] プライオメトリックトレーニング① [6回] プライオメトリックトレーニング② [7回] スピードトレーニング① [8回] スピードトレーニング② [9回] 持久力トレーニング① [10回] 持久力トレーニング②

[11回] 競技特性を考慮したトレーニングプログラム①

[12回] 競技特性を考慮したトレーニングプログラム②

[13回] リスク管理を考慮したトレーニングプログラム①

[14回] リスク管理を考慮したトレーニングプログラム②

[15回] 試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ・バイオメカニクス[1416030]

科目名	スポーツ・バイオメカニクス[1416030]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	角南 俊介[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
時間割に注意して受講すること

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ワークブック スポーツ科学』（日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
出席状況（出席回数・授業への参加態度）、レポート

授業の目的および到達目標
本科目では、スポーツにおける身体運動を力学的立場から検証し、スポーツ技能の理解や、スポーツ技術の分析力、批判力、創造力を高めることを目的とする。講義のポイントとして、バイオメカニクスの基礎や走る、跳ぶ、投げる、泳ぐ、蹴る、滑る、押す、回る、打つバイオメカニクスを中心に、運動の力学的な捉え方を学習することで、動きの記述、動きの原因の説明、動きの改善や最適化、良い動きの創造などスポーツの分析的な考察ができるようにする。

テーマおよび内容
[1回]スポーツ・バイオメカニクスとは [2回]身体の力学的特性 [3回]身体運動の分析に向けたバイオメカニクス的アプローチ [4回]身体運動の計測方法 [5回]スポーツ技術に関するバイオメカニクス [6回]良い動きのバイオメカニクス的原則 [7回]スポーツ・バイオメカニクスの実際①ー背筋力測定 [8回]スポーツ・バイオメカニクスの実際②ー垂直跳び [9回]スポーツ・バイオメカニクスの実際③ースクワット動作

[10回]スポーツ・バイオメカニクスの実際④－自転車エルゴメータ

[11回]スポーツ・バイオメカニクスの実際⑤－等速性筋力測定

[12回]スポーツ用具のバイオメカニクス

[13回]競技特性のバイオメカニクス

[14回]スポーツバイオメカニクスの研究と論文

[15回]授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

運動生理学[1416040]

科目名	運動生理学[1416040]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

【1】授業中の無意味な私語は禁止します。
【2】理由のない途中退室は、欠席とみなします。
【3】遅刻は2回で欠席1回とします。
【4】講義中の携帯使用は、退室してもらいます。
【5】授業の妨げ、他学生の邪魔になると思われる学生は退室してもらいます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：「運動生理学の基礎と発展」フリースペース

参考書：プリント等を配布する

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験 30%）、出席状況（30%）、授業中の課題（30%）、その他（参加態度 10%）

授業の目的および到達目標

本科目では、運動器の構造、機能と機能解剖に関する基礎的知識を理解し、身体を動かす運動器の働きを系統的に学び、スポーツに関するよりよい動作の獲得の手がかりを得る。講義のポイントとして、筋肉、骨、関節、神経に関する基本的知識とそれぞれがどのようにつながり、動きをおこさせているかを理解させる。

テーマおよび内容

[1 回] 運動生理学とは

[2 回] 骨格筋の構造と筋収縮のメカニズム

[3 回] 無酸素および有酸素運動のエネルギー供給機構

[4 回] 筋力・筋持久力・筋肥大のためのトレーニング

[5 回] 神経の構造と機能

[6 回] 自律神経活動

[7 回] 運動と栄養・エネルギー代謝

[8 回] 呼吸機能の構造とガス代謝

[9 回] 循環器の構造と機能

[10回] 運動と体温調節（内部環境・外部環境）

[11回] 運動時のホルモン調節

[12回] 運動と身体組成

[13回] 運動と発育・発達（老化・加齢を含む）

[14回] 運動と遺伝子

[15回] 授業のまとめ

学生へのメッセージ
・講義は視聴覚教材を使用したり、実験等を行いながら運営するので欠席しないこと。 ・最新の知識を得るために自己学習が必須となります。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ心理学[1416050]

科目名	スポーツ心理学[1416050]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	堀野 博幸[非常勤講師]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
時間割に注意して受講すること

授業の形態
講義

教科書・参考文献
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ワークブック スポーツ科学』（日本体育協会）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標
本科目では、スポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的には、スポーツ活動や運動を行うことによって、気分や自己概念、パーソナリティーなどに関する長期的、短期的効果がもたらされることについての理解やスポーツ活動や運動に対する考え方や活動（行動）は、その人のもつ性格や、おかれている環境によって大きく異なること、また、それらの相違はスポーツ・運動の選択、さらにはスポーツ・運動のパフォーマンスにも影響することなどについて学習する。

テーマおよび内容
[1回] スポーツ心理学とは
[2回] スポーツの技能を向上させるための心理的側面
[3回] チームワークや人間関係に関する心理的側面
[4回] 心理面を考慮した指導法／選手の心理面の強化
[5回] 心の健康（メンタルヘルス）
[6回] スポーツ傷害と心理的側面
[7回] 動機づけ（やる気、モチベーション）
[8回] 選手のやる気（モチベーション）を高める方法
[9回] 心技体のバランス
[10回] 心理的サポート／選手の心理的側面の分析

[11回] イメージトレーニングの理論と実際

[12回] 集中力を高めるテクニック

[13回] プラス思考のトレーニング

[14回] 気持ちの切り替え

[15回] 試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

運動器の解剖と機能[1416060]

科目名	運動器の解剖と機能[1416060]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	長瀬 エリカ[非常勤講師]
	八木 茂典[非常勤講師]
	板倉 尚子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
特になし

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、基礎解剖学を踏まえ、運動器の解剖と機能を中心に、運動器の構造と機能、関節・骨格筋の構造と機能を理解させる。体幹の基礎解剖と運動では脊柱、頚椎、胸郭、腰椎、骨盤の運動について学ぶ。上肢の基礎解剖と運動では、上肢帯、肩関節、肘関節、手関節・手部の運動について学ぶ。下肢の基礎解剖と運動では股関節、膝関節、足関節・足部について学ぶことにより、アスレティックトレーナーが行う、競技者の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解させる。そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。

テーマおよび内容
[1回] 運動器の解剖と機能概論 [2回] 骨・関節・靭帯の構造と機能 [3回] 筋・腱の構造と機能、骨格筋の神経支配 [4回] 体幹の基礎解剖と運動 [5回] 脊柱，頸椎，胸部・胸郭の運動 [6回] 腰椎，仙骨、骨盤の運動 [7回] 上肢の基礎解剖と運動 [8回] 上肢帯，肩関節の運動

[9回] 肘関節・手部の運動

[10回] 下肢の基礎解剖と運動

[11回] 股関節，膝関節の運動

[12回] 足関節・足部の運動

[13回] 運動器の骨，筋，靭帯，関節，神経支配と身体運動

[14回] アスレティックリハビリテーションに必要な人体の構造と機能

[15回] 授業のまとめ煨

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ外傷障害の基礎知識[1416070]

科目名	スポーツ外傷障害の基礎知識[1416070]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	田渕 健一[非常勤講師]
	福林 徹[非常勤講師]
	星川 吉光[非常勤講師]
	今井 一博[非常勤講師]
	中村 格子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
講義の時間割に十分注意して受講すること 本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、アスレティックトレーナーがトレーナー活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために上肢・下肢・体幹の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び重篤な外傷（頭部、脊髄損傷、大出血など）、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得させる。 （柚木 脩／４回）総論と体幹のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （星川 吉光、中村 格子／４回）上肢のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （田渕 健一／４回）下肢のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （福林 徹、今井 一博／３回）重篤な外傷や年齢・性別による特徴、スポーツ整形外科的メディカルチェックについて教授する。

テーマおよび内容
（星川 吉光／中村 格子）

[1回] スポーツ外傷・障害総論

[2回] 頸部のスポーツ外傷・障害

[3回] 腰・背部・骨盤のスポーツ外傷・障害

[4回] 鼠径周辺部痛症候群、骨盤・股関節のその他の外傷・障害

（柚木 脩）

[5回] 肩部（脱臼・腱板損傷）のスポーツ外傷・障害

[6回] 肩部（投球障害肩・その他）のスポーツ外傷・障害

[7回] 肘関節のスポーツ外傷・障害

[8回] 手・手指のスポーツ外傷・障害

（田渕 健一）

[9回] 大腿部のスポーツ外傷・障害

[10回] 膝関節のスポーツ外傷・障害

[11回] 下腿部のスポーツ外傷・障害

[12回] 足・足関節のスポーツ外傷・障害

（福林 徹／今井 一博）

[13回] 重篤な外傷（頭部、脊髄損傷、大出血 等）、その他の外傷（顔面、目、鼻、耳、歯）

[14回] 年齢・性別による外傷・障害の特徴

[15回] スポーツ整形外科的メディカルチェック

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康管理とスポーツ医学[1416080]

科目名	健康管理とスポーツ医学[1416080]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	赤間 高雄[非常勤講師]
	真鍋 知宏[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、アスリートにみられる内臓器官の疾患（病気）、感染症（呼吸器、血液、皮膚）、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）、特殊環境下（高所、高圧、低圧、暑熱）での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。またドーピングコントロールとして、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類、注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項などを学び、スポーツ選手に指導することができるようにする。 （赤間 高雄／６回） アスリートにみられる内臓器官の疾患や病的現象、感染症に対する対策について理解させる。 （小松 裕／９回） 特殊環境のスポーツ医学や年齢・性別による特徴について教授する。内科的メディカルチェックとドーピングコントロールについて教授し理解させる。

テーマおよび内容
（赤間 高雄） [1回] 内臓器官などの疾患①（循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患） [2回] 内臓器官などの疾患②（血液疾患、腎・泌尿器疾患、代謝性疾患、皮膚疾患） [3回] 感染症に対する対応策①（呼吸器感染症、血液感染症、皮膚感染症） [4回] 感染症に対する対応策②（ウイルス性結膜炎、海外遠征での感染症、各競技別の感染症） [5回] ドーピングコントロール①

[6回] ドーピングコントロール②

（真鍋 知宏）

[7回] アスリートにみられる病的現象①（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群）

[8回] アスリートにみられる病的現象②（摂食障害、減量・喫煙・飲酒による障害と疾病）

[9回] 特殊環境のスポーツ医学①（高所、高圧環境、暑熱環境、低温環境）

[10回] 特殊環境のスポーツ医学②（時差、海外遠征時の諸問題）

[11回] 年齢・性差による特徴①（女性の特徴）

[12回] 年齢・性差による特徴②（子ども、高齢者の特徴）

[13回] 内科的メディカルチェック

[14回] 健康運動と生活習慣病予防

[15回] 授業のまとめ(

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

身体の検査・測定と評価（体力測定を含む）[1416090]

科目名	身体の検査・測定と評価（体力測定を含む）[1416090]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	広瀬 統一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

受講条件・その注意

実習に適した服装に着替えて受講すること
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤ 検査・測定と評価』（日本体育協会）
『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）
『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書：『測定と評価－現場に活かすコンディショニングの科学』 山本利春（ブックハウスHD）
『スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法』 西薗秀嗣（大修館書店）
『スポーツバイオメカニクス』 深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良（朝倉書店）
『バイオメカニクス－身体運動の科学的基礎』 金子公宥、福永哲夫（杏林書店）

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査・測定手技について、その目的と意義を理解し、実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。具体的には、姿勢、身体アライメントの観察と計測、関節可動域、関節弛緩性の計測、徒手筋力検査、身体組成の測定、機器を用いた筋力および筋持久力の検査測定手法を習得させる。

（広瀬 統一／８回）アスレティックトレーナーに必要な評価と全身持久力、敏捷性身体組成や体力測定について教授し理解させる。

（髙橋 康輝・笹木 正悟／７回）スポーツ動作の観察と分析について理解させる。

テーマおよび内容

広瀬 統一

[1回] 体力測定の理論

[2回] 体力測定の方法

[3回] 全身持久力・筋力の測定

[4回] 身体活動量

[5回] 身体組成の測定方法

[6回] 測定結果の処理と評価

[7回] 体力評価とスポーツプログラム①

[8回] 体力評価とスポーツプログラム②

髙橋 康輝／笹木 正悟

[9回] 「運動基準」と「運動指針」

[10回] 歩行・走動作のバイオメカニクス

[11回] ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス

[12回] 跳動作のバイオメカニクス

[13回] 投動作のバイオメカニクス

[14回] 外傷の発生機転となるような動作の特徴とメカニズム

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

予防とコンディショニングⅠ[1416100]

科目名	予防とコンディショニングⅠ[1416100]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	村木 良博[非常勤講師]
	石山 修盟[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目ではコンディショニングの概念を理解し、スポーツ実践者（競技者）が目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するための要因、具体的な方法の実際を理解させる。また、傷害予防のためのアプローチ、そのための環境づくりの方法やコンディショニングの方法と実際についても理解させる。 （村木 良博／５回）コンディションの把握と管理について教授する。 （石山 修盟／５回）競技力向上を目的としたコンディショニングの方法について教授する。 （泉 秀幸／５回）フィットネス（基礎体力）テストやフィールドテストについて教授し理解させる。

テーマおよび内容
（村木 良博） [1回] コンディションの把握と管理 [2回] コンディショニングの概念と目的 [3回] コンディショニングの要素（把握と管理） [4回] コンディション指標および評価法

[5回] トレーニング計画とコンディショニング

（石山 修盟）

[6回] 競技力（パフォーマンス）向上を目的としたコンディショニングの方法と実際

[7回] コンディショニングトレーニング①（代謝系、筋力、コーディネーション）

[8回] コンディショニングトレーニング②（スタビリティ、アジリティ）

[9回] スプリントとエンデュランストレーニング

[10回] サーキットトレーニング

（泉 秀幸）

[11回] フィットネス（基礎体力）チェック

[12回] フィールド（専門体力）テスト①

[13回] フィールド（専門体力）テスト②

[14回] 身体（組成）測定、柔軟性テスト

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

予防とコンディショニングＩＩ（テーピング・ストレッチングを含む）[1416110]

科目名	予防とコンディショニングＩＩ（テーピング・ストレッチングを含む）[1416110]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	溝口 秀雪[非常勤講師]
	津田 清美[非常勤講師]
	増田 雄一[非常勤講師]
	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、コンディショニングの方法と実際として、ストレッチングの理論とその方法について学び、それを通して柔軟性の獲得、指導及び教育ができるようにする。テーピングの理論とその方法を学ぶ。テーピングの際の注意点や基本のテーピングを理解するとともに身体各部位が巻けるようになる。またコンディショントレーニング（機能調整、回復、向上）である１）代謝系トレーニング（有酸素（減脂肪、持久力向上）、無酸素）、２）筋力トレーニング、コーディネイショントレーニング、スタビリティトレーニング、アジリティトレーニングの指導ができるようにする。 （津田 清美／５回）障害予防を目的としたコンディショニングの方法としてストレッチングについて教授し実践できるようにする。 （増田 雄一／７回）障害予防を目的としたコンディショニングの方法としてテーピングについて教授し実践できるようにする。 （溝口 秀雪・泉 秀幸／３回）疲労回復を目的としたコンディショニングの方法と実際について教授し理解させる。

テーマおよび内容
（津田 清美） [1回] 傷害予防を目的としたコンディショニングの方法と実際 [2回] ストレッチングの目的、種類、特徴の把握 [3回] スポーツ傷害とストレッチング

[4回] ストレッチングの実際①

[5回] ストレッチングの実際②

（増田 雄一）

[6回] テーピングの目的,効果、有用性、基本的注意事項

[7回] 身体各部のテーピング（足部、足関節）

[8回] 身体各部位のテーピング（下腿部、膝関節）

[9回] 身体各部位のテーピング（股関節、腰部、手関節、指関節）

[10回] 身体各部位のテーピング（肩鎖関節、肩関節）

（溝口 秀雪）

[11回] 疲労回復を目的とした方法と実際

[12回] スポーツマッサージ

[13回] アイシング（クーリング）

[14回] ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

予防とコンディショニングＩＩＩ[1416120]

科目名	予防とコンディショニングＩＩＩ[1416120]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	門馬 崇文[非常勤講師]
	増田 雄一[非常勤講師]
	竹田 康成[非常勤講師]
	石山 修盟[非常勤講師]
	津田 清美[非常勤講師]
	相澤 勝治[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥ 予防とコンディショニング』（日本体育協会）

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
時間割に注意して受講すること 本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標
本科目では、アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性とコンディショニング」についての習得を目的とし、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導の理解や、有効な指導ができるようにする。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について各競技別に学ぶ。 （門馬 崇文／２回）冬季系競技であるスキー競技やスケート競技のコンディショニング方法について教授する。 （増田 雄一／３回）記録系競技で陸上競技や水泳競技のコンディショニング方法について教授する。 （竹田 康成・石山 修盟・津田 清美・相澤 勝治／９回）球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニス、野球競技のコンディショニング方法について教授する。 （小山 浩司／１回）採点競技系の体操競技や格技系の柔道やレスリングのコンディショニング方法について教授する。"

テーマおよび内容
門馬 崇文

[1回] 冬季競技（氷上種目、雪上種目）におけるコンディショニング①

[2回] 冬季競技（氷上種目、雪上種目）におけるコンディショニング②

増田 雄一

[3回] 記録系競技（陸上競技、水泳競技）におけるコンディショニング①

[4回] 記録系競技（陸上競技、水泳競技）におけるコンディショニング②

[5回] 記録系競技（陸上競技、水泳競技）におけるコンディショニング③

石山 修盟・竹田 康成・津田清美・相澤 勝治・小山 浩司

[6回] 球技系競技（ラグビー）におけるコンディショニング①

[7回] 球技系競技（バレーボール）におけるコンディショニング②

[8回] 球技系競技（バスケットボール、ハンドボール）におけるコンディショニング①

[9回] 球技系競技（バスケットボール、ハンドボール）におけるコンディショニング②

[10回] 球技系競技（バスケットボール、ハンドボール）におけるコンディショニング③

[11回] 球技系競技（ラケット種目）におけるコンディショニング①

[12回] 球技系競技（ラケット種目）におけるコンディショニング②

[13回] 採点系競技（体操競技）におけるコンディショニング

[14回] 格技系競技（柔道、レスリング）におけるコンディショニング

[15回] まとめ、試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

アスレティックリハビリテーションⅠ[1416130]

科目名	アスレティックリハビリテーションⅠ[1416130]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	加藤 知生[非常勤講師]
	板倉 尚子[非常勤講師]
	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。講義ポイントとして、アスレティックリハビリテーションの定義、歴史、現場におけるATの活動内容などの総論に加え、アスレティックリハビリテーションで用いる基本的手法（運動療法、物理療法）を理解させる。 （加藤 知生／10回）アスレティックリハビリテーション総論と運動療法（アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズ）基礎知識を教授する。 （関 寛之／３回）物理療法総論と温熱療法や寒冷療法、電気療法について教授する。 （板倉 尚子／２回）補装具についてと、アスレティックリハビリテーションで使用される装具について教授する。

テーマおよび内容
（加藤 知生） [1回] アスレティックリハビリテーション総論 [2回] アスレティックリハビリテーションで用いる手法 [3回] 機能評価とリスク管理 [4回] アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの目的

[5回] 筋力回復，筋力増強エクササイズの基礎知識

[6回] 関節可動域回復，拡大エクササイズの基礎知識

[7回] 神経筋協調性回復，向上エクササイズ

[8回] 全身持久力回復，向上エクササイズ

[9回] 再発予防，外傷予防のためのスポーツ動作エクササイズ

（関 寛之）

[10回] 物理療法

[11回] 温熱・寒冷療法

[12回] 電気療法

（板倉 尚子）

[13回] 補装具について

[14回] アスレティックリハビリテーションで使用される補装具

（加藤 知生）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

アスレティックリハビリテーションＩＩ[1416140]

科目名	アスレティックリハビリテーションＩＩ[1416140]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	加藤 知生[非常勤講師]
	板倉 尚子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』 （日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのアスレティックリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解することにより、スポーツドクター、アスレティックトレーナーとの緊密な連携を取った上でトレーニング計画を作成することの重要性について理解させる。講義ポイントとしてアスレティックリハビリテーションの基本的な進め方、受傷後から復帰までのアスリハプログラミングについて具体的な段階を理解させる。 （泉 秀幸／３回）体幹部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 （加藤 知生／６回）上肢部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 （板倉 尚子／６回）下肢部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる

テーマおよび内容
（泉 秀幸） [1回] 外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践（体幹） [2回] 頸椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション [3回] 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション

（加藤 知生）

[4回] 外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践（上肢）

[5回] 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーション

[6回] 投球障害肩へのアスレティックリハビリテーション

[7回] 外傷性肘MCL損傷へのアスレティックリハビリテーション

[8回] 上腕骨内側・外側上霞顆炎・非外傷性肘内側側副靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション

[9回] 手関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション

（板倉 尚子）

[10回] 外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践（下肢）

[11回] 足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション

[12回] 膝前十字靭帯損傷・膝内側側副靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション

[13回] 大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーション

[14回] 脛骨過労性骨障害へのアスレティックリハビリテーション

[15回] 膝蓋大腿関節障害へのアスレティックリハビリテーション

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

アスレティックリハビリテーションＩＩＩ[1416150]

科目名	アスレティックリハビリテーションＩＩＩ[1416150]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	加藤 知生[非常勤講師]
	長井 雅子[非常勤講師]
	増田 雄一[非常勤講師]
	円子 裕[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
時間割に注意して受講すること 本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする鯉

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦ アスレティックリハビリテーション』（日本体育協会）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標
本科目では、アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性」についての習得を目的とし、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導の理解や、有効な指導ができるようにする。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について学ぶ。 （増田 雄一／２回）冬季系競技であるスキー競技やスケート競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 （加藤 知生／３回）記録系競技で陸上競技や水泳競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 （円子 裕・長井 雅子／５回）球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニス、野球競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 （小山 浩司・笹木 正悟／５回）採点競技系の体操競技や格技系の柔道やレスリングの種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。

テーマおよび内容

笹木 正悟

[1回] アスレティックリハビリテーションにおける競技種目特性

[2回] 動作からみた競技種目特性

[3回] 体力からみた競技種目特性

増田 雄一

[4回] 競技種目における動作特性と体力特性（陸上競技）

[5回] 競技種目における動作特性と体力特性（冬季競技）

加藤 知生・円子 裕

[6回] 競技種目における動作特性と体力特性（水泳競技）

[7回] 競技種目における動作特性と体力特性（野球）

[8回] 競技種目における動作特性と体力特性（ラグビー、アメリカンフットボール）

小山 浩司・円子 裕・長井 雅子

[9回] 競技種目における動作特性と体力特性（球技系種目①）

[10回] 競技種目における動作特性と体力特性（球技系種目②）

[11回] 競技種目における動作特性と体力特性（球技系種目③）

[12回]競技種目における動作特性と体力特性（採点系種目①）

[13回]競技種目における動作特性と体力特性（採点系種目②）

[14回]競技種目における動作特性と体力特性（柔道・レスリング）

[15回]まとめ、試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ栄養学[1416160]

科目名	スポーツ栄養学[1416160]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小泉 智子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
時間割に注意して受講すること

授業の形態
講義

教科書・参考文献
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨ スポーツと栄養』（日本体育協会）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標
本科目では、競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高めるとともに競技者の望ましい食事及びトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。また、合宿、遠征などの特殊環境下における栄養ケア、サプリメントの正しい選び方と使用法について理解し、アスリートに対する管理ができるようにする。

テーマおよび内容
[1回] スポーツ栄養サポートとは？／アスリートの身体組成 [2回] アスリートのからだ作りとウェイトコントロール [3回] アスリートの栄養ケア・マネジメント／エネルギー消費量 [4回] アスリートのグリコーゲン補給と回復のための食事／コンディショニングと栄養補給 [5回] アスリートの水分補給と食事計画 [6回] 栄養欠陥に基づく疾病と対策①（ビタミン欠乏、エネルギー不足、タンパク質不足） [7回] 栄養欠陥に基づく疾病と対策②（鉄欠乏性貧血、月経障害、摂食障害、骨障害、栄養素の過剰摂取） [8回] 様々な状況下における栄養ケア①（試合前、試合当日、試合後の食事） [9回] 様々な状況下における栄養ケア②（遠征時、合宿時、オフ期の食事） [10回] サプリメントの定義と使用実態／種類と期待される効果 [11回] サプリメントを取り巻く問題点／状況に応じた選択方法

[12回] アスリートへの栄養教育の意義／食事指導の進め方

[13回] アスリートへの栄養教育、食事指導の実際

[14回] スポーツ栄養士との連携

[15回] 試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

エアロビック運動の実際Ⅰ[1417010]

科目名	エアロビック運動の実際Ⅰ[1417010]
科目区分・科目種	健康運動実践指導者科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	戸松 哲男[非常勤講師]
	長井 雅子[非常勤講師]
	伊藤 句里子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
実習に適した服装に着替えて受講すること。 本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団） 参考書:特になし

評価方法・評価割合
レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、エアロビック運動とはどんな運動かを、エネルギー供給機構との関係で理解させるとともに、有酸素性作業能力を評価する指標としての最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値の意義を理解させる。また実習として、エアロビックダンス一連の運動動作を実習し、それらの特徴と注意点を理解させる。 （伊藤 句里子/7回）エアロビックダンスの特性と効果について理解させ実践指導できるように教授する。 （戸松 哲男/4回）高齢者の運動指導について理解させ実践指導できるように教授する。 （長井 雅子/4回）障害者スポーツの運動指導について理解させ実践指導できるように教授する。

テーマおよび内容
（伊藤句里子） [1回] エアロビックエクササイズ [2回] エアロビックダンスとは [3回] エアロビックダンスの実施効果

[4回] エアロビックダンスの基本的動作

[5回] エアロビックダンスのプログラムの構成と作成

[6回] エアロビックダンスにおける動作の構成（心拍数を利用した運動強度の調節）

[7回] エアロビックダンスの全体構成（対象に応じたプログラム作成）

（長井雅子）

[8回] 対象者に合わせた実施方法と指導中の心得

[9回] 障害者のフィットネスプログラム①

[10回] 障害者のフィットネスプログラム②

[11回] 障害者のフィットネスプログラム③

（戸松哲男）

[12回] 中高齢者のフィットネスプログラム①

[13回] 中高齢者のフィットネスプログラム②

[14回] 中高齢者のフィットネスプログラム③

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

エアロビック運動の実際ⅠⅠ[1417020]

科目名	エアロビック運動の実際ⅠⅠ[1417020]
科目区分・科目種	健康運動実践指導者科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	長井 雅子[非常勤講師]
	竹田 康成[非常勤講師]
	小柳 祐華[非常勤講師]
	折田 真弓[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①別途連絡
資格関連	健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
水泳・水中運動の実習は、夏期期間中の集中講義にて実施する。 実習に適した服装に着替えて受講すること。 本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、運動強度と心拍出量、心拍数の関係、運動強度と肺換気量、呼吸数の関係を理解させるとともに、実習として、運動プログラムを作成し、心拍数でそれぞれの強度を確かめ、性、年齢、体力との反応の違いを理解させる。また水泳・水中運動として、水の性質の理解や各種泳法を実習させ、指導上の留意点を理解させる。 （徳安 秀正・笹木 正悟／６回） 水中・水泳運動の特性と効果について理解させ実践指導できるように教授する。 （長井 雅子・小柳 佑華／５回） 球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニスの運動や指導方法について理解させ実践指導できるようにする。 （笹木 正悟・折田 真弓／２回） 採点競技系の体操競技や格技系の柔道の運動や指導方法について理解させ実践できるように教授する。 （竹田 康成／２回） 記録系競技の陸上の運動や指導方法について理解させ実践できるように教授する。

テーマおよび内容

（徳安 秀正／笹木 正悟）

[1回] 水泳・水中運動総論

[2回] 水の特性と水中運動の安全対策について

[3回] 水中運動の効果

[4回] アクアビクスの指導法と注意点

[5回] アクアビクスおよび各種泳法の習得①

[6回] アクアビクスおよび各種泳法の習得②

（長井 雅子／小柳 佑華）

[7回] 球技系種目の指導と実践（バレーボール①）

[8回] 球技系種目の指導と実践（バレーボール②）

[9回] 球技系種目の指導と実践（バスケットボール①）

[10回] 球技系種目の指導と実践（バスケットボール②）

[11回] 球技系種目の指導と実践（バスケットボール③）

（竹田 康成）

[12回] 記録系競技の指導と実践（陸上競技①）

[13回] 記録系競技の指導と実践（陸上競技②）

（笹木 正悟・折田 真弓）

[14回] 採点系競技・格技系競技の指導と実践（体操競技・柔道）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

トレーニングの理論と実際[1417030]

科目名	トレーニングの理論と実際[1417030]
科目区分・科目種	健康運動実践指導者科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	伊藤 良彦[非常勤講師]
	岩本 紗由美[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
実習に適した服装に着替えて受講すること。 本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方や目的に応じた体操の重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導法を学ばせる。またウェイトトレーニング・サーキットトレーニングの原則・効果・安全性について説明し、実習を通して効果的かつ安全に行えるよう指導法を学ばせる。 （伊藤 良彦／２回）補強運動としてのトレーニング方法やプログラミングについて教授する。 （岩本 紗由美／４回）アイソメトリック・アイソキネティックトレーニングについて理解させ実践させる。 （伊藤 良彦／６回）ウェイトトレーニングについて理解させ実践させる。 （岩本 紗由美／３回）サーキットトレーニングや準備運動について理解させ実践させる。

テーマおよび内容
（伊藤 良彦） [1回] 筋力トレーニングの原理原則と注意点 [2回] 筋力トレーニング [3回] フリーウエイトとトレーニングマシンの特性

[4回] マシーントレーニングの実際①

[5回] マシーントレーニングの実際②

[6回] アネロビックな動作・運動

[7回] アネロビックな動作・運動の種類とプログラム立案

（岩本 紗由美）

[8回] ウォーミングアップとクーリングダウン

[9回] スピードトレーニング

[10回] 筋持久力のトレーニング

[11回] 柔軟性系

[12回] 調整力系

[13回] サーキットトレーニングの理論と実際

[14回] 器具を利用しないレジスタンストレーニング

（伊藤 良彦）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

健康づくりと運動プログラム[1417040]

科目名	健康づくりと運動プログラム[1417040]
科目区分・科目種	健康運動実践指導者科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	溝口 秀雪[非常勤講師]
	伊藤 句里子[非常勤講師]
	戸松 哲男[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
実習に適した服装に着替えて受講すること 本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会），『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、健康づくりのための運動プログラム作成上の原則を運動強度、時間、頻度の視点から理解させるとともに、スポーツを行わせる際の安全性と指導上の問題点を理解させる。トレーニングの原則と効果やウォーミングアップとクーリングダウンの方法やエアロビクス運動の理論についても学ぶ。また、スポーツ指導者の役割や障害者福祉や障害者スポーツ指導方法についても併せて学ばせる。 （戸松 哲男／２回） 運動不足が健康や生活習慣病に与える影響を理解させ、トレーニングの原則や運動方法、プログラミング方法、ウォーミングアップやクーリングダウンについて教授し理解させる。 （伊藤 句里子／４回） エアロビック運動の理論について教授し理解させる。 （泉 秀幸／８回） スポーツ指導者（健康運動実践指導者、スポーツプログラマー）の役割や障害者福祉論、障害者スポーツ指導員の役割について教授し理解させる。 （溝口 秀雪／１回）スポーツマッサージについて理解させその方法について教授する。

テーマおよび内容

（戸松 哲男）

[1回] 運動と健康

[2回] ウォーミングアップとクーリングダウン

（伊藤句里子）

[3回] 全身持久力とエアロビック運動の理論

[4回] 有酸素性作業能力の指標

[5回] 有酸素性作業能力を向上させるトレーニングの方法

[6回] 有酸素運動の強度設定と健康増進

（溝口 秀雪）

[7回] マッサージの効果

[8回] アイシングの効果

（泉 秀幸）

[9回] 有資格者の役割

[10回] フィットネスプログラムの基本的方法

[11回] 各年代別・性別におけるフィットネスプログラム

[12回] 子供のフィットネスプログラム

[13回] スポーツ行動における性差

[14回] 女性のフィットネスプログラム

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

現場実習Ⅰ（見学実習）[1418010]

科目名	現場実習Ⅰ（見学実習）[1418010]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	溝口 秀雪[非常勤講師]
	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	戸松 哲男[非常勤講師]
	村木 良博[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

1）（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
そのため、授業には必ず参加すること。
2）現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3）現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会），『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書：『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007
『スポーツ東洋療法ハンドブック』 東洋療法学校協会：福林徹（医道の日本社）2001

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツ現場や医療機関においてスポーツドクターや指導者との連携、トレーナーの施設、整備、運営方法やアスレティックトレーナーが担当する役割について学ばせる。また、スポーツの現場におけるアスレティックトレーナー業務、スポーツドクターの役割についてスポーツ関連施設を通して、スポーツと社会やその成り立ちについて学ばせる。
1．トレーニングルーム、スポーツ関連施設について見学させ理解させる。
2．アスレティックトレーナーのトレーナールームや医療の現場やスポーツの現場における業務内容を見学させ理解させる。
3．スポーツドクターの医療機関やスポーツの現場における業務内容を見学させ理解させる。
4．各スポーツの練習や試合観戦を通し、競技ルールや現場におけるアスレティックトレーナーの業務について理解させる。

テーマおよび内容
[1回] 現場実習オリエンテーション
[2回] 大学付属臨床施設 施設見学
[3回] 体育施設 施設見学
[4回] 体育施設 施設見学および利用規定について
[5回] トレーナー見学実習①
[6回] トレーナー見学実習②
[7回] トレーナー見学実習③
[8回] トレーナー見学実習④
[9回] トレーナー見学実習⑤
[10回] トレーナー見学実習⑥
[11回] トレーナー見学実習⑦
[12回] トレーナー見学実習⑧
[13回] トレーナー見学実習⑨
[14回] トレーナー見学実習⑩
[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

現場実習ＩＩ（測定と評価、プログラミング）[1418020]

科目名	現場実習ＩＩ（測定と評価、プログラミング）[1418020]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）
『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書：『図解 四肢と脊柱の診かた』S.Hoppenfeld（医歯薬出版社株式会社）1984
『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツ外傷、評価、リハビリテーション手法に関する知識を統合させ、例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、アスレティックリハビリテーションのプログラミングができるようになるとともに、身体的リスクに考慮し、安全で効率の良い方法が指導できるようスポーツ現場や医療機関を通して学ばせる。
１．スポーツ現場、医療現場、トレーナールームにおいて競技者の身体検査・測定と評価について教授し実践させる。
２．スポーツ現場、医療現場、トレーナールームにおいて各外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラムについて教授し実践させる。
（笹木 正悟・泉 秀幸・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃）

テーマおよび内容

[1回] 現場実習オリエンテーション

[2回] スポーツ現場における競技者の身体検査・測定と評価①

[3回] スポーツ現場における競技者の身体検査・測定と評価②

[4回] 医療現場における競技者の身体検査・測定と評価①

[5回] 医療現場における競技者の身体検査・測定と評価②

[6回] トレーナールームにおける競技者の身体検査・測定と評価①

[7回] トレーナールームにおける競技者の身体検査・測定と評価②

[8回] 競技者および対象者に関する情報の収集

[9回] スポーツ現場・トレーナールームにおけるアスレティックリハビリテーションプログラム①

[10回] スポーツ現場・トレーナールームにおけるアスレティックリハビリテーションプログラム②

[11回] スポーツ現場・トレーナールームにおけるアスレティックリハビリテーションプログラム③

[12回] 健康の維持・向上を目的としたフィットネスプログラム①

[13回] 健康の維持・向上を目的としたフィットネスプログラム②

[14回] 健康の維持・向上を目的としたフィットネスプログラム③

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

現場実習ＩＩＩ（スポーツ現場実習）[1418030]

科目名	現場実習ＩＩＩ（スポーツ現場実習）[1418030]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	津田 清美[非常勤講師]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	長井 雅子[非常勤講師]
	門馬 崇文[非常勤講師]
	山下 紫乃[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会），『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書：『図解 四肢と脊柱の診かた』S.Hoppenfeld（医歯薬出版社株式会社）1984
『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割（1．スポーツ外傷・障害の予防、2．スポーツ現場における救急処置、3．アスレティックリハビリテーション、4．コンディショニング、5．測定と評価、6．健康管理と組織運営、7．教育的指導）を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう主にその基本を学ばせる。ストレッチング、テーピング、応急処置等について教本や実技実習で学んだことを、スポーツ現場や医療機関においてその実践法や応用的手法について学ばせる。
1．医療の現場やトレーナールームにおいてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。
2．各競技スポーツの現場においてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。
（泉秀幸・笹木正悟・津田清美・伊藤句里子・長井雅子・門馬崇文・大室紫乃）

テーマおよび内容
[1回] 現場実習オリエンテーション
[2回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎①
[3回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎②
[4回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎③
[5回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎④
[6回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎⑤
[7回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践①
[8回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践②
[9回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践③
[10回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践④
[11回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践⑤
[12回] 健康の維持・向上を目的としたスポーツ現場実習①
[13回] 健康の維持・向上を目的としたスポーツ現場実習②
[14回] 健康の維持・向上を目的としたスポーツ現場実習③
[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

現場実習ＩＶ（アスレティックリハビリテーション）[1418040]

科目名	現場実習ＩＶ（アスレティックリハビリテーション）[1418040]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	津田 清美[非常勤講師]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	門馬 崇文[非常勤講師]
	山下 紫乃[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）
『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書：『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007
『スポーツ東洋療法ハンドブック』東洋療法学校協会：福林徹（医道の日本社）2001

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、各疾患のアスレティックリハビリテーションの過程と内容を理解し、各疾患のアスレティックリハビリテーションに必要な情報収集、機能評価をできるようにし、実際にプログラミングができるようになるとともに、アスリートの身体的リスクを考慮し、安全で効率の良い方法が指導できるようにする。

1.医療の現場やトレーナールームにおいてアスレティックリハビリテーションについて教授し実践させる。
2.スポーツの現場においてアスレティックリハビリテーションについて教授し実践させる。

（泉 秀幸・笹木 正悟・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃）

テーマおよび内容

[1回] 現場実習オリエンテーション

[2回] トレーナールームにおけるアスレティックリハビリテーションの実践

[3回] スポーツ現場におけるアスレティックリハビリテーションの実践

[4回] 下肢におけるアスレティックリハビリテーションのプログラミング

[5回] 下肢におけるアスレティックリハビリテーションの実施①

[6回] 下肢におけるアスレティックリハビリテーションの実施②

[7回] 体幹におけるアスレティックリハビリテーションのプログラミング

[8回] 体幹におけるアスレティックリハビリテーションの実施①

[9回] 体幹におけるアスレティックリハビリテーションの実施②

[10回] 上肢におけるアスレティックリハビリテーションのプログラミング

[11回] 上肢におけるアスレティックリハビリテーションの実施①

[12回] 上肢におけるアスレティックリハビリテーションの実施②

[13回] 集団（グループ）を対象としたエクササイズのプログラミングと指導①

[14回] 集団（グループ）を対象としたエクササイズのプログラミングと指導②

[15回] 集団（グループ）を対象としたエクササイズのプログラミングと指導③

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

現場実習Ⅴ（総合実習）[1418050]

科目名	現場実習Ⅴ（総合実習）[1418050]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	2.0単位

担当教員・所属	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	泉 秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	津田 清美[非常勤講師]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	伊藤 良彦[非常勤講師]
	山下 紫乃[非常勤講師]
	谷川 哲也[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。
4)現場実習Ⅴのうち30時間は、夏期・冬季・春期休業期間中の集中講義にて実施する。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）
『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書：『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007
『スポーツ東洋療法ハンドブック』東洋療法学校協会：福林徹（医道の日本社）2001

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割（1．スポーツ外傷・障害の役割、2．スポーツ現場における救急処置、3．アスレティックリハビリテーション、4．コンディショニング、5．測定と評価、6．健康管理と組織運営、7．教育的指導）を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう総合的に学ばせる。

現場実習1）2）3）4）を段階的に学ばせ、総合実習としてスポーツ現場や医療機関において、これまでに学習してきた内容を含む包括的な実習を行う。またスポーツドクターやコーチ、選手を取り巻く関係者との連携、トレーナー室の施設、整備や運営方法についてもその基本を学ばせる。長期、中

短期の練習スケジュールにあわせた競技者のコンディショニング、合宿や遠征、試合を通してスポーツ現場や医療機関において日本体育協会が定めるトレーナーの役割スポーツドクターやコーチと緊密な連携を１．医療の現場やトレーナールームにおいてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に教授し実践させる。

各競技スポーツの現場においてトレーナールームにおいてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に教授し実践させる。

（笹木 正悟・泉 秀幸・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃）

テーマおよび内容

[1回] 現場実習オリエンテーション

[2回] スポーツ現場における総合実習①

[3回] スポーツ現場における総合実習②

[4回] スポーツ現場における総合実習③

[5回] 医療機関における総合実習①

[6回] 医療機関における総合実習②

[7回] 医療機関における総合実習③

[8回] トレーナールームにおける総合実習①

[9回] トレーナールームにおける総合実習②

[10回] トレーナールームにおける総合実習③

[11回] 集団（グループ）を対象としたエクササイズのプログラミングと指導①

[12回] 集団（グループ）を対象としたエクササイズのプログラミングと指導②

[13回] 個人を対象としたエクササイズのプログラミングと指導①

[14回] 個人を対象としたエクササイズのプログラミングと指導②

[15回] 個人を対象としたエクササイズのプログラミングと指導③

[16回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践①

[17回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践②

[18回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践③

[19回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践④

[20回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑤

[21回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑥

[22回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑦

[23回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践①

[24回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践②

[25回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践③

[26回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践④

[27回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑤

[28回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑥

[29回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑦

[30回] 現場実習のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

卒業研究[1419010]

科目名	卒業研究[1419010]
科目区分・科目種	卒業研究
クラス	鍼灸学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	高倉 伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井 友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	小泉 政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
	田中 滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野 富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村 友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出 靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀 義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	髙山 美歩[保健医療学部 鍼灸学科]
	高梨 知揚[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意
指導教員の指示に従い、研究期間内で実現可能な研究計画を作成し、実践する。

授業の形態
演習(共同)

評価方法・評価割合
その他（研究論文、プレゼンテーション、学習態度などを総合して評価する）

授業の目的および到達目標
本科目では、学生自身による研究活動によって研究テーマについてのレポート（卒業論文）を作成する。この過程を通して、研究テーマに関する文献検索や資料の収集の仕方、実験や調査研究の方法、結果のまとめ、考察について学習するとともにそれらを文章化する能力を養う。研究テーマは、調査研究、文献研究、実験研究、症例研究など鍼灸に関連したものとし、担当教員の指導のもとに実施する。

テーマおよび内容
授業計画 ・各担当教員が提出した研究テーマの一覧を配布し、学生の希望するテーマを調査する。調査結果をもとに指導教員、研究テーマを決定する。 ・研究計画及び実践は指導教員のもとで進める。 ・発表会は指導教員のもとで行う。 ・論文を作成し指導教員に提出する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

栄養学（スポーツ栄養学を含む）[1420010]

科目名	栄養学（スポーツ栄養学を含む）[1420010]
科目区分・科目種	健康科学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	辰田 和佳子[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0〜2.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

アスレティックトレーナーの資格を有するために必要な栄養学やスポーツ栄養学の知識やスキルを習得することを目的の1つとした科目であるため、授業の質を担保することとなり、試験の結果等の評価が得られなければ単位の取得が難しいことを理解したうえで履修すること。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:『新版コンディショニングのスポーツ栄養学』（市村出版）

評価方法・評価割合

定期試験（定期試験では、70点満点の試験を行う。）、出席状況（全授業に出席および授業に臨む姿勢を加味し、出席点（10点）を付与する。）、レポート（授業の進行等から必要となった場合のみ実施する。）、授業中の課題（数回実施（合計30点））

授業の目的および到達目標

健康の維持、体力向上のためには適切な運動と合わせ、栄養管理が重要な役割を果たす。この授業では健康づくりための運動と栄養のかかわりや栄養摂取について科学的に学び、日常の食事で実践・応用していく力を養う。さらにスポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] ガイダンス・基本栄養セミナー（復習）

[2回] 栄養アセスメント（身体組成等）

[3回] エネルギー代謝 エネルギー代謝を理解する 栄養アセスメント（エネルギー代謝）

[4回] 〃

[5回] 食事の構成とバランスの良い食事（食事バランスガイド）

[6回] ライフステージと食事･栄養管理（食育）

[7回] ライフステージと食事･栄養管理（メタボ・ロコモ）

[8回] 栄養素の基礎知識（糖質／脂質）

[9回] 栄養素の基礎知識（たんぱく質／ビタミン）

[10回] 栄養素の基礎知識（ミネラル）

[11回] 水分補給法

[12回] ウエイトコントロール①

[13回] ウエイトコントロール②

[14回] サプリメントと健康食品

[15回] 試合前・当日・後の食事・栄養管理

学生へのメッセージ
食べること（栄養補給）を一生やめることはできません。食生活を知識やスキルを持って自己管理することにより、コンディションを良好に保つことができます。生涯にわたり役立つ授業と考えて受講することを希望します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生化学[1420030]

科目名	生化学[1420030]
科目区分・科目種	健康科学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	荒井 裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0〜2.0
教室	①403教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『コンパクト生化学 改訂第3版』 大久保岩男：賀佐伸省（南江堂） 参考書：『レーニンジャーの生化学』 上、下 監修：山科郁夫（廣川書店）

評価方法・評価割合
定期試験（持ち込み不可）

授業の目的および到達目標
医療の分野においては、生体の様々な生命現象を分子レベルで考察する生命科学を学ぶ必要がある。まず、生体を構成する生体分子をを理解し、タンパク質、糖質、脂質、酵素、ビタミン、ホルモンなどの構造と役割について学ぶ。次いで、生体分子の動的代謝として糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝、呼吸の代謝、ホルモンの代謝、核酸の代謝などを学習する。

テーマおよび内容
[1回] 生体の構成物質 [2回] 細胞の基本構造と機能 [3回] 生体成分の構造と機能：糖質 [4回] 生体成分の構造と機能：脂質 [5回] 生体成分の構造と機能：タンパク質 [6回] 生体成分の構造と機能：核酸 [7回] 生体成分の構造と機能：ビタミン [8回] 代謝：酵素 [9回] 代謝：エネルギー代謝 [10回] 代謝：糖質代謝 [11回] 代謝：脂質代謝 [12回] 代謝：アミノ酸・タンパク質代謝 [13回] 核酸とタンパク質の生合成 [14回] ホルモン [15回] その他：生理活性物質

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

薬物療法学[1420320]

科目名	薬物療法学[1420320]
科目区分・科目種	健康科学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	荒井 裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
教室	①403教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：
『シンプル薬理学』野村隆英 石川直久（南江堂）

参考書：
『グッドマン・ギルマン 薬理書』上、下 高折ら（廣川書店）
『NEW 薬理学』 田中、加藤（南江堂）
『新薬理学テキスト』 佐藤 進 編 （廣川書店）

評価方法・評価割合

定期試験（持ち込み不可）

授業の目的および到達目標

柔道整復学の基本となる整形外科学などの医療分野における治療法を理解する上で、薬物療法学は重要な知識となる。まず、基礎薬理学として薬物の作用点、薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子、薬物中毒について学ぶ。次いで、薬物療法として、抗炎症薬、鎮痛薬、自律神経系に作用する薬物、運動神経・知覚神経系に作用する薬物などを主とする治療薬について学習する。さらには柔道整復治療で必要とする消毒薬について、また新薬の開発についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 総論：薬理学とは
[2回] 総論：薬物の作用点
[3回] 総論：薬物の生体内運命
[4回] 総論：薬物の生体内運命
[5回] 総論：薬効に影響を与える因子
[6回] 総論：薬効に影響を与える因子
[7回] 総論：薬物の毒性、新薬の開発
[8回] 自律神経系に作用する薬物：副交感神経系に作用する薬物
[9回] 自律神経系に作用する薬物：交感神経系に作用する薬物
[10回] 体性神経系に作用する薬物：運動神経薬、知覚神経薬
[11回] 中枢神経系に作用する薬物：抗パーキンソン病薬、全身麻酔薬など
[12回] 循環器系に作用する薬物：利尿薬、降圧薬など
[13回] 下熱・鎮痛・抗炎症薬：アレルギー・炎症・痛み
[14回] 下熱・鎮痛・抗炎症薬：抗アレルギー薬・抗潰瘍薬・鎮痛薬・抗炎症薬
[15回] その他の薬物：オータコイド、消毒薬などについて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生化学[1420330]

科目名	生化学[1420330]
科目区分・科目種	健康科学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	荒井 裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 4.0〜4.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『コンパクト生化学 改訂第3版』 大久保岩男：賀佐伸省（南江堂）

参考書：『レーニンジャーの生化学』 上、下 監修：山科郁夫（廣川書店）

評価方法・評価割合

定期試験（持ち込み不可）

授業の目的および到達目標

医療の分野においては、生体の様々な生命現象を分子レベルで考察する生命科学を学ぶ必要がある。まず、生体を構成する生体分子を理解し、タンパク質、糖質、脂質、酵素、ビタミン、ホルモンなどの構造と機能について学ぶ。さらに、各生体成分の代謝すなわち糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝、ホルモンの代謝、核酸の代謝などを学習する。

テーマおよび内容

［1回］生体の構成物質:生体の構成物質
［2回］細胞の基本構造と機能:細胞の基本構造と機能
［3回］生体成分の構造と機能：糖質:糖質の性質、構造、機能
［4回］生体成分の構造と機能：脂質:脂質の性質、構造、機能
［5回］生体成分の構造と機能：タンパク質:アミノ酸、タンパク質の性質、構造、機能
［6回］生体成分の構造と機能：核酸:核酸の構造と性質
［7回］生体成分の構造と機能：ビタミン: ビタミンの種類と働き
［8回］代謝：酵素:代謝酵素の性質
［9回］代謝：エネルギー代謝:エネルギー代謝とその調節
［10回］代謝：糖質代謝:糖質の代謝
［11回］代謝：脂質代謝:脂質の代謝
［12回］代謝：アミノ酸・タンパク質代謝 :アミノ酸、タンパク質の代謝
［13回］核酸とタンパク質の生合成・代謝 :核酸、アミノ酸、タンパク質の代謝
［14回］ホルモン:ホルモンの種類、働き、役割
［15回］生理活性物質:生理活性物質の役割

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

解剖学実習[1421030]

科目名	解剖学実習[1421030]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0〜3.0
教室	①403教室 ②610基礎医学実習室

受講条件・その注意

真摯な態度で受講すること。私語は厳禁とします。
模型、顕微鏡、超音波画像診断装置などを使用するので、飲食物の教室内持ち込みは厳禁。
３０分以上の遅刻・退席は欠席とみなします。遅刻２回で欠席１回とみなします。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『解剖学』 全国柔道整復学校協会監修（医歯薬出版）

参考書：『解剖学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』 五味敏昭、岸清（中外医学社）
『解剖学問題集5073』 （犀書房）
『解剖学用語』 日本解剖学会編（医学書院）

評価方法・評価割合

定期試験（中間筆記試験、持ち込み不可、試験成績）、出席状況（出席回数）、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

人体の解剖学はきわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ事項を、さらに医学教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に理解する必要がある。解剖学実習では運動器解剖学（上肢・下肢・体幹の骨、関節、靭帯、筋、神経、血管）、神経解剖学（脳と脊髄、末梢神経系）、内臓解剖学（心臓、肺、肝臓、腎臓など）について各種模型を使用して理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖実習（組織学実習）を行う。

テーマおよび内容

[1回] 体幹系：①体幹の骨・筋・内臓・中枢神経（模型による観察）

[2回] 体幹系：②体表よりの各部観察

[3回] 上肢系：①上肢の骨・靭帯（模型による観察）

[4回] 上肢系：②上肢の筋・神経・血管（模型による観察）

[5回] 上肢系：③体表よりの各部の観察

[6回] 上肢系：④エコー装置を用いた上肢各所の観察

[7回] 下肢系：①下肢の骨・靭帯（模型による観察）

[8回] 下肢系：②下肢の筋・神経・血管（模型による観察）

[9回] 下肢系：③体表よりの各部の観察

[10回] 下肢系：④エコー装置を用いた下肢各所の観察

[11回] 顕微鏡解剖学：①骨・筋・結合組織

[12回] 顕微鏡解剖学：②同上

[13回] 解剖見学

[14回] 解剖見学

[15回] まとめ

学生へのメッセージ
解剖学実習を通して、人体をより立体的に理解して下さい。 予習・復習を行い、より効果的な学習を心がけて下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生理学ＩＩＩ[1421060]

科目名	生理学ＩＩＩ[1421060]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	本間 生夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 木曜 1.0〜1.0
	後期 火曜 4.0〜4.0
教室	①305教室 ②306教室

受講条件・その注意
出欠を取る場合、遅刻３回を欠席１回とみなします。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『人体の構造と機能（2版）』 佐藤昭夫、佐伯由香 （医歯薬出版）2010 参考書：『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010 『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009 『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009 『明解生理学』 L・コスタンゾ：岡田、菅谷 （エルゼビア・ジャパン） 2011 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫 （京都大学出版会） 2009 『Principles of Neural Science 4th ed.』 ER Kandel （McGraw Hill） 20000

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験： 持ち込み不可）、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標
生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅲでは、神経系、筋肉、感覚器系などの生理学について学ぶ。神経系では中枢神経系および末梢神経系の機能、筋肉では筋収縮のメカニズムなど、感覚器系では体性感覚、化学感覚（味覚、嗅覚）、聴覚、視覚、平衡感覚などについて学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] 筋肉の生理学１：筋肉の構造 [2回] 筋肉の生理学２：収縮タンパクと興奮収縮連関 [3回] 筋肉の生理学３：筋収縮のエネルギーと疲労 [4回] 筋肉の生理学４：骨格筋・心筋・平滑筋 [5回] 自律神経系１：自律神経系の構造と機能

[6回] 自律神経系２：交感神経系の機能１

[7回] 自律神経系３：交感神経系の機能２

[8回] 自律神経系４：副交感神経系の機能１

[9回] 自律神経系５：副交感神経系の機能２

[10回] 中枢神経系１：中枢神経系の構造と機能

[11回] 中枢神経系２：脊髄の機能

[12回] 中枢神経系３：脳幹と間脳の機能

[13回] 中枢神経系４：大脳皮質の機能

[14回] 中枢神経系５：脳脊髄液と血液脳関門

[15回] 中枢神経系６：覚醒・睡眠・学習・記憶

[16回] 感覚総論：感覚とは

[17回] 体性感覚１：皮膚感覚

[18回] 体性感覚２：深部感覚

[19回] 特殊感覚１：化学感覚（嗅覚と味覚）

[20回] 特殊感覚２：聴覚１

[21回] 特殊感覚３：聴覚２

[22回] 特殊感覚４：平衡感覚

[23回] 特殊感覚５：視覚１

[24回] 特殊感覚６：視覚２

[25回] 特殊感覚７：視覚３

[26回] 運動機能１：α運動ニューロンと運動単位

[27回] 運動機能２：運動ニューロンの制御

[28回] 運動機能３：錘体路

[29回] 運動機能４：運動調節１

[30回] 運動機能５：運動調節２

学生へのメッセージ
なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある学生は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生理学実習[1421070]

科目名	生理学実習[1421070]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	西村 桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 木曜 3.0〜3.0
	前期 木曜 4.0〜4.0
	前期 木曜 5.0〜5.0
教室	①610基礎医学実習室

受講条件・その注意
実習時間数の5分の4に満たない学生は評価を受けることが出来ません。

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書：特に指定しない。 参考書：『診察と手技がみえる、vol.1』 古谷伸之編 （メディックメディア） 2010, 『病気がみえる（循環器、呼吸器、血液、糖尿病など）』 （メディックメディア） 2008-10, 『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010, 『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009, 『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009, 『Principles of Neural Science 4th ed.』 ER Kandel （McGraw Hill） 2000 『臨床検査法提要』 金井正光監修 （金原出版）

評価方法・評価割合
出席状況（定められた基準以下の学生は評価を受けられない。）、レポート（各実習項目にはレポートが科せられ評価の対象となる。）、その他（実習実技および実習発表会の内容・態度が評価の対象となる。）

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ生理学の知識をもとに、自分達自身あるいは動物から摘出した組織を対象として生理学の基礎をなす種々のテーマについて実習する。自身が測定装置を直接操作することによって生理機能を計測・把握する能力を習得するとともに医用電子機器の基礎を理解する。血球成分の測定や血糖値変化の測定を行う。さらに、心電図や肺気量測定から呼吸・循環機能について理解し、神経伝導速度や自律神経機能を測定し理解する。視覚や味覚、体性感覚などの感覚機能についても理解する。

テーマおよび内容
下記の実習項目を６回で行う。 １．ヒト循環・呼吸機能 ２．ヒト心電図測定 ３．ヒト血液像の解析 ４．ヒト血糖値測定 ５．カエル神経機能

６．ラット自律神経機能

また、２回をまとめおよび実習発表会とする。

学生へのメッセージ
なるべく実習項目に関する生理学を予習して、実習に臨むと理解し易い。また余裕のある学生は下記の参考書等を読んで理解に努めると良い。実技・発表会にはすすんで参加すること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

運動学[1421080]

科目名	運動学[1421080]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 火曜 3.0〜3.0
教室	①403教室 ②306教室

受講条件・その注意

【1】授業中の無意味な私語は禁止します。
【2】理由のない途中退室は、欠席とみなします。
【3】遅刻は2回で欠席1回とします。
【4】講義中の携帯使用は、退室してもらいます。
【5】授業の妨げ、他学生の邪魔になると思われる学生は退室してもらいます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：社団法人 全国柔道整復学校協会監修 「運動学」改訂第3版 医歯薬出版株式会社

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝30%）、出席状況（出席回数、遅刻・早退＝40%）、授業中の課題（適宜出題＝20%）、その他（受講態度＝10%）

授業の目的および到達目標

人間の正常な身体運動を科学的に分析し運動障害や運動異常を理解する基礎知識を学ぶ。人間が運動する際、骨格系・筋系・神経系・呼吸器系・循環器系・栄養とエネルギー代謝・酸塩基平衡などが関与する。そのため、解剖学および生理学と関連づけて人間が運動するときの骨格系・筋系・神経系・呼吸器系・循環器系・栄養とエネルギー代謝・酸塩基平衡などの機能を理解する。まず運動の基礎力学や神経機能を学習した後、四肢・体幹の運動、姿勢、歩行などについて学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 運動学（運動学とは、運動学の領域と目的、運動行動の概念）

[2回] 運動の表し方Ⅰ（運動の表示方法）

[3回] 運動の表し方Ⅱ（関節運動の種類）

[4回] 身体運動と力学Ⅰ（身体運動に関与する力、人体における単一機械構造）

[5回] 身体運動と力学Ⅱ（運動の法則、仕事と力学的エネルギー）

[6回] 運動器の構造と機能Ⅰ（骨の構造と機能）

[7回] 運動器の構造と機能Ⅱ（骨の構造と機能：超音波を用いた検証）

[8回] 運動器の構造と機能Ⅲ（関節の構造と機能）

[9回] 運動器の構造と機能Ⅳ（関節の構造と機能：超音波を用いた検証）

[10回] 運動器の構造と機能Ⅰ（骨格筋の構造と機能）

[11回] 運動器の構造と機能Ⅱ（骨格筋の構造と機能：超音波を用いた検証）

[12回] 神経の構造と機能（神経細胞、末梢神経、中枢神経）

[13回] 運動感覚Ⅰ（感覚と知覚）

[14回] 運動感覚Ⅱ（運動感覚と運動の制御機構）

[15回] 反射と随意運動Ⅰ（反射）

[16回] 反射と随意運動Ⅱ（随意反射）

[17回] 四肢と体幹の運動Ⅰ（上肢帯・肩関節・肘関節・手関節と手の運動・運動時の血流動態観察）

[18回] 四肢と体幹の運動Ⅱ（股関節・膝関節・足関節と足部の運動・運動時の血流動態観察）

[19回] 四肢と体幹の運動Ⅲ（体幹と脊柱・頸椎・胸椎・腰椎と骨盤・顔面および頭部の運動）

[20回] 姿勢Ⅰ（姿勢の分類と重心）

[21回] 姿勢Ⅱ（立位姿勢・姿勢の制御・姿勢保持の神経機構）

[22回] 歩行Ⅰ（歩行周期）

[23回] 歩行Ⅱ（歩行の運動学的・運動力学的分析）

[24回] 歩行Ⅲ（歩行時の筋活動：超音波を用いた筋活動の動態観察）

[25回] 歩行Ⅳ（歩行のエネルギー代謝）

[26回] 歩行Ⅴ（異常歩行）

[27回] 運動発達Ⅰ（神経組織の成熟）

[28回] 運動発達Ⅱ（乳幼児の運動発達）

[29回] 運動学習

[30回] まとめ科

学生へのメッセージ

理解を深めるためには自己学習が必須となってきます。少なくとも教科書は事前に読んでおいてください。疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。講義中は双方向のやりとりがなされますので積極的な発言を期待します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

運動学実習[1421090]

科目名	運動学実習[1421090]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①コンピューター教室 ②フィットネスセンター

受講条件・その注意

【1】授業中の無意味な私語は禁止します。
【2】理由のない途中退室は、欠席とみなします。
【3】遅刻は2回で欠席1回とします。
【4】講義中の携帯使用は、退室してもらいます。
【5】授業の妨げ、他学生の邪魔になると思われる学生は退室してもらいます。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：なし

参考書：なし

評価方法・評価割合

出席状況（出席回数、遅刻・早退＝40%）、レポート（期末レポート＝20%）、授業中の課題（授業への取り組み＝40%）

授業の目的および到達目標

運動学講義で学習した人間の正常な人体の運動について、実習を通じてより深く理解することを目標とする。その目標を達成するため、人間の正常な運動や歩行などを肉眼的に観察するとともに、様々な分析装置を利用して測定・分析する。姿勢の分析、関節運動の分析、重心と重心動揺の測定、姿勢保持と姿勢反射の分析、筋力の測定、呼吸の測定・分析、歩行の分析などを学習する。

テーマおよび内容

［1回］オリエンテーション（運動学実習とは）

［2回］重心測定（直接法）

［3回］画像解析による重心位置の計算

［4回］フォースプレートⅠ（床反力計を用いた計測手法）

［5回］フォースプレートⅡ（歩行（二峰性）時の重心位置の変化）

［6回］フォースプレートⅢ（走行（一峰性）時の重心位置の変化）

［7回］フォースプレートⅣ（ジャンプ（抜重）・たち幅跳び等・RDJ）

［８回］フォースプレートⅤ（重心動揺：閉眼・開眼・目が回った状態：ロンベルグ率計算）

［９回］全身反応時間の運動学的検証

［１０回］高速度ビデオカメラでみる運動の場面（ビデオカメラの撮影の仕方等）

［１１回］動作解析の実際（画像解析ソフトを使った検証）

［１２回］運動時の血流動態（超音波を用いた検証）

［１３回］運動時の筋活動動態（超音波を用いた検証）

［１４回］運動と呼吸代謝Ⅰ（安静時代謝）

［１５回］運動と呼吸代謝Ⅱ（運動中のエネルギー代謝）

学生へのメッセージ
・3年次で学んだ「運動学」の復習をしっかりしておくこと ・積極的な姿勢は、授業中の課題評価に値します

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

解剖学Ⅰ[1421310]

科目名	解剖学Ⅰ[1421310]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0〜2.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

予習課題（１週前に提示）を講義前に提出すること（評価対象）。
プレテスト・ポストテストを非通知で行うことがあります（評価対象）。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『解剖学』全国柔道整復学校協会（医歯薬出版）

参考書：『コメディカルのための専門分野テキスト 解剖学』五味・岸編集（中外医学社）
『解剖学問題集5073』五味敏昭ほか（屋書房）
『柔整・鍼灸・あマ指・看護・理作 国家試験問題（解剖学・生理学）10年間』成瀬・木村 監修（屋書房）

評価方法・評価割合

定期試験（60-70%）、出席状況（0-10%）、レポート（10%）、その他（授業態度10%）

授業の目的および到達目標

人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。柔道整復学をはじめ、あらゆる臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。解剖学Ⅰでは解剖学総論（基本用語、細胞学、組織学、発生学）、循環器系、消化器系、呼吸器系について学ぶ。循環器系では心臓、脈管など、消化器系では消化管、肝臓など、呼吸器系では喉頭、気管・気管支、肺などについて学ぶ。

テーマおよび内容

[01回] 総論：細胞・組織・発生

[02回] 循環器：循環器総論・心臓の位置と外景

[03回] 循環器：心臓の内景・血管系総論

[04回] 循環器：上半身の動脈

[05回] 循環器：下半身の動脈・拍動を触れる動脈

[06回] 循環器：静脈

[07回] 循環器：胎生期の循環・リンパ系・脾臓・造血臓器

[08回] 循環器系のまとめ

[09回] 消化器：内臓総論・消化器総論・腹膜・口腔・咽頭

[10回] 消化器：食道・胃

[11回] 消化器：小腸・大腸・肛門

[12回] 消化器：肝臓・胆路・胆嚢・膵臓

[13回] 呼吸器：呼吸器系総論・鼻腔・喉頭

[14回] 呼吸器：気管・気管支・肺

[15回] 呼吸器：胸膜・縦隔・呼吸筋

学生へのメッセージ
課題レポートは提出日時を厳守すること。 授業開始前に小テストをおこなうこともある。 出席（遅刻は）分単位でとります。遅刻ポイント（分）が90ポイントに達すると１欠席分追加となります。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

解剖学Ⅱ[1421320]

科目名	解剖学Ⅱ[1421320]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	佐藤 達夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0〜3.0
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：「解剖学」 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編 医歯薬出版 参考書：「リハビリテーション解剖アトラス」佐藤達夫・坂本裕和著 医歯薬出版

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標
人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。柔道整復学をはじめ、あらゆる臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。解剖学Ⅱでは解剖学概説および系統解剖学のうち神経系を学ぶ。神経系は中枢神経系と末梢神経系に分け、中枢神経系は脳と脊髄について、末梢神経系は脳神経、脊髄神経および自律神経系について学ぶ。

テーマおよび内容
［1回］ 総論：神経とはなにか，神経の種類と働きについて ［2回］ 脊髄神経：脊髄神経について 背部と胸腹部の神経について ［3回］ 頸部の神経：頸神経叢について ［4回］ 上肢の神経：腕神経叢について ［5回］ 上肢の神経：上腕・前腕・手の神経叢について ［6回］ 下肢の神経：腰神経叢について ［7回］ 下肢の神経：仙骨神経叢について ［8回］ 下肢の神経：下腿と足の支配神経について ［9回］ 脳神経：脳神経について ［10回］ 脳神経：顔面の知覚神経と運動神経について ［11回］ 脳神経：咽頭、喉頭、胸腹部等に分布する脳神経について ［12回］ 自律神経：自律神経系の構成と頭頸胸部の自律神経系について

［13回］ 中枢神経：腹部・骨盤腔の自律神経系について

［14回］ 中枢神経：脊髄の基本構成、髄膜の層構成について
脳幹の区分と構造、小脳について

［15回］ 中枢神経：大脳辺縁系、大脳髄質について
大脳皮質について
伝導路について

学生へのメッセージ
複雑なヒトの神経系について学び，医療に携わる者の基礎として理解することを望みます．

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

解剖学Ⅲ[1421330]

科目名	解剖学Ⅲ[1421330]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0〜2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

予習課題（１週前に提示）を講義前に提出すること（評価対象）。
プレテスト・ポストテストを非通知で行うことがあります（評価対象）。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『解剖学』全国柔道整復学校協会（医歯薬出版）

参考書：『コメディカルのための専門分野テキスト 解剖学』五味・岸編集（中外医学社）
『解剖学問題集5073』五味敏昭ほか（屋書房）
『柔整・鍼灸・あマ指・看護・理作 国家試験問題（解剖学・生理学）10年間』成瀬・木村 監修（屋書房）

評価方法・評価割合

定期試験（60-70%）、出席状況（0-10%）、レポート（10%）、その他（授業態度10%）

授業の目的および到達目標

解剖学Ⅲでは泌尿器系、生殖器系、内分泌器、感覚器について学ぶ。泌尿器系では腎臓、膀胱など、生殖器系では男性・女性生殖器、内分泌器では内分泌腺の位置、構造、分泌するホルモンなど、感覚器では外皮、視覚器、平衡・聴覚器、味覚器、嗅覚器について学ぶ。

テーマおよび内容

[01回] 泌尿器：泌尿器系総論・腎臓マクロ

[02回] 泌尿器：腎臓ミクロ・尿管
[03回] 泌尿器：膀胱・男女の尿道

[04回] 生殖器：生殖器系総論（性の分化など）・男性生殖器（精路・精巣・精巣上体）

[05回] 生殖器：男性生殖器(精管・精嚢・射精管・前立腺・陰茎・陰嚢・精索)

[06回] 生殖器：女性生殖器(総論・卵巣・卵管・子宮)

[07回] 生殖器：女性生殖器(胎盤・腟・外陰部・乳腺)・会陰

[08回] 泌尿器と生殖器のまとめ

[09回] 内分泌器：内分泌系総論・下垂体

[10回] 内分泌器：松果体・甲状腺・上皮小体

[11回] 内分泌器：副腎・膵島（ランゲルハンス島）・他

[12回] 感覚器：外皮（受容器、角質器、付属腺）

[13回] 感覚器：視覚器（眼球、眼瞼、涙器、眼筋）

[14回] 感覚器：聴覚器（外耳、中耳、内耳）

[15回] 感覚器：深部感覚、関連痛、嗅覚、味覚D

学生へのメッセージ
課題レポートは提出日時を厳守すること。 授業開始前に小テストをおこなうこともある。 出席（遅刻は）分単位でとります。遅刻ポイント（分）が90ポイントに達すると１欠席分追加となります。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

解剖学実習[1421340]

科目名	解剖学実習[1421340]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①405教室 ②610基礎医学実習室

受講条件・その注意

真摯な態度で受講すること。私語は厳禁とします。
模型、顕微鏡、超音波画像診断装置などを使用するので、飲食物の教室内持ち込みは厳禁。
３０分以上の遅刻・退席は欠席とみなします。遅刻２回で欠席１回とみなします。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：『解剖学』 全国柔道整復学校協会監修（医歯薬出版）

参考書：『解剖学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』 五味敏昭、岸清（中外医学社）
『解剖学問題集5073』 （犀書房）
『解剖学用語』 日本解剖学会編（医学書院）

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験、持ち込み不可、試験成績）、出席状況（出席回数）、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

人体の解剖学はきわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ事項を、さらに医学教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に理解する必要がある。解剖学実習では運動器解剖学（上肢・下肢・体幹の骨、関節、靭帯、筋、神経、血管）、神経解剖学（脳と脊髄、末梢神経系）、内臓解剖学（心臓、肺、肝臓、腎臓など）について各種模型を使用して理解を深める。

テーマおよび内容

[1回] 体幹系：①体幹の骨・筋・内臓・中枢神経（模型による観察）

[2回] 体幹系：②体表よりの各部観察

[3回] 上肢系：①上肢の骨・靭帯（模型による観察）

[4回] 上肢系：②上肢の筋・神経・血管（模型による観察）

[5回] 上肢系：③体表よりの各部の観察

[6回] 上肢系：④エコー装置を用いた上肢各所の観察

[7回] 下肢系：①下肢の骨・靭帯（模型による観察）

[8回] 下肢系：②下肢の筋・神経・血管（模型による観察）

[9回] 下肢系：③体表よりの各部の観察

[10回] 下肢系：④エコー装置を用いた下肢各所の観察

[11回] 顕微鏡解剖学：①骨・筋・結合組織

[12回] 顕微鏡解剖学：②同上

[13回] 解剖見学

[14回] 解剖見学

[15回] まとめ

学生へのメッセージ
解剖学実習を通して、人体をより立体的に理解して下さい。 予習・復習を行い、より効果的な学習を心がけて下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生理学Ⅰ[1421350]

科目名	生理学Ⅰ[1421350]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	本間 生夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 5.0〜5.0
教室	①405教室

受講条件・その注意
出欠を取る場合、遅刻３回で欠席１回とみなします。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『人体の構造と機能（第3版）』 佐藤昭夫、佐伯由香、原田玲子 編 (医試薬出版) 2012 参考書：『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010 『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009 『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009 『細胞の分子生物学、第４版』 B・アルバーツ：中村桂子 （ニュートンプレス） 2004 『コスタンゾ 明解生理学』 （エルゼビアジャパン）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験： 持ち込み不可）、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標
生理学Ⅰでは細胞生理学、血液、循環の生理学的基礎を学ぶ。生理学Ⅰは生理学Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの基礎となる導入部分であり、しっかり理解することを目的とする。また、生理学を単一の学問としてでなく、化学や生化学などに加えて解剖学、微生物学や薬理学などの基礎医学との有機的関係を基礎に理解できるように努力する。

テーマおよび内容
［1回］ 細胞生理学１：恒常性の維持とは ［2回］ 細胞生理学２：細胞膜の性質 ［3回］ 細胞生理学３：細胞内小器官の機能 ［4回］ 細胞生理学４：体液量と成分 ［5回］ 血液１：赤血球の機能１ ［6回］ 血液２：赤血球の機能２ ［7回］ 血液３：白血球の機能

［8回］ 血液４：血液凝固

［9回］ 血液５：血液型

［10回］循環１：循環の特徴

［11回］循環２：刺激伝導系

［12回］循環３：心電図とその異常

［13回］循環４：心周期

［14回］循環５：血管の機能（特殊部位を含む）

［15回］循環６：循環調節

学生へのメッセージ
なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある学生は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生理学Ⅱ[1421360]

科目名	生理学Ⅱ[1421360]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	本間 生夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0〜2.0
教室	①403教室

受講条件・その注意
出欠を取る場合、遅刻３回で欠席１回とみなします。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『人体の構造と機能（第3版）』 佐藤昭夫、佐伯由香、原田玲子 編 (医試薬出版) 2012 参考書：『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010 『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009 『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009 『細胞の分子生物学、第４版』 B・アルバーツ：中村桂子 （ニュートンプレス） 2004 『コスタンゾ 明解生理学』 （エルゼビアジャパン）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験： 持ち込み不可）、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標
生理学Ⅱでは呼吸、消化と吸収、そして体温の生理学的基礎を学ぶ。生理学Ⅰと同様、単一の学問としてではなく、化学や生化学などに加えて解剖学、微生物学や薬理学などの基礎医学との有機的関係を常に念頭に置いて生理学を理解するように努力する。

テーマおよび内容
［1回］ 呼吸１：呼吸器の構造 ［2回］ 呼吸２：呼吸運動 ［3回］ 呼吸３：肺表面活性化物質 ［4回］ 呼吸４：ガス交換 ［5回］ 呼吸５：化学調節 ［6回］ 呼吸６：神経調節 ［7回］ 消化と吸収１：口腔内・胃内における消化 ［8回］ 消化と吸収２：小腸内における消化

［9回］ 消化と吸収３：膵臓の機能

［10回］消化と吸収４：吸収過程と消化管ホルモン

［11回］消化と吸収５：肝臓の機能

［12回］消化と吸収６：排便反射

［13回］体温１：熱の産生

［14回］体温２：熱の放散

［15回］体温３：体温調節

学生へのメッセージ
なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある学生は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生理学Ⅲ[1421370]

科目名	生理学Ⅲ[1421370]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	本間 生夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 4.0〜4.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

出欠を取る場合、遅刻３回を欠席１回とみなします。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『人体の構造と機能（2版）』 佐藤昭夫、佐伯由香 （医歯薬出版）2010

参考書：『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010
『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009
『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009
『明解生理学』 L・コスタンゾ：岡田、菅谷 （エルゼビア・ジャパン） 2011
『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫 （京都大学出版会） 2009
『Principles of Neural Science 4th ed.』 ER Kandel （McGraw Hill） 2000

評価方法・評価割合

定期試験（定期試験（持ち込み不可））、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

生理学Ⅲでは内分泌、尿の生成と排泄、そして神経生理学の基礎を学ぶ。生理学Ⅰ、Ⅱと同様、単一の学問としてではなく、解剖学、微生物学や薬理学などの基礎医学や臨床医学との有機的関係を常に念頭に置いて生理学を理解するように努力する。神経生理学の基礎は生理学Ⅳの基礎となるので、しっかり理解出来るよう注意を要する。

テーマおよび内容

[1回] 腎の生理学１：腎機能、糸球体濾過

[2回] 腎の生理学２：尿細管再吸収と分泌

[3回] 腎の生理学３：尿の濃縮機構

[4回] 内分泌生理学１：視床下部、下垂体ホルモン

[5回] 内分泌生理学２：甲状腺、膵臓、副腎皮質・髄質ホルモン

[6回] 内分泌生理学３：性ホルモン、生殖機能

[7回] 神経生理学の基礎１：興奮の発生

[8回] 神経生理学の基礎２：興奮の伝導

[9回] 神経生理学の基礎３：興奮の伝達

[10回] 自律神経系１：自律神経とは

[11回] 自律神経系２：交感神経機能

[12回] 自律神経系３：副交感神経機能

[13回] 筋生理学１：筋の微細構造

[14回] 筋生理学２：収縮蛋白と興奮収縮連関

[15回] 筋生理学３：筋収縮のエネルギー

学生へのメッセージ
なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある学生は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生理学Ⅳ[1421380]

科目名	生理学Ⅳ[1421380]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	本間 生夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 4.0〜4.0
教室	①404教室

受講条件・その注意
出欠を取る場合、遅刻３回を欠席１回とみなす。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『人体の構造と機能（2版）』 佐藤昭夫、佐伯由香 （医歯薬出版）2010 参考書：『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010 『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009 『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009 『明解生理学』 L・コスタンゾ：岡田、菅谷 （エルゼビア・ジャパン） 2011 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫 （京都大学出版会） 2009 『Principles of Neural Science 4th ed.』 ER Kandel （McGraw Hill） 2000

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験（持ち込み不可））、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標
生理学Ⅳでは神経生理学を基礎とした部分で、筋運動とこれを調節する中枢神経系の機能、自律神経、そして感覚機能の基礎生理学を学ぶ。基礎医学や臨床医学との有機的関係を常に念頭に置いて生理学を理解するように努力する。

テーマおよび内容
[１回] 中枢神経系１：脊髄と脳幹・間脳の機能 [２回] 中枢神経系２：大脳皮質の機能 [３回] 中枢神経系３：覚醒・睡眠・学習・記憶 [４回] 感覚総論：感覚とは [５回] 体性感覚１：皮膚感覚 [６回] 体性感覚２：深部感覚 [７回] 特殊感覚１：化学感覚（嗅覚と味覚）：

[８回] 特殊感覚２：聴覚１：

[９回] 特殊感覚３：聴覚２：

[10回] 特殊感覚４：平衡感覚

[11回] 特殊感覚５：視覚１

[12回] 特殊感覚６：視覚２

[13回] 運動機能１：α運動ニューロンと運動単位.運動ニューロンの制御

[14回] 運動機能２：中枢性運動調節

[15回] 総括

学生へのメッセージ
なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある学生は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

病理学ⅠⅠ[1422020]

科目名	病理学ⅠⅠ[1422020]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 月曜 3.0〜3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『新クイックマスター 病理学』堤 寛（医学芸術社）
『好きになる免疫学』多田富雄 萩原清文（講談社サイエンティフィック）
『からだをまもる免疫のふしぎ』日本免疫学会（羊土社）

評価方法・評価割合

定期試験（中間筆記試験：持ち込み不可＝50%、期末筆記試験：持ち込み不可＝50%）

授業の目的および到達目標

病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について学ぶ。病理学Ⅱでは炎症（原因、形態学的変化、特異性炎と非特異性炎）、免疫異常（抗原と抗体、液性免疫と細胞性免疫、免疫不全、自己免疫疾患）、アレルギー（定義、分類）、腫瘍（定義、肉眼的形態、発生段階、原因・診断・治療、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍）、先天性異常（遺伝子と染色体、遺伝疾患、奇形）について学習する。

テーマおよび内容

[1回] 炎症について: 炎症の五大徴候、原因、経過、症状について学ぶ
[2回] 炎症について: 炎症の分類について学ぶ
[3回] 炎症について: 炎症の分類の詳細について学ぶ
[4回] 炎症について: 特異性炎、非特異性炎について学ぶ
[5回] 幹細胞と再生医学について: 幹細胞の生物学、幹細胞を用いた再生医療、細胞治療について学ぶ
[6回] 免疫について: 自然免疫と獲得免疫について学ぶ
[7回] 免疫について: 抗原と抗体、免疫記憶について学ぶ
[8回] 免疫について: 主要組織適合抗原(MHC)、抗原提示細胞、免疫担当細胞について学ぶ
[9回] 免疫について: 貪食作用、細胞性免疫、液性免疫について学ぶ
[10回] 免疫について: 免疫細胞どうしの情報交換について学ぶ
[11回] 免疫について: リンパ節、脾臓の役割、遊走因子、接着分子について学ぶ
[12回] 免疫について: 抗原特異性、抗体の多様性を生む仕組み、抗体の働きについて学ぶ
[13回] 免疫について: 抗体産生細胞のクラススイッチについて学ぶ
[14回] 免疫について: 胸腺の役割、免疫寛容について学ぶ
[15回] 免疫異常について: ヘルパーT細胞、制御性T細胞の均衡について学ぶ
[16回] 免疫異常について: アレルギー(クームス分類)について学ぶ
[17回] 免疫異常について: アレルギー(クームス分類)について学ぶ
[18回] 免疫異常について: 関節リウマチはどのような病気かについて学ぶ

[19回] 免疫異常について: エイズと免疫のせめぎ合いについて学ぶ
[20回] 免疫異常について: 臓器移植と拒絶反応、骨髄移植とGVH反応について学ぶ
[21回] 腫瘍について: 腫瘍とは何かについて学ぶ
[22回] 腫瘍について: 腫瘍の特色、分類について学ぶ
[23回] 腫瘍について: 腫瘍の良性と悪性の違いについて学ぶ
[24回] 腫瘍について: 悪性腫瘍の特徴、分類について学ぶ
[25回] 腫瘍について: 腫瘍発生の内因について学ぶ
[26回] 腫瘍について: 腫瘍発生の外因について学ぶ
[27回] 癌の幹細胞、腫瘍免疫について: 癌の幹細胞について、がんと免疫のせめぎ合いについて学ぶ
[28回] 先天性異常について: 遺伝子と染色体について学ぶ
[29回] 先天性異常について: 染色体異常、遺伝疾患について学ぶ
[30回] 先天性異常について: 代謝異常、奇形について学ぶ┬

学生へのメッセージ

病理学を理解するためには解剖学、生理学の理解が必須です。しっかり復習しておいてください。
みなさんからの質問を十分に活用して授業を展開して、理解を深めていきます。積極的に参加してください。
出席しているだけ（わかっているつもり）では評価の対象になりません。試験のみ（理解したうえで説明ができる）で成績を判定します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

病理学実習[1422030]

科目名	病理学実習[1422030]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①610基礎医学実習室 ②611基礎医学実習室

受講条件・その注意
病理学の講義で学んだ内容を発展させていく実習です。病理学のもつ役割を認識し、顕微鏡を使って実際の病変の組織の異常を自分の目で見ていきます。

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：なし

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験：持ち込み不可＝100%）

授業の目的および到達目標
病理学講義で学習した種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について実習を通じてより深く理解することを目的とする。まず、人体の正常な組織標本作製法（Ｈ－Ｅ染色、免疫組織学的染色法、蛍光染色など）および組織（上皮組織、骨組織、筋組織、ネフロン、内分泌腺など）の顕微鏡観察法について学ぶ。次いで種々の疾患の病理標本（肝細胞の脂肪変性、肝硬変の肝臓組織、腫瘍組織など）の顕微鏡的観察を行う。

テーマおよび内容
[1 回] 病理検体の取り扱い方、顕微鏡の使い方：標本作成、染色法、顕微鏡の使い方について学ぶ（実習） [2 回] 顕微鏡実習：心臓の疾患（実習） [3 回] 顕微鏡実習：心臓の疾患（実習） [4 回] 顕微鏡実習：肺の疾患（実習） [5 回] 顕微鏡実習：肺の疾患（実習） [6 回] 顕微鏡実習：肺の疾患（実習） [7 回] 顕微鏡実習：肝臓の疾患（実習） [8 回] 顕微鏡実習：肝臓の疾患（実習） [9 回] 顕微鏡実習：肝臓の疾患（実習） [10回] 顕微鏡実習 ：腎臓の疾患（実習） [11回] 顕微鏡実習 ：腎臓の疾患（実習） [12回] 顕微鏡実習 ：腎臓の疾患（実習） [13回] 顕微鏡実習 ：悪性腫瘍（実習） [14回] 顕微鏡実習 ：悪性腫瘍（実習） [15回] 授業のまとめ

学生へのメッセージ

標本を観察して得られる情報は莫大な量になります。肉眼所見（マクロ）も重要ですが、顕微鏡的所見（ミクロ）も病気を理解する上で重要な情報となります。この実習を通じて病気に対する視野を大きく広げてください。
病理学の真髄（学問としての面白さ）を伝授していくつもりです。是非、積極的に参加し、実習に取り組んでください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

内科学各論Ⅰ[1422050]

科目名	内科学各論Ⅰ[1422050]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	田中 滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 5.0〜5.0
	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①403教室 ②404教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『一般臨床医学』（社）全国柔道整復学校協会編 奈良信雄・吉澤靖之・椎名晋一編（医歯薬出版） 参考書：『内科学書』 小川 聡 総編集（中山書店） 『病気がみえる（呼吸器、循環器、消化器、糖尿病・代謝・内分泌、血液）』（メデックメディア）

評価方法・評価割合
定期試験（定期試験と出席状況およびレポートを総合して判断する。定期試験は前期・後期試験を総合して判断する。）、出席状況（遅刻2回で1回の欠席とみなす。）、レポート（小テストを行なうことがあります。）

授業の目的および到達目標
柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。内科学各論Ⅰでは、内科疾患のうち呼吸器疾患（気管支喘息など）、循環器疾患（心筋梗塞など）、消化器疾患（胃癌など）、代謝疾患（糖尿病など）、内分泌疾患（バセドウ病など）、血液疾患（白血病など）について、その原因、症状、診断・検査・治療法などについて学ぶ。一般的な臨床症状から出発する症候学に基づき重要疾患を学習し、臨床現場で応用できるようにする。

テーマおよび内容
[1回] 呼吸器疾患1:総論、かぜ症候群、急性気管支炎
[2回] 呼吸器疾患2:慢性気管支炎、気管支喘息肺、肺気腫
[3回] 呼吸器疾患3:肺炎、肺結核
[4回] 呼吸器疾患4:肺癌、自然気胸
[5回] 循環器疾患1:総論、狭心症、心筋梗塞
[6回] 循環器疾患2:心弁膜症（僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄・閉鎖不全症）
[7回] 循環器疾患3:先天性心疾患（ファロー四徴症、心房・心室中隔欠損症）
[8回] 循環器疾患4:うっ血性心不全、本態性高血圧大
[9回] 循環器疾患5:動脈瘤、解離性大動脈瘤、バージャー病

[10回] 消化器疾患1:総論、食道癌、急性・慢性胃炎

[11回] 消化器疾患2:消化性潰瘍、胃癌
[12回] 消化器疾患3:急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎

[13回] 消化器疾患4:大腸癌、潰瘍性大腸炎

[14回] 肝・胆・膵疾患1:総論、肝炎

[15回] 肝・胆・膵疾患2:肝硬変、肝癌

[16回] 肝・胆・膵疾患3:胆石症、胆嚢炎

[17回] 肝・胆・膵疾患4:膵炎、膵癌

[18回] 代謝・栄養疾患1:総論

[19回] 代謝・栄養疾患2:糖尿病

[20回] 代謝・栄養疾患3:脂質異常症

[21回] 代謝・栄養疾患4:痛風、その他の代謝異常

[22回] 内分泌疾患1:総論、下垂体疾患（巨人症）

[23回] 内分泌疾患2:下垂体疾患（低身長症、尿崩症）

[24回] 内分泌疾患3:甲状腺疾患（甲状腺機能亢進・低下症、慢性甲状腺炎）

[25回] 内分泌疾患4:副腎疾患（アジソン病、原発性アルドステロン症）

[26回] 内分泌疾患5:副腎疾患（クッシング、褐色細胞腫）

[27回] 血液疾患1:総論

[28回] 血液疾患2:赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血）

[29回] 血液疾患3:白血球疾患（急性・慢性白血病）

[30回] 血液疾患4:出血性素因（特発性血小板減少性紫斑病、血友病）w弗

学生へのメッセージ
多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。単元ことに、生理・解剖の復習をして下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

内科学各論ＩＩ（スポーツ医学を含む）[1422060]

科目名	内科学各論ＩＩ（スポーツ医学を含む）[1422060]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中 滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 4.0〜4.0
教室	①403教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『一般臨床医学』（社）全国柔道整復学校協会編 奈良信雄・吉澤靖之・椎名晋一編（医歯薬出版）

参考書：『内科学書』 小川 聡 総編集（中山書店），
『病気がみえる（脳・神経、呼吸器、糖尿病・代謝・内分泌）』（メデックメディア）

評価方法・評価割合

定期試験（定期試験と出席状況およびレポートを総合して判断する。）、出席状況（遅刻2回で1回欠席とみなす。）、レポート（小テストを行うことがあります。）

授業の目的および到達目標

柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。内科学各論IIでは、内科疾患のうち腎疾患（糸球体腎炎など）、神経筋疾患（進行性筋ジストロフィー症など）、感染症（エイズなど）、リウマチ疾患（膠原病など）について、その原因、症状、診断・検査・治療法などについて学ぶ。一般的な臨床症状から出発する症候学に基づき重要疾患を学習し、臨床現場で応用できるようにする。また、アスリートの健康管理とスポーツ医学についても学習する。

テーマおよび内容

[1回] 腎疾患1：総論、腎不全

[2回] 腎疾患2：糸球体腎炎、尿路感染症（膀胱炎、急性腎盂腎炎）

[3回] 腎疾患3：腎・尿路結石、前立腺肥大症

[4回] 神経疾患1：総論

[5回] 神経疾患2：脳血管障害（脳出血、脳梗塞）、感染性疾患（髄膜炎）

[6回] 神経疾患3：認知症（アルツハイマー病、脳血管性）、基底核疾患（パーキンソン病）

[7回] 神経疾患4：運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経疾患（ギランバレー症候群、ベル麻痺）

[8回] 神経疾患5：筋疾患（筋ジストロフィー、重症筋無力症）、スポーツ医学

[9回] 感染症・性病1：総論、細菌感染症

[10回] 感染症・性病2：スピロヘータ・真菌 他感染症、ウイルス感染症

[11回] 感染症・性病3：ウイルス感染症

[12回] リウマチ性・膠原病1：総論（免疫）

[13回] リウマチ性・膠原病2：リュウマチ性疾患（関節リュウマチ）、膠原病（シェーグレン症候群）

[14回] リウマチ性・膠原病3：膠原病（SLE、全身性硬化症）

[15回] リウマチ性・膠原病4：膠原病（皮膚筋炎、多発性結節性動脈炎、ベーチェット病）

学生へのメッセージ
多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。単元ごとに、生理・解剖の復習をして下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

外科学各論[1422080]

科目名	外科学各論[1422080]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
	後期 月曜 2.0〜2.0
教室	①303教室 ②404教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『外科学概論 改訂第３版』 社団法人全国柔道整復学校協会監修、炭山嘉伸編（南光堂） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、その他（成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある。）

授業の目的および到達目標
外科学の基礎を身につけることを主目的とする。２年次で学んだ外科学概論を基礎として、ここでは日常臨床の場において遭遇することの比較的多い、外科学で扱う代表的疾患の病態、治療を理解する。脳神経外科疾患（脳腫瘍、脳血管疾患、頭部外傷）、胸壁・肺・縦隔疾患（肺癌、肺結核、自然気胸、胸部損傷）、乳腺疾患（乳癌など）、心臓疾患（虚血性心疾患など）、脈管疾患（大動脈瘤など）、腹部外科疾患（胃十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌など）について学習する。

テーマおよび内容
[1回][2回][3回][4回][5回] 脳神経外科 頭部の構造、脳神経疾患の主要兆候、中枢性疾患に特有な病態 脳神経外科領域の検査 脳神経外科領域の主な疾患：脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷 脳神経外科手術   [6回][7回] 頸部の外科 甲状腺疾患、甲状腺腫瘍、副甲状腺疾患、そのほかの頸部疾患   [8回][9回][10回][11回][12回][13回] 胸部外科 胸部の構造と機能、胸部外科領域の検査、開胸術

主な肺疾患：肺癌、転移性肺腫瘍、肺の良性腫瘍、肺分画症

胸郭の異常：漏斗胸、鳩胸、

胸膜疾患：自然気胸、胸膜腫瘍

縦隔腫瘍：胸腺腫、胸腺癌、胚細胞性腫瘍、縦隔嚢腫

胸部外傷

[14回][15回][16回][17回][18回][19回] 心臓外科・血管外科

心血管系疾患に対する検査法、開心術と非開心術

主な心疾患：先天性心疾患、心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症、心臓腫瘍、虚血性心疾患

主な動脈疾患：動脈硬化、大動脈瘤、大動脈炎症候群、レイノー病、閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓血管炎

主な静脈疾患：深部静脈血栓症、血栓性静脈炎、静脈瘤

[20回][21回][22回] 乳腺外科

乳腺の解剖・生理、乳腺疾患に対する検査

主な乳腺疾患：乳腺炎、乳腺症、女性化乳房、線維腺腫、乳癌

[23回][24回][25回][26回][27回][28回] [29回] 消化器外科

消化器の解剖と生理、消化器外科疾患の主な症状、消化器疾患に対する検査

主な消化器疾患：食道癌、マロリー・ワイス症候群、消化性潰瘍、胃癌、悪性リンパ腫、大腸癌、大腸ポリープ、大腸憩室、炎症性腸疾患、肝癌、肝膿瘍、膵癌、膵炎、胆石症、急性虫垂炎、そけいヘルニア、腸閉塞、痔核、裂肛、痔瘻、肛門管癌、急性腹症、腹部外傷

[30回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

救急法[1422090]

科目名	救急法[1422090]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①403教室 ②柔道場

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：特に指定しない 参考書：救急医学（30巻、10号、2006年9月、臨時増刊号）

評価方法・評価割合
定期試験、その他（成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある。）

授業の目的および到達目標
救急を必要とする病態に対し、適切な対処ができるようになることを目的とする。まず、意識障害レベルの判定、出血・呼吸・心拍・脈拍・血圧・瞳孔などの状態確認について学ぶ。次いで、止血法、創傷部位の感染予防処置、気道の確保（異物の除去、下顎挙上法）、人工呼吸法（マウス・トゥー・マウス）、心臓マッサージ、AEDなどについて、各自が実技・実習を十分に行い、手技を確実なものとしていく。

テーマおよび内容
[1回] 総論：正しい救急処置に求められる根拠と合理性は何か？救急法の基本 [2回] バイタルサインの見方：呼吸、血圧、脈拍、体温、意識の評価 [3回] 気道の確保：バイタルサインに異常を来す代表的な救急疾患用手的気道確保と人工呼吸、気道の異物除去 [4回] 循環の確保：胸骨圧迫心マッサージと電気的除細動 [5回] 体温のコントロール：低体温に対する対応（加温）、高体温に対する対応（冷却） [6回] 頸椎・脊柱の保護：脊柱保護の適応、脊髄損傷を疑う身体所見 [7回] 外出血の止血法：直接圧迫による止血、支配動脈の圧迫による止血、鼻出血の止血 [8回] 創の洗浄とデブリードマン：創感染の病態生理、開放創の治療方針、破傷風の予防処置 [9回] 捻挫・脱臼・骨折の処置：目的と適応、手技 [10回] 実習 [11回] 実習 [12回] 実習

[13回] 実習

[14回] 実習

[15回] まとめ

学生へのメッセージ
日本赤十字社や日本交通福祉協会などが主催した救命救急法講習会を受講し、修了証明書を授与された者は本講での実習を免除する。ただし、授与された修了証明書のコピーを提出すること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

リハビリテーション医学実習（検査・測定を含む）[1422130]

科目名	リハビリテーション医学実習（検査・測定を含む）[1422130]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	辰野 正和[非常勤講師]
	荒木 健[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 1.0〜1.0
教室	①710実技実習室

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：『リハビリテーション医学』（第３版）　（社）全国柔道整復学校協会 監修（南江堂） 参考書：資料配布、スライド、ＤＶＤ等使用

評価方法・評価割合
定期試験（実技試験）

授業の目的および到達目標
リハビリテーション医学の講義で学習した障害学について、実習を通じてより深く理解することを目標とする。まず評価法として触診、四肢長と四肢周径測定、関節可動域測定（ROM）、筋力検査（MMT）、神経学的検査（知覚検査、表在反射、深部反射、病的反射）などの手技を理解し、次いで運動療法、物理療法、補装具、自助具、杖歩行、各種作業療法を実習学習し、さらに各種ファシリテーションテクニック（PNFなど）について学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] 身体計測：四肢長（上肢長と下肢長）及び四肢周径（上肢周径と下肢周径）の計測と注意点 [2回] 上肢の関節可動域（ROM）の測定法（基本軸、移動軸、運動方向、参考可動域角度）と注意点 [3回] 下肢の関節可動域（ROM）の測定法（基本軸、移動軸、運動方向、参考可動域角度）と注意点 [4回] 上肢（肩関節、肘関節、手関節）の徒手筋力検査法（MMT）と注意点 [5回] 下肢（股関節、膝関節、足関節）の徒手筋力検査法（MMT）と注意点 [6回] 知覚検査法：表在感覚（触覚、痛覚、温度覚）、深部感覚（位置覚、振動覚）、複合感覚（立体覚、二点識別域、筆跡覚）の検査法と注意点 [7回] 反射（表在反射、深部反射、病的反射）や運動失調の検査法と注意点 [8回] 関節の障害の検査法と注意点 [9回] 腰痛と関連疾患の検査法と注意点 [10回] 頸肩腕障害の検査法と注意点 [11回] リハビリテーションの治療：１．装具（上肢の装具、下肢の装具、体幹の装具）の種類と適応

[12回] リハビリテーションの治療：２．義手・義足と自助具の種類と適応

[13回] リハビリテーションの治療：３．杖の種類、杖歩行の方法と注意点

[14回] リハビリテーションの治療：４．作業療法の適応と注意点

[15回] 総復習習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

病理学Ⅰ[1422310]

科目名	病理学Ⅰ[1422310]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0〜2.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『新クイックマスター 病理学』堤 寛（医学芸術社）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝100%）

授業の目的および到達目標

病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について学ぶ。病理学Ⅰでは病理学の意義、疾病の分類・経過・予後・転帰、内因（素因、遺伝など）と外因（栄養障害、物理的・化学的・微生物学的病因作用）、退行性病変（変性、萎縮、壊死）、循環障害（充血、うっ血、虚血、出血、血栓、塞栓、梗塞、リンパ液の循環障害）、進行性病変（肥大、再生、化生、移植、創傷治癒、異物の処理）について学習する。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。

テーマおよび内容

[1回] 病理学とはどのような学問か：病理学と医療との関わり、医療における病理診断の役割について学ぶ
[2回] 病気についての基本的な考え方：病気の概念、病気の分類について学ぶ
[3回] 病因について（内因）：内因（素因と体質、遺伝、染色体異常）について学ぶ
[4回] 病因について（内因）：内因（代謝異常、奇形、内分泌）について学ぶ
[5回] 病因について（内因）：内因（免疫；抗原と抗体、細胞性免疫と液性免疫）について学ぶ
[6回] 病因について（外因）：外因（物理的病因、化学的病因）について学ぶ
[7回] 病因について（外因）：外因（化学的病因、生物的病因）について学ぶ
[8回] 病因について（外因）：外因（生物的病因、栄養素）について学ぶ
[9回] 循環障害について：循環系（大循環、小循環、リンパ循環、門脈循環）について学ぶ
[10回] 循環障害について：循環障害（詰まる、漏れる、溜まる）の病態について学ぶ
[11回] 循環障害について：出血の機序、止血の機序、浮腫、ショックについて学ぶ
[12回] 生活習慣病について：胆石症、糖尿病、動脈硬化、痛風について学ぶ
[13回] 退行性病変について：萎縮、変性、壊死とアポトーシスについて学ぶ
[14回] 進行性病変について：肥大、増殖、再生、化生、移植について学ぶ
[15回] 進行性病変について：肉芽組織、創傷治癒、骨折の治癒、異物の処理について学ぶ

学生へのメッセージ

病理学を理解するためには解剖学、生理学の理解が必須です。しっかり復習しておいてください。

みなさんからの質問を十分に活用して授業を展開して、理解を深めていきます。積極的に参加してください。
出席しているだけ（わかっているつもり）では評価の対象になりません。試験のみ（理解したうえで説明ができる）で成績を判定します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

病理学Ⅱ[1422320]

科目名	病理学Ⅱ[1422320]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0〜3.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『新クイックマスター 病理学』堤 寛（医学芸術社）
『好きになる免疫学』多田富雄 萩原清文（講談社サイエンティフィック）
『からだをまもる免疫のふしぎ』日本免疫学会（羊土社）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝100%）

授業の目的および到達目標

病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について学ぶ。病理学Ⅱでは炎症（原因、形態学的変化、特異性炎と非特異性炎）、免疫異常（抗原と抗体、液性免疫と細胞性免疫、免疫不全、自己免疫疾患）、アレルギー（定義、分類）、腫瘍（定義、肉眼的形態、発生段階、原因・診断・治療、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍）、先天性異常（遺伝子と染色体、遺伝疾患、奇形）について学習する。

テーマおよび内容

[1回] 炎症について：炎症の五大徴候、炎症の分類の詳細について学ぶ
[2回] 炎症について：特異性炎、非特異性炎について学ぶ
[3回] 幹細胞と再生医学について：幹細胞の生物学、幹細胞を用いた再生医療、細胞治療について学ぶ
[4回] 免疫について：自然免疫と獲得免疫、抗原と抗体、免疫記憶について学ぶ
[5回] 免疫について：主要組織適合抗原(MHC)、抗原提示細胞、免疫担当細胞について学ぶ
[6回] 免疫について：抗原特異性、抗体の多様性を生む仕組み、抗体の働きについて学ぶ
[7回] 免疫について：免疫細胞どうしの情報交換、クラススイッチ、免疫寛容について学ぶ
[8回] 免疫異常について：ヘルパーT細胞、制御性T細胞の均衡について学ぶ
[9回] 免疫異常について：アレルギー(クームス分類)について学ぶ
[10回] 免疫異常について：関節リウマチ、エイズ、臓器移植、骨髄移植とGVH反応について学ぶ [11回] 腫瘍について：腫瘍とは何か、腫瘍の特色、分類について学ぶ
[12回] 腫瘍について：腫瘍の良性と悪性の違い、悪性腫瘍の特徴、分類について学ぶ
[13回] 腫瘍について：腫瘍発生の内因、外因について学ぶ
[14回] 癌の幹細胞、腫瘍免疫について：癌の幹細胞について、がんと免疫のせめぎ合いについて学ぶ
[15回] 先天性異常について：染色体異常による疾患、遺伝疾患、代謝異常、奇形について学ぶぶ

学生へのメッセージ

病理学を理解するためには解剖学、生理学の理解が必須です。しっかり復習しておいてください。
みなさんからの質問を十分に活用して授業を展開して、理解を深めていきます。積極的に参加してください。
出席しているだけ（わかっているつもり）では評価の対象になりません。試験のみ（理解したうえで説明ができる）で成績を判定します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

一般臨床医学 Ⅰ[1422340]

科目名	一般臨床医学 Ⅰ[1422340]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林 洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 4.0～4.0
教室	①405教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『一般臨床医学 改訂第３版』 奈良信雄他（南江堂） 参考書：『内科診断学』 武内重五郎（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝30%）、レポート（中間１回＝30%）

授業の目的および到達目標
柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。代表的な臨床症状について、問診による病歴聴取法、視診、触診、打診、聴診による身体所見の取り方について学習する。特に柔道整復師の日常診療に関連の強い内科疾患の病態と治療については詳しく解説し、実際の診療で応用可能となることを目標とする。

テーマおよび内容
〔１回〕診察概論：診察の目的と技術 〔２回〕問診：医療面接の方法 〔３回〕視診１：体格と体型、体位と姿勢 〔４回〕視診２：栄養状態、精神状態 〔５回〕視診３：異常運動 〔６回〕視診４：歩行 〔７回〕視診５：皮膚 〔８回〕視診６：頭部、顔面 〔９回〕視診７：頸部、胸部、腹部 〔１０回〕視診８：腰背部、四肢 〔１１回〕打診：胸腹部 〔１２回〕聴診１：胸部

〔１３回〕聴診２：腹部

〔１４回〕触診１：皮膚、筋、骨

〔１５回〕触診２：胸部、腹部、リンパ節

学生へのメッセージ
基礎医学系の授業で学んだことを土台にして講義をします。 疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

一般臨床医学 Ⅱ[1422350]

科目名	一般臨床医学 Ⅱ[1422350]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林 洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0〜3.0
教室	①405教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『一般臨床医学 改訂第３版』 奈良信雄他（南江堂） 参考書：『内科診断学』 武内重五郎（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝30%）、レポート（中間１回＝30%）

授業の目的および到達目標
柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。体温、血圧、脈拍の測定法と呼吸状態の観察法、知覚検査、反射検査（表在反射、深部反射、病的反射）を含む神経学的所見の取り方、そして、代表的な臨床症状と、臨床検査としての生理機能検査と検体検査について学習する。特に柔道整復師の日常診療に関連の強い内科疾患の病態と治療については詳しく解説し、実際の診療で応用可能となることを目標とする。

テーマおよび内容
〔１回〕生命徴候１：体温、血圧 〔２回〕生命徴候２：脈拍、呼吸 〔３回〕神経学総論：知覚神経と運動神経 〔４回〕知覚検査１：表在、深部 〔５回〕知覚検査２：複合、その他 〔６回〕反射検査１：表在、深部 〔７回〕反射検査２：病的、クローヌス、自律神経 〔８回〕代表的な臨床症状１：発熱 〔９回〕代表的な臨床症状２：出血傾向、リンパ節腫脹 〔１０回〕代表的な臨床症状３：意識障害、チアノーゼ 〔１１回〕代表的な臨床症状４：関節痛、浮腫 〔１２回〕代表的な臨床症状５：肥満、やせ

〔１３回〕生理機能検査：心電図検査、呼吸機能検査等

〔１４回〕検体検査１：血液検査

〔１５回〕検体検査２：尿検査、髄液検査

学生へのメッセージ
基礎医学系の授業で学んだことを土台にして講義をします。 疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

外科学概論Ⅰ[1422380]

科目名	外科学概論Ⅰ[1422380]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

授業中の飲食・私語は禁止します。
授業の妨げ及び他の学生の勉強の邪魔になると思われる学生は退室してもらいます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

外科学概論 (社）全国柔道整復学校協会監修 炭山嘉伸編 (南江堂）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験）

授業の目的および到達目標

本講では外科学概論Ⅱと合わせて外科学の基礎について学ぶ。まず外科学の歴史と領域別専門分化の過程について学習する。そのあと外科学総論として損傷（創傷、熱傷）、外科で扱う感染症、腫瘍、ショック、輸血と輸液、滅菌と消毒、麻酔について学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 外科学の歴史と専門分化：紀元前にまで遡る外科学の歴史、19世紀からの外科学の発展、外科的治療技術の進歩と領域別専門分化の過程

[2 回][3回] 損傷の概論：損傷の定義、創と傷、熱傷と凍傷

[4 回][5回] 外科的感染症：外科で扱う種々の感染症とその治療

[6回][7回] 腫瘍：腫瘍の概念、成因、分類、発育形式、診断と治療

[8 回] ショック：ショックの原因別分類、ショックの診断と治療

[9 回][10回] 輸血と輸液：輸血に関する基礎知識、輸血の実際、輸血の副作用、輸液の定義と目的、高カロリー輸液

[11 回] 消毒と滅菌：主な消毒薬とその特徴、医療機関で行われる主な滅菌法

[12 回] 手術：手術に関する用語の理解、主な手術操作の概略

[13 回][14回] 麻酔：麻酔の概要、麻酔の種類、麻酔前投薬

[15 回] まとめ

学生へのメッセージ

講義の内容に疑問や質問がある場合は講義中、講義後に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

外科学概論 II [1422390]

科目名	外科学概論 II [1422390]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 2.0〜2.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

授業中の飲食・私語は禁止します。
授業の妨げ及び他の学生の勉強の邪魔になると思われる学生は退室してもらいます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

外科学概論 (社）全国柔道整復学校協会監修、炭山嘉伸編 （南江堂）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験）

授業の目的および到達目標

外科学概論 I に引き続いて、外科学の基礎を学習する。外科学総論として、麻酔（全身麻酔と局所麻酔）、移植、出血と止血を扱う。そのあと外科学各論として、脳神経外科疾患、甲状腺・頸部の疾患、胸壁・呼吸器の疾患について学習する。

テーマおよび内容

[1回][2回] 全身麻酔：麻酔器の構造、吸入麻酔の導入、維持、覚醒

[3回][4回] 全身麻酔：静脈麻酔、、筋弛緩薬、全身麻酔の合併症

[5回][6回][7回] 局所麻酔：脊髄クモ膜下麻酔（脊椎麻酔）、硬膜外麻酔、表面麻酔、浸潤麻酔、神経ブロック、

[8回][9回] 移植と免疫：移植に関する用語の理解、臓器保存の方法、移植の問題点、脳死判定

[10回][11回] 出血と止血：出血の種類、止血の仕組み、止血法

[12回][13回][14回] 脳神経外科疾患：主要徴候、診断のための画像検査、主な疾患

[15回] まとめ

学生へのメッセージ

講義の内容に疑問や質問がある場合は講義中、講義後に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

整形外科学Ⅰ[1422420]

科目名	整形外科学Ⅰ[1422420]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

医学的知識を具体的に応用して、考察出来るようになることが目標である。
その指標は、講義中の医学的な双方向の会話に参加できるか否かがポイントである。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

整形外科学

評価方法・評価割合

定期試験（60点以上）、出席状況、レポート、授業中の課題（毎回、小試験を実施する。）

授業の目的および到達目標

整形外科学では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。整形外科学Ⅰでは、整形外科学の基礎となる運動器の解剖学を学び、基本的な診察法の概要を把握する。また、西洋医学における外科的治療法についても知識を得る。更に、疾患の総論として、整形外科学のうち肩関節の疾患（肩関節周囲炎など）、肘関節の疾患（テニス肘など）、手関節の疾患（ド・ケルバン病など）、体幹の疾患（椎間板ヘルニアなど）、股関節の疾患（先天性股関節脱臼など）、膝関節の疾患（半月板損傷など）、足関節の疾患（足関節捻挫など）および骨端症（オスグッド・シュラッテル病など）について学習する。

テーマおよび内容

４月 9日 [1回] 疾患別総論Ⅰ（炎症・腫瘍・変性疾患）
４月 16日 [2回] 疾患別総論Ⅰ（全身性疾患・骨端症）
４月 23日 [3回] 疾患別総論Ⅱ（循環障害・神経疾患・筋疾患）
5月 7日 [4回] 感染性疾患
５月 14日 [5回] 腫瘍 非感染性軟部・骨関節疾患
５月 21日 [6回] エコー実習
５月 28日 [7回] 全身性の骨疾患
６月 4日 [8回] 全身性の軟部疾患
６月 11日 [9回] 四肢の循環障害
６月 18日 [10回] 四肢の神経疾患
６月 25日 [11回] 四肢の筋疾患
７月 2日 [12回] 頚椎の疾患
７月 9日 [13回] 胸椎の疾患
７月 16日 [14回] 腰椎の疾患
７月 23日 [15回] 前学期授業のまとめ

学生へのメッセージ

予習、復習してくること、そして講義中の集中力が求められる。
講義では、PP及び標本などで視覚的に展開し、実技も実施するので出席が不可欠である。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

整形外科学 II [1422430]

科目名	整形外科学 II [1422430]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 5.0〜5.0
教室	①404教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
整形外科学

評価方法・評価割合
定期試験（60点以上）、出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標
整形外科学では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。整形外科学 II では、スポーツ外傷・障害の基礎知識について学ぶ。更に、スポーツ選手を診療していく上で必要な整形外科的メディカルチェックなどの基本や、すべての年齢や性差などに特徴的スポーツ外傷・障害について学ぶ。スポーツ外傷・障害については部位別に詳細に学習する。

テーマおよび内容
肩甲帯の疾患 1 肩甲帯の疾患 2 上腕から肘関節の疾患 1 上腕から肘関節の疾患 2 前腕から手指の疾患 1 前腕から手指の疾患 2 骨盤から股関節の疾患 1 骨盤から股関節の疾患 2 大腿から膝関節の疾患 1 大腿から膝関節の疾患 2 下腿から足関節の疾患 1 下腿から足関節の疾患 2 スポーツ外傷各論 スポーツ障害各論 後学期授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学Ⅰ[1422460]

科目名	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学Ⅰ[1422460]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	辰野 正和[非常勤講師]
	荒木 健[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0～2.0
教室	①405教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『リハビリテーション医学（改定第３版）』全国柔道整復学校協会監修、三上真弘編 （南江堂） 必要により資料配布、スライド、ＤＶＤ、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。 参考書：なし

評価方法・評価割合
定期試験

授業の目的および到達目標
リハビリテーションとは、「障害を受けた者を、彼のなし得る最大の身体的、精神的、社会的、職業的、経済的な能力を有するまでに回復させることである。」と定義される。まず、障害の種類、評価法・診断法（徒手筋力テスト、関節可動域測定、日常生活動作評価、運動年齢テストなど）を学習し、その後、リハビリテーションの治療学概論（理学療法、作業療法、言語療法、補装具など）、さらに代表疾患（脊髄損傷、脳性麻痺、脳卒中、関節リウマチなど）のリハビリテーションを学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ（以下ﾘﾊと略）の理念 ： リハの概念と歴史、障害とは何かを学ぶ [2回] リハの基礎医学（Ⅰ） ： 関節運動、筋の活動、姿勢・歩行・運動のｺﾝﾄﾛｰﾙ [3回] リハの基礎医学（Ⅱ） ： 上肢、下肢、脊柱の運動と機能解剖 [4回] 障害学 ： 関節拘縮・変形、筋萎縮、末梢神経および中枢神経麻痺 [5回] 治療学 ： 関節拘縮・筋萎縮の治療、麻痺筋の再教育、痛の治療 [6回] リハ医学での評価（Ⅰ） ： 患者のとらえ方、身体計測法、関節可動域測定法 [7回] リハ医学での評価（Ⅱ） ： 徒手筋力テスト、中枢性運動障害評価法、痙縮の評価 [8回] リハ医学での評価（Ⅲ） ： 小児運動発達の評価法、協調性の評価法 [9回] リハ医学での評価（Ⅳ） ： 失認・失行の評価法、心理評価、障害の受容 [10回] リハ医学での評価（Ⅴ） ： 日常生活動作の評価、電気生理学的診断、画像診断

[11回] リハ治療学の各論（Ⅰ）：理学療法（運動療法、物理療法、牽引・徒手矯正）

[12回] リハ治療学の各論（Ⅱ）：作業療法（身体障害作業療法、精神領域作業療法）

[13回] リハ治療学の各論（Ⅲ）：補装具（義肢・装具の目的と種類、上肢の装具）

[14回] リハ治療学の各論（Ⅳ）：補装具（下肢の装具，体幹の装具）

[15回] リハ治療学の各論（Ⅴ）：補装具（義肢、義手と義足、移動用補助具）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 II [1422470]

科目名	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 II [1422470]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	辰野 正和[非常勤講師]
	荒木 健[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0～2.0
教室	①404教室

教科書・参考文献

教科書：『リハビリテーション医学（改定第３版）』全国柔道整復学校協会監修、三上真弘編 （南江堂）
必要により資料配布、スライド、ＤＶＤ、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。

参考書：なし

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

リハビリテーション医学の目的は、運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにあり、これらの中には、鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目では、医学的リハビリテーションの対象疾患である脳血管疾患、脊髄損傷、脳性小児麻痺、閉塞性肺疾患、心疾患などのリハビリテーションについて、評価法、治療法、訓練プログラムなどを重点的に学習し、鍼灸治療と連携がはかれるようにする。

テーマおよび内容

[1回] リハ治療学の各論（Ⅵ） ： 言語治療、構音障害と失語症

[2回] リハ医学と関連職種 ： チーム医療について

[3回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 脳卒中（脳卒中の分類・障害、病期別のリハ）

[4回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 脊髄損傷（病態、合併症と対策、損傷高位別のリハ）

[5回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 小児疾患（脳性まひ、二分脊椎）

[6回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 小児疾患（筋ジストロフィ、血友病、心疾患）

[7回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 切断（切断の原因疾患、切断の原則、義肢装着訓練）

[8回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 末梢神経損傷（神経の構造、損傷タイプと重症度）

[9回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 関節リウマチ（ＲＡの診断・治療とリハの位置づけ）

[10回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 整形外科疾患（腰痛、頸肩腕痛、五十肩）

[11回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 整形外科疾患（変形性関節症、骨折）

[12回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 心疾患（虚血性心疾患の評価法とリハ・プログラム）

[13回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 呼吸器疾患（拘束性換気障害と閉塞性換気障害）

[14回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 高齢者疾患の特徴とリハの取り組み

[15回] リハビリテーションと福祉 ： リハと福祉、日本の実情と北欧の福祉に学ぶ点敬

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

関係法規[1423020]

科目名	関係法規[1423020]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	早野 俊明[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 4.0〜4.0
	後期 月曜 1.0〜1.0
教室	①404教室

受講条件・その注意
・必ず予習をする。・私語は厳禁。私語を3度注意された場合には退室の上、欠席とみなす。・30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『関係法規［改訂第2版］』前田和彦編著（医歯薬出版株式会社）2009

評価方法・評価割合
その他（初回を除き、毎回授業中に行う復習テスト＝100%）

授業の目的および到達目標
法の意義、体系（法律、政令、省令、条例、規則）を理解した後、柔道整復師として遵守すべき基本的法律である柔道整復師法を中心に、柔道整復師法施行令、柔道整復師施行規則について学ぶ。また、医師法、医療法、歯科医師法、薬事法、薬剤師法、保健師助産師看護法、診療放射線技師法など他の医療関係法規についても、医療人として当然知らなければならない事項について学習し、その習得を到達目標とする。

テーマおよび内容
[1回] ガイダンス [2回] 序論1 1）法の意義、2）法の体系 [3回] 序論2 1）柔道整復師及び柔道整復に関する法規、2）柔道整復師と患者の権利 [4回] 柔道整復師法とその関連内容1 1）柔道整復師法の目的、定義 [5回] 柔道整復師法とその関連内容2 1）柔道整復師免許、2）免許を受けるための要件、3）免許の申請、4）柔道整復師名簿、5）免許の取消等、6）柔道整復師免許証及び柔道整復師免許証明書、7）免許証の書換え交付、8）免許証の再交付、9）免許証又は免許証明書の返納及び提出、10）行政手続法による行政処分 [6回] 柔道整復師法とその関連内容3 同上 [7回] 柔道整復師法とその関連内容4 同上 [8回] 柔道整復師法とその関連内容5 1）柔道整復師国家試験の実施、2）合格証と合格証明書 [9回] 柔道整復師法とその関連内容6 同上

[10回] 柔道整復師法とその関連内容7 1）業務の禁止、2）業務範囲、3）秘密を守る義務、4）都道府県知事の指示、5）緊急時における厚生労働大臣の事務執行

[11回] 柔道整復師法とその関連内容8 同上

[12回] 柔道整復師法とその関連内容9 1）施術所の届出、2）施術所の構造設備等、3）施術所に対する監督

[13回] 柔道整復師法とその関連内容10 同上

[14回] 柔道整復師法とその関連内容11 1）広告、2）経過措置の制定

[15回] 柔道整復師法とその関連内容12 1）罪刑法定主義、2）柔道整復師法に定められた罰則、3）両罰規定

[16回] 柔道整復師法とその関連内容13 同上

[17回] 柔道整復師法とその関連内容14 1）指定登録機関、2）指定試験機関

[18回] 柔道整復師法とその関連内容15 1）免許の特例、2）受験資格の特例

[19回] 関係法規1 1）医療従事者の資格法、2）医療法、3）社会福祉関係法規、4）社会保険関係法規、5）その他の関係法規

[20回] 関係法規2 同上

[21回] 関係法規3 同上

[22回] 関係法規4 同上

[23回] 関係法規5 同上

[24回] 関係法規6 同上

[25回] 関係法規7 同上

[26回] 関係法規8 同上

[27回] 関係法規9 同上

[28回] 関係法規10 同上

[29回] 関係法規11 同上

[30回] 関係法規12 同上

学生へのメッセージ

授業中、授業を静かに聴く自由とともに騒ぐ自由もあるが、当該時間に当該授業が開講されていることを前提で授業に出席している以上、授業を静かに聴く自由が騒ぐ自由に優先することはいわずもがなである。自由は、他人に迷惑をかけないという制約を伴ってこそ享受できるということを自覚してしていただきたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

研究の展開[1423050]

科目名	研究の展開[1423050]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0〜3.0
教室	①コンピューター教室

受講条件・その注意

研究についての講義、実際に研究を展開していく演習からなる。１５回の講義と演習から構成され、一回ごとに完結している講義形式ではなく、毎回の連続した流れの中で理解が深まるように構成されている。大学の規定の出席回数は単位取得にあたっては最低限度のラインであるが、毎回出席して不明な点は次の授業の前までに解決する姿勢で受講してほしい。授業の回を重ねるにつれて研究的な思考回路が構築されてくることが各自で実感されることであろう。積極的に参加することが、将来決して無駄にならないことを保証する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：なし

評価方法・評価割合

授業中の課題（研究計画書:A4レポート1枚＝100%）

授業の目的および到達目標

「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」で学んだ基本的な情報処理方法や、「研究の基礎」で学んだ基本的な研究についての考え方を基盤として、さらに研究についての理解を深め、展開していく。研究活動の必要性を各人の倫理観に基づいて理解することから始め、研究はいかなる行為であるのか、研究は学問の発展にどのように貢献していくのか、社会へどのように還元されていくのか、等について自分自身で考察できる能力を身につけさせる。その上、研究を進めるために重要である文献検索法及び参考論文の読み方を学ぶ。疑問点や問題点を明らかにするために必要な研究課題、仮説をどのように設定し、さらにその問題点は現時点においてどこまで明らかにされているのか、そしてどのように解決していくことができるかを知るために必須な手段となる。その際に文献、論文の解釈に必要となる標本の抽出法、統計手法、検定の意味など注意すべき点等について学ぶ。一連の研究の流れを研究計画書の作成、研究の成果を効果的に伝えるための図・表の作成、研究発表の実際などを通じて実践的に学習する。

テーマおよび内容

[1回] 「研究」とは何か: 「研究する」という行為はいかなる行為か
[2回] 研究の中身の評価 : 研究の内容について判断できるようになる
[3回] インフォームドコンセント: 「インフォームドコンセント」について
[4回] 研究の着想、発案: 「研究してみたい」ことを考えてみる
[5回] 研究の着想、発案: 「研究してみたい」ことを考えてみる
[6回] 研究の世界的状況を知る: 「研究してみたい」ことの世界的状況を知る
[7回] 研究の世界的状況を知る: 「研究してみたい」ことの世界的状況を知る
[8回] 研究の手段、方法を知る: 「研究してみたい」ことの研究の手段を知る
[9回] 研究の手段、方法を知る : 「研究してみたい」ことの研究の手段を知る
[10回] 研究の結果の予測をする : 「研究してみたい」ことの結果を予測する
[11回] 研究に必要な物は何か : 「研究してみたい」ことに必要なものを具体的に示す
[12回] 研究の必要な物は何か : 「研究してみたい」ことに必要なものを具体的に示す
[13回] 研究の社会貢献、利益を考える: 「研究してみたい」ことの社会貢献、利益を考える
[14回] 研究の倫理を考える : 「研究してみたい」ことが社会規範、倫理的に許されることなのかを考える

[15回] 研究を発表する : 「研究してみたい」ことを各自発表してみる

学生へのメッセージ
みなさんが物事に対して疑問をもち、自分で考える姿勢「研究的思考」を身につけるようにしていきます。 みなさんが研究的思考をもって社会に貢献でき、学問を発展させる人材になることを期待しています。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

柔道ＩＩＩ[1423080]

科目名	柔道ＩＩＩ[1423080]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 水曜 2.0〜2.0
教室	①柔道場

受講条件・その注意
柔道着は各自準備のこと。

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書：特になし 参考書：「イラスト柔道の形」五月書房

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）

授業の目的および到達目標
２年間行ってきた柔道（礼法・受身・乱取）に対する総復習を行うとともに、技の理合を理解するために投の形（手技、腰技、足技、真捨身技、横捨身技）、柔の形（第１教、第２教、第３教）を教授する。また、審判規定を学びながら、高点試合を行い、有段者修得を目標とする。

テーマおよび内容
[1回] 対人的技能: 礼法・投げの形（手技）・自由練習
[2回] 対人的技能: 礼法・投げの形（腰技）・自由練習
[3回] 対人的技能: 礼法・投げの形（足技）・自由練習
[4回] 対人的技能: 礼法・投げの形（真捨身技）・自由練習
[5回] 対人的技能: 礼法・投げの形（真捨身技）・自由練習
[6回] 対人的技能: 礼法・投げの形（横捨身技）・自由練習
[7回] 対人的技能: 礼法・投げの形（横捨身技）・自由練習
[8回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習
[9回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習
[10回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習

[11回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習

[12回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習

[13回] 対人的技能: 礼法・審判法・高点試合

[14回] 対人的技能: 礼法・審判法・高点試合

[15回] 対人的技能: 総括

[16回] 対人的技能: 礼法・柔の形（一教）・自由練習

[17回] 対人的技能: 礼法・柔の形（一教）・自由練習

[18回] 対人的技能: 礼法・柔の形（二教）・自由練習

[19回] 対人的技能: 礼法・柔の形（二教）・自由練習

[20回] 対人的技能: 礼法・柔の形（三教）・自由練習

[21回] 対人的技能: 礼法・柔の形（三教）・自由練習

[22回] 対人的技能: 礼法・柔の形・自由練習

[23回] 対人的技能: 礼法・柔の形・自由練習

[24回] 対人的技能: 礼法・柔の形・自由練習

[25回] 対人的技能: 礼法・柔の形・自由練習

[26回] 対人的技能: 礼法・投げの形・柔の形・高点試合

[27回] 対人的技能: 礼法・投げの形・柔の形・高点試合

[28回] 対人的技能: 礼法・投げの形・柔の形・高点試合

[29回] 対人的技能: 礼法・投げの形・柔の形・高点試合

[30回] 対人的技能: 総括

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

柔道整復の歴史[1423310]

科目名	柔道整復の歴史[1423310]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	中川 敏郎[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 5.0〜5.0
教室	①403教室

受講条件・その注意
禁止事項：講義中の私語、騒音、飲食、携帯電話、ゲーム器取扱い

教科書・参考文献
教科書:担当教員の著書による「柔道整復史」（非製本） 参考書:『整骨・整形外科辞典籍大系 全13巻』（オリエント出版） 『日本整骨術全集 上』（梓書房） 『日本整骨術全集 下』（梓書房）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可）

授業の目的および到達目標
人類が人間としての営みを始めたときから「医学と医療」は始まり、人間の歴史と共に医学の歴史は歩んでいる。日本の医学の歴史も飛鳥時代以降のものが記録に残されているが、当然記録にはないそれ以前の「医学と医療」もあったわけである。接骨医学についても、一般的な医学・医療と共に発展してきたが、わかっている限りでは、古武術の中の「活法」、中国で発展した「漢方医学」の中の接骨術、室町時代以降に移入されたヨーロッパの外科医学などが今日の「接骨医学」の基礎となっている。医学の歩みを学ぶことによって、歴史の中で正しく医療を捉え、先師たちが努力の末に残してくれた知識や技能を学習し、将来の指針とする。さらに、柔道整復「JudoTherapy」がWHO（世界保健機構）で伝統医学として認知されるまでの経過、韓国・モンゴル国・ポルトガル・ミクロネシア連邦などでの活動状況、これからの柔道整復師の国際交流についての展望などについても学習する。

テーマおよび内容
[1回] 古代アジアの医学：古代インドの医学。古代中国の医学。 [2回] 古代日本の医学：古墳時代から飛鳥時代へ。仏教伝来と聖徳太子の医療福祉。 [3回] 奈良時代の医学：大宝律令の「医疾令」。行基の社会福祉事業。鑑真の来日。 [4回] 平安時代の医学：我国最初の「薬書」（薬経太素）と「医書」（医心方）。漢和辞典。 [5回] 鎌倉時代の医学：仏教僧侶の医療活動。栄西・叡尊・忍性・性全の福祉活動と医書。 [6回] 室町時代の医学：僧医有隣・月湖の医書。最初の総合大学「足利学校」。 [7回] 安土桃山時代の医学：李朱医学の展開京都曲直瀬診療所。最初の西洋式病院。 [8回] 江戸時代の医学 1 ：中国医学の展開。最初の「医学史」。ヨーロッパ医学の移入。 [9回] 江戸時代の医学 2 ：解剖学の発展・進歩。「三大木骨」の出現。 [10回] 江戸時代の医学 3 ：接骨医学の名著。「三大接骨書」の刊行。

[11回] 江戸時代の医学 4 ：医学教育の進歩。医科大学の創設と発展。

[12回] 明治初期の医学：オランダ医学からフランス医学ドイツ医学へ

[13回] 明治から昭和へ：ヨーロッパ医学からアメリカ医学へ

[14回] 国際交流：韓国・モンゴル。他

[15回] 授業のまとめy

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生命医療倫理学[1423330]

科目名	生命医療倫理学[1423330]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 5.0〜5.0
教室	①406教室

授業の形態
講義

評価方法・評価割合
出席状況、レポート

授業の目的および到達目標
今日、医療または医学研究に従事し、患者や被験者と日常的に接する者にとって、倫理問題は職業上避けて通れないものである。本科目ではインフォームドコンセント（説明と同意）、患者の自己決定権などの基本的な事項にはじまり、医学研究を実践するものが遵守すべきニュルンベルグ綱領やヘルシンキ宣言がどのような経緯で策定されたかを、歴史的な観点を加味しつつ概説する。また、医療技術の発達によって新たにクローズアップされてきた臓器移植や遺伝子治療、高度生殖医療などの諸問題について、これまで提起されてきた議論を整理しながら概説する。

テーマおよび内容
[1 回] イントロダクション
[2 回] 各論（1）Informed consent
[3 回] 各論（2）守秘義務
[4 回] 各論（3）医療過誤・薬害
[5 回] 各論（4）臨床研究実施上の倫理問題について：ヘルシンキ宣言・治験
[6 回] 林担当分（各論1〜4）のまとめ
[7 回] 各論（5）ナチス・ドイツにおける健康政策と人体実験（1）
[8 回] 各論（6）ナチス・ドイツにおける健康政策と人体実験（2）
[9 回] 各論（7）ニュールンベルグ綱領とヘルシンキ宣言（英文読解 1）
[10回] 各論（8）ニュールンベルグ綱領とヘルシンキ宣言（英文読解 2）
[11回] 各論（9）タスキーギ研究
[12回] 各論（10）ハンセン病患者隔離の歴史（1）
[13回] 各論（11）ハンセン病患者隔離の歴史（2）
[14回] 各論（12）生殖医療の現在、臓器移植・終末期医療と倫理について
[15回] 東郷担当分（各論5〜12）のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

柔整医療安全学[1423340]

科目名	柔整医療安全学[1423340]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田渕 健一[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

柔道整復師として医療に携わる上で重要な安全管理について学ぶ。
将来、ヒヤリハットやアクシデントをおこさないように十分学習すること。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『柔整医療安全学』 田渕 健一 他（南江堂）

参考書：『医療安全対策ガイドライン』 嶋森 好子（じほう）
『医療のための安全学入門』 篠原 一彦（丸善）
『人は誰でも間違える』 L. コーン 他（日本評論社）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

ここでは、医療現場における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的に、（1）患者の正確な病態把握と柔道整復師の業務範囲の認識の重要性、（2）外傷と感染防止対策、（3）各種物理療法の禁忌症、安全な物理療法の取り扱い、（4）施術後の指導管理の重要性、（5）医療全般において生じる有害事象の具体例とその予防・対応策、（6）リスクマネージメントの基本的な考え方とインシデントレポートの作成法などを中心に学習する。

テーマおよび内容

[1回] 柔道整復師と医療安全

[2回] インシデントレポートの作成と分析

[3回] 柔道整復業務におけるアクシデントの予防と対応、施術における安全管理

[4回] 物理療法の安全管理

[5回] 頭頸部、顔面の外傷に対するリスクマネージメント

[6回] 胸背部の外傷に対するリスクマネージメント

[7回] 腰部の外傷に対するリスクマネージメント

[8回] 肩・肩周囲の外傷に対するリスクマネージメント

[9回] 上腕、肘、前腕の外傷に対するリスクマネージメント

[10回] 手、指の外傷に対するリスクマネージメント

[11回] 股関節周囲の外傷に対するリスクマネージメント

[12回] 膝の外傷に対するリスクマネージメント

[13回] 下腿、足関節、足部の外傷に対するリスクマネージメント

[14回] 柔道整復業務における訴訟、裁判の実例

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

柔道Ⅰ[1423360]

科目名	柔道Ⅰ[1423360]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
教室	①柔道場

授業の形態
実習(共同)

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）

授業の目的および到達目標
柔術並びに柔道の歴史を学び、創始者である加納治五郎師範の柔道の精神を理解し、柔道と柔道整復師との関わり、また、柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体の健康維持、体力の向上を目標とする。

テーマおよび内容
［1回］ オリエンテーション：授業概要の説明、武道としての柔道、スポーツとしての柔道
［2回］ オリエンテーション：柔道の国際化、礼法、特性、柔道衣の扱い方、体ほぐし運動
［3回］ 基本動作・体ほぐし運動：受け身（後ろ・横・前）、姿勢、組み方
［4回］ 基本動作・体ほぐし運動：受け身（後ろ・横・前・前廻り）体捌き（前・後ろ・前廻り・後ろ回り）
［5回］ 基本動作・体ほぐし運動：受け身（後ろ・横・前・前廻り）崩し（八方）、進退動作
［6回］ 基本動作・体ほぐし運動：受け身（後ろ・横・前・前廻り）進退動作（継ぎ足、歩み足）
［7回］ 基本動作・体ほぐし運動：前廻り受け身、投げ技の基本動作・固め技の基本動作
［8回］ 基本動作・対人的技能：前廻り受け身、膝車、大外刈り・袈裟固め、横四方固め
［9回］ 基本動作・対人的技能：前廻り受け身、体落とし、出足払い・上四方固め、縦四方固め
［10回］ 基本動作・対人的技能：前廻り受け身、背負い投げ、大腰・崩れ袈裟固め
［11回］ 基本動作・対人的技能：前廻り受け身、大内刈り、小内刈り・崩れ上四方固め
［12回］ 基本動作・対人的技能：前廻り受け身、支えつり込み足、払い腰・後ろ袈裟固め
［13回］ 基本動作・対人的技能：前廻り受け身、送り足払い、払いつり込み足、内股・肩固め
［14回］ 基本動作・対人的技能：前廻り受け身、釣り込み腰、一本背負い投げ、跳ね腰

［15回］ 総括 : 受け身・投げ技・抑え技の理解度

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

柔道Ⅱ[1423370]

科目名	柔道Ⅱ[1423370]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 4.0～4.0
教室	①柔道場

授業の形態
実習(共同)

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）

授業の目的および到達目標
柔術並びに柔道の歴史を学び、創始者である加納治五郎師範の柔道の精神を理解し、柔道と柔道整復師との関わり、また、柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体の健康維持、体力の向上を目標とする。

テーマおよび内容
［1回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習・腕がらみ、十字締め
［2回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習・腕挫ぎ十字固め，送り襟締め
［3回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習・腋固め、裸締め
［4回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡
［5回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡
［6回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡
［7回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化
［8回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化
［9回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化
［10回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、固め技の試合
［11回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、固め技の試合
［12回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得
［13回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得
［14回］ 対人的技能：かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得

［15回］ 総括：投げ技・固め技の習熟度

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

柔道Ⅲ[1423380]

科目名	柔道Ⅲ[1423380]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 2.0〜2.0
教室	①柔道場

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書：特になし 参考書：『イラスト柔道・イラスト柔道の形』 共に五月書房

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）、その他（柔道技術の習熟度を優・良・可・不可と評価する。）

授業の目的および到達目標
柔道における技の習熟を目標とし、立技（大外刈、送り足払、払腰など）においては崩し、作り、掛けを学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] 基本動作：礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習 [2回] 基本動作：礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習 [3回] 基本動作：礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習 [4回] 対人的技能：礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習 [5回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習 [6回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習 [7回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習 [8回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習 [9回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習 [10回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習 [11回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習 [12回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習

[13回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習

[14回] 対人的技能：投げ技の連絡変化・自由練習

[15回] 総括：礼法・受け身・投げ技の習熟度

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

柔道Ⅳ[1423390]

科目名	柔道Ⅳ[1423390]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0〜2.0
教室	①柔道場

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書：特になし 参考書：『イラスト柔道・イラスト柔道の形』 共に五月書房

評価方法・評価割合
定期試験（70%）、出席状況（30%）、その他（柔道技術の習熟度を優・良・可・不可と評価する。）

授業の目的および到達目標
柔道における技の習熟を目標とし、立技においては「作り」、「掛け」、「体さばき」などを複合的に組み合わせ、連続して相手に技を掛ける連絡技を学び、寝技においては基本的な抑え技（袈裟固、横四方固、上四方固など）を習得する。それに伴い、体捌き、動きの応用動作を身につけ、乱取や試合練習ができるように学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] 対人的技能：固め技（抑え技）・自由練習 [2回] 対人的技能：固め技（抑え技）・自由練習 [3回] 対人的技能：固め技（抑え技）・自由練習 [4回] 対人的技能：固め技（関節技）・自由練習 [5回] 対人的技能：固め技（関節技）・自由練習 [6回] 対人的技能：固め技（関節技）・自由練習 [7回] 対人的技能：固め技（絞め技）・自由練習 [8回] 対人的技能：固め技（絞め技）・自由練習 [9回] 対人的技能：固め技（絞め技）・自由練習 [10回] 対人的技能：投げの技の連絡変化・得意技習得 [11回] 対人的技能：投げの技の連絡変化・得意技習得

[12回] 対人的技能：投げの技の連絡変化・得意技習得

[13回] 対人的技能：固め技・自由練習

[14回] 対人的技能：固め技・自由練習

[15回] 総括"：投げ技・固め技の習熟度

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

衛生学・公衆衛生学Ⅰ[1423410]

科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅰ[1423410]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	平成26年度以降就任予定[学校法人 花田学園]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 1.0〜1.0
教室	①403教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『衛生学・公衆衛生学 改訂第5版』（南江堂） 参考書：『国民衛生の動向 ２０１１／２０１２年版』（厚生労働統計協会）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標
衛生学・公衆衛生学の根幹は人々の健康にあり、その内容は社会情勢や科学技術の進歩と共に変化していく。衛生学・公衆衛生学の学習目標は、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略・戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。衛生学・公衆衛生学Ⅰでは健康の概念、感染症、環境保健、母子保健、学校保健などを学習する。

テーマおよび内容
[1回] 歴史 公衆衛生学の歴史を理解する: 欧米における公衆衛生の発展の契機となった疾病の流行、事件、発見について列挙できるわが国の公衆衛生の歴史の概観を説明できる [2回] 公衆衛生活動 公衆衛生の概念と基本的内容を理解する：公衆衛生活動の基本（保健計画、衛生教育、保健衛生サービス）について説明できる [3回] 健康の概念1 健康の概念を理解する：健康の概念を説明できるWHOの健康の定義を説明できる [4回] 健康の概念2 健康の成立要因を理解する：健康の成立要因を列挙できる [5回] 健康の概念3 健康指標について理解する：健康指標を列挙できる。 国勢調査について説明できる 年齢３区分別人口と年齢構造指数について説明できる 人口動態統計指標について説明できる 粗死亡率、年齢調整死亡率、PMIについて説明できる 平均寿命、平均余命、健康寿命について説明できる 国民生活基礎調査、有訴者率、通院者率について説明できる 患者調査、受療率について説明できる [6回] 疾病予防と健康管理1 疾病予防と健康管理を理解する：一次予防、二次予防、三次予防の概念について説明できる [7回] 疾病予防と健康管理2：プライマリ・ヘルス・ケア活動の原則が説明できる アルマ・アタ宣言について説明できる オタワ憲章について説明できる 健康日本21について説明できる [8回] 感染症の予防1：感染症病原体の分類について説明できる [9回] 感染症の予防2：感染症成立の3原則について説明できる [10回] 感染症の予防3：新興感染症、再興感染症について説明できる [11回] 感染症の予防4：感染症法と感染症類型について説明できる [12回] 感染症の予防5：検疫感染症について説明できる 院内感染症について説明できる 性感染症について説明できる 結核について説明できる インフルエンザについて説明できる ＨＩＶ感染症について説明できる 腸管出血性大腸菌感染症について説明できる 薬剤耐性菌について説明できる 予防接種について説明できる [13回] 消毒1 消毒について理解する：物理的（理学的）消毒について説明できる [14回] まとめ①： [15回] まとめ②：

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

運動器系の解剖Ⅰ[1424310]

科目名	運動器系の解剖Ⅰ[1424310]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0〜2.0
教室	①405教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『解剖学』 全国柔道整復学校協会監修（医歯薬出版） 参考書：『解剖学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』 五味敏昭、岸清（中外医学社） 『解剖学問題集5073』 （犀書房） 『解剖学用語』 日本解剖学会編（医学書院）

評価方法・評価割合
定期試験（80%）、出席状況（10%）、授業中の課題（10%）

授業の目的および到達目標
柔道整復学では骨・関節・筋などの運動器に加わる急性、亜急性の原因によって生ずる骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などを学ぶ。そのため、その基礎をなす運動器系の解剖学を十分に理解する必要がある。ここでは、骨学として、骨の役割・構造・発生を理解した上で、人体を構成する骨の名称・部位名を学ぶ。また、靭帯学として、関節の一般構造を理解した後に、各関節の構成、補強靭帯などを学んでいく。

テーマおよび内容
［1回］ 講義の進め方、骨の種類： ・講義の概要を説明する。 ・全身の骨の名称を覚える。 ［2回］ 骨学総論： ・骨の役割、形状、構造を理解する。 ・骨の発生と成長を理解する。 ［3回］ 靭帯学（関節学）総論： ・骨の連結、関節の一般構造を理解する。 ・関節の種類（骨数・軸数・関節面の形状）を理解する。 ［4回］ 上肢の骨： ・上肢の骨の構成と各骨の部位名を理解する。 ［5回］ 上肢の関節： ・上肢の各関節の構成、補強靭帯、運動を理解する。 ［6回］ 上肢の骨と関節の模型観察： ・模型を使い、上肢の骨と関節の理解を深める。 ［7回］ 下肢の骨：

・下肢の骨の構成と各骨の部位名を理解する。

［8回］ 下肢の関節：
・下肢の各関節の構成、補強靭帯、運動を理解する。

［9回］ 下肢の骨と関節の模型観察：
・模型を使い、下肢の骨と関節の理解を深める。

［10回］ 脊柱を構成する骨：
・脊柱を構成する骨の種類とその特徴を理解する。

［11回］ 脊柱の連結：
・脊柱を構成する椎骨の連結と補強靭帯について理解する。

［12回］ 胸郭を構成する骨とその連結：
・胸郭を構成する骨を理解する。
・肋骨、胸骨の各部の名称とその連結について理解する。

［13回］ 頭蓋の骨（1）：
・頭蓋を構成する骨と各骨の各部の部位名を理解する。

［14回］ 頭蓋の骨（2）：
・頭蓋を構成する骨と各骨の各部の部位名を理解する。
・頭蓋骨の連結について理解する。

［15回］ 総復習：
・要点を総復習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

運動器系の解剖 II [1424320]

科目名	運動器系の解剖 II [1424320]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0〜2.0
教室	①405教室

授業の形態
講義

評価方法・評価割合
定期試験（80%）、出席状況（10%）、授業中の課題（10%）

授業の目的および到達目標
柔道整復学では骨・関節・筋などの運動器に加わる急性、亜急性の原因によって生ずる骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などを学ぶ。そのため、その基礎をなす運動器系の解剖学を十分に理解する必要がある。ここでは、筋系として、各骨格筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

テーマおよび内容

［1回］ 筋系総論：
・筋の形態、各部の名称、起始・停止、作用、 拮抗筋と協力筋、筋の補助装置について理解する。

［2回］ 上肢帯筋、上腕の筋：
・上肢帯筋、上腕の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［3回］ 前腕の筋（1）：
・前腕の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［4回］ 前腕の筋（2）、手の筋：
・前腕の筋、手の筋の分類と各筋の起始・停止・ 作用・神経支配を理解する。

［5回］ 上肢の筋（模型観察）：
・模型を用い、上肢の筋の理解を深める。

［6回］ 下肢帯筋、大腿の筋：
・下肢帯筋、大腿の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［7回］ 下腿の筋：
・前腕の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［8回］ 足の筋：
・足の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［9回］ 下肢の筋（模型観察）：
・模型を用い、下肢の筋の理解を深める。

［10回］ 頭部の筋：
・頭部の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［11回］ 頸部の筋：

・頸部の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［12回］ 胸部の筋：
・胸部の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［13回］ 腹部の筋：
・腹部の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［14回］ 背部の筋：
・背部の筋の分類と各筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

［15回］ 総復習：
・要点を復習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

骨の損傷概論Ⅰ[1424330]

科目名	骨の損傷概論Ⅰ[1424330]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①406教室

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
骨の損傷（骨折）は柔道整復学において、主体をなす分野である。ここでは部位別の骨折学を学ぶ上で基礎となり、また原理・原則をなす骨折の概論を学ぶ。骨折の定義、分類（骨損傷の程度による分類、外力の働き方による分類など）、症状（一般外傷症状と骨折の固有症状）、合併症（併発症・続発症・後遺症）、骨折の治癒経過、骨折の治療原則などを学ぶとともに、小児骨損傷・高齢者骨損傷の特徴を理解する。

テーマおよび内容
［1回］ 骨の形態と機能：基礎導入として解剖学的特性を学習
［2回］ 柔道整復学を学ぶ上での基礎情報：柔道整復学の学習の前段階として用語の解説
［3回］ 骨を損傷を引き起こす力の種類：骨損傷を引き起こす外力を学習
［4回］ 骨損傷の分類（1）：外力の違いによる骨折形態の学習
［5回］ 骨損傷の分類（2）：骨折の程度による損傷の分類を学習
［6回］ 骨損傷の分類（3）：骨損傷の形態上の特性を学習
［7回］ 不全骨折の種類：不全骨折の種類と特徴を学習
［8回］ 骨折の経過による分類：骨折の治癒過程を時間経過に沿って学習
［9回］ 骨折の治癒に要する期間：種類別の骨折に対する治癒までの期間を学習
［10回］ 四肢長骨骨折の部位による分類：骨折部位別の呼称や特徴を学習
［11回］ 骨折の治癒機転：骨がどのように治癒するのかを病理学的見地から学習
［12回］ 小児骨折の特徴：小児骨折の特性と分類を学習
［13回］ 骨端軟骨板損傷の分類：骨端軟骨板の損傷を中心に分類を学習
［14回］ 高齢者骨折の特徴：高齢者骨折の特性と機序を学習
［15回］ まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

骨の損傷概論Ⅱ[1424340]

科目名	骨の損傷概論Ⅱ[1424340]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0〜3.0
教室	①404教室

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
骨の損傷（骨折）は柔道整復学において、主体をなす分野である。ここでは部位別の骨折学を学ぶ上で基礎となり、また原理・原則をなす骨折の概論を学ぶ。骨折の定義、分類（骨損傷の程度による分類、外力の働き方による分類など）、症状（一般外傷症状と骨折の固有症状）、合併症（併発症・続発症・後遺症）、骨折の治癒経過、骨折の治療原則などを学ぶとともに、小児骨損傷・高齢者骨損傷の特徴を理解する。

テーマおよび内容
［1回］ 骨折の症状（1）：骨折の一般外傷症状
［2回］ 骨折の症状（2）：骨折の固有症状
［3回］ 骨折の合併症（1）：狭義の骨折の合併症
［4回］ 骨折の合併症（2）：骨折の続発症
［5回］ 骨折の合併症（3）：骨折の後遺症
［6回］ 骨折の合併症（4）：包括的な合併症の検討
［7回］ 骨折の合併症（5）：冠名のついた合併症
［8回］ 骨折の合併症（6）：骨折を合併する傷害
［9回］ 骨折の整復法（1）：牽引直圧整復法
［10回］ 骨折の整復法（2）：屈曲整復法・持続牽引法
［11回］ 骨折の固定法（1）：固定材料による差異の検討
［12回］ 骨折の固定法（2）：応用的な固定法の紹介
［13回］ 骨折の治癒に影響を与える因子：骨癒合に好適な条件と不適な条件
［14回］ 総復習：総復習
［15回］ まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

関節の損傷概論[1424350]

科目名	関節の損傷概論[1424350]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	中澤 正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
教室	①404教室

授業の形態
講義

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験で判定する。資料の持ち込みはできない。）、出席状況（6回以上欠席した場合は試験を受けることができない。）、レポート、授業中の課題（授業中に質問を投げかけることがある。）

授業の目的および到達目標
柔道整復師が扱う外傷や障害を見極める上で基本となる関節の構造を学びつつ、その構造から想定される関節の動きについて学ぶとともに発生頻度の高い外傷・障害についての基礎的知識を俯瞰する。本講義では総論の後に、各関節の機能解剖を中心に学習し、各論の基礎的事項を確認する。

テーマおよび内容
［1回］ 関節損傷の概論Ⅰ：オリエンテーション
［2回］ 関節損傷の概論Ⅱ：関節損傷の好発部位と症状
［3回］ 関節損傷の概論Ⅲ：関節損傷の合併症と後遺症
［4回］ 肩関節の損傷Ⅰ：肩関節の機能解剖について
［5回］ 肩関節の損傷Ⅱ：肩関節で発生しやすい損傷について
［6回］ 肩鎖関節の損傷：肩鎖関節の機能解剖と発生しやすい損傷について
［7回］ 肘関節の損傷：肘関節の機能解剖と発生しやすい損傷について
［8回］ 手関節の損傷：手関節の機能解剖と発生しやすい損傷について
［9回］ 股関節の損傷：股関節の機能解剖と発生しやすい損傷について
［10回］ 膝関節の損傷：膝関節の機能解剖と発生しやすい損傷について
［11回］ 足関節の損傷：足関節の機能解剖と発生しやすい損傷について
［12回］ 脊柱の損傷Ⅰ：頸椎の機能解剖と発生しやすい損傷について
［13回］ 脊柱の損傷Ⅱ：胸腰椎の機能解剖と発生しやすい損傷について
［14回］ 顎関節の損傷：顎関節の機能解剖と発生しやすい損傷について
［15回］ 関節炎の総論：関節炎の種類、症状および予後について

学生へのメッセージ
講義中の質問を歓迎する。専門科目の基礎をなす講義であり、よく理解することが望まれる。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

軟部組織損傷概論[1424360]

科目名	軟部組織損傷概論[1424360]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0〜3.0
教室	①403教室

授業の形態
講義(共同)

教科書・参考文献
教科書：『柔道整復学・理論編（改訂第５版）』 参考書：特になし

授業の目的および到達目標
柔道整復師は臨床の場において、骨折、脱臼のほか、筋・腱・靭帯・血管・神経などの損傷にも遭遇する。ここでは種々な筋・腱・靭帯の損傷を学ぶ上で基礎となる事項を理解する。筋・腱・靭帯の形態・構造・機能を学び、筋損傷、腱損傷、靭帯損傷の種類、症状、治癒経過を理解する。さらに、末梢神経の構造、神経損傷の分類・症状、神経損傷の治癒機序や血管損傷の分類・症状などを理解する。

テーマおよび内容
［1回］ 筋の損傷：筋の形態と機能・筋損傷の概説
［2回］ 筋の損傷：筋損傷の分類・筋損傷の症状
［3回］ 筋の損傷：筋損傷の治癒機序・筋損傷の予後
［4回］ 腱の損傷：腱の構造と機能
［5回］ 腱の損傷：腱損傷の概説・腱損傷の分類
［6回］ 腱の損傷：腱損傷の症状・腱損傷の治癒機序
［7回］ 末梢神経の損傷：神経の構造と機能
［8回］ 末梢神経の損傷：神経損傷の概説・神経損傷の分類
［9回］ 末梢神経の損傷：神経損傷の症状・神経損傷の治癒機序
［10回］ 血管系・リンパ系の損傷：血管系・リンパ系の構造と機能
［11回］ 血管系・リンパ系の損傷：四肢血管損傷の概説
［12回］ 血管系・リンパ系の損傷：血管損傷の分類・血管損傷の症状
［13回］ 皮膚の損傷：皮膚の形態と機能

［14回］ 皮膚の損傷 : 皮膚損傷の概説・創傷の治癒機序

［15回］ 授業のまとめ :

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

後療法学[1424370]

科目名	後療法学[1424370]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
教室	①406教室

受講条件・その注意
遅刻2回で欠席1回とみなします

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『柔道整復学・理論編』改訂第５版 全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（期末試験：持ち込み不可＝80%）、出席状況（出席回数＝20%）

授業の目的および到達目標
柔道整復学、特に骨折や脱臼においては整復・固定とともに、後療法は機能的な予後に大きな影響を与える。また、軟部組織損傷においても後療法は重要である。まず、手技療法の種類・応用・禁忌を学ぶとともに、運動療法として運動の基本型、全身運動療法、適応と禁忌を学ぶ。さらに、物理療法として、電気療法（低周波電気療法など）、寒冷療法、光線療法（赤外線療法など）、温熱療法（極超短波療法、超音波療法など）の種類とそれらの適応と禁忌について理解する。

テーマおよび内容
[1回] 後療法の意義・必要性・種類 [2回] 手技療法(1) [3回] 手技療法(2) [4回] 運動療法(1) [5回] 運動療法(2) [6回] 物理療法総論 [7回] 寒冷療法 [8回] 赤外線療法・低周波療法 [9回] 極超短波療法・超音波療法 [10回] ホットパック・パラフィン療法

［11回］脊椎牽引療法

［12回］後療法の実際(1)

［13回］後療法の実際(2)

［14回］後療法の実際(3)

［15回］まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

画像診断学[1425060]

科目名	画像診断学[1425060]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0〜1.0
教室	①304教室

受講条件・その注意
実習と同じ位置づけで講義を勧める。全出席が基本である。

授業の形態
演習

教科書・参考文献
画像診断学は進化が急速であり、特に指定しない。しかし、図書室の本やITを活用して出来る限り沢山の画像を眺めること。講義では、PPやプリント配布により沢山の画像を視覚的呈示する。

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、その他（超音波の基礎や基本的技術を習得すること。臨床所見や他の画像診断との関係を的確に判断できるようになるための基礎的知識を問う。）

授業の目的および到達目標
柔道整復師が医師との連携により治療にあたる際、画像診断の基礎的事項を理解しておく必要がある。骨折、脱臼や軟部組織損傷を診断するにあたり、発生機序や臨床症状とともに、X線画像、MRI画像や超音波画像が重要な手がかりとなる。ここでは、主要な関節のX線画像の見方、主な骨折・脱臼・骨腫瘍のX線画像、正常なMRI画像の見方、腰椎椎間板ヘルニアや膝関節障害（半月損傷、靭帯損傷）のMRI像、骨格筋の超音波画像の見方などについて学ぶ。とりわけ、厚生労働省は、制限下ではあるが柔道整復師が超音波画像を活用することを認めている。よって、超音波および他の画像の比較検討や、医接連携のための重要な補助となる超音波画像の適切な活用を重点的に学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] 柔道整復師における画像の位置づけ [2回] 単純X線画像及びCT画像の基本 [3回] MRI画像の基本 [4回] 超音波画像の基本 [5回] 超音波画像の実際１．骨 [6回] 超音波画像の実際２．筋肉 [7回] 超音波画像の実際３．腱 [8回] 超音波画像の実際４．靭帯 [9回] 超音波画像の実際８．その他

[10回] 画像診断の活用：医接連携のツール

[11回] 骨折と画像

[12回] 軟部損傷と画像

[13回] 現代西洋医学における画像診断の位置づけ

[14回] 画像と患者への対応の倫理的配慮

[15回] 重要用語のまとめとその応用 "::

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

運動器系の解剖総合演習[1425070]

科目名	運動器系の解剖総合演習[1425070]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
教室	①305教室

受講条件・その注意
運動器系の解剖学を主体として解剖学全体を復習するとともに、さらなる理解に努めて下さい。 国家試験問題の演習も行います。欠席、遅刻のないように心がけて下さい。

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：『解剖学』全国柔道整復学校協会（医歯薬出版）

評価方法・評価割合
定期試験（持ち込み不可、定期試験）、出席状況（出席回数）

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に骨学、靭帯学、筋学などの運動器について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。骨組織の光学顕微鏡観察、骨の構造、各関節の関節包・靭帯、骨格筋の起始・停止・作用・神経支配の復習、骨格筋の３次元的な理解とともに、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。

テーマおよび内容
［1回］解剖学概論演習① 解剖学の総論の復習と理解のための演習を行う。 ［2回］解剖学概論演習② 解剖学の総論の復習と理解のための演習を行う。 ［3回］骨・靭帯学各論演習① 骨・関節についての復習と理解のための演習を行う。 ［4回］骨・靭帯学各論演習② 骨・関節についての復習と理解のための演習を行う。 ［5回］筋学各論演習① 骨格筋についての復習と理解のための演習を行う。 ［6回］筋学各論演習② 骨格筋についての復習と理解のための演習を行う。 ［7回］神経系演習① 神経系についての復習と理解のための演習を行う。 ［8回］神経系演習② 神経系についての復習と理解のための演習を行う。 ［9回］感覚器演習① 感覚器についての復習と理解のための演習を行う。 ［10回］感覚器演習② 感覚器についての復習と理解のための演習を行う。

［11回］脈管系演習① 脈管系についての復習と理解のための演習を行う。

［12回］脈管系演習② 脈管系についての復習と理解のための演習を行う。

［13回］内臓学演習① 内臓学についての復習と理解のための演習を行う。

［14回］内臓学演習② 内臓学についての復習と理解のための演習を行う。

［15回］内臓学演習③ 内臓学についての復習と理解のための演習を行う。

学生へのメッセージ
予習、復習をして問題演習がスムーズにできるようにすること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

骨折理論総合演習[1425080]

科目名	骨折理論総合演習[1425080]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 4.0〜4.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

骨折理論全体を総合的に復習するとともに、さらなる理解に努めて下さい。
国家試験問題の演習も行います。欠席・遅刻のないように心がけて下さい。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：『柔道整復学 理論編』全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合

定期試験（８０%）、出席状況（２０%）

授業の目的および到達目標

3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に骨折理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。鎖骨骨折、上腕骨外科頚骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、肘頭骨折、モンテギア骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、中手骨骨折、大腿骨頚部骨折、大腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。

テーマおよび内容

[1回]骨折総論①：骨損傷の分類、骨損傷の症状

[2回]骨折総論②：骨損傷の合併症、小児・高齢者骨損傷の特徴、骨損傷の治癒

[3回]上肢の骨折①：上肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[4回]上肢の骨折②：上肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[5回]上肢の骨折③：上肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[6回]上肢の骨折④：上肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[7回]上肢の骨折⑤：上肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[8回]上肢の骨折⑥：上肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[9回]下肢の骨折①：下肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[10回]下肢の骨折②：下肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[11回]下肢の骨折③：下肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[12回]下肢の骨折④：下肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[13回]下肢の骨折⑤：下肢の骨折の発生機序・症状・整復・固定・合併症

[14回]頭部・顔面の骨折：頭部・顔面の骨折の発生機序・症状・合併症

[15回]脊椎の骨折：脊椎の骨折の発生機序・症状・合併症

学生へのメッセージ
予習、復習をして問題演習がスムーズにできるようにすること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

脱臼理論総合演習[1425090]

科目名	脱臼理論総合演習[1425090]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0〜3.0
教室	①305教室

受講条件・その注意
柔道整復脱臼総論ならびに各論を復習するとともに，国家試験に対する問題の演習も行う． 欠席・遅刻は認めない．

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：『柔道整復学 理論編』全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（国家試験同様の筆記試験）、出席状況（遅刻は認めない．欠席は2回以上は認めない．）、その他（実技試験）

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に脱臼理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼、股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。

テーマおよび内容
[1回]脱臼の総論Ⅰ [2回]脱臼の総論Ⅱ [3回]顔面の脱臼Ⅰ：顎関節脱臼 [4回]上肢の脱臼Ⅰ：肩関節脱臼 [5回]上肢の脱臼Ⅱ：肘関節脱臼，手関節周囲脱臼，手指関節脱臼 [6回]下肢の脱臼Ⅰ：股関節脱臼，膝関節脱臼 [7回]下肢の脱臼Ⅱ：足関節脱臼，リスフラン関節脱臼，足趾関節脱臼 [8回]各脱臼の徒手整復実技 [9回]実技試験 [10回]実技試験

[11回]総合演習問題

[12回]まとめ

[13回]筆記試験

[14回]復習

[15回]復習

学生へのメッセージ
演習科目は1つでも単位未収であれば，卒業見込みがでないため，柔道整復師の国家試験の受験資格がなくなることを認識して講義に参加すること．やむを得ない事情の欠席は1回まで認めるが，2回以上欠席した者は実技試験ならびに筆記試験は受験させない.

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

軟部組織損傷総合演習[1425100]

科目名	軟部組織損傷総合演習[1425100]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①406教室

受講条件・その注意
軟部組織損傷全体を総合的に復習するとともに、さらなる理解に努めて下さい。 国家試験問題の演習も行います。欠席・遅刻のないように心がけて下さい。

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：『柔道整復学 理論編』全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（８０%）、出席状況（２０%）

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に軟部組織損傷の理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。筋・腱・靱帯の光学顕微鏡観察を行い、腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。

テーマおよび内容
[1回]軟部組織損傷①：筋・腱の損傷
[2回]軟部組織損傷②：神経・血管損傷
[3回]上肢の軟部組織損傷①：上肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療
[4回]上肢の軟部組織損傷②：上肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療
[5回]上肢の軟部組織損傷③：上肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療
[6回]上肢の軟部組織損傷④：上肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療
[7回]上肢の軟部組織損傷⑤：上肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療
[8回]下肢の軟部組織損傷①：下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療
[9回]下肢の軟部組織損傷②：下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療
[10回]下肢の軟部組織損傷③：下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療

[11回]下肢の軟部組織損傷④：下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療

[12回]下肢の軟部組織損傷⑤：下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療

[13回]体幹の軟部組織損傷①：体幹の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療

[14回]体幹の軟部組織損傷②：体幹の軟部組織損傷の発生機序・症状・徒手検査法・治療

[15回]復習

学生へのメッセージ
予習・復習をして問題演習がスムーズにできるようにすること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

上肢の骨折理論Ⅰ[1425310]

科目名	上肢の骨折理論Ⅰ[1425310]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	福田 格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0〜1.0
教室	①405教室

受講条件・その注意
遅刻しないこと。私語はしないこと。授業態度は医療を志す学生らしく振る舞うこと。授業中の飲食、スマホ等厳禁。極めて態度不良の場合は不可

授業の形態
講義

教科書・参考文献
柔道整復学・理論編(改訂第５版)およびプリント

評価方法・評価割合
定期試験（筆記試験(持ち込みは不可)60点以上）、出席状況（2/3以上の出席）

授業の目的および到達目標
一年時で学んだ骨損傷の概論を基礎として、上肢の骨折の各論の学習を教科書、臨床資料、スライド画像などを使って授業します。対象は鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨折(上端、骨幹、下端) 橈骨近位骨折、肘頭骨折について発生機序、骨片転位、症状、整復法、固定法、後療法について理論的に学んでいく。

テーマおよび内容
１年次で学んだ骨損傷の概論を基礎として、ここでは上肢の骨折について部位別に理解していく。鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨折などの骨折の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について教科書、臨床資料、スライド画像などを使って理論的に学んでいく。

学生へのメッセージ
臨床上経験するところが多い部位で、柔道整復師として真価を問われるところである。国家試験の出題率も高く、充分に理解するために予習・復習を怠らずしっかりと理解してほしい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

上肢の骨折理論Ⅱ[1425320]

科目名	上肢の骨折理論Ⅱ[1425320]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	福田 格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0〜1.0
教室	①404教室

受講条件・その注意
遅刻しないこと。私語はしないこと。授業態度は医療を志す学生らしく振る舞うこと。授業中の飲食、スマホ等厳禁。極めて授業態度の不良な者は不可

授業の形態
講義

教科書・参考文献
柔道整復学・理論編(改訂第5版)ならびにプリント

評価方法・評価割合
定期試験（筆記試験(持ち込み不可)60点以上合格）、出席状況（2/3以上の出席）

授業の目的および到達目標
一年時で学んだ骨損傷の概論を基礎として、上肢の骨折の各論の学習を教科書、臨床資料、スライド画像などを使って授業します。対象は前腕骨骨折、手根骨骨折、中手骨骨折、指骨折について発生機序、骨片転位、症状、整復法、固定法、後療法について理論的に学んでいく。

テーマおよび内容
１年次で学んだ骨損傷の概論を基礎として、ここでは上肢の骨折について部位別に理解していく。前腕骨骨折、手根骨骨折、中手骨骨折、指骨骨折などを部位別に分けて、それぞれの骨折の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について教科書、臨床資料、スライド画像などを使って理論的に学んでいく。

学生へのメッセージ
これらの部位は、臨床上多く遭遇する部位で、其の治療技術・知識は柔道整復師として真価を問われるので、充分に理解できるように予習・復習を怠らず取り組んでほしい。更に、国家試験の出題率も高いのでそのポイントを良く理解してほしい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

下肢・体幹の骨折理論Ⅰ[1425330]

科目名	下肢・体幹の骨折理論Ⅰ[1425330]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0〜3.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

顔面・頭蓋・脊椎・体幹・下肢の骨折は，柔道整復師が行う保存療法では，後遺障害などが残存する可能性の高いものが多い．よって，柔道整復師の適応であるか否かの判断がつけられる能力を身に付ける．また，臨床上経験することが少ない骨折であっても，国家試験には出題されるため，そのポイントの理解を図る．

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：「柔道整復学 理論編」全国柔道整復学校協会編（南江堂）
参考書：特になし

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験で90%）、出席状況（全出席で10%（遅刻は2回で1回欠席，遅延証明書は認めない））

授業の目的および到達目標

本講義では，顔面・頭蓋部の骨折，脊椎・体幹部の骨折，骨盤部の骨折，下肢部の骨折について理論を学ぶ．この範囲は，柔道整復師の臨床において経験する頻度は少ない．よって，臨床的に重要なポイントについては，私の経験に基づき内容を厚めに授業を展開し，次年度以降の実技の授業につなげたい．また，その他は国家試験のポイントを中心に講義を展開する。

テーマおよび内容

[1回] 講義概要の確認と注意

[2回] 顔面・頭蓋部の骨折（頭部外傷，頭蓋骨骨折）

[3回] 顔面・頭蓋部の骨折（上顎骨骨折，頬骨骨折）

[4回] 顔面・頭蓋部の骨折（鼻骨骨折，下顎骨骨折）

[5回] 顎周囲の傷害

[6回] 体幹部の骨折（肋骨骨折）

[7回] 体幹部の骨折（胸骨骨折）

[8回] 脊椎部の骨折（頸椎骨折）

[9回] 脊椎部の骨折（胸椎骨折）

[10回] 脊椎部の骨折（腰椎骨折）

[11回] 骨盤部の骨折（骨盤骨単独骨折）

[12回] 骨盤部の骨折（骨盤骨輪骨折）

[13回] 関連問題

[14回] まとめ

[15回] 定期試験

学生へのメッセージ
いよいよ，柔道整復学の各論を学び始めます．外傷学の理解なくして，柔道整復術を患者様に提供することは不可能です．私の臨床経験によるお話も講義の中に入れた展開を行いますので，楽しんで勉強しましょう．

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

下肢・体幹の骨折理論Ⅱ[1425340]

科目名	下肢・体幹の骨折理論Ⅱ[1425340]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 5.0〜5.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

顔面・頭蓋・脊椎・体幹・下肢の骨折は，柔道整復師が行う保存療法では，後遺障害などが残存する可能性の高いものが多い．よって，柔道整復師の適応であるか否かの判断がつけられる能力を身に付ける．また，臨床上経験することが少ない骨折であっても，国家試験には出題されるため，そのポイントの理解を図る．

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：「柔道整復学 理論編」全国柔道整復学校協会編（南江堂）
参考書：特になし

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験で90%）、出席状況（全出席で10%（遅刻は2回で1回欠席，遅延証明書は認めない））

授業の目的および到達目標

本講義では，顔面・頭蓋部の骨折，脊椎・体幹部の骨折，骨盤部の骨折，下肢部の骨折について理論を学ぶ．この範囲は，柔道整復師の臨床において経験する頻度は少ない．よって，臨床的に重要なポイントについては，私の経験に基づき内容を厚めに授業を展開し，次年度以降の実技の授業につなげたい．また，その他は国家試験のポイントを中心に講義を展開する。

テーマおよび内容

[1回] 下肢の骨折（大腿骨近位端部骨折）

[2回] 下肢の骨折（大腿骨骨幹部骨折）

[3回] 下肢の骨折（大腿骨遠位端部骨折）

[4回] 下肢の骨折（膝蓋骨骨折）

[5回] 下肢の骨折（下腿骨近位端部骨折）

[6回] 下肢の骨折（下腿骨骨幹部骨折）

[7回] 下肢の骨折（下腿骨遠位端部骨折Ⅰ）

[8回] 下肢の骨折（下腿骨遠位端部骨折Ⅱ）

[9回] 下肢の骨折（足根骨骨折Ⅰ）

[10回] 下肢の骨折（足根骨骨折Ⅱ）

[11回] 下肢の骨折（足根骨骨折Ⅲ）

[12回] 下肢の骨折（中足骨骨折，足趾骨骨折）

[13回] 関連問題

[14回] まとめ

[15回] 定期試験

学生へのメッセージ
いよいよ，柔道整復学の各論を学び始めます．外傷学の理解なくして，柔道整復術を患者様に提供することは不可能です．私の臨床経験によるお話も講義の中に入れた展開を行いますので，楽しんで勉強しましょう．

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

上肢の脱臼理論Ⅰ[1425350]

科目名	上肢の脱臼理論Ⅰ[1425350]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	福田 格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0〜3.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

遅刻しないこと。私語はしないこと。授業態度は医療を志す学生らしく振る舞うこと。授業中の飲食、スマホ等厳禁。極めて授業態度の不良なものは不可

授業の形態

講義

教科書・参考文献

柔道整復学・理論書(改訂第5版)およびプリント

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験(持ち込み不可) 60点以上合格）、出席状況（2/3以上の出席）

授業の目的および到達目標

1年時で学んだ関節の損傷概論を基礎として、ここでは上肢の脱臼について部位別に理解していく。鎖骨の脱臼、肩関節の脱臼、肘関節の脱臼について発生機序、症状、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法について理論的に学んでいく。

テーマおよび内容

１年次で学んだ関節脱臼の概論を基礎として、ここでは胸鎖関節、肩鎖関節、肩関節、肘関節の後方脱臼までの範囲を、教科書、臨床資料、スライド等を使って、各脱臼の発生機序、転位、臨床症状、合併症、整復法、整復障害、固定法、後療法について理論的に学んでいく。

学生へのメッセージ

臨床上経験するところが多い部位で、柔道整復師として真価を問われるところである。国家試験の出題率も高く、充分に理解するために予習・復習を怠らずしっかりと理解してほしい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

上肢の脱臼理論Ⅱ[1425360]

科目名	上肢の脱臼理論Ⅱ[1425360]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	福田 格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

遅刻しないこと。私語はしないこと。授業態度は医療を志す学生らしく振る舞うこと。授業中の飲食、スマホ等厳禁。極めて授業態度の不良なものは不可

授業の形態

講義

教科書・参考文献

柔道整復学・理論編(改訂第5版)およびプリント

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験(持ち込み不可)60点以上合格）、出席状況（2/3以上）

授業の目的および到達目標

1年時で学んだ関節の損傷概論を基礎として、ここでは上肢の脱臼について部位別に理解していく。肘関節の脱臼の後半部分、手関節、手根中手関節、指の脱臼についてについて発生機序、症状、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法について理論的に学んでいく。

テーマおよび内容

１年次で学んだ関節脱臼の概論を基礎として、ここでは肘関節のその他の脱臼、モンテギア脱臼骨折、ガレアッジ脱臼骨折、遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、月状骨ならびに月状骨周囲脱臼、各中手指節関節脱臼、近位指節間関節脱臼、遠位指節間関節脱臼、マレットフィンガーまでの範囲を、教科書、臨床資料、スライド等を使って、各脱臼の発生機序、転位、臨床症状、合併症、整復法、整復障害、固定法、後療法について理論的に学んでいく。

学生へのメッセージ

臨床上経験するところが多い部位で、柔道整復師として真価を問われるところである。国家試験の出題率も高く、充分に理解するために予習・復習を怠らずしっかりと理解してほしい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

軟部組織損傷各論[1425380]

科目名	軟部組織損傷各論[1425380]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0〜3.0
教室	①303教室

受講条件・その注意
授業は患者に対する医療面接同様、集中してよく聞く・よく見るが基本です。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書 「柔道整復学・理論編」改訂第5版 南江堂 参考書 特になし

評価方法・評価割合
定期試験（80%）、出席状況（20%）

授業の目的および到達目標
１年次で学んだ軟部組織損傷概論を基礎として、ここでは軟部組織損傷について部位別に理解していく。腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などの発生機序、臨床症状、治療法などについて、理論的に学んでいく。

テーマおよび内容
[1回] 頭部、顔面、胸部 軟部組織損傷各論 [2回] 脊椎 軟部組織損傷各論 [3回] 上肢 軟部組織損傷各論 肩関節の障害１ [4回] 上肢 軟部組織損傷各論 肩関節の障害２ [5回] 上肢 軟部組織損傷各論 肘の障害 [6回] 上肢 軟部組織損傷各論 前腕の障害 [7回] 上肢 軟部組織損傷各論 手関節と手の障害 [8回] 下肢 軟部組織損傷各論 股関節の障害 [9回] 下肢 軟部組織損傷各論 大腿部の障害 [10回] 下肢 軟部組織損傷各論 発育期の膝関節部の障害

[11回] 下肢 軟部組織損傷各論 半月板損傷

[12回] 下肢 軟部組織損傷各論 靱帯損傷

[13回] 下肢 軟部組織損傷各論 膝関節周囲障害

[14回] 下肢 軟部組織損傷各論 下腿部

[15回] 下肢 軟部組織損傷各論 足部

学生へのメッセージ
軟部組織損傷は臨床の現場において日々遭遇する。患部をよく観察することが正しい施術の基本条件となる。 また、柔道整復師国家試験にも例年多く出題される分野である。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

画像診断学[1425390]

科目名	画像診断学[1425390]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
教室	①403教室

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
臨床において、画像は地域完結型医療を推進していく上で重要なツールの１つとなっている。理由は、保険医療上、筋骨格系において画像診断が患者との相互理解において最も身近な手段であることにある。特に、画像診断ではモダリティ別にそれぞれ進化してきており、特徴がある。すべての医療関係者がモダリティー別の基準にしたがって、同一の読影をしないと患者を惑わすことになるのみならず、医療者間の対立を促すことになる。そこで、本授業ではそれぞれの画像診断法の特徴と基本を学び、特に、エコー撮影法については手技実践を行い習得する。

テーマおよび内容
［1回］ 画像診断法；モダリティ総論：様式の説明・リスクマネージメント
［2回］ モダリティ１：単純X-P撮影法・断層撮影法・造影法
［3回］ モダリティ２：コンピューター断層写真撮影法（CT）
［4回］ モダリティ３：磁気強調画像撮影法（MRI）
［5回］ モダリティ４の１：超音波撮影法（エコー）総論
［6回］ モダリティ４の２：超音波撮影法；実践１
［7回］ モダリティ４の３：超音波撮影法；実践２
［8回］ 画像の比較１：手指・足趾
［9回］ 画像の比較２：肩・肘・手関節
［10回］ 画像の比較３：脊柱
［11回］ 画像の比較４：骨盤・股関節・膝
［12回］ 画像の比較５の１：足関節
［13回］ 超音波実践：足関節の前距腓靭帯撮影
［14回］ 画像処理実践：パワーポイントでのプレゼンテーション作成法指導
［15回］ まとめ：地域完結型医療への参加の基本(画像の扱い方)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

上肢の骨折実技Ⅰ[1426020]

科目名	上肢の骨折実技Ⅰ[1426020]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	佐奈木 篤司[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 木曜 3.0～3.0
教室	①710実技実習室

受講条件・その注意

欠席、遅刻をしない事。他の学生の迷惑になるような、言動、行動は慎み積極的に実技に参加する事。著しく素行が悪い者は、呼び出し、面接をし成績も減点します。

授業の形態

実習

評価方法・評価割合

定期試験（中間実技試験＝30%、期末実技試験＝40%）、出席状況（出席回数・遅刻・途中退席＝10%、授業への参加態度＝20%）

授業の目的および到達目標

１年次で学んだ骨の損傷概論、２年次で学んだ部位別の上肢の骨折の理論を基礎として、ここでは鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨頭骨折、上腕骨解剖頚骨折、上腕骨外科頚骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 評価の手順、整復法、固定法のポイント。実技における注意点について。

[2回] 肋骨骨折・・・症状、合併症について、固定法、固定材料について。

[3回] 肋骨骨折・・・厚紙副子の作成、固定法実技。

[4回] 肋骨骨折・・・絆創膏固定の注意点。固定法実技。

[5回] 胸骨骨折・・・理論上の注意点。金属副子作成。固定法実技。

[6回] 肩甲骨骨折・・・理論上の注意点。固定法の説明。

[7回] 肩甲骨骨折・・・厚紙副子作成。固定法実技。

[8回] 鎖骨骨折・・・発生機序から臨床症状の説明及び実技における注意点。

[9回] 鎖骨骨折・・・整復法実技(臥位・座位整復法) 固定材料について。

[10回] 鎖骨骨折・・・固定材料の準備。整復から固定まで実技。

[11回] 鎖骨外端部骨折・・・理論上のポイント。鑑別、整復、固定までの説明。

[12回] 鎖骨外端部骨折・・・固定材料の準備。整復から固定までの実技。

[13回] 鎖骨骨折絆創膏固定(Sayre)・・・注意点及び固定実技。

[14回] 上腕骨外科頸骨折におけるHanging Cast法の説明。

[15回] 前学期復習

[16回] 上腕骨外科頸骨折・・・理論上のポイント。整復法、固定材料の説明。

[17回] 上腕骨外科頸骨折・・・外転骨折・整復から固定まで実技。

[18回] 上腕骨外科頸骨折・・・内転骨折・整復から固定まで実技。

[19回] 上腕骨骨幹部骨折・・・三角筋付着部より近位・遠位の骨折についての説明。

[20回] 上腕骨骨幹部骨折・・・三角筋付着部より近位の骨折。整復から固定まで実技。

[21回] 上腕骨骨幹部骨折・・・三角筋付着部より遠位の骨折。整復から固定まで実技。

[22回] 上腕骨顆上骨折・・・伸展骨折・整復法、固定法の説明。

[23回] 上腕骨顆上骨折・・・伸展骨折・整復から固定まで実技。

[24回] 上腕骨顆上骨折・・・屈曲骨折・整復法、固定法の説明。

[25回] 上腕骨顆上骨折・・・屈曲骨折・整復から固定まで実技。

[26回] 上腕骨外顆骨折・・・整復法、固定法の説明。

[27回] 上腕骨外顆骨折・・・整復から固定まで実技。

[28回] 上腕骨内側上顆骨折・・・整復法、固定法の説明。

[29回] 上腕骨内側上顆骨折・・・整復から固定まで実技。

[30回] 後学期復習

学生へのメッセージ
医療に携わる人としてのルール、マナー、モラルを厳守し、積極的に実技授業に参加する事。授業態度も評価の対象となります。著しく授業態度の悪い者(私語・飲食等)は、退出願う事もあります。清潔感のある身だしなみを心がけて、常に白衣は清潔に。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

上肢の骨折実技ＩＩ[1426030]

科目名	上肢の骨折実技ＩＩ[1426030]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	福田 格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 木曜 2.0～2.0
教室	①711実技実習室

受講条件・その注意

・30分以上の遅刻・退席は欠席と見なします。
・遅刻３回で欠席１回と見なします。
・授業中の飲食・私語・指輪・ピアスは禁止します
・授業の妨げ、他の勉強の邪魔となる行為をした学生は退室させます。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：『柔道整復学 実技編』 全国柔道整復学校協会（南江堂）
および２年時に授業で配布したプリント

参考書：特になし

評価方法・評価割合

定期試験（中間実技試験）、出席状況、授業中の課題（小テスト）、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

１年・２年次で学んだ骨損傷を基礎として、ここでは上肢の骨折について部位別に実技を主体に臨床に即した診断法、整復法、固定法、異常経過など経過上で注意すべき点を実技を通して理解していく。橈骨頭・頚骨折、肘頭骨折、モンテギア骨折、前腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、中手骨骨折、指骨骨折などの順に学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 金属副子について ： 実技の固定法に用いる前腕の金属副子の作製と局所副子の作製について習得する

[2回] 橈骨頭骨折 ： 診察法、整復法について理解する

[3回] 橈骨頭骨折 ： 固定法、包帯法について理解する

[4回] 橈骨頭骨折 ： 固定法、包帯法について理解する

[5回] 肘頭骨折 ： 診察法、整復法について理解する

[6回] 肘頭骨折 ： 固定法、包帯法について理解する

[7回] モンテギア骨折 ： 診察法、伸展型、屈曲型の比較法、それぞれの整復法について理解する

[8回] モンテギア骨折 ： 伸展型・屈曲型の固定法、包帯法について理解する

[9回] 尺骨単独骨折 ： 診察法、整復法について理解する

[10回] 尺骨単独骨折 ： 固定法、包帯法について理解する

[11回] 前腕骨骨幹部骨折（円回内筋付着部より近位） ： 診察法、整復法について理解する

[12回] 前腕骨骨幹部骨折（円回内筋付着部より近位） ： 固定法について理解する

[13回] 前腕骨骨幹部骨折（円回内筋付着部より遠位） ： 診察法、整復法について理解する

[14回] 前腕骨骨幹部骨折（円回内筋付着部より遠位） ： 固定法について理解する

[15回] 前腕骨骨幹部骨折 ： 包帯法と異常経過について理解する

[16回] Colles骨折 ： 診察法について理解する

[17回] Colles骨折 ： 整復法について理解する

[18回] Colles骨折 ： 固定法について理解する

[19回] Colles骨折 ： 固定法と経過上の問題点について理解する

[20回] Smith骨折 ： 診察法、整復法について理解する

[21回] Smith骨折 ： 固定法と包帯法について理解する

[22回] 舟状骨骨折 ： 診察法、整復法、注意点について理解する

[23回] 舟状骨骨折 ： 固定法、経過上の問題点について理解する

[24回] 中手骨骨折 ： 診察法、経過上の問題点、固定についての考え方について理解し、工夫をさせる

[25回] 中手骨骨折(ボクサー骨折) ： 診断法、整復法、固定法について理解する

[26回] 中手骨骨折(骨幹部) ： 診断法、整復法、固定法について理解する

[27回] 中手骨骨折(ベネット) ： 診断法、整復法、固定法について理解する

[28回] 基節骨骨折 ： 診断法、整復法、固定法について理解する

[29回] 中節骨骨折 ： 診断法、整復法、固定法について理解する

[30回] マレットフィンガー、末節骨骨折 ： 診断法、整復法、固定法について理解する

学生へのメッセージ

実技の時間は臨床の現場にいるつもりで取り組んでほしい。そこに骨折をして苦しんでいる患者に対して、どのように向き合うかは、知識や、技術が優れているだけでは十分でない事を理解してほしい。本分野は臨床上多く遭遇する部位で柔道整復師としての真価が問われます。医療人としての人格を磨きながら、真摯な気持ちで授業に取り組んで下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

下肢の骨折実技[1426040]

科目名	下肢の骨折実技[1426040]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	根本 恒夫[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 金曜 4.0〜4.0
教室	①711実技実習室

受講条件・その注意
遅刻２回は１回の欠席とみなします。白衣着用、指輪・イヤーリング・飲食の禁止、爪・頭髪を清潔に、授業開始と終了時の挨拶。

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書:『柔道整復学・実技編』全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（前期実技試験：持ち込み不可＝30%、後期実技試験：持ち込み不可＝30%）、出席状況（出席回数・遅刻・途中退席＝20%、授業への参加態度＝20%）

授業の目的および到達目標
１年次で学んだ骨の損傷概論、２年次で学んだ部位別の下肢の骨折の理論を基礎として、ここでは大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、大腿骨顆上骨折、膝蓋骨骨折、脛骨上端部骨折、下腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、趾骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容
[1回] 大腿骨頚部骨折 1.実技の講義 [2回] 大腿骨頚部骨折 2.整復法、固定法 [3回] 大腿骨骨幹部骨折 1.実技の講義 [4回] 大腿骨骨幹部骨折 2.整復法 [5回] 大腿骨骨幹部骨折 3.固定法 [6回] 大腿骨顆上骨折 1.実技の講義 [7回] 大腿骨顆上骨折 2.整復法 [8回] 大腿骨顆上骨折 3.固定法 [9回] 膝蓋骨骨折 1.実技の講義 [10回] 膝蓋骨骨折 2.整復法

[11回] 膝蓋骨骨折 3.固定法

[12回] 下腿骨上端部骨折 1.実技の講義

[13回] 下腿骨上端部骨折 2.整復法

[14回] 下腿骨上端部骨折 3.固定法

[15回] 中間のまとめ

[16回] 下腿骨骨幹部骨折 1.実技の講義

[17回] 下腿骨骨幹部骨折 2.講義・整復法

[18回] 下腿骨骨幹部骨折 3.整復法・固定法

[19回] 下腿骨骨幹部骨折 4.固定法

[20回] 下腿骨下端果部骨折 1.実技の講義

[21回] 下腿骨下端果部骨折 2.実技の講義と整復法

[22回] 下腿骨下端果部骨折 3.整復法・固定法

[23回] 下腿骨下端果部骨折 4.固定法

[24回] 踵骨骨折 1.実技の講義

[25回] 踵骨骨折 2.整復法

[26回] 踵骨骨折 3.固定法

[27回] 中足骨・足趾骨折 1.実技の講義

[28回] 中足骨・足趾骨折 2.整復法

[29回] 中足骨・足趾骨折 3.固定法

[30回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

体幹の骨折実技[1426050]

科目名	体幹の骨折実技[1426050]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	根本 恒夫[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0～3.0
教室	①711実技実習室

受講条件・その注意
遅刻２回は１回の欠席とみなします。白衣着用、指輪・イヤーリング・飲食の禁止、爪・頭髪を清潔に、授業開始と終了時の挨拶。

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書:『柔道整復学・実技編』全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（実技試験：持ち込み不可＝60%）、出席状況（出席回数・遅刻・途中退席＝20%、授業への参加態度＝20%）

授業の目的および到達目標
1年次で学んだ骨の損傷概論、2年次で学んだ部位別の体幹の骨折の理論を基礎として、ここでは肋骨骨折、胸骨骨折、脊椎骨折、骨盤骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容
[1回] 肋骨骨折 1.実技の講義 [2回] 肋骨骨折 2.整復・固定法 [3回] 肋骨骨折 3.固定法 [4回] 肋骨骨折 4.固定法 [5回] 胸骨骨折 1.実技の講義 [6回] 胸骨骨折 2.整復法・固定法 [7回] 脊椎骨折 1.実技の講義 [8回] 脊椎骨折 2.整復法 [9回] 脊椎骨折 3.固定法 [10回] 脊椎骨折 4.固定法 [11回] 骨盤骨折 1.実技の講義

[12回] 骨盤骨折 2.整復法

[13回] 骨盤骨折 3.固定法

[14回] 骨盤骨折 4.固定法

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

上肢の脱臼実技[1426060]

科目名	上肢の脱臼実技[1426060]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	本間 琢英[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 水曜 1.0～1.0
教室	①710実技実習室

受講条件・その注意

遅刻・早退・無断での教室への出入り、授業中の飲食・私語・指輪・ピアスは禁止する。常に臨床家としてふさわしい服装・言動を心掛けること。授業の前後に号令をかけていただきたい。授業の妨げ及び他の学生の邪魔になると思われる学生は退室してもらう。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学 実技編』全国柔道整復学校協会（南江堂）2000

評価方法・評価割合

定期試験（期末実技試験：持ち込み不可）、出席状況（出席回数＝20% 授業態度＝30%）

授業の目的および到達目標

１年次で学んだ関節の損傷概論、２年次で学んだ部位別の上肢の脱臼の理論を基礎として、ここでは肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼などの脱臼の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 肩鎖関節脱臼の整復法

[2回] 肩鎖関節脱臼の整復法・基本的固定法

[3回] 肩鎖関節脱臼の各種固定法

[4回] 胸鎖関節前方脱臼の整復法・固定法

[5回] 胸鎖関節前方脱臼の固定法

[6回] 肩関節前方脱臼の基本的整復法

[7回] 肩関節前方脱臼の各種整復法

[8回] 肩関節後方・下方脱臼の整復法

[9回] 肩関節前方脱臼の基本的固定法

[10回] 肩関節脱臼の各種固定法

[11回] 肩関節脱臼の各種固定法

[12回] 前腕両骨後方脱臼の整復法

[13回] 前腕両骨後方脱臼の整復法・固定法

[14回] 前腕両骨後方脱臼の各種固定法

[15回] 前腕両骨前方脱臼の整復法・固定法

[16回] 橈骨単独脱臼の整復法

[17回] 橈骨単独脱臼の固定法

[18回] 小児肘内障の整復法・固定法

[19回] 下橈尺関節脱臼の整復法

[20回] 下橈尺関節背側脱臼の固定法

[21回] 橈骨手根関節脱臼の整復法

[22回] 橈骨手根関節脱臼の固定法

[23回] 手根骨脱臼（月状骨脱臼を含む）の整復法・固定法

[24回] 手根中手関節脱臼の整復法・固定法

[25回] 中手指節関節脱臼の整復法

[26回] 中手指節関節脱臼の整復法・固定法

[27回] 中手指節関節脱臼の各種固定法

[28回] 指節関節脱臼の整復法

[29回] 指節関節脱臼の整復法・固定法

[30回] 指節関節脱臼の各種固定法

学生へのメッセージ
柔道整復師の徒手整復技術及び固定技術をしっかり習得してもらいたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

下肢（顎関節を含む）の脱臼実技[1426070]

科目名	下肢（顎関節を含む）の脱臼実技[1426070]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	本間 琢英[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
曜日・時限	通年 水曜 2.0〜2.0
教室	①710実技実習室

受講条件・その注意

遅刻・早退・無断での教室への出入り、授業中の飲食・私語・指輪・ピアスは禁止する。常に臨床家としてふさわしい服装・言動を心掛けること。授業の前後に号令をかけていただきたい。授業の妨げ及び他の学生の邪魔になると思われる学生は退室してもらう。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学 実技編』全国柔道整復学校協会（南江堂）2000

評価方法・評価割合

定期試験（期末実技試験：持ち込み不可）、出席状況（出席回数＝20% 授業態度＝30%）

授業の目的および到達目標

1年次で学んだ関節の損傷概論、2年次で学んだ部位別の下肢の脱臼の理論を基礎として、ここでは股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼、顎関節脱臼などの脱臼の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 3年次で学んだ外傷性脱臼の整復・固定の基本の復習 1

[2回] 3年次で学んだ外傷性脱臼の整復・固定の基本の復習 2

[3回] 3年次で学んだ外傷性脱臼の整復・固定の基本の復習 2

[4回] 顎関節前方脱臼の整復法 1

[5回] 顎関節前方脱臼の整復法 2

[6回] 顎関節脱臼の固定法

[7回] 外傷性股関節後方脱臼の整復法 1

[8回] 外傷性股関節後方脱臼の整復法 2

[9回] 外傷性股関節前方脱臼の整復法

[10回] 外傷性股関節脱臼の固定法

[11回] 外傷性股関節脱臼の固定法

[12回] 膝蓋骨外側脱臼の整復法

[13回] 膝蓋骨外側脱臼の整復法・固定法

[14回] 膝蓋骨脱臼の固定法

[15回] 膝関節前方脱臼の整復法

[16回] 膝関節前方脱臼の固定法

[17回] 距腿関節外側脱臼の整復法

[18回] 距腿関節外側脱臼の整復法・固定法

[19回] 距腿関節外側脱臼の固定法

[20回] 距腿関節内側脱臼の整復法

[21回] 距腿関節内側脱臼の固定法

[22回] リスフラン関節脱臼の整復法

[23回] リスフラン関節脱臼の固定法

[24回] 中足趾関節脱臼の整復法

[25回] 中足趾節関節脱臼の固定法

[26回] 中足趾節関節脱臼の各種固定法

[27回] 趾節間関節脱臼の整復法

[28回] 趾節間関節脱臼の固定法

[29回] 下肢の脱臼の総復習

[30回] 下肢の脱臼の総復習

学生へのメッセージ
柔道整復師の徒手整復技術及び固定技術をしっかり習得してもらいたい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

軟部組織損傷の実技[1426080]

科目名	軟部組織損傷の実技[1426080]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
曜日・時限	前期 火曜 3.0〜3.0
	後期 月曜 3.0〜3.0
教室	①711実技実習室

受講条件・その注意
遅刻2回で欠席1回とみなします

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：『柔道整復学・実技編』全国柔道整復学校協会（南江堂） 『柔道整復学・理論編』改訂第５版 全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（中間実技試験：持ち込み不可＝40%、期末実技試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝20%）

授業の目的および到達目標
1年次で学んだ軟部組織損傷概論、2年次で学んだ部位別の軟部組織損傷各論を基礎として、ここでは腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、上腕骨外側上顆炎、肘内側側副靭帯損傷、ド・ケルバン病、大腿四頭筋・ハムストリングス損傷、膝内側側副靭帯損傷、下腿三頭筋の肉ばなれなどの軟部組織損傷の徒手検査法・治療法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容
[1回] 肩部の損傷①：局所解剖、触診 [2回] 肩部の損傷②：発生機序、症状、検査法 [3回] 肩部の損傷③：治療法、固定法、経過 [4回] 上腕部の損傷①：局所解剖、触診、発生機序、症状、検査法 [5回] 上腕部の損傷②：治療法、固定法、経過 [6回] 肘部の損傷①：局所解剖、触診 [7回] 肘部の損傷②：発生機序、症状、検査法 [8回] 肘部の損傷③：治療法、固定法、経過 [9回] 前腕部の損傷①：局所解剖、触診 [10回] 前腕部の損傷②：発生機序、症状、検査法

[11回] 前腕部の損傷③：治療法、固定法、経過

[12回] 手関節部の損傷①：局所解剖、触診、発生機序、症状、検査法

[13回] 手関節部の損傷②：治療法、固定法、経過

[14回] 手指部の損傷①：局所解剖、触診、発生機序、症状、検査法、治療法

[15回] 手指部の損傷②：固定法、経過

[16回] 大腿部の損傷①：発生機序、症状、検査法

[17回] 大腿部の損傷②：治療法、固定法、経過

[18回] 膝関節部の損傷①：局所解剖、触診

[19回] 膝関節部の損傷②：発生機序、症状、検査法

[20回] 膝関節部の損傷③：治療法、固定法、経過

[21回] 下腿部の損傷①：局所解剖、触診

[22回] 下腿部の損傷②：発生機序、症状、検査法

[23回] 下腿部の損傷③：治療法、固定法、経過

[24回] アキレス腱部の損傷：局所解剖、触診、発生機序、症状、検査法、治療法、固定法、経過

[25回] 足関節部の損傷①：局所解剖、触診

[26回] 足関節部の損傷②：発生機序、症状、検査法

[27回] 足関節部の損傷③：治療法、固定法、経過

[28回] 頸部の損傷：局所解剖、触診、発生機序、症状、検査法、治療法、固定法、経過

[29回] 腰部の損傷：局所解剖、触診、発生機序、症状、検査法、治療法、固定法、経過

[30回] まとめ

学生へのメッセージ
講義に関する質問等は、随時受け付けます。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床実習ⅠⅠ[1426100]

科目名	臨床実習ⅠⅠ[1426100]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	中澤 正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

臨床実習に相応しい服装で臨むこと
遅刻は認めない

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『柔道整復学 実技編』全国柔道整復学校協会監修

参考書：特になし

評価方法・評価割合

定期試験（実技試験を行う。評価に最も影響する。）、出席状況（5分の4以上の出席が必須。欠席は評価に直接影響する。）、レポート（レポートの提出課題を出す。未提出は評価に影響する。）

授業の目的および到達目標

２年次に実施した臨床実習事前トレーニングを踏まえ、３年次では、大学付属接骨院（臨床実習施設）において、指導教員の指示の下、種々の疾患に対する問診法、触診法、検査法および治療法について見学実習する。少人数で実習し、毎回レポートの提出、自己評価と指導教員による評価を行うとともに、カンファレンスを経験させる。

テーマおよび内容

[1回] 臨床例に対する見学実習(1)　：成瀬秀夫

[2回] 臨床例に対する見学実習(2)　：橋本昇

[3回] 臨床例に対するグループカンファレンス(1)　：久米信好

[4回] 臨床例に対する見学実習(3)　：山口登一郎

[5回] 臨床例に対する見学実習(4)　：小山浩司

[6回] 臨床例に対するグループカンファレンス(2) ： 櫻井敬晋

[7回] 臨床例に対する見学実習(5) ： 中澤正孝

[8回] 臨床例に対する見学実習(6) ： 成瀬秀夫

[9回] 臨床例に対するグループカンファレンス(3) ： 橋本昇

[10回] 臨床例に対する見学実習(7) ： 久米信好

[11回] 臨床例に対する見学実習(8) ： 山口登一郎

[12回] 臨床例に対するグループカンファレンス(4) ： 櫻井敬晋

[13回] 臨床例に対する見学実習(9) ： 小山浩司

[14回] 臨床例に対する見学実習(10) ： 中澤正孝

[15回] 臨床例に対するグループカンファレンス(5) ： 成瀬秀夫

[16回] 臨床例に対する実技実習(1) ： 橋本昇

[17回] 臨床例に対する実技実習(2) ： 久米信好

[18回] 臨床例に対する実技実習(3) ： 山口登一郎

[19回] 臨床例に対するグループカンファレンス(5) ： 櫻井敬晋

[20回] 臨床例に対する実技実習(4) ： 小山浩司

[21回] 臨床例に対する実技実習(5) ： 中澤正孝

[22回] 臨床例に対する実技実習(6) ： 中澤正孝

[23回] 臨床例に対する総合カンファレンス ： 中澤正孝

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床実習ＩＩＩ[1426110]

科目名	臨床実習ＩＩＩ[1426110]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	中澤 正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通不定期
教室	①附属接骨センター

受講条件・その注意

実習に相応しい服装で臨むこと
遅刻は認めない

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『柔道整復学 実技編』 全国柔道整復学校協会監修

評価方法・評価割合

出席状況（出席状況は直接評価に影響する）

授業の目的および到達目標

2年次での臨床実習事前演習、3年次での学内付属接骨院での見学実習、さらに3年次までに学んだ講義および実技実習を踏まえ、4年次では学内の付属接骨院およびクリニックでの実習に加え、学外の整形外科医院および接骨院での見学実習を実施する。

テーマおよび内容

[1回] 学外施設の見学実習(1) ： 中澤正孝 他

[2回] 学外施設の見学実習(2) ： 中澤正孝 他

[3回] 学外施設の見学実習(3) ： 中澤正孝 他

[4回] 学外施設の見学実習(4) ： 中澤正孝 他

[5回] 学外施設の見学実習(5) ： 中澤正孝 他

[6回] 学外施設の見学実習(6) ： 中澤正孝 他

[7回] 学外施設の見学実習(7) ： 中澤正孝 他

[8回] 学外施設の見学実習(8） ： 中澤正孝 他

[9回] 学外施設の見学実習(9） ： 中澤正孝 他

[10回] 学外施設の見学実習(10） ： 中澤正孝 他

[11回] 学外施設の見学実習(11） ： 中澤正孝 他

[12回] 学外施設の見学実習(12） ： 中澤正孝 他

[13回] 学外施設の見学実習(13） ： 中澤正孝 他

[14回] 学外施設の見学実習(14） ： 中澤正孝 他

[15回] 学外施設の見学実習(15） ： 中澤正孝 他

[16回] 学外施設の見学実習(16） ： 中澤正孝 他

[17回] 学外施設の見学実習のまとめ(17） ： 中澤正孝 他

[18回] 付属クリニックの見学実習(1） ： 中澤正孝 他

[19回] 付属クリニックの見学実習(2） ： 中澤正孝 他

[20回] 付属クリニックの見学実習(3） ： 中澤正孝 他

[21回] 付属クリニックの見学実習(4） ： 中澤正孝 他

[22回] 付属クリニックの見学実習のまとめ(5） ： 中澤正孝 他

[23回] 総合カンファレンス ： 中澤正孝 他

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

包帯実技Ⅰ[1426310]

科目名	包帯実技Ⅰ[1426310]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 4.0〜4.0
教室	①710実技実習室

受講条件・その注意
遅刻2回で欠席1回とみなします

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験：持ち込み不可＝80%）、出席状況（出席回数＝20%）

授業の目的および到達目標
骨折、脱臼、軟部組織損傷の保存的治療の固定においては、高度な包帯法の技術が要求される。基本包帯法（環行帯、亀甲帯、麦穂帯、折転帯など）、部位別包帯法、三角巾による堤肘について学ぶ。

テーマおよび内容
［1回］ 総論：固定の目的、固定材料の種類 ［2回］ 包帯の基礎：巻軸帯の巻き方及び巻き戻し ［3回］ 基本包帯①：環行帯、螺旋帯 ［4回］ 基本包帯②：蛇行帯、折転帯 ［5回］ 基本包帯③：亀甲帯・麦穂帯 ［6回］ 部位別包帯法①：肩部 ［7回］ 部位別包帯法②：肩部 ［8回］ 部位別包帯法③：肘部・前腕部 ［9回］ 部位別包帯法④：手関節部・手指部 ［10回］ 部位別包帯法⑤：股関節部 ［11回］ 部位別包帯法⑥：大腿部

［12回］ 部位別包帯法⑦：膝関節部

［13回］ 部位別包帯法⑧：下腿部

［14回］ 三角巾：三角巾による堤肘

［15回］ まとめ

学生へのメッセージ
講義に関する質問等は、随時受け付けます。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

包帯実技Ⅱ[1426320]

科目名	包帯実技Ⅱ[1426320]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 3.0～3.0
教室	①710実技実習室

受講条件・その注意
遅刻2回で欠席1回とみなします

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書：『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会（南江堂）

評価方法・評価割合
定期試験（期末実技試験：持ち込み不可＝80%）、出席状況（出席回数＝20%）

授業の目的および到達目標
骨折、脱臼、軟部組織損傷の保存的治療の固定においては、高度な包帯法の技術が要求される。包帯実技Ⅱでは、部位別包帯法、冠名包帯法（デゾー包帯など）、固定材料の作成法と固定の実際、テーピングについて学ぶ。

テーマおよび内容
［1回］ 部位別包帯法①：足関節部 ［2回］ 部位別包帯法②：足指部 ［3回］ 部位別包帯法③：胸部・背部 ［4回］ 部位別包帯法④：頭部・顔面部 ［5回］ 部位別包帯法⑤：頭部・顔面部 ［6回］ 部位別包帯法⑥：頭部・顔面部 ［7回］ 冠名包帯①：デゾー包帯 ［8回］ 冠名包帯②：デゾー包帯 ［9回］ 冠名包帯③：ヴェルポー包帯 ［10回］ 冠名包帯④：ヴェルポー包帯 ［11回］ 冠名包帯⑤：ジュール包帯

［12回］ 冠名包帯⑥：ジュール包帯

［13回］ 固定材料の作成と固定：厚紙副子

［14回］ テーピング：足関節捻挫のテーピング

［15回］ まとめ

学生へのメッセージ
講義に関する質問等は、随時受け付けます。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床実習Ⅰ[1426450]

科目名	臨床実習Ⅰ[1426450]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	中澤 正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0〜2.0
教室	①大講義室

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
実際の臨床実習の前段階として、医療人としての倫理観、医療人に相応しい服装・容姿・態度・マナー・話し方、柔道整復師の業務範囲と医療機関との連携などについて学ぶとともに、2年次・3年次・4年次に実施される実際の臨床実習がより有意義なものとなるよう臨床現場で必要な基本的知識を学習する。

テーマおよび内容
［1回］ 医療人としての倫理観
［2回］ 医療人に相応しい服装、容姿、態度、マナー、話し方
［3回］ 柔道整復師の業務範囲と医療機関との連携
［4回］ 受付応対法
［5回］ 問診法、施術録の記入法(1)
［6回］ 問診法、施術録の記入法(2)
［7回］ 患者の診察手順 (1)
［8回］ 患者の診察手順 (2))
［9回］ 徒手検査法の実際：上肢
［10回］ 徒手検査法の実際：上肢
［11回］ 徒手検査法の実際：下肢
［12回］ 徒手検査法の実際：下肢

［13回］ 徒手検査法の実際：体幹

［14回］ 徒手検査法の実際：体幹

［15回］ 総復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床実習Ⅱ[1426460]

科目名	臨床実習Ⅱ[1426460]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	中澤 正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①附属接骨センター

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
実際の臨床実習の前段階として、包帯法の応用、固定材料の作成と固定、柔整手技療法について学ぶとともに、2年次・3年次・4年次に実施される実際の臨床実習がより有意義なものとなるよう臨床現場で必要な基本的知識を学習する。

テーマおよび内容
【旧カリキュラム 臨床実習Ⅰ】 [1回] 医療人としての倫理観 ： 成瀬 秀夫 [2回] 医療人に相応しい服装、容姿、態度、マナー、話し方 ： 小山 浩司 [3回] 柔道整復師の業務範囲と医療機関との連携 ： 櫻井 敬晋 [4回] 受付応対法 ： 中澤 正孝 [5回] 問診法、施術録の記入法 ： 成瀬 秀夫 [6回] 患者の診察手順 ： 成瀬 秀夫 [7回] 徒手検査法の実際：体幹 ： 櫻井 敬晋 [8回] 徒手検査法の実際：体幹 ： 櫻井 敬晋 [9回] 徒手検査法の実際：上肢 ： 小山 浩司 [10回] 徒手検査法の実際：下肢 ： 中澤 正孝 [11回] 画像診断装置の見学、理解（1） ： 成瀬、小山、櫻井、中澤 [12回] 画像診断装置の見学、理解（2） ： 成瀬、小山、櫻井、中澤 [13回] 画像診断装置の見学、理解（3） ： 成瀬、小山、櫻井、中澤

[14回] 画像診断装置の見学、理解（４） ： 成瀬、小山、櫻井、中澤

[15回] 画像診断装置の見学、理解（５） ： 成瀬、小山、櫻井、中澤

[16回] 包帯法の応用 ： 小山 浩司

[17回] クラメルの作製 ： 中澤 正孝

[18回] キャストを用いた固定 ： 櫻井 敬晋

[19回] 柔整手技療法 ： 成瀬 秀夫

[20回] 模擬患者によるトレーニング（１） ： 小山 浩司

[21回] 模擬患者によるトレーニング（２） ： 中澤 正孝

[22回] 模擬患者によるトレーニング（３） ： 成瀬 秀夫

[23回] 総復習 ： 成瀬、小山、櫻井、中澤

【旧カリキュラム 臨床実習Ⅱ】
[1回] 臨床例に対する見学実習(1） ： 成瀬秀夫

[2回] 臨床例に対する見学実習(2） ： 橋本昇

[3回] 臨床例に対するグループカンファレンス(1） ： 久米信好

[4回] 臨床例に対する見学実習(3） ： 山口登一郎

[5回] 臨床例に対する見学実習(4） ： 小山浩司

[6回] 臨床例に対するグループカンファレンス(2） ： 櫻井敬晋

[7回] 臨床例に対する見学実習(5） ： 中澤正孝

[8回] 臨床例に対する見学実習(6） ： 成瀬秀夫

[9回] 臨床例に対するグループカンファレンス(3） ： 橋本昇

[10回] 臨床例に対する見学実習(7） ： 久米信好

[11回] 臨床例に対する見学実習(8） ： 山口登一郎

[12回] 臨床例に対するグループカンファレンス(4） ： 櫻井敬晋

[13回] 臨床例に対する見学実習(9） ： 小山浩司

[14回] 臨床例に対する見学実習(10） ： 中澤正孝

[15回] 臨床例に対するグループカンファレンス(5） ： 成瀬秀夫

[16回] 臨床例に対する実技実習(1） ： 橋本昇

[17回] 臨床例に対する実技実習(2） ： 久米信好

[18回] 臨床例に対する実技実習(3） ： 山口登一郎

[19回] 臨床例に対するグループカンファレンス(5） ： 櫻井敬晋

[20回] 臨床例に対する実技実習(4） ： 小山浩司

[21回] 臨床例に対する実技実習(5） ： 中澤正孝

[22回] 臨床例に対する実技実習(6） ： 中澤正孝

[23回] 臨床例に対する総合カンファレンス ： 中澤正孝孝

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床実習Ⅲ[1426470]

科目名	臨床実習Ⅲ[1426470]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	中澤 正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
	山口 登一郎[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0～2.0
教室	①大講義室

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
1, 2年次に実施した臨床実習事前トレーニングを踏まえ、臨床実習Ⅲでは、大学附属接骨センター（臨床実習施設）において、指導教員の指示の下、種々の疾患に対する問診法、触診法、検査法および治療法について見学実習する。少人数で実習し、毎回レポートの提出、自己評価と指導教員による評価を行うとともに、カンファレンスを経験させる。

テーマおよび内容
【旧カリキュラム 臨床実習Ⅱ】 [1回] 臨床例に対する見学実習(1） ： 成瀬秀夫 [2回] 臨床例に対する見学実習(2） ： 橋本昇 [3回] 臨床例に対するグループカンファレンス(1） ： 久米信好 [4回] 臨床例に対する見学実習(3） ： 山口登一郎 [5回] 臨床例に対する見学実習(4） ： 小山浩司 [6回] 臨床例に対するグループカンファレンス(2） ： 櫻井敬晋 [7回] 臨床例に対する見学実習(5） ： 中澤正孝 [8回] 臨床例に対する見学実習(6） ： 成瀬秀夫 [9回] 臨床例に対するグループカンファレンス(3） ： 橋本昇 [10回] 臨床例に対する見学実習(7） ： 久米信好 [11回] 臨床例に対する見学実習(8） ： 山口登一郎 [12回] 臨床例に対するグループカンファレンス(4） ： 櫻井敬晋

[13回] 臨床例に対する見学実習(9) ： 小山浩司

[14回] 臨床例に対する見学実習(10) ： 中澤正孝

[15回] 臨床例に対するグループカンファレンス(5) ： 成瀬秀夫

[16回] 臨床例に対する実技実習(1) ： 橋本昇

[17回] 臨床例に対する実技実習(2) ： 久米信好

[18回] 臨床例に対する実技実習(3) ： 山口登一郎

[19回] 臨床例に対するグループカンファレンス(5) ： 櫻井敬晋

[20回] 臨床例に対する実技実習(4) ： 小山浩司

[21回] 臨床例に対する実技実習(5) ： 中澤正孝

[22回] 臨床例に対する実技実習(6) ： 中澤正孝

[23回] 臨床例に対する総合カンファレンス ： 中澤正孝

【旧カリキュラム 臨床実習Ⅲ】
[1回] 学外施設の見学実習(1) ： 中澤正孝 他

[2回] 学外施設の見学実習(2) ： 中澤正孝 他

[3回] 学外施設の見学実習(3) ： 中澤正孝 他

[4回] 学外施設の見学実習(4) ： 中澤正孝 他

[5回] 学外施設の見学実習(5) ： 中澤正孝 他

[6回] 学外施設の見学実習(6) ： 中澤正孝 他

[7回] 学外施設の見学実習(7) ： 中澤正孝 他

[8回] 学外施設の見学実習(8) ： 中澤正孝 他

[9回] 学外施設の見学実習(9) ： 中澤正孝 他

[10回] 学外施設の見学実習(10) ： 中澤正孝 他

[11回] 学外施設の見学実習(11) ： 中澤正孝 他

[12回] 学外施設の見学実習(12) ： 中澤正孝 他

[13回] 学外施設の見学実習の総合カンファレンス ： 中澤正孝 他

[14回] 骨折の実技実習 ： 中澤正孝 他

[15回] 脱臼の実技実習 ： 中澤正孝 他

[16回] 軟損の実技実習 ： 中澤正孝 他

[17回] 柔整実技の総合実習 ： 中澤正孝 他

[18回] 付属クリニックの見学実習(1) ： 中澤正孝 他

[19回] 付属クリニックの見学実習(2) ： 中澤正孝 他

[20回] 付属クリニックの見学実習(3) ： 中澤正孝 他

[21回] 付属クリニックの見学実習(4) ： 中澤正孝 他

[22回] 付属クリニックの見学実習のまとめ(5) ： 中澤正孝 他

[23回] 総合カンファレンス ： 中澤正孝 他+

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

卒業研究[1427010]

科目名	卒業研究[1427010]
科目区分・科目種	卒業研究
クラス	柔道整復学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	成瀬 秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	柚木 脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
	木村 明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米 信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	髙橋 康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
	橋本 昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山 浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井 敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安 秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木 正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
	中澤 正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
	福田 格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
曜日・時限	前期 金曜 4.0〜4.0
	後期 金曜 3.0〜3.0
	後期 金曜 4.0〜4.0
教室	①別途連絡

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
必要に応じ、指示します。

授業の目的および到達目標
4年間学んできた中で、自身が最も関心をもった事項につき、主体的にテーマを設定し、担当教員の指導の下で、当該分野の過去の論文を検索して検討するとともに、自ら種々な研究技法を用いて論文としてまとめていく。また、研究成果を口述やポスターなどの形式で発表経験することで、プレゼンテーションの方法や技法を学ぶ。

テーマおよび内容
授業計画 ・各担当教員が提出した研究テーマの一覧を配布し、学生の希望するテーマを調査する。調査結果をもとに指導教員、研究テーマを決定する。

・研究計画及び実践は指導教員のもとで進める。

・発表会は指導教員のもとで行う。

・論文を作成し指導教員に提出する。

学生へのメッセージ
将来に繋がる研究テーマを考え、研究計画のもと進めて行くようにして下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体の構造Ⅰ[1430310]

科目名	人体の構造Ⅰ[1430310]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	五味 敏昭[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 1.0〜1.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

解剖学は医学・医療分野の中で最も基盤をなす重要な基礎科目である。複雑な人体構造にも整然とした構成秩序の法則があることを理解する。本講義では人体の諸臓器を①運動器系②循環器系③内臓系④神経系⑤感覚器に分け、主に肉眼解剖学的見地から理解し、さらに顕微解剖学（細胞組織学）および発生学を含めて理解する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：「コメディカルのための専門基礎分野テキスト 解剖学（２版）」 五味敏昭編著（中外医学社）
「看護師国家試験問題 人体の構造と機能（解剖学・生理学）解答と解説」 五味敏昭監著（犀書房）

参考書：「系統看護学講座 解剖生理学」坂井建雄著（医学書院）
「解剖学」岸・石塚編．五味敏昭他著（医歯薬出版）
「解剖学問題集5073」五味敏昭他著（犀書房）

評価方法・評価割合

定期試験（期末試験：持ち込み不可＝80％）、出席状況（出席回数＝20％（遅刻・早退は認めない））

授業の目的および到達目標

人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。看護学科で学ぶ多くの臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。人体の構造Ⅰでは、概論、運動器系・循環器系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系を系統的に解剖学を学ぶ。２次元的データだけではなく、さらに人体模型や立体映像等を用いて３次元的なイメージをつけさせ、個々の器官組織の構造機能だけでなく、各器官組織の関係性を学習させることによって、看護師・保健師にとって必要な、人体の構造の基本を理解させる。

テーマおよび内容

[1 回] 総論

[2 回] 循環器系（１）

[3 回] 循環器系（２）

[4 回] 消化器系（１）

[5 回] 消化器系（２）

[6 回] 呼吸器系

[7 回] 泌尿器系

[8 回] 生殖器系

[9 回] 内分泌器

[10回] 骨格系

[11回] 筋系

[12回] 神経系（1）

[13回] 神経系（2）

[14回] 神経系（3）

[15回] 感覚器

学生へのメッセージ
解剖学は医学・医療系科目の中で重要な基礎科目ですので、着実に努力をして下さい。質問大歓迎です。 講義用の補助プリント教材を毎回、配布します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体の構造 II [1430320]

科目名	人体の構造 II [1430320]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村 明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0〜3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

授業開始前に課題レポートの提出があります。
授業中に色鉛筆（12色で十分です）を使用します。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『解剖学 コメディカルのための専門分野テキスト』 五味敏昭：岸清（中外医学社）
『解剖トレーニングノート第５版』竹内修二（医学教育出版社）

参考書：『解剖学問題集5073』五味敏昭ほか（屋書房）
『柔整・鍼灸・あマ指・看護・理作 国家試験問題（解剖学・生理学）10年間』成瀬・木村 監修（屋書房）

評価方法・評価割合

定期試験（60-70%）、出席状況（0-10%）、レポート（20%）、その他（プレテスト、ポストテスト、授業態度 10%）

授業の目的および到達目標

人体の解剖学はきわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、人体の構造 I で学んだ事項を、さらに総合的・立体的に理解する必要がある。人体の構造 II では系統解剖学のみならず局所（臨床）解剖学・体表解剖学についても理解を深める。また、注射・導尿・聴診などの看護師・保健師が行う業務に関する解剖学的知識を理解する。

テーマおよび内容

[1回] 解剖学総論１（器官系・細胞・発生）
[2回] 解剖学総論２（組織学：上皮組織、支持組織、筋組織・神経組織）

[3回] 循環器系１（総論・心臓）
[4回] 循環器系２（動脈）
[5回] 循環器系３（静脈・リンパ系）

[6回] 生殖器系１（総論・男性生殖器）
[7回] 生殖器系２（女性生殖器）

[8回] 骨格系１（総論・頭蓋、体幹）
[9回] 骨格系２（上肢・下肢）

[10回] 内分泌系１（総論、下垂体、松果体）
[11回] 内分泌系２（甲状腺、上皮小体、副腎、膵島、他）

[12回] 末梢神経系１（総論、脳神経）
[13回] 末梢神経系２（脊髄神経、自律神経）

[14回] 感覚器（皮膚、深部感覚、視覚器）

[15回] 解剖学見学実習

学生へのメッセージ
レポート類は指定日時を厳守すること。 人体の構造１と連携し授業が行われます。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体の機能Ⅰ[1430330]

科目名	人体の機能Ⅰ[1430330]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	本間 生夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0〜2.0
教室	①306教室

受講条件・その注意
出席を取る場合、遅刻３回を欠席1回とみなします。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『系統看護学講座 解剖生理学第8版』 (医学書院)2011 参考書：『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010 『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009 『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009 『細胞の分子生物学、第４版』 B・アルバーツ：中村桂子 （ニュートンプレス） 2004 『コスタンゾ 明解生理学』 （エルゼビアジャパン）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験（持ち込み不可））、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標
人体の機能Ⅰ及び人体の機能Ⅱでは人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ人体の構造Ⅰ及び人体の構造Ⅱ（解剖学）とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。いわゆる生理学の分野に相当する。生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。人体の機能Ⅰでは、生理学の基礎、体液、血液、循環、呼吸、消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄について学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] 細胞の構造と構成成分の機能 [2回] 体液組成と物質の移動 [3回] 血液１（血液組成とその機能） [4回] 血液２（血液凝固と血液型） [5回] 循環器系１（心臓の機能） [6回] 循環器系２（血管・リンパ管の機能） [7回] 循環器系３（循環調節）

[8回] 呼吸器系１（呼吸運動）

[9回] 呼吸器系２（ガス交換）

[10回] 呼吸器系３（呼吸調節）

[11回] 消化器系１（食欲・咀嚼・嚥下）

[12回] 消化器系２（消化・吸収）

[13回] 消化器系３（消化管ホルモンと排便）

[14回] 泌尿器系１（尿の生成）

[15回] 泌尿器系２（尿の排泄）

学生へのメッセージ
講義時間が少ないため、重要なポイントのみが講義される。なるべく予習して講義に臨むと理解し易い。また余裕のある学生は上記の参考書などを読んで理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

人体の機能Ⅱ[1430340]

科目名	人体の機能Ⅱ[1430340]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野 一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	本間 生夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

出欠を取る場合、遅刻3回を欠席1回とみなします。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『系統看護学講座 解剖生理学第8版』 (医学書院)2011

参考書：『ガイトン生理学、原著第11版』 A・Cガイトン：J・Eホール （エルゼビア・ジャパン） 2010
『オクスフォード・生理学、原書3版』 G・ポーコック：C・Dリチャーズ （丸善） 2009
『標準生理学 Standard textbook 第7版』 小澤瀞司：本郷利憲 （医学書院） 2009
『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫 （京都大学出版会） 2009
『Principles of Neural Science 4th ed.』 ER Kandel （McGraw Hill） 2000
『コスタンゾ 明解生理学』 L・コスタンゾ （エルゼビアジャパン） 2011

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験： 持ち込み不可）、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

人体の機能Ⅰ及び人体の機能Ⅱでは人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ人体の構造Ⅰ及び人体の構造Ⅱ（解剖学）とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。いわゆる生理学の分野に相当する。生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。人体の機能Ⅱでは内分泌系、神経系、筋肉、感覚器系などの生理について学ぶ。内分泌系ではホルモンの種類や作用など、神経系では中枢神経系および末梢神経系の機能、筋肉では筋収縮のメカニズムなど、感覚器系では体性感覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚、平衡感覚などについて学ぶ。

テーマおよび内容

テーマおよび内容
[1回] 内分泌系１（内分泌とは、視床下部・下垂体ホルモン）

[2回] 内分泌系２（甲状腺・上皮小体・膵臓・副腎皮質・髄質ホルモン）

[3回] 生殖器系（生殖器の分化と機能）

[4回] 神経生理の基礎１（ニューロンと興奮の発生）

[5回] 神経生理の基礎２（興奮伝導とシナプス伝達）

[6回] 自律神経系１（交感神経系）

[7回] 自律神経系２（副交感神経系）

[8回] 骨格筋１（骨格筋の収縮機序と収縮の種類）

[9回] 骨格筋２（骨格筋の収縮エネルギー）

[10回] 中枢神経系１（脊髄・脳幹・間脳の機能）

[11回] 中枢神経系２（大脳皮質と高次機能）

[12回] 感覚系１（体性感覚）

[13回] 感覚系２（嗅覚と味覚）

[14回] 感覚系３（聴覚と平衡感覚）

[15回] 感覚系４（視覚）

学生へのメッセージ
講義時間が少ないため、重要なポイントのみが講義される。なるべく予習して講義に臨むと理解し易い。また余裕のある学生は上記の参考書等を読んで理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り講義担当者が回答する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

病理学概論[1431310]

科目名	病理学概論[1431310]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	寺井 政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0〜2.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『新クイックマスター 病理学』 堤 寛（医学芸術社）
『好きになる免疫学』 多田富雄 萩原清文（講談社サイエンテイフィック）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝100%）

授業の目的および到達目標

病理学とはヒトはどのようにして病気になるのかを科学的に説明する医学で､病気の診断や治療の基本になる学問である。病理学は基礎から臨床への橋渡しの役割があり、構造と機能の異常、すなわち病気を中心とした講義とする。病気の概念を原因から出発して系統的に説明する。病気を個体（ヒト）から臓器、組織、細胞、遺伝子レベルという具合に理解することが必要である。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病気の基本について､医学的に平易に解説するとともに､難解な病理学的用語についても分かり易く説明する。国家試験は最終目標ではないが、受講学生の合格につながることにも配慮した授業を行う。

テーマおよび内容

［1回］ 病理学と病理診断：病理学と看護との関わり、医療における病理診断の役割について学ぶ
［2回］ 細胞障害：細胞障害の内因、外因について学ぶ
［3回］ 細胞障害：細胞障害の内因、外因について学ぶ
［4回］ 先天異常：先天奇形、染色体異常による疾患について学ぶ
［5回］ 循環障害：循環障害（詰まる、漏れる、溜まる）の病態について学ぶ
［6回］ 炎症：炎症のプロセス、炎症細胞について学ぶ
［7回］ 炎症：急性炎症、慢性炎症の詳細、創傷治癒について学ぶ
［8回］ 幹細胞と再生医学：幹細胞の生物学、幹細胞を用いた再生医療、細胞治療について学ぶ
［9回］ 免疫：抗原と抗体、主要組織適合抗原(MHC)、免疫担当細胞について学ぶ
［10回］ 免疫：免疫細胞どうしの情報交換について学ぶ
［11回］ 免疫異常とアレルギー：免疫異常（アレルギー、免疫不全、自己免疫疾患）について学ぶ
［12回］ 感染症：病原体の種類、感染経路、日和見感染について学ぶ
［13回］ 腫瘍：腫瘍（良性腫瘍、悪性腫瘍）の違い、腫瘍の特徴について学ぶ
［14回］ 腫瘍：悪性腫瘍の特徴について学ぶ
［15回］ 腫瘍：腫瘍発生の内因、外因について学ぶ

学生へのメッセージ

前期で履修した解剖学、生理学の理解を前提にして授業が展開されます。しっかり復習しておいてください。
みなさんからの質問を十分に活用して授業を展開して、理解を深めていきます。積極的に参加してください。
出席しているだけ（わかっているつもり）では評価の対象になりません。試験のみ（理解したうえで説明ができる）で成績を判定します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床薬理学概論[1431320]

科目名	臨床薬理学概論[1431320]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	荒井 裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0〜4.0
教室	①305教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進［2］』大鹿英世ら（医学書院）

参考書：『グッドマン・ギルマン 薬理書』上、下 高折ら（廣川書店）
『今日の治療薬』（南江堂）
『NEW 薬理学』田中、加藤（南江堂）
『新薬理学テキスト』佐藤 進 編（廣川書店）

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

疾患の治療には必ずと言っていいほど薬物が用いられる。治療ばかりではなく予防、検査・診断にも薬物は用いられる。医療現場では看護師にも当然、薬物の高度な知識が求められる。そのために、薬物の作用点、薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子などの基礎薬理学、および、医療用医薬品の薬理作用・副作用、使用上の注意点などの応用薬理学、臨床薬理学を学ぶ。さらに、新薬を開発する際にはCRCとして看護師が必要でかつ重要な役割を担う治験が行われるが、この新薬の開発についても学ぶ。さらには、しばしば社会的問題となる薬害についても学ぶ。

テーマおよび内容

第１回 総論：薬理学とは、薬物の作用点
第２回 総論：薬物の生体内運命
第３回 総論：薬効に影響を与える因子
第４回 総論：薬効に影響を与える因子
第５回 総論：薬物の毒性、新薬の開発
第６回 自律神経系に作用する薬物
第７回 自律神経系に作用する薬物
第８回 体性神経に作用する薬物：運動神経作用薬物、知覚神経作用薬
第９回 中枢神経系に作用する薬物
第１０回 中枢神経系に作用する薬物
第１１回 下熱・鎮痛・抗炎症薬
第１２回 循環器、泌尿器系、血液系に作用する薬物
第１３回 呼吸器、消化器、子宮に作用する薬物およびホルモン・ビタミン
第１４回 化学療法薬
第１５回 その他の薬物など

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

生化学[1431330]

科目名	生化学[1431330]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	荒井 裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 5.0〜5.0
教室	①404教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『系統看護学講座 専門分野 生化学 人体の構造と機能[２]』 三輪、中 （医学書院） 参考書：『レーニンジャーの生化学』 上、下 監修：山科郁夫（廣川書店）

評価方法・評価割合
定期試験（持ち込み不可）

授業の目的および到達目標
生命活動の基本について生体構成成分や種々の物質の生体内での変化を理解し、生命の基本について学習する。特に生体分子の化学構造と性質を学び、それを踏まえて看護学的な視点から重要となる疾患の成り立ちに関与する生理物質およびその関連の代謝異常などについて学習する。

テーマおよび内容
［1回］生体の構成する物質：細胞の構造と機能:生体分子の種類、細胞の基本構造と機能について ［2回］生体の構成する物質：糖質:生体成分のうち糖質の構造と機能について ［3回］生体成分の構造と機能：脂質:生体成分のうち脂質の構造と機能について ［4回］生体成分の構造と機能：タンパク質:生体成分のうちタンパク質の構造および機能について ［5回］生体成分の構造と機能：核酸:生体成分のうち核酸の構造および機能について ［6回］生体成分の構造と機能：水と無機質:水と無機質の役割について ［7回］生体成分の構造と機能：血液と尿: 血液と尿の機能と役割について ［8回］生体成分の構造と機能：ホルモン、生理活性物質:ホルモンおよびその他生理活性物質の役割について [9回］生体内の物質代謝：酵素:代謝とは、酵素の役割について ［10回］生体内の物質代謝：ビタミン:ビタミンの役割について ［11回］生体内の物質代謝：糖質代謝:糖質代謝について ［12回］生体内の物質代謝：脂質代謝:脂質代謝について ［13回］生体内の物質代謝：タンパク質代謝、核酸の代謝:タンパク質代謝、核酸代謝について ［14回］代謝異常:代謝異常症について ［15回］遺伝情報とその発現:核酸と遺伝情報について翌

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床疾患学Ⅰ（内科系）[1431340]

科目名	臨床疾患学Ⅰ（内科系）[1431340]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	林 洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0〜3.0
	前期 金曜 4.0〜4.0
教室	①405教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『シンプル内科学』 寺野 彰（南江堂） 参考書：『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄（朝倉書店）

評価方法・評価割合
定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝30%）、レポート（中間１回＝30%）

授業の目的および到達目標
内科系諸疾患（呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、神経系）および、小児科系疾患、泌尿器科系疾患、婦人科系疾患の疾病の成り立ちと治療法について学習する。基礎医学科目で学習した内容をもとに、具体的な臨床疾患の種類と病因について概説するとともに、各疾患の治療法の基本的な事項についての知識を習得させる。特に、内科系疾患の診断に特徴的な、病態の包括的把握法を学習し、看護学の講義、実習を受けるための基礎を作る。

テーマおよび内容
〔１回〕オリエンテーション：講義全体の概要 〔２回〕診断と治療：内科診断学と治療学総論 〔３回〕身体所見：身体所見の診察法と主な異常所見 〔４回〕主な症状：鑑別診断において重要な主な症状 〔５回〕循環器疾患１：循環器疾患の病態生理学 〔６回〕循環器疾患２：循環器疾患の各論 〔７回〕呼吸器疾患１：呼吸器疾患の病態生理学 〔８回〕呼吸器疾患２：呼吸器疾患の各論 〔９回〕消化管疾患１：消化管疾患の病態生理学 〔１０回〕消化管疾患２：消化管疾患の各論 〔１１回〕肝・胆道・膵疾患１：肝・胆道・膵疾患の病態生理学

〔１２回〕肝・胆道・膵疾患２：肝・胆道・膵疾患の各論

〔１３回〕腎・尿路系疾患１：腎・尿路系疾患の病態生理学

〔１４回〕腎・尿路系疾患２：腎・尿路系疾患の各論

〔１５回〕内分泌疾患１：内分泌疾患の病態生理学

〔１６回〕内分泌疾患２：内分泌疾患の各論

〔１７回〕代謝疾患１：代謝疾患の病態生理学

〔１８回〕代謝疾患２：代謝疾患の各論

〔１９回〕自己免疫疾患：自己免疫疾患の病態生理学と各論

〔２０回〕アレルギー疾患：アレルギー疾患の病態生理学と各論

〔２１回〕血液疾患１：血液疾患の病態生理学

〔２２回〕血液疾患２：血液疾患の各論

〔２３回〕神経疾患１：神経疾患の病態生理学

〔２４回〕神経疾患２：神経疾患の各論

〔２５回〕小児科系疾患１：小児科系疾患の病態生理学

〔２６回〕小児科系疾患２：小児科系疾患の各論

〔２７回〕泌尿器科系疾患：泌尿器科系疾患の病態生理学と各論

〔２８回〕産婦人科系疾患：産婦人科系疾患の病態生理学と各論

〔２９回〕授業のまとめ１：前半の講義のまとめ

〔３０回〕授業のまとめ２：後半の講義のまとめ

学生へのメッセージ

基礎医学系の授業で学んだことを土台にして講義をします。
疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床疾患学Ⅱ（一般外科系）[1431350]

科目名	臨床疾患学Ⅱ（一般外科系）[1431350]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	鈴木 秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0〜3.0
教室	①303教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：特に指定しない

参考書：『成人看護学 周術期看護論』 雄西智恵美、秋元典子編（ヌーベルヒロカワ）
『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』 北島政樹、藤村龍子編（医学書院）

評価方法・評価割合

定期試験、その他（成績不良者にはレポート提出）

授業の目的および到達目標

外科学総論に関する知識の習得を基盤として、外科的治療が人体に及ぼす影響、生命の危機状態にある患者に対する診断・治療・管理に関して、学習する。

テーマおよび内容

[1回] 外科学の歴史と専門分化：紀元前にまで遡る外科学の歴史、19世紀からの外科学の発展、外科的治療技術の進歩と領域別専門分化の過程
外科学総論－１ ： 損傷、創傷、熱傷、外科感染症

[2回] 外科学総論－２ ： 腫瘍、ショック、消毒と滅菌、目的別に見た手術の種類、手術の侵襲と生体反応

[3回] 麻酔学 ： 局所麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロック

[4回] 麻酔学 ： 全身麻酔

[5回] 消化器外科領域の手術 ： 急性虫垂炎、そけいヘルニア、胆石症、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌、膵癌、食道癌

[6回] 消化器外科領域の手術

[7回] 消化器外科領域の手術

[8回] 胸部外科領域の手術 ： 自然気胸、肺良性腫瘍、肺癌、転移性肺腫瘍、弁膜症、虚血性心疾患、大動脈瘤

[9回] 胸部外科領域の手術

[10回] 胸部外科領域の手術

[11回] 乳腺外科領域の手術 ： 乳腺炎、乳腺良性腫瘍、乳癌

[12回] 脳神経外科領域の手術 ： 硬膜外血腫、硬膜下血腫、くも膜下出血、脳内出血、脳腫瘍、水頭症

[13回] 小児外科領域の手術 ： ボクダレックヘルニア、鎖肛、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症

[14回] 移植外科 ： 肝臓移植、腎臓移植、小腸移植、心臓移植

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

臨床疾患学Ⅲ（整形・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ・老年医学）[1431360]

科目名	臨床疾患学Ⅲ（整形・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ・老年医学）[1431360]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	平成26年度以降就任予定[学校法人 花田学園]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0～3.0
教室	①305教室

授業の目的および到達目標
運動器の構造と機能、症状・病態生理を基盤に、四肢・体幹を構成する骨・関節・筋肉・神経などの運動器官疾患に関する診断、治療、管理、リハビリテーション（リハ）に関して学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

栄養学と食育[1431370]

科目名	栄養学と食育[1431370]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	加藤 チイ[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 1.0〜1.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなします。学習に関係のない私語、飲食、機器の使用など注意に従わない場合は毎回5点減点します。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『看護栄養学 第3版』尾岸恵三子、正木治恵（医歯薬出版）2013
『糖尿病食事療法のための食品交換表第7版』日本糖尿病学会（文光堂）2013

参考書:『栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント 第8版』本田佳子編（医歯薬出版）2012

評価方法・評価割合

定期試験（実施しません。）、出席状況（出席回数、遅刻・途中退席＝30%）、レポート（20%）、授業中の課題（授業中課題＝30%）

授業の目的および到達目標

人が生きるためには栄養やエネルギーを取り込んで代謝・同化することが必要である。健康の維持・増進、および疾病の回復のために、どのような食事を摂ればよいか学ぶ。また、一つの食品で理想的な栄養素を含むものは存在せず、誤った食事の摂り方により疾患になることもある。栄養素がバランスよく摂れ、消化しやすいように調理され、食べる側の楽しみや意欲につながる食事のありかたについて考える。食を正しく選択し、信頼できる情報に基づく適切な食行動が実践でき、傷病者の栄養ケアにつなげる力を養うことを学習のねらいとする。

テーマおよび内容

[1回] 看護と栄養：栄養学・食育を学ぶ意義を理解する。

[2回] 食品について知る：食品群、栄養成分の特徴などを理解する。

[3回] 栄養の基礎１：どのような食品をどれくらい食べればよいか理解する。

[4回] 栄養の基礎２：自分の食事を評価する（糖尿病食品交換表を用いたエネルギー計算）。

[5回] 疾病と食事１：胃・腸、肝臓など消化管・消化器疾患の食事療法を理解する。

[6回] 疾病と食事２：循環器疾患、糖尿病、肥満症、脂質異常症などの食事療法を理解する。

[7回] 疾病と食事３：腎疾患の食事療法を理解する。

[8回] 疾病と食事４：手術後、外傷、褥瘡などの栄養・食事療法を理解する。

[9回] 治療用特殊食品：たんぱく・エネルギー・ナトリウムなどを調整した食品について学ぶ（試食を含む）。

[10回] ライフステージと栄養１：小児、妊産婦の栄養・食事のとり方を理解する。

[11回] ライフステージと栄養２：高齢者の栄養・食事のとり方を理解する。

[12回] 摂食機能と食援助：摂食機能に対応した食事について学ぶ（ 経腸栄養剤、介護食、増粘剤の試食を含む）。

[13回] 栄養・食事情報の利用：食品表示について学び、食品広告についても考える。

[14回] グループワーク：これまでの学びからテーマを決め、調べ、まとめる。

[15回] グループ発表：グループワークの内容を発表し、意見交換する。

学生へのメッセージ
栄養表示、新聞や雑誌の記事など栄養や食に普段から関心を持って下さい。食事は生命につながる大切なものです、この科目で学んだことを実践して下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

生体防御学[1431380]

科目名	生体防御学[1431380]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林 洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 金曜 2.0〜2.0
教室	①306教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『シンプル内科学』 寺野 彰（南江堂）

参考書：『シンプル微生物学』 東 匡伸・小熊恵二（南江堂）

評価方法・評価割合

定期試験（全授業終了後筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝30%）、レポート（中間１回＝30%）

授業の目的および到達目標

生体防御機構は病原体に対して体を守るシステムであり、これが破綻すると感染症を発症する。最初に正常の感染防御機構について学習し、次に、各感染症の特徴を学習する。感染症は、各臓器別疾患の共通した病因の１つであるとともに、臨床の場において日常的に認められる疾患でもあるところから、十分な知識を習得する必要がある。そして、感染症がおこった後の治療法に加えて、予防法についても習得することを目指す。

テーマおよび内容

〔１回〕生体防御機構：生体防御の仕組みについての総論

〔２回〕病原微生物：病原微生物の種類と特徴

〔３回〕細菌感染症１：主な細菌感染症の各論１

〔４回〕細菌感染症２：主な細菌感染症の各論２

〔５回〕ウイルス感染症１：主なウイルス感染症の各論１

〔６回〕ウイルス感染症２：主なウイルス感染症の各論２

〔７回〕真菌、原虫、寄生虫感染症：真菌、原虫、寄生虫感染症の各論

〔８回〕治療法、予防法：感染症の治療法と予防法

学生へのメッセージ

臨床医学系の授業で学んだことを土台にして講義をします。
疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

看護情報学[1432310]

科目名	看護情報学[1432310]
科目区分・科目種	看護と情報
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田 樹海[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0〜2.0
教室	①コンピューター教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
太田勝正,前田樹海編.(2014).エッセンシャル看護情報学第2版.医歯薬出版.

評価方法・評価割合
定期試験（40%）、授業中の課題（30%）、その他（小テスト30%）

授業の目的および到達目標
看護の実践が情報集約型の専門分野であるという立場から、看護における情報学の歴史的経緯、データ・情報・知識の定義と関係、暗黙知と形式知、用語体系、情報倫理、情報セキュリティ、EBP(Evidence-Based Practice)、情報の電子化に伴う影響など、看護と情報に関する主要な話題についての討議を交えながら、看護のプロセスにおける各局面を情報という切り口で論述することを当該科目の目的とする。

テーマおよび内容
[1 回] オリエンテーション [2 回] データ・情報・知識 [3 回] データ・情報・知識(2) [4 回] 暗黙知と形式知 [5 回] 情報の視点からのアセスメント [6 回] 情報の視点からの診断 [7 回] 用語の標準化 [8 回] ケアと記録 [9 回] 情報と倫理 [10回] 情報プライバシー [11回] ケアにおける情報セキュリティ [12回] 医療情報システム(1) [13回] 医療情報システム(2) [14回] 医療情報システム(3) [15回] 概括

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

看護研究の基礎[1432320]

科目名	看護研究の基礎[1432320]
科目区分・科目種	看護と情報
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田 樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0〜2.0
教室	①コンピューター教室

授業の形態

演習

教科書・参考文献

前田樹海,江藤裕之.(2013).APAに学ぶ看護系論文執筆のルール.医学書院.

評価方法・評価割合

レポート（50%）、その他（小テスト 50%）

授業の目的および到達目標

看護実践の基盤となるエビデンスを適切に生成、活用、流通する手段として研究を位置づけた上で、研究を行なうのに必要な論理的思考および論理的な文章作成のトレーニングを交えながら、研究倫理、クリティーク、基本的な研究デザインについて理解を深めることを通じて、学習者が教員からアドバイスを得ながら研究計画書を作成できることを当該科目の学習目標とする。

テーマおよび内容

[1 回] 研究とは（1）オリエンテーション/EBPにおける研究の位置づけ
[2 回] 研究とは（2）EBPの段階/研究の流れ
[3 回] 文献検索と文献講読（1）論文の構成要素/帰納と演繹/理論と研究
[4 回] 文献検索と文献講読（2）引用とは/引用方法
[5 回] 文献検索と文献講読（3）文中引用と文献リスト
[6 回] 研究方法概論（1）量的研究デザイン/標本抽出法
[7 回] 研究方法概論（2）統計とは/代表値/変数/尺度水準
[8 回] 研究方法概論（3）場合の数/確率
[9 回] 研究方法概論（4）正規分布/ばらつきの指標
[10回] 研究方法各論（1）仮説検定の基礎/離散変数どうしの関係
[11回] 研究方法各論（2）離散変数と連続変数の関係
[12回] 研究方法各論（3）研究における倫理
[13回] 研究計画の作成と発表（1）研究計画
[14回] 研究計画の作成と発表（2）研究成果の普及/質問紙調査事例
[15回] 研究計画の作成と発表（3）研究計画発表会

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

公衆衛生学[1433310]

科目名	公衆衛生学[1433310]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林 洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 金曜 2.0〜2.0
教室	①306教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『シンプル衛生公衆衛生学』 鈴木庄亮・久道 茂（南江堂）

参考書：『国民衛生の動向』 （厚生統計協会）

評価方法・評価割合

定期試験（全授業終了後筆記試験：持ち込み不可＝40%）、出席状況（出席回数＝30%）、レポート（中間１回＝30%）

授業の目的および到達目標

近代医学の発展に公衆衛生学が果たした役割を概説するとともに、現代の公衆衛生学が取り組んでいる諸分野、すなわち、環境問題、生活習慣病、感染症、地域保健、産業保健、国際協力等について学習し、医療全体を広い視野から捉えられる態度を養う。

テーマおよび内容

〔１回〕序論：オリエンテーションと保健統計

〔２回〕疾病予防と健康管理：主な疾病の予防と健康管理

〔３回〕生活習慣病と感染症：生活習慣病予防、感染症とその予防

〔４回〕環境保健：物理的環境要因と生物的環境要因

〔５回〕地域保健：地域保健と保健行政、母子保健

〔６回〕学校保健：学校保健の実践

〔７回〕産業保健：産業保健の実践

〔８回〕老人保健：老人保健・福祉、精神保健、国際保健医療、保健医療の制度と法規

学生へのメッセージ

臨床医学系の授業で学んだことを土台にして講義をします。
疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

保健医療福祉行政論[1433330]

科目名	保健医療福祉行政論[1433330]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東海林 文夫[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
	後期 火曜 5.0〜5.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

講義中の私語、飲食等は減点の対象になります。

教科書・参考文献

教科書: 『国民衛生の動向』2012/2013 厚生労働統計協会(編)（厚生統計協会）
その他、講師作成資料を配布します。

参考書: 『国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会(編)（厚生統計協会）
『実務衛生行政六法』衛生法規研究会（新日本法規出版）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験）、出席状況（評価する）、その他（出席カードに授業テーマ内容についての感想を記載してもらいます。）

授業の目的および到達目標

高齢者・障害者が疾病や障害を抱えた時、在宅を中心として地域で生活を続けていくために、どのような医療・保健・福祉の社会資源とシステムを活用すればよいか、現状を踏まえて、システムを概括する。さらに先進的なモデルを探り、将来のあるべき姿を描く。地域ケア連携をしていく中で、看護職と福祉職がどのように協働し、連携していけば、地域住民の健康と生活が守れるか、予防や健康増進の視点からも理解を深める。患者・利用者主体の在宅を中心とした地域ケアがどのように行なわれるか、講義を通じて体系的に学習することを目指す。

テーマおよび内容

[1回] 1.保健福祉行政のしくみ：地域保健・学校保健・産業保健・環境保健行政の総論

[2回] 2.公衆衛生の発展と衛生行政：母子保健・生活習慣病等

[3回] 3. 公衆衛生の発展と衛生行政：難病・精神保健・公害等。

[4回] 4.医療供給体制と医療計画：医療供給体制は時代の変遷により基本となる医療法改正。医療計画と医療体制整備や機能連携の確保等。

[5回] 5.地域保健の体系：地域保健の変遷、公的機関として保健所・保健センタ-の役割。
社会福祉との連携。

[6回] 6.健康危機管理体制の確立：重大な生命等の安全を脅かす事態への管理体制。自殺予防。

[7回] 7.国民健康づくり対策：健康日本21・健康増進法、国民健康・栄養調査と食育、たばこ対策、特定健診・介護予防。

[8回] 8.国民健康づくり対策：生活習慣病、がん、歯科保健対策。障害児・者対策等

学生へのメッセージ

講義の初めに、前回のポイントの復習を行う。・私語を慎み、集中して授業を受けること。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

社会福祉の基礎[1433340]

科目名	社会福祉の基礎[1433340]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	千葉 喜久也[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0〜2.0
教室	①303教室

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
看護師として社会福祉の考え方から歴史、サービス体系、社会福祉援助技術まで、社会福祉の基本を学ぶ。具体的には、社会問題化している貧困や差別、自殺や家族問題などを取り上げ、社会福祉援助の方法や技術について解説を行う。

テーマおよび内容
［1回］ オリエンテーション：授業の予定と学習方法について 社会福祉とは 社会福祉の目的と理念。社会福祉の実践。 ［2回］ 社会福祉の流れ：ノーマライゼーションについて ［3回］ 現代社会の福祉問題：貧困、差別、自殺など ［4回］ 現代家族と児童虐待：家族の変化、子育て支援と児童虐待 ［5回］ 虐待の発見と支援：児童虐待の発見と支援。 ［6回］ 海外における福祉：北欧の福祉、米国の福祉、フランスの子育て支援 ［7回］ 社会福祉の支援方法：社会福祉の援助の実際 ［8回］ 児童福祉：児童福祉と社会福祉。 ［9回］ 高齢者福祉：高齢者福祉と社会福祉 ［10回］ 障害者福祉：障害者福祉と社会福祉 ［11回］ 地域福祉：地域福祉と社会福祉 ［12回］ 家族問題と福祉：家族の変容。ＤＶ。離婚。 ［13回］ 生活保護：生活保護の実態と対応。 ［14回］ 医療保護：医療保護の実態と対応。 ［15回］ 権利擁護と利用者主体：利用者主体と権利擁護。 まとめ 社会福祉の課題、まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

医療関連法規[1433350]

科目名	医療関連法規[1433350]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	千葉 喜久也[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 4.0〜4.0
教室	①303教室

授業の目的および到達目標

看護の現場の中で直面する様々な問題を法律の観点から学習する。医療や看護を取り巻く環境も複雑化する中で、従来の慣習や手順では看護業務が遂行して行くことが困難な状況となっている。そこで本講座は、こうした問題を解決するためには、法律的にはどうなっているのかに焦点を当て、問題を解決するための法的知識を身につけることを目的とする。確かに法律だけで今日の看護の抱えている問題の、すべてが解決されるものではありませんが、法的にはどうなっているかは無頓着ではいられない。法的にどのように働き掛け、活用するのか、看護業務にも大切視点である。

テーマおよび内容

１．オリエンテーション 社会規範と法 法の体系
看護と法 労働法・社会保障法、看護師の責任、 裁判とのかかわり
２．刑事責任（１） 刑事手続き 刑の執行
刑事責任（２） "犯罪の成立要件
"
３．看護師と刑事事件（１） 責任の所在 入院患者の自殺と看護師の責任
看護師と刑事事件（２） 異常死体等の届出義務と黙秘権 終末期医療 院内暴力
４．民事責任（１） 一般原則 過失 因果関係
民事責任（２） 損害の範囲 医事紛争の処理
５．看護師の過失 連絡ミス 注意義務の水準 責任の所在

６．看護と患者情報の取扱い 連絡ミス 注意義務の水準 責任の所在

７．看護と労働法 労働者の保護 労働契約 女性の労働 労働災害

８．看護師の法的位置づけ 一般原則 看護師の資格 看護師の業務

９．医療の提供 医療提供体制 医療提供の場 医療計画

１０．医療保障 "医療の提供 家族に関する医療・保健・福祉
"
障害者に関する法 公衆衛生
１１．医療倫理 医療倫理

１２．看護師倫理（１） 日本看護協会の倫理綱領

１３．看護師倫理（２） 日本看護協会の倫理綱領

１４．事例研究（１） 事例研究と発表

１５．事例研究（2） 事例研究と発表,まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

看護学原論Ⅰ[1434310]

科目名	看護学原論Ⅰ[1434310]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井 一薫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0〜2.0
教室	①303教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
『実践を創る 新・看護学原論ーナイチンゲールの看護思想を基盤として』金井一薫（現代社）2012. 『看護覚え書』ナイチンゲール著、湯槇ます他訳（現代社）2013.

評価方法・評価割合
定期試験（80%）、出席状況、授業中の課題（未提出者は減点10点）、その他（中間試験20%）

授業の目的および到達目標
看護は実践の科学である。その実践を支える科学的思考を養い、どんな看護場面においても、看護であるものを思考し、かつ提供できるような頭作りをすることが、当該科目の目的である。看護学の構造は、目的論、対象論、方法論から成りたっており、各々の領域についての学習を深め、実践の科学的礎えとする。 特に看護の対象である“生活している人間”のとらえ方については、深い洞察ができるように導く。

テーマおよび内容
［1回］ 看護学を学ぶにあたって:看護学原論の目的、看護学の体系・構造、三段重箱の発想 ［2回］ 看護の創始者・ナイチンゲールについて ：ナイチンゲールの生涯とその業績を知る（その１） ［3回］ 看護の創始者・ナイチンゲールについて :ナイチンゲールの生涯とその業績を知る（その２） ［4回］ 看護の原典を読む（１）:ナイチンゲール著『看護覚え書』の読み方 ［5回］ 看護の原典を読む（２）:ナイチンゲール著『看護覚え書』の思想の真髄 ［6回］ 看護学原論（１）:看護の疾病論：看護の視点からみた病気のとらえ方 ［7回］ 看護学原論（２）:看護の目的論・看護とは何か（その１） ［8回］ 看護学原論（３）:看護の目的論・看護とは何か（その２） ［9回］ 看護学原論（４）:看護の対象論・ナイチンゲールのとらえ方を通して学ぶ ［10回］ 看護学原論（５）:看護の対象論・対象のとらえ方（その１） ［11回］ 看護学原論（６）:看護の対象論・対象のとらえ方（その２） ［12回］ 看護学原論（７）:看護の対象論・対象のとらえ方（その３）

［13回］ 看護学原論（８）:看護の対象論の全体像

［14回］ 看護学原論（９）:看護の方法論・観察とは何か

［15回］ 看護をめぐる諸概念の整理:諸看護理論の概要とその思想体系

学生へのメッセージ
看護学生として看護の基本を学ぶ科目です。毎回、テキストを読み、自分の頭で考え、ノートを作成して、内容をキチンを把握するように努めてください。 宿題を毎回出します。よく復習し、提出物は忘れずに提出してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

看護学原論Ⅱ[1434320]

科目名	看護学原論Ⅱ[1434320]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井 一薫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 4.0〜4.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

看護学原論Ⅱは、看護学原論Ⅰを土台にした授業展開になるので、前学期科目を復習して臨むこと。
また、原論Ⅱは講義内容が積み重ね方式で構成されているので、欠席すると理解ができなる恐れがある。故に欠席はしないこと。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

『実践を創る 新・KOMIチャートシステム』金井一薫、（現代社）2013.

評価方法・評価割合

出席状況（重視する）、レポート（講義途中において1回、終了後に１回のレポート課題を出す。配点は全体で３０％）、授業中の課題（未提出者は10点減点）、その他（15回の講義の中で、中間試験を2回行う。配点は全体で70％）

授業の目的および到達目標

目的：当該科目においては、まず初めに看護職の歴史を紐解き、看護職が専門職として成立したその過程を、世界と日本とにおいて展望しつつ、看護実践をめぐる主要な諸概念を明らかにする。さらに看護の専門性や独自性についての基礎を身につけるために、土台となる看護の疾病論や実践方法論について教授する。
到達目標：
１．看護の歴史を概観できる。
２．看護の独自性とEBNの重要性を思考できる。
３．看護の疾病論の概略と各疾患について看護的思考を身につける。
４．看護の方法論を「看護過程展開」として位置づけ、事例を通して方法を修得する。

テーマおよび内容

［1回］ 歴史の中で看護の発展を考える（その１）：看護歴史の目標、看護と医療の発展過程
［2回］ 歴史の中で看護の発展を考える（その２ ）：近代教育の開始－ナイチンゲール方式の教育の概要

［3回］ 歴史の中で看護の発展を考える（その３）：日本における看護の発展過程ー近代看護

［4回］ 歴史の中で看護の発展を考える（その４）：日本における看護の発展過程ー現代看護

［5回］ 看護の疾病論総論：看護の視点で病気を見つめるための思考過程
１．実践における科学的根拠の大事さを認識する
２．人体が用意している回復のシステムを見つめる
３．生命のしくみの基礎を学ぶ

［6回］ 脳疾患を看護の視点でとらえるー脳の回復のメカニズムと生活の処方箋

［7回］ 胃潰瘍を看護の視点でとらえるー胃潰瘍の回復のメカニズムと生活の処方箋

［8回］ 病の起源から「がん」をとらえる

［9回］ 大腸がんを看護の視点でとらえるー大腸の特徴と、がん発生のメカニズムと生活の処方箋

［10回］心臓病を看護の視点でとらえるー心臓の仕組みと回復のメカニズムと生活の処方箋

［11回］看護の方法論（1）：看護過程の展開①ー看護過程展開の道筋

［12回］看護の方法論（2）：看護過程の展開②ーKOMIチャートシステムについて

［13回］看護の方法論（3）：人間の生活のとらえ方と情報収集・アセスメント

［14回］看護の方法論（4）：KOMIチャートシステムを活用した事例展開①
［15回] 看護学原論のまとめー看護理論の流れと理論活用の実際

学生へのメッセージ

本講義は、看護学原論Ⅰとセットになった学的構造を持っているので、前学期の授業の復習をして臨むこと。
また、疾病論と方法論は、今後の看護学の学習には必須の重要な内容であるから、休まずに真剣に取り組んでほしい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

看護形態機能学[1434330]

科目名	看護形態機能学[1434330]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	平田 美和[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0〜3.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

詳細は初回オリエンテーションにて提示する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『看護 形態機能学 第3版 生活行動からみるからだ』菱沼典子（日本看護協会出版会）2011
参考書：『看護につなげる形態機能学』菱沼典子（メヂカルフレンド社）2012

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可）、その他（小テスト）

授業の目的および到達目標

これまで学習した人体の構造と機能の知識を看護援助に活用できることを目指す。人間が生きていくために営んでいる日常生活行動は、どのようなからだのつくりと働きを使っているのか、また、からだのつくりや働きが障害された時、日常生活行動にどのような影響があるのかを理解する。人間の日常生活行動からとらえる形態機能学の重要性を理解し、日常生活行動や看護援助との関連性から人体の構造と機能を理解できることを目標とする。

テーマおよび内容

［1 回］内部環境の恒常性（1）

［2 回］内部環境の恒常性（2）

［3 回］恒常性維持のための流通機構(1)心臓・循環器系①

［4 回］恒常性維持のための流通機構(2)心臓・循環器系②

［5 回］恒常性維持のための調節機構(1)内分泌・脳神経系①

［6 回］恒常性維持のための調節機構(2)内分泌・脳神経系②

［7 回］日常生活行動＜動く＞筋・骨格系

［8 回］日常生活行動＜食べる＞消化器系①

［9 回］日常生活行動＜息をする＞呼吸器系

［10回］日常生活行動＜トイレに行く：排尿＞腎尿路系

［11回］日常生活行動＜トイレに行く：排便＞消化器系②

［12回］日常生活行動＜話す・聞く＞視聴覚系

［13回］日常生活行動＜眠る＞脳神経系

［14回］日常生活行動＜お風呂に入る＞感覚器系：皮膚

［15回］日常生活行動＜子どもを生む＞生殖器系

学生へのメッセージ
“解剖生理学の知識をどのように看護に生かしていくのか？”一緒に考えていきましょう！

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

基礎看護学演習Ⅰ[1434340]

科目名	基礎看護学演習Ⅰ[1434340]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平田 美和[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

欠席しないこと、20分以上の遅刻・早退は欠席とする。
詳細は初回オリエンテーションにて提示する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[１]看護学概論』茂野香おる（医学書院）2012
『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[２]基礎看護技術Ⅰ』茂野香おる（医学書院）2011
『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[３]基礎看護技術Ⅱ』任和子（医学書院）2013
『看護技術ベーシックス改訂版』藤野彰子他監修（医学芸術新社）2007

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可）、出席状況、授業中の課題、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

看護技術の基本原則を理解し、看護を実践するために必要な基本技術である「コミュニケーション技術」「感染防止の技術」「環境調整技術」について習得することを学習目標とする。また、自己の生活を振り返ることで生活とは何かを考え、人間の日常生活動作である「食べる」「排泄する」「活動・休息する」「清潔にする」についての意義を理解する。

テーマおよび内容

［1 回］オリエンテーション/導入

［2 回］生活とは何か(１)

［3 回］生活とは何か(２)

［4 回］生活とは何か(３)

［5 回］生活とは何か(４)

［6 回］コミュニケーション技術(１)コミュニケーション①

［7 回］コミュニケーション技術(２)コミュニケーション②

［8 回］感染防止の技術(１)スタンダード・プリコーション

［9 回］感染防止の技術(２)手洗い

［10回］環境調整技術(１)

［11回］環境調整技術(２)

［12回］環境調整技術(３)環境整備

［13回］環境調整技術(４)ベッドメイキング

［14回］環境調整技術(５)シーツ交換

［15回］まとめ

学生へのメッセージ
“看護技術とは何か？”一緒に考えていきましょう！

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

基礎看護学演習Ⅱ[1434350]

科目名	基礎看護学演習Ⅱ[1434350]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	3.0単位

担当教員・所属	平田 美和[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0〜2.0
	後期 金曜 3.0〜3.0
	後期 金曜 4.0〜4.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

欠席しないこと、20分以上の遅刻・早退は欠席とする。
詳細は初回オリエンテーションにて提示する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1]看護学概論』茂野香おる（医学書院）2012
『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ』茂野香おる（医学書院）2011
『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ』任和子（医学書院）2013
『看護技術ベーシックス改訂版』藤野彰子他監修（医学芸術新社）2007

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可）、出席状況、授業中の課題、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

当該科目は、自己の日常生活を振り返り、人の日常生活動作について考え、安全、安楽、自立、個別性に配慮した具体的な日常生活に関する援助方法の原理原則を習得する。人体の構造と機能の知識を日常生活援助へ応用し、根拠に基づいた援助方法が習得できることを目標とする。

テーマおよび内容

［1 回］活動・休息援助技術(１)体位保持

［2 回］活動・休息援助技術(２)体位変換

［3 回］活動・休息援助技術(３)車椅子移乗・移送/ストレッチャー移乗・移送/歩行介助

［4 回］清潔・衣生活援助技術(１)

［5 回］清潔・衣生活援助技術(２)寝衣交換

［6 回］清潔・衣生活援助技術(３)全身清拭/整容/入浴介助

［7 回］清潔・衣生活援助技術(４)洗髪

［8 回］清潔・衣生活援助技術(５)足浴/手浴/部分浴/マッサージ

［9 回］食事援助技術(１)食事介助

［10回］食事援助技術(２)口腔ケア

［11回］排泄援助技術(１)床上排泄/陰部清拭・洗浄

［12回］排泄援助技術(２)オムツ交換/ポータブルトイレ介助

［13回］技術の総まとめ(１)

［14回］技術の総まとめ(２)

［15回］技術の総まとめ(３)

学生へのメッセージ
“生活を支えるとはどういうことか？”一緒に考えていきましょう！

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

基礎看護学演習Ⅲ[1434360]

科目名	基礎看護学演習Ⅲ[1434360]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	平田 美和[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0〜3.0
	前期 火曜 4.0〜4.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

欠席しないこと、20分以上の遅刻・早退は欠席とする。
詳細は初回オリエンテーションにて提示する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[３]基礎看護技術Ⅱ』任和子（医学書院）2013
『看護技術ベーシックス改訂版』藤野彰子監修（医学芸術社）2007

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可）、出席状況、授業中の課題、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

当該科目は、主に検査や診断に伴う基本的技術を学習する。検査や診断に伴う技術は身体侵襲を伴う看護援助であるため、患者の生体への影響を理解し、安全に実施するための基本的知識および援助方法を習得する。また、患者の安全を守るための感染予防の意義を理解し、原理原則に則った感染防止のための基本的知識および援助方法を習得する。さらに、検査や診断に伴う看護援助が患者の生活へ与える影響を理解し、必要な日常生活援助について理解できることを目標とする。

テーマおよび内容

[1回]導入

[2回]感染防止の技術(1)

[3回]感染防止の技術(2)個人防護具の取扱い

[4回]感染防止の技術(3)無菌操作/滅菌手袋の装着

[5回]検査に伴う技術(1)導尿

[6回]検査に伴う技術(2)採血①

[7回]検査に伴う技術(3)採血②

[8回]与薬の技術(1)薬物療法

[9回]与薬の技術(2)薬物療法

[10回]与薬の技術(3)筋肉注射

[11回]与薬の技術(4)皮下注射

[12回]与薬の技術(5)点滴静脈注射①

[13回]与薬の技術(6)点滴静脈注射②

[14回]技術の総まとめ(1)

[15回]技術の総まとめ(2)

学生へのメッセージ
“根拠に基づいた看護技術とは何か？”一緒に考えていきましょう！

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

フィジカルアセスメントⅠ[1434370]

科目名	フィジカルアセスメントⅠ[1434370]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平田 美和[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 水曜 3.0〜3.0
	後期 水曜 4.0〜4.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

欠席しないこと、20分以上の遅刻・早退は欠席とする。
詳細は初回オリエンテーションにて提示する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『はじめてのフィジカルアセスメント』横山美樹（メヂカルフレンド社）2010

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可）、出席状況、授業中の課題、その他（小テスト、授業態度）

授業の目的および到達目標

看護の対象となる人間を理解するために、人体の構造と機能の知識を活用して、身体面をアセスメントするために必要な知識、技術、態度を習得する。
看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解し、特にフィジカルイグザミネーションの目的、方法を根拠とともに習得し、その正常所見が判断できることを目標とする。

テーマおよび内容

［1 回］導入/問診/基本技術（視診・触診・打診・聴診）

［2 回］バイタルサイン(１)

［3 回］バイタルサイン(２)

［4 回］バイタルサイン(３)

［5 回］バイタルサイン(４)

［6 回］バイタルサイン(５)

［7 回］頭部・顔面・頸部・視聴覚系

［8 回］胸部・肺(１)

［9 回］胸部・肺(２)

［10回］心臓・循環器系(１)

［11回］心臓・循環器系(２)

［12回］腹部・消化器系(１)

［13回］腹部・消化器系(２)

［14回］筋・骨格系/脳・神経系(１)

［15回］筋・骨格系/脳・神経系(２)

学生へのメッセージ
“人の身体をどのように診るのか？”一緒に考えていきましょう！

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

看護過程論[1434390]

科目名	看護過程論[1434390]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平田 美和[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0〜3.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意
欠席しないこと、20分以上の遅刻・早退は欠席とする。 詳細は初回オリエンテーション時に提示する。

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
教科書：『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ』茂野香おる（医学書院）2011

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、授業中の課題、その他（小テスト、授業態度）

授業の目的および到達目標
看護実践の基盤となる看護理論と看護過程の具体的な展開方法について学習する。これまでに学習してきた知識や理論を活用し、看護を体系的に患者へ提供するための看護過程展開における問題解決思考方法を習得することを目標とする。

テーマおよび内容
[1回]看護過程とは(1) [2回]看護過程とは(2) [3回]アセスメント(1) [4回]アセスメント(2) [5回]アセスメント(3) [6回]アセスメント(4) [7回]アセスメント(5) [8回]看護上の課題抽出

[9回]看護計画

[10回]実施/評価

[11回]事例展開(1)

[12回]事例展開(2)

[13回]事例展開(3)

[14回]事例展開(4)

[15回]事例展開(5)

学生へのメッセージ
“看護をプロセスで考えるとはどういうことか？”一緒に考えていきましょう！

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

看護倫理学[1434400]

科目名	看護倫理学[1434400]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	中村 充浩[看護学部 看護学科]
	志自岐 康子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0〜3.0
教室	①304教室

授業の形態
講義(共同)

教科書・参考文献
教科書：看護学テキスト NiCE 看護倫理 よい看護･よい看護師の道しるべ 小西恵美子編（南江堂）2012 参考書：Fry, Sara T.Johnstone, megan-Jane（片田範子他訳）：看護実践の倫理；倫理的意思決定のためのガイド（第３版），日本看護協会出版会，2010（2008）

評価方法・評価割合
定期試験（60%）、その他（グループワークと発表（20%）課題レポート（20%））

授業の目的および到達目標
本科目は、看護倫理を看護の提供者としてのすべての行動や思考の拠り所となる学問と位置づけ、倫理的に知り、倫理的に見、倫理的に行動し、倫理的にある（ethical being）ための方法を身につけること、さらに、これらの方法を用いて、身の回りで起こる様々な問題解決のために必要な批判的思考能力を涵養することを学習目標とする。

テーマおよび内容
1-8（中村） オリエンテーション・倫理とは 看護倫理の歴史的推移 徳の倫理 原則の倫理 看護倫理に関係する重要な言葉 末期ケアと倫理 看護専門職組織の役割と倫理綱領 看護研究における倫理 9-11（志自岐） 看護の専門性と倫理 看護実践における倫理的問題 看護師に求められる倫理的意思決定能力 12（中村） 倫理的思考のプロセス 13-15（中村） グループワーク準備および発表

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

導入基礎実習[1434410]

科目名	導入基礎実習[1434410]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井 一薫[看護学部 看護学科]
	平田 美和[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前集中
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
系統看護学講座 看護学概論 医学書院

評価方法・評価割合
出席状況（実習科目として、全体の5分の４の出席を重視する）、レポート（事前・事後のレポートを重く見る）、授業中の課題（毎回の授業で課題を出す。提出は必ず行うこと）

授業の目的および到達目標
当該科目は、学生が実践の科学である看護学を学ぶ上で、健康問題を抱えた個人・集団が地域におけるどのような医療機関においてサービスを提供されるのかを理解するとともに、医療機関においては、どのようなヘルスケア・チームがどのように連携して医療サービスを提供しているのかを理解する。具体的には、医療機関におけるさまざまな部署において、それらの部署およびそこで働く医療専門職の役割と機能、看護との連携についてシステム論を基本に学習する。

テーマおよび内容
導入基礎実習の目標は以下である。 1．看護職が活動する場を理解する。 2．看護の対象者及び対象者が療養する環境を理解する。 3．看護職の業務や役割を理解する。 4．看護職と他専門職との連携の必要性を理解する。 5．看護学への関心を深めることができる。 6．看護学生としての自己のあり方を振り返り、看護師の役割と責任について考えることができる。

学生へのメッセージ
本科目は、毎週金曜日に行われる。 初回に配布される授業計画をきちんと把握し、休まないで出席するように自己管理を怠らないこと。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

基礎看護学実習[1434420]

科目名	基礎看護学実習[1434420]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	平田 美和[看護学部 看護学科]
	金井 一薫[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

本科目は出席が重視されるので、体調管理には十分注意すること。
実習には十分な事前学習をして臨むこと。
詳細は事前オリエンテーションにて提示する。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：なし

評価方法・評価割合

出席状況、その他（実習への取り組み状況、実習記録（実習最終レポート））

授業の目的および到達目標

これまで学習した基礎的知識、技術および態度を実際の看護場面で展開し、看護の基礎的能力を学習する。受け持ち患者との関わりを通して、患者を健康障害のある生活者としてとらえ、日常生活面を重視した看護過程を展開することを目標とする。また、実習を通して看護学生として必要な基本的態度を身につける。

テーマおよび内容

１．実習施設：東京大学医学部附属病院

２．実習内容
１)事前オリエンテーション
平成26年7月3日(木)4限

２)全体オリエンテーション
平成26年8月21日(木)10:00～16:00

３)病院実習
Ａグループ：平成26年8月22日(金)～8月29日(金)
Ｂグループ：平成26年8月29日(金)～9月5日(金)
Ｃグループ：平成26年9月5日(金)～9月12日(金)

4)実習のまとめ
日程は後日提示する。

3．実習方法
1)原則として1病棟に5名の学生が配置される。
2)1名の患者を受け持ち、基礎的な看護過程を展開する。
3)臨床指導者および教員とともに、看護計画に基づいた日常生活援助を実践する。

※詳細は実習要項を参照のこと

学生へのメッセージ
“実際の患者に看護援助するにはどうしたらよいか？”一緒に考えて行きましょう！

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

成人看護学概論[1435310]

科目名	成人看護学概論[1435310]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

成人看護学のすべての基礎となる科目であるため、予習・復習をして臨んでください。
＊30分以上の遅刻・途中退席は、欠席とみなします。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『成人看護学概論』大西和子・岡部聡子編集（ヌーベルヒロカワ）
参考書：『国民衛生の動向』2014/2015 （厚生労働統計協会）
『慢性期看護論』鈴木志津枝・藤田佐和編集（ヌーベルヒロカワ）
『臨床外科看護総論』矢永勝彦・小路美喜子編集（医学書院）

評価方法・評価割合

定期試験（持ち込み不可＝85％）、出席状況（出席回数＝10％，参加態度＝5％）

授業の目的および到達目標

成人期は、ライフステージの中で最も長く、青年期、壮年期、向老期と身体的にも心理・社会的にも大きな変化を遂げる。当該科目では、これらの成人各期の発達課題や特徴、成人期に多くみられる疾病や保健医療政策の動向について理解する。また、健康障害の各期に応じた看護の要素、対象者の看護をする上で、必要となる代表的な諸理論を理解することを目的とする。

テーマおよび内容

[1回] 科目概要と進め方，成人期の特徴：オリエンテーション，成人各期における発達課題
[2回] 成人期の特徴：成人各期の身体的、心理的、社会的特徴
[3回] 成人期の生活と健康（1)：成人期の生活と多くみられる疾患、保健医療の動向
[4回] 成人期の生活と健康（2): 成人期の生活と多くみられる疾患、保健医療の動向
[5回] 健康障害の各期に応じた看護(1)：急性期・回復期における看護
[6回] 健康障害の各期に応じた看護(2)：慢性期・終末期における看護
[7回] 成人看護における倫理的問題
[8回] 成人看護学に関連する諸理論(1)：セルフケア理論
[9回] 成人看護学に関連する諸理論(2)：セルフケア理論（グループワーク）
[10回] 成人看護学に関連する諸理論(3)：ストレス・コーピング理論
[11回] 成人看護学に関連する諸理論(4)：ストレス・コーピング理論（グループワーク）
[12回] 成人看護学に関連する諸理論(5)：成人教育理論
[13回] 成人看護学に関連する諸理論(6)：成人教育理論（グループワーク）
[14回] 成人看護学に関連する諸理論(7)：発表資料作成（グループワーク）
[15回] 成人看護学に関連する諸理論(8)：グループワークの成果の発表・質疑応答

学生へのメッセージ

質問がある場合、授業の後に直接、或いはメールでお願いします。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

老年看護学概論[1435370]

科目名	老年看護学概論[1435370]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	川上 嘉明[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0〜2.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

授業を妨げる私語（公の場であるにもかかわらず、自分たちだけでひそひそと勝手な話をする）等に対しては、退席指示、評価点減点等の対処を行う。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

『自然死を創る終末期ケア』川上嘉明（現代社）2008
講義資料（授業初日に頒布）

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験 （50%））、出席状況（欠席がない場合には、加点をする （5%））、授業中の課題（小テスト 課題レポート （45%））

授業の目的および到達目標

人の生命過程における「老年」は、人に働きかけられる「自然」である。生物である人に働きかける自然としての老年を、生命誌、また生命科学等から正しく理解することが老年看護の前提となる。本授業では、地球環境と適応することによって展開してきた生命と、生物である人の特徴を理解することから始める。それらを看護の視点とした上で、自然が働きかける老年の生命状態、特徴的な疾患、衰弱等に対し、「もっともよい状態に対象者を置く」ためにはどうのようすればよいかということを看護の目的とし老年看護学を学習する。

テーマおよび内容

[1回] 高齢者の統計的輪郭と高齢者の暮らし
【key words】少子高齢化 人口 出生数 死亡数 健康寿命 高齢者世帯 平均年収
[2回] 「老い」の生命科学
【key words】生物の進化 真核生物 死 有性生殖 老化
[3回] 老年期の特徴と看護の目標
【key words】細胞の種類 ヘイフリック限界 ホメオスタシス 老化 老年期 看護の目標
[4回] 看護から見た生命体と老年看護の視点
【key words】生命の基本モデル 摂取 自己化 排泄 老年期の生命過程 ホメオスタシス
[5回] 高齢者の疾患と治療における看護（1）
【key words】高齢者の疾患 老年症候群 廃用症候群 疾患の特徴
[6回] 高齢者の疾患と治療における看護（2）
【key words】高齢者の疾患 老年症候群 廃用症候群 疾患の特徴
[7回] 高齢者の理解と看護（1） 代謝：呼吸・循環
【key words】呼吸障害 循環障害 COPD 誤嚥性肺炎 気道クリアランス
[8回] 高齢者の理解と看護（2） 代謝：呼吸・循環
【key words】呼吸障害 循環障害 COPD 誤嚥性肺炎 気道クリアランス
[9回] 高齢者の理解と看護 代謝：水分と栄養の摂取
【key words】食物連鎖 口腔の障害 咀嚼の障害 嚥下障害 誤嚥・窒息予防
[10回] 高齢者の理解と看護 代謝：老廃物の排泄

【key words】排泄（排尿、排便）障害 尿失禁 便失禁 座位排泄
[11回] 高齢者の理解と看護 運動：運動
【key words】用不用の原則 廃用症候群 床反力 脳幹網様体賦活系
[12回] 高齢者の理解と看護 運動：外界の認識 感覚
【key words】視覚 明順応 暗順応 聴覚 高周波の音
[13回] 高齢者の理解と看護 内部環境の維持・修復：睡眠
【key words】細胞の維持・修復 睡眠過小 睡眠・覚醒リズム 睡眠過剰
[14回] 高齢者の理解と看護 内部環境の維持・修復：皮膚
【key words】高齢者の皮膚 体内成分の維持 皮脂欠乏 膠原繊維 老人性掻痒症
[15回] 高齢者の理解と看護 生命体の統括
【key words】認識 生活 記憶力 反応速度 精神性廃用症候群 うつ病

学生へのメッセージ
授業中の課題も評価をします。手を抜かないようにしましょう。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

母性看護学概論[1435400]

科目名	母性看護学概論[1435400]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	梶原 祥子[看護学部 看護学科]
	家吉 望み[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0〜2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

母性看護学は、女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問です。この概論で習得する知識は、3年生前期に開講する母性看護援助論、事例展開、そして3年生後期の母性看護学実習の基盤となるものです。主体的に自ら学ぶ姿勢を堅持することを望みます。

授業の形態

講義(共同)

教科書・参考文献

教科書：
系統看護学講座 専門分野 II『母性看護学概論』 森恵美 他 （医学書院）
参考書：
①国民衛生の動向
②『ナーシング・グラフィカ 母性看護学－母性看護実践の基本』 横尾京子・中込さと子編（メディカ出版）
③『ウィメンズヘルスナーシング概論』 村本淳子・高橋真理編集（ヌーヴェルヒロカワ）
④『女性のライフサイクルとナーシング』 高橋真理・村本淳子編集（ヌーヴェルヒロカワ）
⑤『病気がみえるvol. 9 婦人科・乳腺外科』 医療情報科学研究所編集
その他適時講義内で提示します。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（態度）

授業の目的および到達目標

女性のライフサイクル各期の特徴や発達課題について学び、女性の健康問題とその看護を展開するために必要とされる基礎知識を習得する。Women's Healthという概念で、母性看護の歴史的変遷、母子保健統計、法律、母子保健施策、生命倫理を学び、今後の母性看護の役割と重要性について認識を深める。

テーマおよび内容

[1回] 女性の健康の概念 ： 女性の発達過程と理論、女性の健康と歴史 体験課題の提示
[2回] 女性の健康とセクシュアリティ ： 人間の性反応、セクシュアリティと健康
[3回] リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ： リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
[4回] 女性の生涯発達と健康 ： 女性のライフサイクル、ライフサイクルと女性の身体・心理・社会
[5回] ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護① ： 思春期の健康問題とヘルスケア
[6回] ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護② ： 成熟期の健康問題とヘルスケア
[7回] ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護③ ： 更年期の健康問題とヘルスケア
[8回] ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護④ ： 老年期女性の健康問題とヘルスケア
[9回] 女性の健康と環境 ： 女性を取り巻く環境問題とヘルスケア
[10回] 女性の健康障害 ： 女性特有の疾患、女性生殖器疾患
[11回] 女性の健康と倫理 ： 女性の健康に関する倫理的問題

[12回] 国際化と女性の健康 ： 国際化の現状と在日外国人のケア
[13回] 女性の健康とヘルスプロモーション ： ヘルスプロモーション、健康教育
[14回] 女性の健康と政策 ： 女性に関わる制度、統計
[15回] 体験課題発表 ： 課題について発表 まとめ： まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

小児看護学概論[1435430]

科目名	小児看護学概論[1435430]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	三木 祐子[看護学部 看護学科]
	江藤 千里[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 金曜 1.0〜1.0
	前期 金曜 2.0〜2.0
教室	①405教室

受講条件・その注意
30分以上の遅刻・退席は欠席と見なします。

授業の形態
講義(共同)

教科書・参考文献
教科書 ①「系統看護学講座 小児看護学概論･小児臨床看護総論 小児看護学①」奈良間美保、他（医学書院） 参考書 ①「国民衛生の動向」 ②「ナーシング・グラフィカ28 小児看護学-小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版） その他随時、担当教員が提示する。

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、その他（演習発表）

授業の目的および到達目標
(学習目的) 成長発達の過程にある子どもの特徴を理解し、健全な成長発達を促すための日常生活における援助および健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護に必要な基礎的知識を習得する。 (到達目標) １．子どもの成長発達の概念と成長発達過程を理解し、説明することができる。 ２．子どもと家族をとりまく生活環境を理解し、説明することができる。 ３．現在の子どもが抱える健康問題を含め、子どもの健康生活の意義について理解し、説明することができる。

テーマおよび内容
【1回】授業ガイダンス･小児看護の対象など 【2回】子どもの権利・小児の統計的現状 【3回】子どもの成長発達Ⅰ：一般的原則・成長発達の評価 【4回】子どもの成長発達Ⅱ（新生児〜思春期）：身体発育･生理機能の発達･精神、運動機能の発達･ 日常生活習慣の自立･遊び･栄養など 【5回】 〃 【6回】 〃 【7回】学校保健：歴史･組織と運営･実際の活動領域 【8回】予防接種：法律・主な接種内容・副作用 【9回】小児と家族を取り巻く社会：児童福祉法･母子保健法･小児慢性特定疾患治療研究事業など

【10回】健康障害をもつ子ども･家族への看護：入院・外来看護
【11回】在宅療養中の子ども･家族への看護：継続看護
【12回】心のケアが必要な子ども･家族への看護：心身症･発達障害など
【13回】演習：子どもの現代の社会問題についてグループでテーマを決め、発表する。問題点、改善策および
今後の提言を教科書以外の文献を用い、自分達の考察を深める。
【14回】発表
【15回】発表・まとめ

学生へのメッセージ
授業で学んだ内容と実際の場面が少しでもリンクできるように、まずは街で見かける子ども達の様子、遊び、会話、親との関わり、また子どもに関するニュースなどに関心を持って下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

精神看護学概論[1435460]

科目名	精神看護学概論[1435460]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
	高橋 雪子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
	前期 月曜 4.0〜4.0
教室	①303教室

授業の形態
講義(共同)

教科書・参考文献
教科書 精神看護学Ⅰ ヌーヴェルヒロカワ 参考書 新版 精神保健 石井厚監修 医学出版社 参考書 看護のための精神医学 中井久夫＋山口直彦 医学書院

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標
精神保健および精神看護の基本となる人間理解を深めることを目的に、精神障害とは何かについて理解し、家族や集団などの人間関係に関する諸理論を学ぶ。また精神保健と福祉の法制度と社会的背景、倫理的問題について学ぶ。人は様々な危機に遭遇し、乗り越えながら生きていく。危機に対して人は様々な反応を示すが、精神障害は１つの反応の仕方である。また、人は精神障害の有無にかかわらず、自己実現を目指してその人らしく生きていく可能性を持っている。その過程を援助するのが精神看護の役割である。

テーマおよび内容
[1回、2回]精神看護の本質、対人関係看護論、エゴグラムによる自己理解、交流分析 [3回、4回]精神保健、心の健康、心の働き、心の仕組み、精神の機能と傷害 [5回、6回]映画で学ぶ精神医療「カッコーの巣の上で」 [7回、8回]様々な社会病理現象 [9回、10回]防衛機制、ストレスと対処行動、レジリエンス [11回、12回]映画で学ぶ精神障害「ビューティフルマインド」 [13回、14回]精神疾患と死をめぐる問題 [15回]まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

疾病援助論[1435490]

科目名	疾病援助論[1435490]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	梶原 祥子[看護学部 看護学科]
	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
	三木 祐子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 月曜 3.0〜3.0
	前期 月曜 4.0〜4.0
教室	①303教室

授業の形態
講義(共同)

教科書・参考文献
教科書：（精神分野）新版 精神保健 第2版 医学出版社 参考書：（精神分野）浅野弘毅著 統合失調症の快復 批評社

評価方法・評価割合
定期試験

授業の目的および到達目標
基礎医学科目で学習した内容をもとに、具体的な臨床疾患の種類と病因について概説するとともに、各疾患の治療法の基本的な事項についての知識を習得させる。特に、精神看護学、小児看護学、母性看護学の学習や援助に活かすために、特徴的な病態や知識を学習する。

テーマおよび内容
1）精神疾患の理解①：統合失調症 2）精神疾患の理解②：気分障害 3）精神疾患の理解③：神経症障害 4）精神疾患の理解④：パーソナリティ障害、摂食障害 5）精神疾患の理解⑤：依存症（アルコール、薬物など） 6）精神疾患の理解⑥：精神療法について 7）小児内科における主な疾患の理解①：呼吸器・循環器・腎疾患など 8）小児内科における主な疾患の理解②：消化器・内分泌・代謝性疾患など 9）小児内科における主な疾患の理解③：血液・腫瘍性疾患・神経疾患など 10）小児外科における主な疾患の理解①：二分脊椎・水痘症・口唇裂口蓋裂・心奇形など 11）小児外科における主な疾患の理解②：消化器・泌尿器・生殖器疾患など 12）思春期女性における主な疾患：月経異常、性感染症 13）成熟期女性における主な疾患：月経困難症、子宮筋腫、子宮内膜炎、生殖器悪性疾患 14）更年期女性における主な疾患：更年期障害、尿失禁、骨粗鬆症 15）老年期女性における主な疾患：感染症・腫瘍・性器脱

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

在宅看護学Ⅰ[1436310]

科目名	在宅看護学Ⅰ[1436310]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
	後期 木曜 4.0〜4.0
教室	①中講義室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（第4版）』 河原佳代子他著（医学書院）2013 参考書『厚生の指標;国民衛生の動向,60(9)』（厚生労働統計協会）2014/2015

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標
在宅看護の変遷と社会情勢を踏まえ、在宅で生活しながら療養する人々とその家族が抱えている健康問題を理解し、在宅看護の概念、関係法規、対象に実施される看護活動について理解する。在宅看護に必要な援助方法、関係法規、社会資源、ケアマネジメントのプロセス、保健医療福祉の連携等、在宅看護の展開に必要な知識を学ぶ。

テーマおよび内容
[1回]在宅看護の目的とその特性 在宅看護とは何か／在宅看護の対象／在宅看護の目的／在宅看護の特性／日本における医療・福祉・保健の現状／在宅看護における課題 [2回]在宅看護の変遷と諸外国の状況 日本における在宅看護の変遷／諸外国における在宅看護の現状 [3回]在宅看護をめぐる現状と課題 日本における医療・福祉・保健の現状／在宅看護における課題 [4回]在宅看護における社会資源の活用 在宅看護で活用する社会資源とは／それぞれの社会資源の特徴／社会資源の活用過程／在宅看護にかかわる専門職間の連携／ケアマネージメントと訪問看護 [5回]在宅看護における家族ケアー家族援助の実際 在宅看護における家族のかかわり／家族援助の過程／家族ケアにかかわる理論／家族援助における課題 [6回]訪問看護ステーションにおける在宅看護ケア 訪問看護ステーションの設置／訪問看護サービスの特徴／訪問看護サービスの利用者／訪問看護ステーションの管理／在宅ケアに向けた退院計画／在宅と施設の継続性 [7回]訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際① 訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際 [8回]訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際② 訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

在宅看護学Ⅱ[1436320]

科目名	在宅看護学Ⅱ[1436320]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 木曜 3.0〜3.0
	後期 木曜 4.0〜4.0
教室	①中講義室

授業の形態
演習(共同)

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況（出席状況および参加態度により減点する）、レポート

授業の目的および到達目標
在宅看護学Ⅰで学んだ援助方法、関係法規、社会資源、ケアマネジメントのプロセス、保健医療福祉の連携等に関する知識を踏まえ、在宅で生活しながら療養する人々とその家族が抱えている健康問題を理解し、在宅看護における具体的な看護活動について、事例を用いた学習を通して理解する。

テーマおよび内容
[1 回]オリエンテーション：授業全体の進め方 [2 回]在宅看護論における看護過程の展開の方法：在宅看護論における看護過程の展開（情報収集－分析－計画立案－評価） [3 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護過程の展開に必要な基本的な知識の確認 [4 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護過程の展開に必要な基本的な知識の確認 [5 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：情報収集 [6 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：情報収集 [7 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：関連図の作成 [8 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：関連図の作成 [9 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護問題の抽出 [10回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護目標の設定 [11回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の立案 [12回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の立案 [13回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の立案 [14回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の評価 [15回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の評価

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

公衆衛生看護学概論[1436350]

科目名	公衆衛生看護学概論[1436350]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 月曜 2.0〜2.0
教室	①305教室

授業の形態
講義(共同)

教科書・参考文献
教科書：標準保健師講座「地域看護学概論」奥山則子,他,.第3版 (医学書院)2011 『厚生の指標;国民衛生の動向,61(9)』（厚生統計協会）2014/2015 参考書：なし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標
公衆衛生看護学は行政看護、学校保健、産業保健の3領域から構成されていることを理解する。公衆衛生看護の変遷と社会情勢を踏まえ、地域で生活する人々の健康の保持増進及びQOLの向上を目指す公衆衛生看護について、その概観を学ぶ。

テーマおよび内容
[1 回] 地域看護の目的と意義・役割と法的基盤／地域看護の歴史と変遷 地域看護とは／社会および健康課題の変化と保健師活動／地域看護活動の法的基盤／保健師活動の歴史 [2 回] 地域看護をめぐる理念 健康／プライマリヘルスケア／エンパワメント／セルフケア／ノーマライゼーション／アドボカシー／地域における保健関連行動 [3 回] ヘルスプロモーションと保健師活動 ヘルスプロモーションの理念／ヘルスプロモーションのモデル／健康増進対策と健康日本21／メタボリックシンドロームと地域看護活動／喫煙対策と地域看護活動 [4 回] 健康危機と地域看護活動／生活環境と地域保健活動 地域における健康危機／健康危機の予防と保健師活動／健康危機発生時の保健師活動／生活環境に関する行政の動向と地域保健活動／環境保健と地域看護活動 [5 回] 国際保健活動と保健師活動 WHOと地域保健活動／国際協力・国際交流 [6 回] 地域活動の場と保健師活動：行政

行政機関・施設で働く看護職／行政機関・施設における地域看護活動

[7 回] 地域活動の場と保健師活動：産業保健

産業保健関連法規／5分野3管理／職場環境の労働への影響と有害業務対策／過重労働対策／メンタルヘルスサポート／産業看護活動の実際

[8 回] 地域活動の場と保健師活動：学校保健

学校保健の動向／学校保健関連法規と養護教諭とは／養護教諭の役割と期待／養護教諭の活動の実際

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

在宅ケア実習[1436410]

科目名	在宅ケア実習[1436410]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意
各領域実習、地域看護学概論、在宅看護論、事例展開Ⅷを履修済みであること

授業の形態
実習(共同)

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、その他（実習中の態度、実習記録、事前課題）

授業の目的および到達目標
地域で在宅療養生活を送る人々およびその家族の健康並びに生活上のニーズを明らかにし、既習の知識・看護技術を問題解決のために活用することを実際に体験することを通し、地域看護のうち、在宅における看護活動の基本を学ぶ。また、地域看護における社会資源の一つとしての訪問看護師についてその役割・機能について理解し、地域で活動する他職種、他の看護職との協働関係について明らかにできるよう学習する。

テーマおよび内容
１．実習方法 1)実習場所および実習期間：訪問看護ステーション（2週間) 実習内容：地域で活動する看護職の指導の下、その実際を学ぶ 詳細は実習要項を参照のこと

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

地域看護学実習[1436420]

科目名	地域看護学実習[1436420]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
教室	①別途連絡
資格関連	保健師

受講条件・その注意
各領域実習、地域看護学概論、在宅看護論、保健指導論、事例展開Ⅷを履修済みであること

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
参考書：『厚生の指標;国民衛生の動向,60(9)』（厚生統計協会）2013/2014

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、その他（実習中の態度、実習記録、事前課題）

授業の目的および到達目標
東京都内特別区において、そこで生活する住民の健康および生活特性を明らかにし、行政組織である保健所における保健師活動の実際を体験し、行政施策および社会資源の活用を含む地域における看護活動の基本を学ぶ。

テーマおよび内容
１．実習方法 1)実習場所および実習期間：23区内保健所および保健センター(4週間）・事業場（1週間） 2)実習内容：地域で活動する看護職の指導の下、その実際を学ぶ 詳細は実習要項を参照のこと

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

公衆衛生看護学各論[1436440]

科目名	公衆衛生看護学各論[1436440]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
曜日・時限	前期 月曜 2.0〜2.0
	前期 金曜 2.0〜2.0
教室	①304教室 ②306教室
資格関連	保健師

授業の形態
講義(共同)

教科書・参考文献
教科書：標準保健師講座「対象別公衆衛生看護活動」松田正巳,他,第3版 (医学書院)2014 『厚生の指標;国民衛生の動向,60(9)』（厚生統計協会）2013/2014 参考書：なし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標
公衆衛生看護学概論で学んだことを踏まえ、地域で生活する人々健康の保持増進及びQOLの向上を目指す公衆衛生看護、関係法規、個人、家族・集団を対象に実施される、行政看護、学校保健、産業保健の各領域における看護活動および看護活動を実践するために必要な知識について学ぶ。

テーマおよび内容
[1回] 母子保健 母子保健の動向／母性各期の健康課題と保健指導 [2回] 母子保健 乳幼児期の成長発達と保健指導／健康上のリスクを持つ母子への保健指導 [3回] 成人保健 成人保健の動向／成人期の健康課題と保健指導 [4回] 高齢者保健 高齢者保健の動向／高齢者の健康課題と保健指導 [5回] 高齢者保健 要援護高齢者への保健指導 [6回] 精神保健 精神保健の動向／精神障害者の生活上の障害と保健指導 [7回] 精神保健 主な疾患とその保健指導 [8回] 障害者（児）保健 障害者保健の動向／障害者への保健施策と保健指導 [9回] 難病保健 難病保健の動向／難病患者への支援と保健指導

[10回] 感染症保健
感染症保健の動向／感染症の予防／疾病管理
[11回] 感染症保健／健康危機管理
感染症危機管理と保健師活動／健康危機管理と保健師活動／災害時における保健師活動
[12回] 歯科保健
歯科保健の動向／歯科保健指導の実際
[13回] 学校保健
学校保健の現状と健康課題／養護教諭の職務と保健室の機能／地域保健・産業保健との連携
[14回] 産業保健
産業保健の現状と健康課題／産業保健活動の実際
[15回] 地域包括ケア保健
地域包括ケアの動向／地域包括ケアにおける保健師活動の実際際

学生へのメッセージ
保健師資格取得希望者は、必ずこの授業を選択してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

事例展開Ⅷ(在宅・地域)[1436450]

科目名	事例展開Ⅷ(在宅・地域)[1436450]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上遅刻してきた学生は、出席を認めません。

授業の形態

演習(共同)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況（出席状況および参加態度により減点する）、レポート

授業の目的および到達目標

当該科目では、健康問題や障害を持ちつつ在宅生活を送る人の生活を支える看護ケアについて、事例の検討を通し学ぶ。また、地域コミュニティを対象としたコミュニティヘルスアセスメントの技術について、資料の収集、分析を通し学ぶ。在宅および地域における事例展開での学びを通し、公衆衛生看護学実習および在宅ケア実習の礎を形成することを目指す。

テーマおよび内容

[1 回]オリエンテーション：授業全体の進め方
[2 回]在宅看護論における看護過程の展開の方法：在宅看護論における看護過程の展開（情報収集－分析－計画立案－評価）
[3 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護過程の展開に必要な基本的な知識の確認
[4 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護過程の展開に必要な基本的な知識の確認
[5 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：情報収集
[6 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：情報収集
[7 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：関連図の作成
[8 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：関連図の作成
[9 回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護問題の抽出
[10回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護目標の設定
[11回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の立案
[12回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の立案
[13回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の立案
[14回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の評価
[15回]在宅看護における看護過程の展開の実際：看護計画の評価

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

東洋医学特講[1437340]

科目名	東洋医学特講[1437340]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷 俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

全講義日数の3分の2以上の出席を要する（30分以上の遅刻は欠席と見なす）。
自身の欠席状況に関しては必ず自分で管理すること。
教員がやむを得ない事情で休講にする場合は簡単なレポートを課してその提出を以て出席とする。
授業中の飲食・私語は禁止する。
他の受講生の妨げになると判断した場合は退出を命じることがある。その際は当該回の講義を欠席扱いとする。
成績評価は、最終講義で実施する試験の他、普段の出席状況、レポート内容などを総合的に判断して評価する。

授業の形態

演習

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標

東洋医学の特徴は、豊かな洞察力をもって病める患者をトータルな存在として捉え、その持てる自然治癒力を最大限に生かすことを手当てのなかで重視していることにある。
この基本的な考え方は、患者へのきめ細かい「観察」から、各患者にあったケアのあり方を追求したナイチンゲールの看護論に通底するものといえる。
本科目では、こうした観点から、東洋医学的な生理観、病理観のなかから看護、介護に役立つ事項を中心に講義する。

テーマおよび内容

[1 回] Introduction ： 整体観にもとづく看護のためにー「体の癖」について

[2 回] 総論（1） ： 東洋医学的な身体観１（生活の中の陰陽と五行）

[3 回] 総論（2） ： 東洋医学的な身体観２（気と血）

[4 回] 総論（3） ： 東洋医学的な身体観３（津液）

[5 回] 総論（4） ： 東洋医学的な身体観４（五臓のはたらき：１）

[6 回] 総論（5） ： 東洋医学的な身体観５（五臓のはたらき：２）

[7 回] 総論（6） ： 東洋医学的な身体観５（六腑の働き）

[8 回] 各論（1） ： 古代〜近世における鍼灸、漢方

[9 回] 各論（2） ： 近代〜戦後日本における鍼灸と漢方

[10回] 各論（3） ： 伝統医学の国際標準化

[11回] 各論（4）：経脈・経穴(ツボ)について 1

[12回] 各論（5）：経脈・経穴(ツボ)について 2

[13回] 各論（6）：東洋医学と薬膳

[14回] 各論（7）：東洋医学と小児・高齢者・婦人ケア

[15回] 講義の総括

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

セラピー看護論[1437350]

科目名	セラピー看護論[1437350]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
	後期 火曜 5.0〜5.0
教室	①304教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
参考文献：芸術療法実践編 岩崎学術出版社、ダンスセラピーの理論と実践ーからだとこころへのヒーリングアート ジアース教育出版社、内なる治癒力 創元社など

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標
セラピーとは癒しを語源とする言葉で療法という意味である。セラピー看護論は生活援助を中心とした看護技術からさらに発展させ、身体と精神の双方に働きかける癒しの技法を学び、心身の苦痛を緩和しQOLを高めるための知識と技法を身につけることを目的とする。癒しの概念、免疫、レジリエンス、実存療法などの理論を学び、演習では種々のリラクセーション、タッチング、イメージ療法、芸術療法、身体精神療法としてのダンスセラピーなどを体験学習していく。

テーマおよび内容
[1回、2回] 現代医療と癒し、健康と免疫、レジリエンス、緩和ケア
[3回、4回] 音楽療法、イメージ療法、
[5回、6回] リラクセーション、タッチング
[7回、8回] アロマセラピー
[9回、10回] ダンス・ムーブメントセラピー
[11回、12回] 芸術療法、ファンタジーセラピー
[13回、14回] 自然との対話、詩歌療法
[15回] まとめ

学生へのメッセージ
中井久夫氏は「医師が治せる患者は少ない。しかし看護できない患者はいない。息を引き取るまで、看護だけはできるのだ」と述べています。そのような息を引き取る瞬間に立ち会えるように、上質のケアができるために、そして何よりも楽しく遊び心も取り入れて学べるようにしたいと考えている。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

リスクマネジメント[1443140]

科目名	リスクマネジメント[1443140]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井Pak 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 月曜 2.0〜2.0
教室	①304教室

受講条件・その注意
授業には、必ず指定された教科書の章及び文献を読んでから臨んでください。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：Nursing Graphicus EX 医療安全 メディカ出版 2009年 参考書：授業にて提示します

評価方法・評価割合
出席状況（30%）、授業中の課題（70% 毎回の小テスト）

授業の目的および到達目標
当該科目は、リスクの基本的概念を概説し、リスクマネジメントの理論について理解を深め、医療職としての役割について探求する。さらに、リスクマネジメントの中でも医療従事者として対象者の安全に関する事項、リスクの回避に関する事項についても学習する。看護のみならずチームとしてリスクを回避する方法論について、事例を通して学習する。さまざまなインシデントレポートを分析することにより、看護実践におけるリスクについて理解する。

テーマおよび内容
[1回] オリエンテーション： リスクの概念、医療安全と看護の責務 [2回] 医療安全 ： 医療安全に関する国家的取り組み、医療の質評価 [3回] 事故発生のメカニズム ： ヒューマンエラーとは、根本原因分析 [4回] 安全対策 ： 国の取り組み、組織の取り組み [5回] 医療事故後の対応 ： 初期対応、看護職賠償責任保険制度 [6回] インシデントレポート ： インシデントレポートの書き方 [7回] 業務上の危険 ： 看護における業務上の危険と危険回避策 [8回] 災害看護 ： 災害看護とは、トリアージとは、災害時の看護の役割

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

成人看護学概論Ⅰ（急性期）[1444010]

科目名	成人看護学概論Ⅰ（急性期）[1444010]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
	北島 泰子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0〜1.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

事前・事後の自主的学習
関連する既習科目、同時進行科目における学習内容と当該科目における学習内容を統合し、自己の課題を明確にして主体的に学習に臨む

授業の形態

講義(共同)

教科書・参考文献

教科書：『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』 第10版 矢永勝彦、小路美喜子編集 （医学書院） 2013

参考書：『周手術期看護論』 第2版 雄西智恵美、秋元典子編集 （NOUVELLE HIROKAWA）2009
『急性期看護論』 池松裕子、山勢善江編集 （NOUVELLE HIROKAWA） 初版3刷
『救急看護論』 山勢善江編集 （NOUVELLE HIROKAWA） 初版3刷
『わかる！検査値とケアのポイント』 大久保明之・井上智子著（医学書院） 2009
『異常値の出るメカニズム』 河合忠・屋形稔・伊藤喜久著 （医学書院） 2010
『周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護』 鎌倉やよい・深田順子著 （医学書院） 2010

評価方法・評価割合

定期試験（持ち込み不可：１００%）

授業の目的および到達目標

当該科目は周手術期にある対象者に必要な看護について、手術侵襲、麻酔の影響、手術操作、手術による臓器の機能低下、および術後疼痛に関する基礎知識を理解し、急性期における安全および安楽に重点を置き、異常の早期発見のための看護のあり方およびケアの方法について教授する。

テーマおよび内容

[1回] 授業の進め方のオリエンテーション

[2回] 麻酔の目的・種類・方法

[3回] 手術侵襲

[4回] 手術操作（皮膚消毒、皮膚切開、縫合、ドレーン等）

[5回] 創傷治癒過程とその管理

[6回] 輸液・輸血

[7回] 術後疼痛と鎮痛法

[8回] 周手術期の概念と対象者の特徴

[9回] 手術室の特徴と手術看護

[10回] 集中治療室の特徴とクリティカルケア看護

[11回] 術前看護の特徴

[12回] 術後合併症

[13回] 術後における看護の特徴・急性期

[14回] 術後における看護の特徴・回復期（その１）

[15回] 術後における看護の特徴・回復期（その２）s

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

成人看護援助論Ⅰ（急性期）[1444020]

科目名	成人看護援助論Ⅰ（急性期）[1444020]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
	北島 泰子[看護学部 看護学科]
	臼井 美帆子[看護学部 看護学科]
	杉田 和代[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0〜2.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

事前・事後の自主的学習
関連する既習科目、同時進行科目における学習内容と当該科目における学習内容を統合し、自己の課題を明確にして主体的に学習に臨む

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書： 北島政樹、江川幸二編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」第8版（医学書院）
「系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器」（医学書院）

参考書：なし

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可：70%）、出席状況（10%）、レポート（20%）

授業の目的および到達目標

当該科目は周手術期にある対象者に必要な看護について、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには臨床の看護に則した援助を理解するために、急性期の健康逸脱状態にある人にとって必要な看護について教授する。そして、演習を通して周手術期およびクリティカル期における看護技術を身につけることを目的とする。

テーマおよび内容

[1回] オリエンテーション、呼吸器疾患と看護（肺がん）

[2回] 循環器疾患と看護（虚血性心疾患、急性心不全、致死的不整脈）

[3回] 消化器疾患と看護（肝がん・胆石・膵臓がん）

[4回] 上部消化器疾患と看護（食道がん、胃がん）

[5回] 下部消化器疾患と看護（大腸がん）

[6回] 課題学習

[7回] 課題学習

[8回] 婦人科疾患と看護（子宮がん、卵巣がん、卵巣嚢腫）

[9回] 腎・泌尿器疾患と看護（腎がん、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大）

[10回] 脳神経疾患と看護（くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷）

[11回] 運動器疾患と看護（骨折・外傷、脊髄損傷）

[12回] 演習（高カロリー輸液の管理、創傷管理）

[13回] 演習（高カロリー輸液の管理、創傷管理）

[14回] 演習（BLS）

[15回] 演習（BLS）

学生へのメッセージ
事前・事後の自主的学習を期待します。 質問がある場合は、授業中・授業直後に積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

事例展開Ⅰ（成人・急性期疾患）[1444030]

科目名	事例展開Ⅰ（成人・急性期疾患）[1444030]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
	北島 泰子[看護学部 看護学科]
	臼井 美帆子[看護学部 看護学科]
	杉田 和代[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

関連する既習科目、同時進行科目における学習内容と当該科目における学習内容を統合し、自己の課題を明確にして主体的に学習に臨む。
30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。
リーダーシップ、メンバーシップを発揮してグループワーク演習に参加する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『今日の治療薬 2010 解説と便覧』 浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集（南江堂） 2010
『臨床検査データブック』 高久史麿監修

参考書：『今日の治療薬 2010 解説と便覧』 浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集 南江堂 2010 （NS3：成人看護学概論Ⅰで使用）
『臨床検査データブック 2009-2010』 高久史麿監修 （医学書院） 2009 （NS3：成人看護学概論Ⅰで使用）
『周手術期看護論』 第2版 雄西智恵美、秋元典子編集 （NOUVELLE HIROKAWA） 2009 （NS3：成人看護学援助論Ⅰで使用）
『急性期看護論』 池松裕子、山勢善江編集 （NOUVELLE HIROKAWA） 初版3刷
『救急看護論』 山勢善江編集 （NOUVELLE HIROKAWA） 初版3刷
『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン』 マージョリー・ゴードン著 江川隆子監訳 （照林社） 2006
『NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 2009‐2010』 NANDAインターナショナル著 日本看護診断学会監訳 （医学書院） 2009 （NS2：看護過程論で使用）
『周手術期看護－講義から実習へ 1～5』 竹内登美子編 （医歯薬出版） 2010
『わかる！検査値とケアのポイント』 大久保明之・井上智子著 （医学書院） 2009
『異常値の出るメカニズム』 河合忠・屋形稔・伊藤喜久著 （医学書院） 2010
『周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護』 鎌倉やよい・深田順子著 （医学書院） 20100

評価方法・評価割合

定期試験（50%）、出席状況（10%）、レポート（中間・最終レポート：40%）

授業の目的および到達目標

当該科目では、周手術期にある成人期の対象者とその家族へのケアについて、特徴的な事例を用い、科学的思考過程による看護過程の展開を通して援助計画立案までのプロセスを学習する。

テーマおよび内容

[1回] オリエンテーション、事例提示

[2回] 事例を理解するための自己学習、フェイスシートの作成

[3回] 術前の情報のアセスメント

[4回] 術前の情報のアセスメント

[5回] 術前の情報のアセスメント、看護問題の抽出

[6回] 術前の情報のアセスメント、看護問題の抽出

[7回] 術後の情報のアセスメント

[8回] 術後の情報のアセスメント

[9回] 術後の情報のアセスメント、看護問題の抽出

[10 回] 術後の情報のアセスメント 、看護問題の抽出

[11回] 全体像の描写、関連図の作成

[12回] 全体像の描写、関連図の作成

[13回] 看護計画立案

[14回] 看護計画立案

[15回] 客観試験

学生へのメッセージ

事前・事後の自主的学習を期待します。
質問がある場合、授業中・授業直後に積極的に質問してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

成人看護学実習Ⅰ(急性期）[1444040]

科目名	成人看護学実習Ⅰ(急性期）[1444040]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	3.0単位

担当教員・所属	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
	北島 泰子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

心身ともに健やかな状態で実習に臨めるよう、自己の健康管理に留意する。事前、事後の自主的学習を以って臨む。
実習施設の規則を遵守し、看護倫理に即して行動する。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：なし

参考書：「成人看護学概論Ⅰ」、「成人看護学援助論Ⅰ」、「事例展開Ⅰ」、その他関連既習科目の授業資料およびテキスト

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（参加態度、看護実践、実践記録）

授業の目的および到達目標

当該科目では、これまで学習してきた知識および技術を実践の場において統合し、病院に入院している成人対象者で手術を受ける患者または生命の危機にある患者の看護について実践を通して学習する。具体的には、外科系病棟において術前・術後にある患者を受け持ち、看護過程を展開しながら学習する。

テーマおよび内容

（1）実習方法

1） 成人期の身体侵襲を伴う治療を受けている患者（おもに周手術期にある患者）を対象とする。

2） 原則として実習期間中に最低1～2名の患者を受け持つ。

3） 担当教員、臨床指導者の指導・監督のもと、看護過程に基づいて看護実践・評価する。

（2）実習内容

1） 看護過程に基づいた受け持ち患者の看護実践を通じ、周手術期における急激な身体的変化のメカニズムに対する理解を深める。

2） 看護過程に基づいた受け持ち患者の看護実践を通じ、周手術期において対象者が直面する心理・社会的変化に関連する問題点に対する理解を深める。

3） 周手術期にある対象の苦痛を緩和し、回復過程を促進する援助を系統的かつ論理的に思考・実践する知識と技術を習得する。

詳細は実習要項を参照のことe

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

事例展開ＩＩ（成人・慢性期疾患）[1444070]

科目名	事例展開ＩＩ（成人・慢性期疾患）[1444070]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
	臼井 美帆子[看護学部 看護学科]
	杉田 和代[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

毎回授業で提示される課題を達成していくことが求められますので、事前学習をして臨んでください。
＊30分以上の遅刻・退席は欠席とみなします。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』江川隆子編（ヌーベルヒロカワ）
『ゴードン博士の看護アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン』マージョリー・ゴードン
著、江川隆子監訳（照林社）

参考書：オリエンテーション時に提示する。

評価方法・評価割合

定期試験（持ち込み不可＝60%）、出席状況（出席回数、参加態度＝10%）、レポート（中間4回、最終１回＝30%）

授業の目的および到達目標

当該科目では、慢性・長期的な健康逸脱状態にある成人期の事例を用いて、看護実践における分析的・統合的思考と判断力を養うことを目的とする。これまでに学習した成人期のの身体的・心理的・社会的特徴の理解と看護過程展開の技法を適用し、事例に備わっている個別の状況を見極め、必要な看護援助を導き出す。この際に、慢性・長期的な健康逸脱状態にある成人期にある人の身体的苦痛のみならず、家族、仕事、経済などの社会的問題や心理的問題などの視点をも含めてアセスメントする力を養う。

テーマおよび内容

[1回] 導入（事例展開の進め方）、事例提示
演習①:情報の分類、アセスメント(1)

[2回] 演習②:情報のアセスメント(2)

[3回] 演習③:情報のアセスメント(3)

[4回] 演習④:情報のアセスメント(4)

[5回] 演習⑤:全体像の描写・関連図作成(1)

[6回] 演習⑥:全体像の描写・関連図作成(2)

[7回] 演習⑦:問題の明確化(1)

[8回] 演習⑧:問題の明確化(2)

[9回] 演習⑨:ケアプランの立案(1)

[10回] 演習⑩:ケアプランの立案(2)

[11回] 演習⑪:ケアプラン立案(3)

[12回] 演習⑫:ケアプラン立案(4)

[13回] 演習⑬:グループ発表と意見交換(1)

[14回] 演習⑭:グループ発表と意見交換(2)

[15回] 演習⑮:客観試験

学生へのメッセージ
1・2年次の基礎科目、専門科目の知識と関連づけた自己学習を期待します。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

成人看護学実習ＩＩ（慢性期）[1444080]

科目名	成人看護学実習ＩＩ（慢性期）[1444080]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	3.0単位

担当教員・所属	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
	臼井 美帆子[看護学部 看護学科]
	杉田 和代[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

事前、事後の自主的学習をして臨んで下さい。
心身ともに健康な状態で実習に臨めるように、健康管理に十分留意して下さい。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：なし

参考書：「成人看護学概論Ⅱ」「成人看護援助論Ⅱ」「事例展開Ⅱ」その他関連既習科目の授業テキストおよび資料

評価方法・評価割合

出席状況（履修規則に基づき、4／5以上を満たした者を評価の対象とする。）、レポート（実習終了時１回＝20%）、その他（実習内容、態度、実習記録＝80%）

授業の目的および到達目標

当該科目では、これまで学習してきた知識および技術を実践の場において統合し、慢性疾患を持つ対象者に対しての援助を、実践を通して学習する。具体的には、慢性疾患を持つ患者を内科系病棟で受け持ち、看護過程を展開しながら学習する。

テーマおよび内容

（1）実習方法
成人期の慢性期あるいは終末期にある患者を対象とし、担当教員、臨床指導者の指導・監督のもと看護過程に
基づき看護を展開する。
原則として、最低１～２名の患者を受け持つ。

（2）実習内容

慢性期にある成人期の対象者との関わりを通して、慢性・長期的な健康問題をもつ人を身体的・精神的・社会的側面から理解するとともに、対象者が病気をコントロールしながらよりよい生活ができるためのセルフケアへの支援方法を学ぶ。また、近い将来、死を免れえない人の全人的苦痛や家族の予期的悲嘆についての理解を深め、苦痛を緩和し有意義な時間を過ごせるための支援方法を学ぶ。実習全体を通して医療チームの中での看護の役割について認識を深める。
※詳細は、実習要項を参照のこと

学生へのメッセージ

日々のアセスメントが翌日のケアにつながりますので、記録は重要です。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

事例展開ＩＩＩ（老年・慢性期疾患）[1444110]

科目名	事例展開ＩＩＩ（老年・慢性期疾患）[1444110]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	川上 嘉明[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなす。
受講態度不良（私語、入退室、居眠り等）による授業への不参加が目立つ場合は、単位認定をしない。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

老年看護概論 及び 老年看護援助論 において配布した講義資料集。
毎回、演習資料を配布する。

評価方法・評価割合

出席状況（欠席がない場合には、加点をする （5%））、授業中の課題（事例をもとに展開された看護過程の内容 （95%））、その他（受講態度不良が目立つ場合は減点をする）

授業の目的および到達目標

老人の健康障害の特徴は、年をとることによる衰弱、病気やその後遺症および認知症などが複合し、日常生活を自ら行なえなくなることである。そのため、健康の維持、病気、心理、人権、家族や地域社会関係等の視点から、全人的なケアが必要となる。事例展開では、こうした老人の長期にわたり、かつ進行していく障害を持ちながら地域で過ごす老人に焦点をあてる。老人の状態を適切にアセスメントすることにより、他職種や家族を含めたチームケアの中で看護を計画・実施、実効性のある評価にむすびつけられるようにする。さらにこの事例展開のあり方を学ぶことによって、後期の老年看護学実習の礎とする。

テーマおよび内容

[1回] 事例1 の提示と看護過程の展開：「誤嚥性肺炎により経管栄養となった高齢者」
【key words】誤嚥性肺炎 嚥下障害 経管栄養
[2回] 事例1 の看護過程の展開 アセスメント 看護課題の整理
[3回] 事例1 の看護過程の展開 援助計画
[4回] 事例1 の看護過程展開モデルの提示と解説
[5回] 事例2 の提示と看護過程の展開：「薬物コントロールが必要なパーキンソン病の高齢者」
【key words】パーキンソン病 転倒 転倒予防 大腿骨頸部骨折
[6回] 事例2 の看護過程の展開 アセスメント 看護課題の整理
[7回] 事例2 の看護過程の展開 援助計画
[8回] 事例2 の看護過程展開モデルの提示と解説
[9回] 事例3 の提示と看護過程の展開：「脳梗塞（左MCA領域）を発症した高齢者」
【key words】心原性脳梗塞 心房細動 運動麻痺 感覚麻痺 失語
[10回] 事例3 の看護過程の展開 アセスメント 看護課題の整理 [11回] 事例3 の看護過程の展開 援助計画
[12回] 事例3 の看護過程展開モデルの提示と解説
[13回] 事例4 の提示と看護過程の展開：「COPD、急性肺炎、腹部大動脈瘤を持つ高齢者」
【key words】COPD 呼吸リハビリテーション ADL拡大
[14回] 事例4 の看護過程の展開 アセスメント 看護課題の整理

[15回] 事例4 の看護過程の展開 援助計画画

学生へのメッセージ
学習された老年看護学の知識を、看護過程に活用できることを目的とする。看護過程が具体的に展開できることにより、老年看護学実習において患者様に対する看護実践ができる能力を身につけることが目標となる。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

老年看護学実習[1444120]

科目名	老年看護学実習[1444120]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	3.0単位

担当教員・所属	川上 嘉明[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

実習への出席不良、持ち物の不備、提出物の期限が順守されない場合は、単位認定をしない。
実習中の基本的な態度（挨拶、言葉づかい、応対の丁寧さ等）に欠ける場合も、同様に単位認定をしない。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：講義資料集

参考書：実習場面に応じ、提示する。

評価方法・評価割合

出席状況（欠席がない場合には、加点をする （5%））、授業中の課題（看護過程展開の記録物 その他、指示された課題等（60%））、その他（実習中の態度（35%））

授業の目的および到達目標

地域ケアシステムのひとつである病院とその看護の実際について実習することにより、地域で生活をする高齢者にとっての病院の目的とあり方、また看護の提供の方法を学習する。病院のある地域の特性、また高齢者の生活様式の特徴を知り、病院における高齢者の生活、健康や心身機能の障害、それに対する看護の役割を理解する。それらを学習する過程をとおし、病院を利用する高齢者が、看護を受けながら地域で継続して生活するための総合的な援助実践の考察を行なう。

テーマおよび内容

(１)実習方法

①受け持つ患者様に対し看護過程を展開し、指導者のもとで計画された看護を実施する。

(２)実習内容
1) 疾病や障がいを持つ高齢者において、その尊厳に配慮した接遇の適正なあり方を学ぶ。
2) 加齢、衰弱、疾患、廃用症候群等により、日常生活の支援が必要となっている高齢者の生命の経過と現在の状態、および個人の障がいの様子を看護の視点で理解し、看護を提供する。
3) 2) の目標を達成するため、一人の患者様を受け持ち、看護過程の展開の実践を行う。
・看護過程におけるアセスメントを通して明らかにし、対象者のニーズを分析する。
・分析されたニーズについて、対象者における重要性や優先性を考慮したうえで、固有の看護の課題を漏れなく明確にする。
・看護の課題に対し、実効性のある看護の具体策を看護計画として明らかにする。
・看護計画に従って、看護の実践をする。
・計画の実践の結果について、対象者の反応等から明らかにする。その上で、計画の有効性、対象者への適正について分析・評価する。
・ケースカンファランスにおいて、対象者の全体像、また看護過程について、時間内で参加者が理解できるように発表する。
・臨床指導者様や教員の助言等を理解し、看護過程を確実に改善する。
4) 3) における看護過程の展開と実践をとおし、高齢者の方々が地域で継続して生活するため、看護が提供できる能力を養う。

学生へのメッセージ
実習学生はサービスの提供側に位置づけられる。実習を遂行する上で、不適切な状態が確認された場合は、実習の停止等の対処を行う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

母性看護援助論[1444140]

科目名	母性看護援助論[1444140]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	梶原 祥子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
教室	①

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

事例展開ＩＶ（母性）[1444150]

科目名	事例展開ＩＶ（母性）[1444150]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	梶原 祥子[看護学部 看護学科]
	家吉 望み[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

この科目は、これまで学んで得た知識を統合することが必要であり、さらに次年度の母性看護実習の前提科目ですので積極的に学習に取り組むことが必要である。
なお、30分以上の遅刻は欠席とみなします。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：＊2年生の母性看護援助論で購入済み『ウェルネスからみた母性看護過程』 佐瀬正勝・石村由利子編集 医学書院

参考書：①『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』 太田操編著 医歯薬出版
②『母性看護学1.妊娠・分娩』 石原昌他編著
③『母性看護学 2．産褥新生児』 今津ひとみ編著 医歯薬出版、
その他授業内で適時提示する。

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（ワークの取り組み、発表）

授業の目的および到達目標

看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養うために、方法論としての看護過程を講義・演習を通して学び、問題解決能力や批判的思考能力を育成する。母性領域では、マタニティサイクルに関連した健康問題を持つ女性の事例を用いて、グループワークを実施し、その中で自らの学習課題を明確にし、自然な状態からの逸脱状態を判断、看護上の問題を診断、予期的ケア及び異常時への対応を含めたケア計画を立案する。さらに事例展開のあり方を通して、後期に行われる母性看護学実習の礎とする。

テーマおよび内容

[1回] 母性、特に周産期における看護過程の特徴

[2回] オリエンテーション・事例①提示

[3回] ワーク（知識の整理・情報の整理）

[4回] ワーク（情報の整理、アセスメント）

[5回] 発表準備

[6回] 発表（情報の整理・アセスメント）

[7回] ワーク（アセスメントから看護診断・看護計画立案）

[8回] ワーク・発表準備

[9回] 発表（アセスメントから看護診断・看護計画）

[10回] 事例②提示 説明

[11回] ワーク

[12回] ワーク

[13回] ワーク・発表準備

[14回] 発表

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

母性看護学実習[1444160]

科目名	母性看護学実習[1444160]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	梶原 祥子[看護学部 看護学科]
	家吉 望み[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

実習では、一組の母子の看護過程を通して母性看護実践の学習をします。母子や家族にとって妊娠･出産より良い体験となるよう適切な看護が提供できるように、またこの科目の目的・目標が達成できるように努力してください。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：2年生で購入済みの教科書
①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『母性看護学概論』 森恵美 他 （医学書院）
②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『母性看護学各論』 森恵美 他 （医学書院）
③『ウェルネスからみた母性看護過程』 佐世正勝・石村由利子編集（医学書院）

参考書
①母性看護学 1 妊娠・分娩 村本淳子 東野妙子 （医歯薬出版株式会社）
②母性看護学 2 産褥・新生児 今津ひとみ 加藤尚美（医歯薬出版株式会社）
③今日の助産 北川眞理子 内山和美 （南江堂）
④母乳育児支援スタンダード NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会（医学書院）
⑤母性看護実習ガイド (パーフェクト臨床実習ガイド―ライフステージに沿った看護技術と看護の展開) 堀内 成子編集 （照林社）
⑥写真とCDでわかる周産期看護マニュアル 立岡弓子監修 （医学美術社）
その他、適時提示

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（実習態度、実習に関する記録）

授業の目的および到達目標

これまでの既習の知識や技術を活用し、周産期（妊娠、出産、産褥）における健康な母子および家族を対象に、個々の心身の適応過程および健康ニーズを把握し、周産期にある女性と新生児および家族が新しい役割を獲得していくために、必要な個別的な看護の実際を学ぶ。その看護体験から、自己洞察を行い、看護者としての責任と倫理観を養うと共に生命の誕生の尊さについて考える。

テーマおよび内容

（1）実習方法

①実習場所：東京大学医学部付属病院 （産科病棟、分娩室、新生児室、産科外来、NICU/GCU）

②実習の動き：１Ｇを4名で構成 （1週目に産科病棟と新生児室、2週目に産科外来、分娩室、NICU/GCU）

（2）実習内容

①産科病棟と新生児室：一組の母子を受け持ち、看護過程の展開を行う。

②産科外来：妊婦のアセスメント、妊婦健診の見学・一部実施、保健指導見学を行う。

③分娩室：産婦ケアの見学・一部実施を行う。

④NICU/GCU：見学

⑤周産期に関する課題を見出し、その現状について調べて支援対策について考察を行う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

事例展開Ⅴ（小児）[1444190]

科目名	事例展開Ⅴ（小児）[1444190]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	三木 祐子[看護学部 看護学科]
	江藤 千里[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなす。
既習の「小児看護学概論」「小児看護援助論」で学習した小児期の成長発達の知識・小児疾患の病態生理･症状･検査･治療･看護の知識が基盤となりますので、各自事前によく復習しておいて下さい。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：「発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図 第2版」石黒彩子･浅野みどり編（医学書院）
参考書：「小児の看護技術」浅野みどり編（医学書院）
その他、授業内で随時提示する。

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（（課題の取り組み・発表））

授業の目的および到達目標

目標：疾病の特徴と事例の発達段階の特徴をふまえ、健康障害をもつ子どもとその家族に対する必要な看護を導 き出すための思考過程を習得する。加えて本演習の成果を3年次の後期から開始される小児看護学実習に おいて活用できることを目指す。

テーマおよび内容

〔1回〕授業ガイダンス・小児における看護過程展開について（講義）
〔2回〕事例①提示・個人ワーク（対象者の疾患や成長発達に関する知識確認・情報収集）
〔3回〕個人ワーク（アセスメント）
〔4回〕個人ワーク（アセスメント・看護問題）
〔5回〕発表（情報収集～看護問題）
〔6回〕個人ワーク（看護目標・計画立案）
〔7回〕発表（看護問題～計画立案）
〔8回〕事例②提示・個人ワーク（対象者の疾患や成長発達に関する知識確認・情報収集）
〔9回〕個人ワーク（アセスメント）
〔10回〕グループワーク（アセスメント・看護問題）
〔11回〕グループワーク（看護計画立案・発表準備）
〔12回〕発表
〔13回〕まとめ
〔14回〕小児技術演習（バイタルサインなど）

授業計画：小児期に起こりやすい健康障害の種類別に事例を想定し、その事例を通して“生活の処方箋”を描くための演習を行う。健康障害の種類とし

て、慢性小児下痢症（乳児期）、ネフローゼ症候群（幼児期）、川崎病（幼児期）、急性白血病（学童期）、小児喘息（学童期）を予定しており、アセスメント・ケアプランの作成・実践（技術演習）の一連のつながりを、グループ単位で学習する。学習成果は、学生全員での共有を図るために発表形式をとる。

学生へのメッセージ
当該科目では、実際に病棟実習で扱う記録用紙を用いながら、看護を科学的･系統的に展開する手法を学びます。 病棟実習の目的･目標が達成できるために真剣に取り組んで下さい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

事例展開ＶＩ（障害児・者）[1444200]

科目名	事例展開ＶＩ（障害児・者）[1444200]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	三木 祐子[看護学部 看護学科]
	江藤 千里[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は欠席と見なします。
既習の成人期・小児期の発達課題の知識が基盤となりますので、事前に各自でよく復習しておいて下さい。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：特に指定なし。
参考書：随時、授業内で提示します。

評価方法・評価割合

出席状況、レポート（演習発表40%・レポート60%（講義･演習･見学合わせ2/3以上出席のこと））、その他（レポート提出は計4回あり、全て提出期日が異なりますのでご注意下さい。）

授業の目的および到達目標

(学習目的)
地域における障害をもつ人々とその家族に対する支援体制および看護に必要な援助方法を習得する。

(到達目標)
1. 障害を持つ人々への支援として法律がどのように機能しているかを理解し、説明することができる
2. 障害を持つ人々が地域で生活する上での支援体制や内容を理解し、説明することができる。
3. 障害を持つ人々が自立し生活するための施設設備の工夫点について理解することができる。
4. 障害を持つ人々に対する看護師としての役割を理解し、説明することができる。

テーマおよび内容

[第1回] 講義：ガイダンス・障害者(児)の定義･権利擁護と支援･法律など

[第2回] 講義：地域で生活する障害者(児)看護の実際（事例展開方法の実際）

[第3回] 施設見学（3施設）に関する調べ学習
※ 6/9(月)17時迄に事務室前のボックスへレポート提出
※ 原本（要手書き）を提出、各自コピー1部を保管

[第4回] 施設見学（3施設）に関する調べ学習（第3回と同様）

[第5回] 施設見学（全員が3施設を順次見学）
※ 1名につき、1日1施設見学

※ 1グループ20名構成にて3グループが同時見学（詳細のスケジュールは後日配布）
※ 1施設につき見学用紙1枚に記入し、3施設分の見学用紙（3枚）を6/20(金)17時迄に
事務室前のボックスへ提出

[第6回] 施設見学（第5回と同様）

[第7回] 施設見学（第5回と同様）

[第8回] 施設見学（第5回と同様）

[第9回] 施設見学（第5回と同様）

[第10回] 施設見学（第5回と同様）

[第11回] 演習発表準備（発表内容検討・発表ポスター作成等）
※ 1施設につき、4グループが発表準備を行う

[第12回] 演習発表準備（第11回と同様）

[第13回] 演習発表（1グループ：発表6分･質疑応答4分）
※ 詳細については、後日別途お伝えします。

[第14回] レポート作成・提出①
※ グループ単位で「地域における障害をもつ人々とその家族への看護支援に対する課題と看護師の 役割」について考察し、レポートを作成する。
※ 6/26（木）17時迄に事務室前のボックスへ提出

[第15回] レポート作成・提出②
※ 各自の学びについて、所定の用紙にまとめる。
※ 6/30（火）17時迄に事務室前のボックスへ提出<

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

小児看護学実習[1444210]

科目名	小児看護学実習[1444210]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	三木 祐子[看護学部 看護学科]
	江藤 千里[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

1．体調不良時は、実習ができませんので自己の健康管理には充分注意して下さい。
2．記録の提出は、最終日（学内実習）の17：00迄です。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：なし

参考書：①「発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図」石黒彩子･浅野みどり編（医学書院）
②「小児の看護技術」浅野みどり編（医学書院）
その他、随時提示。

評価方法・評価割合

その他（1．実習目標の達成状況 2．カンファレンスへの参加状況 3．実習態度 4．出席状況）

授業の目的および到達目標

身体的、心理的、社会的、成長・発達の側面から統合的に健康障害をもつ小児を理解する。そして医療機関においても、小児とその家族が可能な限り日常に近い生活を送ることができるように援助するための基礎的能力の習得を実習目的とする。具体的には、急性期または慢性期の経過をたどる患児を１人受け持ち、看護過程を展開する。その為に、患児とその家族とのコミュニケーションに必要な基礎的能力の習得、個人差をふまえた安全・安楽・自立を目指した日常生活の援助および指導に必要な能力の習得、さらに社会資源の活用を考えることができることを目指す。

テーマおよび内容

1．実習施設：東京大学医学部付属病院 小児科病棟および小児外科病棟

2．日程・時間の詳細は後日提示する

3．実習方法：

①実習期間中１人の患児を中心に看護過程を展開する

②対象年齢は乳児から思春期とし、急性期または慢性期の経過をたどる患児を受けもつ

③記録用紙は規定のものを使用し、指示された方法で保管および提出をする

4．具体的実習内容：詳細は実習要項を参照のこと

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

精神看護学概論[1444220]

科目名	精神看護学概論[1444220]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
	高橋 雪子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 1.0〜1.0
教室	①306教室

受講条件・その注意
30分以上の遅刻は欠席扱いとする

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『精神看護学Ⅰ』ヌーヴェルヒロカワ 参考書：『新版 精神保健』 監修 石井厚 （医学出版社） 『情緒障害と看護の基本（ナーシング・グラフィカ32）』（MCメディカ出版） 参考書：『精神保健』 石井厚・浅野弘毅編集 （医学出版社）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題、その他（授業参加状況）

授業の目的および到達目標
精神保健および精神看護の基本となる人間理解を深めることを目的に、精神障害とは何かについて理解し、家族や集団などの人間関係に関する諸理論を学ぶ。また、精神保健と福祉の法制度と社会的背景、倫理的問題について学ぶ。人は様々な危機に遭遇し、乗り越えながら生きていく。危機に対して人は様々な反応を示すが、精神障害は１つの反応の仕方である。また、人は精神障害の有無にかかわらず、自己実現を目指してその人らしく生きていく権利があり、すべての人が変化と成長の可能性を持っている。その課程を援助するのが精神看護の役割である。

テーマおよび内容
[1回] 精神看護の本質、対人関係看護論 [2回] エゴグラムによる自己理解、分析 [3回] 精神保健とは、精神障害と治療の歴史、さまざな社会病理現象 [4回] 心の働き、心の仕組みと人格の発達 [5回] 防衛機制、危機理論、ライフサイクルと精神保健、ストレスと対処行動 [6回] 精神の機能と障害（知覚・思考・記憶・認知・感情・意識） [7回] 精神障害の診断と分類、統合失調症の理解について（映画）

[8回] 統合失調症の理解（映画）

[9回] 統合失調症の理解 ディスカッション

[10回] 気分障害の理解

[11回] 神経症の理解

[12回] パーソナリティ障害の理解（映画）

[13回] 映画からみた治療的環境、医療スタッフ ディスカッション

[14回] 精神障害と法制度、 精神疾患と死をめぐる問題

[15回] 看護師のメンタルヘルス、リエゾン精神看護

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

精神看護援助論[1444230]

科目名	精神看護援助論[1444230]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
	高橋 雪子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0〜2.0
教室	①306教室

受講条件・その注意
30分以上の遅刻は、欠席扱いとする

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
教科書：『精神科看護の理論と実践』 ヌーヴェルヒロカワ 『ケアに生かすダンス＆ファンタジーセラピー 癒しの臨床』 大沼小雪 （エム・シー･ミューズ社） 参考書：授業で紹介する

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、授業中の課題、その他（授業参加状況）

授業の目的および到達目標
精神疾患の慢性的な経過を辿る対象とその家族に対して、医療・福祉制度や社会資源を活用した看護援助方法（ケアマネジメント、SST、訪問看護）について学習する。その中で主な精神疾患（統合失調症・気分障害・人格障害・アルコール依存症・など）について、その病理や生理学的見地からの学習を行う。また、精神看護における治療的対人関係の展開、援助活動への自己活用について学び、統合失調症、人格障害、アルコール依存症など、精神障害者と家族への理解を深める。さらに精神科リハビリテーションの意義についても触れ、現実的な課題について学習する。

テーマおよび内容
[1回] 精神科リハビリテーションの意義、社会資源を活用した援助方法 ：高橋 [2回] 患者理解とコミュニケーション技法、カウンセリング技法 ：大沼 [3回] カウンセリング演習 ：大沼・高橋 [4回] 統合失調症の理解と看護 ：大沼 [5回] 気分障害の理解と看護 ：高橋 [6回] 睡眠障害、強迫性障害、パニック障害の理解と看護 ：大沼 [7回] 摂食障害の理解と看護 ：大沼 [8回] アルコール依存症、薬物依存症の理解と看護、家族への理解 ：高橋・大沼

[9回] 精神療法１ 認知行動療法① 短期療法 ：大沼

[10回] 精神療法２ 認知行動療法② ＳＳＴ ：大沼・高橋

[11回] 精神療法３ 芸術療法（ダンス）: 大沼

[12回] 精神療法４ 芸術療法（音楽、リラクセーショ）：大沼

[13回] 精神療法５ 芸術療法（絵画、コラージュ）：大沼

[14回] 精神療法６ グループ療法、サイコドラマ ：大沼

[15回] 精神療法７ 森田療法、実存療法、逆説志向アプローチ ：大沼

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

事例展開ＶＩＩ（精神疾患）[1444240]

科目名	事例展開ＶＩＩ（精神疾患）[1444240]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
	高橋 雪子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意
30分以上の遅刻は欠席扱いとする

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
教科書：『精神看護学Ⅱ』 （ヌーヴェルヒロカワ） 参考書：精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 医師薬出版（田中恵美子編著）

評価方法・評価割合
出席状況、レポート、授業中の課題、その他（グループワーク参加状況など）

授業の目的および到達目標
精神に障害をもつ人の事例を通して、精神科看護の基本を再確認し、これまで学んだ内容を踏まえて、一人の人間として社会の中で自立して生きていくための様々な社会的・心理的テーマを理解し、人的資源の活用の仕方について学ぶ。具体的には事例がもつセルフケアの力を見極め、看護過程展開の技法を活用し、障害をもつ人をとりまく病院や地域での多職種の人々との連携や調整をも視野に入れた、本人にとって望ましい生活の処方箋を描くことを目指す。合わせて、本事例展開のあり方を通して、後期から始まる精神看護学実習の礎とする。

テーマおよび内容
[1回] 映画で学ぶ統合失調症「シャイン」 [2回] 映画で学ぶ統合失調症「シャイン」 [3回] 統合失調症の理解① 疾患の理解 入院治療の意味（目的、入院形態） [4回] 統合失調症の理解② 症状への看護 [5回] 統合失調症の理解③ 薬物療法の効果と副作用 [6回] 統合失調症の看護過程の展開 [7回] 気分障害の理解 [8回] 気分障害の理解 [9回] 看護場面の再構成 プロセスレコードについて

[10回] 看護場面の再構成 プロセスレコード検討

[11回] 「映画」より精神病院と解放について考える「人生ここにあり」

[12回] 「映画」より精神病院と解放について考える「人生ここにあり」
[13回] レクリエーションの意義と方法

[14回] レクリエーションの実際

[15回] まとめ、テスト

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

精神看護学実習[1444250]

科目名	精神看護学実習[1444250]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
	高橋 雪子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意
4/5以上の出席が評価対象となる

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書：講義で使用した教科書 参考書：『向精神薬マニュアル』（医学書院） 『精神科の薬がわかる本』（医学書院） 『看護のための精神医学』 中井久夫（医学書院）など、他実習時に提示する

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（実習目標の達成状況、実習態度）

授業の目的および到達目標
精神に障害をもつ人と家族に対する、精神保健医療福祉における看護の役割を理解し、精神科看護に必要な基本的技術を修得することを目的とする。また他職種との連携による精神的健康の回復およびリハビリテーション、生活支援の具体的活動について触れ、その過程における対人関係能力を培う。

テーマおよび内容
（1）実習方法 ①実習場所：東京大学医学部付属病院 精神神経科病棟、ディホスピタル、作業所等 ②実習の動き：１Ｇを4名で構成 精神科病棟、ディホスピタル等のどちらかで2週間実習し、その中で作業所等を見学する その他、要項参照   （2）実習内容 ①精神神経科病棟又はディホスピタル等で一人の患者を受け持ち、看護過程の展開を行う ②作業所では、地域で生活する患者を理解する その他、要項参照

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

保健指導論[1445030]

科目名	保健指導論[1445030]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
	野崎 律子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 水曜 3.0〜3.0
	前期 水曜 4.0〜4.0
教室	①306教室
資格関連	保健師

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
教科書：『地域看護学技術（標準保健師講座）』奥山則子,他,.第2版 (医学書院)2009

評価方法・評価割合
定期試験（50%）、出席状況（出席およびグループワーク等への参加態度により、減点を行う）、レポート（面接技術・環境測定・健康教育に関するレポート：30%）、その他（環境測定・健康教育についてのグループワーク：20%）

授業の目的および到達目標
あらゆるライフステージ、健康レベルにある地域住民に対して、個人・家族・集団を対象とした看護活動を展開するために必要な知識と方法について講義及び演習を行う。健康相談、健康診査や家庭訪問など個別への支援と健康教育など集団への支援とのつながりや地区組織化、地域ケアシステムについて理解する。

テーマおよび内容
[1 回] 保健指導の基本：掛本 保健指導とは／保健指導に関する理論／保健指導の展開／家庭訪問の実際／健康相談の実際 [2 回] 保健指導に関する理論：掛本 保健行動理論と保健指導で活用できる理論 [3 回] 保健指導の展開：掛本 健康相談・健康診査・家庭訪問における保健指導 [4 回] 保健指導技術①：掛本・吉川・野崎 行動変容のための面接技術 [5 回] 保健指導技術②：掛本・吉川・野崎 行動変容のための面接技術 [6 回] 環境測定と保健指導①：吉川 環境測定の実際 [7 回] 環境測定と保健指導②：吉川 環境測定の実施及びその評価（グループワーク） [8 回] 環境測定と保健指導③：吉川 環境測定の実施及びその評価（グループワーク） [9 回] 環境測定と保健指導③：吉川 環境測定の実施及びその評価（グループワーク）

[10回] 健康教育の基本：掛本
健康教育の基本とその実際
[11回] 健康教育の展開：掛本・吉川・野崎
健康教育の実際（グループワーク）
[12回] 健康教育の展開：掛本・吉川・野崎
健康教育の実際（グループワーク） [13回] 健康教育の展開：掛本・吉川・野崎
健康教育の実際（グループワーク）
[14回] 健康教育の展開：掛本・吉川・野崎
健康教育の実際（グループワーク）
[15回] 健康教育の展開：掛本・吉川・野崎
健康教育の実際・発表・評価価

学生へのメッセージ
保健師資格取得希望者は、必ずこの授業を選択してください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

地域看護管理論[1445050]

科目名	地域看護管理論[1445050]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：『公衆衛生看護管理論（最新保健学講座）』平野かよ子,編.第3版 (メジカルフレンド社)20011

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標
地域において適切な看護実践が展開できるよう、さらには効果効率的な看護実践を目指すための地域看護管理のあり方について、その知識・スキルを教授する。他職種との連携の仕方、そこに横たわる諸問題の解決法についても学習し、リーダーシップのあり方、リーダー育成について考察する。さらには災害時における看護職としての役割についても言及する。

テーマおよび内容
[1回] 公衆衛生看護管理機能 公衆衛生看護管理の機能の定義と特徴／公衆衛生看護管理の前提／公衆衛生看護管理に求められる視点 [2回] 公衆衛生管理の3つの概念 マネージメント／リーダーシップ／フォロワーシップ [3回] 公衆衛生看護管理の実際：地区管理 地域および地域集団の特性の把握と地域看護過程の展開 [4回] 公衆衛生看護管理の実際：事例管理 地域における個別ケースへの支援過程／個別支援から施策化へ [5回] 公衆衛生看護管理の実際：事業・業務管理 活動目標・事業計画の策定／事業化および施策化／事業・業務の実施と進捗管理／事業計画の見直しと評価 [6回] 公衆衛生看護管理の実際：予算管理／組織運営・施設整備管理 予算編成／保健計画の策定と予算策定／予算と議会／予算の執行／組織運営管理／環境および施設の整備 [7回] 公衆衛生看護管理の実際：情報管理／健康危機管理／人事管理 守秘義務と保健師活動／事例管理における情報管理／健康危機管理／人事管理の基本／職員の健康管理／安全管理 [8回] 地域ケアシステムづくり 地域ケアシステム／地域ケアシステムの構築／ケアシステムの構築に求められる資質

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

地域ケア連携とシステム[1445060]

科目名	地域ケア連携とシステム[1445060]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は欠席とみなします。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『改訂第3版 公衆衛生看護学.JP』荒賀直子、後閑容子編（インターメディカル）2011

参考書：なし

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験：持ち込み不可＝70%）、出席状況（出席回数＝10%）、レポート（期末１回＝15%）、その他（授業参加度＝5%）

授業の目的および到達目標

地域社会で生活する人々が主体性を持って健康的な生活を続けていくために、どのような医療・保健・福祉の社会資源とシステムを活用すればよいか、現状を踏まえて、地域ケアシステムを概括する。さらに先進的なモデルを探り、将来のあるべき姿を描く。
地域ケア連携において、保健師・看護師が様々な職種とどのように協働し、連携していけば、地域住民の健康と生活が守れるか、予防や健康増進の視点からも理解を深める。住民主体の地域ケアシステム構築がどのように行なわれるか、講義を通じて学習することを目指す。

テーマおよび内容

[1回] 地域ケアシステムの概要 ：地域組織活動の歴史、概念、理論

[2回] 地域ケアシステムの概要：地域組織活動の方法論、グループ支援

[3回] 地域組織活動における展開の原則

[4回] 地域ケアシステムの構築

[5回] 地域ケア連携のグッドプラクティスを探る～国内における先進モデル

[6回] 地域ケア連携のグッドプラクティスを探る～国内における先進モデル

[7回] 地域ケアシステム連携における看護師・保健師の役割

[8回] 地域ケアシステム連携における看護師・保健師の役割

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

ケアマネジメントの理念と実際[1445070]

科目名	ケアマネジメントの理念と実際[1445070]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	川上 嘉明[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
教室	①別途連絡

授業の形態

演習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書：『第3版 データ更新版 公衆衛生看護学.JP』荒賀直子、後閑容子編（インターメディカル）2013、適宜、講義要約書を配布します。

参考書：『新版保健師業務要覧 第2版』 日本看護協会監修 （日本看護協会出版会）2012
六訂 介護支援専門員テキスト編集委員会(平成24年6月）介護支援専門員基本研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター

評価方法・評価割合

定期試験（期末筆記試験 持ち込み不可）、出席状況、授業中の課題

授業の目的および到達目標

ケアマネジメントとはどのような手法なのか、ケアマネジメント手法が出現した歴史的背景について考察し、ケアマネジメントの理念について概括する。そのケアマネジメントの理念がわが国に導入された歴史的展開について述べ、介護保険制度との関係の中で位置づける。さらに実際に行われているケアマネジメントの実態について触れ、事例を通して具体的課題や今後のあり方について考察する。

テーマおよび内容

[１回] ケアマネジメントの概要：ケアマネジメントの歴史／ケアマネジメントの概念／ケアマネジメントの必要性・意義（山本）

[２回] ケアマネジメントにおける看護職の役割：看護職が関わる対象の状況／看護職が関わるニーズ／広義のケアマネジメント（山本）

[３回] 介護保険制度とケアマネジメント：介護保険制度の理念と介護支援専門員／ケアマネジメントの基本／要介護認定等の基礎 （山本）

[４回] ケアマネジメントにおける展開過程：スクリーニングとインテーク／アセスメント／ケアプラン作成／ケアの提供／モニタリング （山本）

[５回] ケアマネジメントにおける社会資源：ケアマネジメントを担う機関／ケアマネジメントを担う専門職／関係職種の役割と連携 （山本）

[６回] サービス担当者会議の開催と進め方：開催の現状／目的と効果／開催時期／開催までの準備／会議の進め方／会議の記録 （山本）

[７回] 介護予防ケアマネジメント：地域包括支援センターの概要／介護予防ケアマネジメントの基本的な考え方／介護予防ケアマネジメントのプロセス（山本）

[８回] 介護予防ケアマネジメントの実際その１：演習／グループワーク・介護予防ケアプラン原案作成 （山本・川上）

[９回] 介護予防ケアマネジメントのその２：演習／グループワーク・介護予防ケアプラン原案作成 （山本・川上）

[10回] 介護給付の構造：介護給付の種類と内容／介護報酬と支給限度額、利用者負担等 （川上）

[11回] ケアマネジメントの臨床：居宅介護支援と施設介護支援／居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービス、
施設サービスの基準とケアマネジメントの実際 （川上）

[12回] 要介護高齢者のケアマネジメント：要介護高齢者のケアマネジメントの実際の進め方／退院支援から在宅施設へ （川上）

[13回] ケアマネジャーの実践：援助困難事例の検討 （川上）

[14回] フォーマル、インフォーマルサービスの知識と活用 ：制度、制度外サービス、家族やその他の機能の実際と活用／看護職ケマネジャーの臨床実践 （川上）

[15回] ケアマネジメントの課題と今後のあり方：地域包括ケアの考え方 （山本）

学生へのメッセージ
介護保険制度におけるケアマネジメントについて看護職者として理解を深めてください。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

地域施設運営論[1445080]

科目名	地域施設運営論[1445080]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	飯田 大輔[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 火曜 4.0〜4.0
	後期 火曜 5.0〜5.0
教室	①303教室

受講条件・その注意
授業中の私語は謹んでください。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『コミュニティを問い直す』 広井良典 （ちくま新書） 2009 参考書:『組織マネジメントのプロフェッショナル』 高橋俊介 （ダイヤモンド社） 『近代科学を超えて』 村上陽一郎 （講談社学術文庫） 『ケアの社会学』 上野千鶴子 （太田出版）

評価方法・評価割合
レポート（期末1回＝50%）、授業中の課題（小レポート＝50%）

授業の目的および到達目標
地域において、とりわけ地域における施設看護が社会化されるためには、地域の看護ニーズが明らかにされ、そのニーズに的確に応えられるよう、組織体制の構築、その維持管理が整えられる必要がある。さらに地域の施設における看護実践の具体は、地域の住民に活用され、日常生活の役に立つ状態になければならない。本科目では、こうした課題を解決するために必要な、医療・福祉制度における地域内組織の現状、組織的に看護を提供するための運営管理、財務・労務管理、資源の調達・管理、サービス提供のプロセス、情報公開等の地域連携について教授する。またサービス提供の国際規格についても、理解できるようにする。

テーマおよび内容
[1回] イントロダクション [2回] 豊かさとは何か。福祉国家の国際比較 [3回] コミュニティと社会関係資本 [4回] 少子高齢化をめぐる動向・コミュニティの変化 [5回] 時間と空間からみるコミュニティ [6回] ケア労働と組織マネジメント [7回] さまざまなサービス提供主体、協セクターの役割

[8回] まちづくりと地域再生

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

国際看護論[1446020]

科目名	国際看護論[1446020]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井Pak 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 月曜 3.0〜3.0
教室	①303教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
授業の中で指定する

評価方法・評価割合
出席状況（50%）、授業中の課題（50%）

授業の目的および到達目標
当該科目では、世界の健康問題と、それに対する看護の現状と課題について学習し、異文化の中での看護実践におけるコミュニケーションの基本、価値観の相違、倫理などについて学習する。さらに国際協力における看護の役割について理解を深めるとともに、先進国および開発途上国における看護の現状と課題について概説する。将来、海外での看護実践を目指す学生のみならず、国内においてさまざまな背景を持つ対象を理解する上での基本的考え方について学習する。

テーマおよび内容
[1回] オリエンテーション、異文化コミュニケーションの基本、世界の人々の健康状況概説 [2回] ICNの活動内容 [3回] 異国間の災害支援 [4回]〜[6回] 選択した宗教に関するプレゼンテーション [7回]〜[8回] 異文化コミュニケーションの寸劇 プレゼンテーションは、模造紙を使用、peer review による評価

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

看護管理論[1446030]

科目名	看護管理論[1446030]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井Pak 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0〜2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

出席重視の科目です。遅刻2回で欠席1回とみなします。定期試験の変わりに小テストとレポートを提出していただきます。レポートは、ワープロを使用し、APAスタイルで書いてください。詳細は授業にて提示します。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『看護サービス管理 第四版』中西睦子他編集 （医学書院）2013

参考書：授業にて提示します

評価方法・評価割合

出席状況（20%）、レポート（20%）、授業中の課題（10%）、その他（授業中の小テスト 50%）

授業の目的および到達目標

看護専門職として必要なマネジメントの知識・スキルを教授するとともに、看護管理学の歴史的背景、概念枠組み、マネジメントに関する理論について概説する。さらに、ヘルスケアサービスの提供者として身に着けておくべき倫理について、現在の医療が抱える倫理的課題を具体的に取り上げて探求する。また、看護実践の質を向上の基本である医療政策について、政策決定のプロセスについて学習する。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション ： 看護サービス管理とは

[2 回] 看護サービスの概念 ： 看護サービスの概念枠組み

[3 回] 経営学 ： 経営とは、理念とは、ビジョンとは、経営資源とは、管理論の歴史的変遷

[4 回] 組織について ： 組織とは、組織図とは、指示命令系統とは、ラインとスタッフ

[5 回] マネジメント ： マネジメント理論、X理論・Y理論、セオリーZ、目標管理方式（MBO)、マネジメントサイクル

[6 回] リーダーシップ ： リーダーとは、リーダーシップとは、組織おけるリーダーの役割と機能

[7 回] 管理と情報：テキサス大学からの遠隔授業（Dr. James P. Turely)

[8 回] 看護の経済性、
モチベーション： 看護経済学のモデル、看護の経済的評価、マズローの欲求体系理論、ハーツバー グの二要因理論、強化理論

[9 回] マーケティング ： マーケティングの概念、医療におけるマーケティング

[10回] 日本の医療制度 ： 国民皆保険制度、診療報酬制度

[11回] 諸外国の医療制度 ： 米国、英国、カナダ等の医療制度

[12回] 管理と情報 ： 看護管理学における情報管理とは(テキサス大学からの遠隔授業の予定)

[13回] 看護倫理 ： 看護の倫理とは、ニュルンベルグ綱領、WMAジュネーブ宣言、ICN看護師の倫理綱領、WMAヘルシンキ宣言

[14回] 看護政策 ： 政策とは、政策と看護、内閣法、議員立法

[15回] キャリア開発 ： キャリアとは、キャリア設計、キャリア形成、ジェネラリストとスペシャリスト

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

看護理論特講[1446050]

科目名	看護理論特講[1446050]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井 一薫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0〜3.0
教室	①303教室

受講条件・その注意
テキストは必ず手元におくこと

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：『実践を創る 新看護学原論』 金井一薫 （現代社） 2012 『看護覚え書』 F.ナイチンゲール著、湯槇ます他訳 （現代社） 2013

評価方法・評価割合
出席状況（グループワークやレポート提出が必要なコマが多いので、休まないで出席すること。）、レポート（授業中に8回のレポート課題を出す。配点は全体で100%）

授業の目的および到達目標
これまでの看護界において生成した諸看護理論を概括し、学生が3年間に渡る実習の中で得た知識や技術と統合できる思考的道筋を付け、学生一人ひとりの看護観形成の一助とすることを目的とする。諸看護理論の中でも、特にナイチンゲール思想に着目し、“人類の健康の実現”を目指す21世紀の科学思考と重なる点を強調しつつ、さらにナイチンゲール思想と東洋医学思想の共通点に着目し、現代医療への適用の道を探る。

テーマおよび内容
[１回] 看護界において生成した諸看護理論の概要について [２回] 看護学概論の主要構成概念のまとめ [３回] 看護学の構造と実践の構造 [４回] 看護とは何かについて、事例を基に思考する（その１） [５回] 看護とは何かについて、事例を基に思考する（その２） [６回] 看護とは何かについて、事例を基に思考する（その３） [７回] 看護実践と看護理論（その１） [８回] 看護実践と看護理論（その２） [９回] 看護実践と看護理論（その３） [10回] 看護実践と看護理論（その４）

[11回] 看護実践と看護理論（その５）

[12回] 看護実践と看護理論（その５）

[13回] 看護実践と看護理論（その６）

[14回] 『看護覚え書』を読む（１）

[15回] 『看護覚え書』を読む（２）
全体のまとめ

学生へのメッセージ
4年間の思考のまとめの授業として、これからの自己の看護観の確立に役立ててほしい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

原著講読[1446060]

科目名	原著講読[1446060]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井Pak 雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0〜2.0
教室	①303教室

授業の形態
演習

教科書・参考文献
授業中に指定

評価方法・評価割合
レポート（100%）

授業の目的および到達目標
当該科目は、英語で書かれた看護学の研究論文を読み解くもので、自己の研究テーマに関連のある原著論文を選択し、その要約を英語にてまとめる。さらに、論文内容の理解のみならず、研究論文としてのまとめ方、概念枠組み、研究方法、統計処理、考察などについてクリティークを行う。選択した研究論文をまとめ、文献レビューとしてまとめる。

テーマおよび内容
研究論文としてのまとめ方、概念枠組み、研究方法、統計処理、考察などについてクリティークを行う。選択した研究論文をまとめ、英語で文献レビュー書く。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

統合実習[1447010]

科目名	統合実習[1447010]
科目区分・科目種	統合実習
クラス	看護学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	金井Pak 雅子[看護学部 看護学科]
	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
	前田 樹海[看護学部 看護学科]
	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
	梶原 祥子[看護学部 看護学科]
	川上 嘉明[看護学部 看護学科]
	杉田 和代[看護学部 看護学科]
	臼井 美帆子[看護学部 看護学科]
	高橋 雪子[看護学部 看護学科]
	平田 美和[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	家吉 望み[看護学部 看護学科]
	北島 泰子[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
	江藤 千里[看護学部 看護学科]
	金井 一薫[看護学部 看護学科]
	三木 祐子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前集中
教室	①別途連絡

受講条件・その注意
3年次の各領域別実習科目が全て合格している者が受講できる。

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書および参考書は、各領域の教員から指示される。

評価方法・評価割合
出席状況（全体の5分の４以上の出席が求められる）、その他（各領域の実習を総合して評価する）

授業の目的および到達目標

当該科目は、これまでの学習を統合させつつ、チーム医療および他職種との協働のなかで看護師としての役割を理解するとともに,看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。一勤務帯を通した実習、複数患者の受け持ち、継続看護（在宅看護の内容を含む）、看護管理実習等、臨床実践の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験する。また、基礎看護技術の到達度評価を行うとともに確かな実践力を修得することを目的とする。

さらに、学生個々人が卒業後に臨床現場にスムーズに適応し、自己の能力を十分に開発・発揮できることを見据え、自分の進路希望と合わせた実習分野を選択する。これまで学んできた看護実践から自己の看護実践課題を明らかにし、担当教員の指導を受けながら実習プログラムを立案し、看護実践の基礎を活かしながら、その応用までを学習する。

テーマおよび内容

１．実習の時期：平成25年5月～平成24年7月までの３カ月間にわたって行われる

２．実習の領域と時間数

（１）基礎看護学分野：1単位分（30時間）

（２）看護管理学分野：1単位分（30時間）

（３）各看護学領域：2単位分（60時間）

・成人看護学分野（急性期）

・成人看護学分野（慢性期）

・老年看護学分野

・母性看護学分野

・小児看護学分野

・精神看護学分野

・地域看護学（産業・在宅）分野

３．実習形態：「授業概要」にそった内容で構成された各分野の形態があり、学生は上記（１）～（３）の実 習を、合計４単位分取得しなければならない。

学生へのメッセージ

・各自の関心を大きく膨らませて、それに果敢に取り組むこと
・グループの関係性、教員とのコミュニケーションを上手にとり、看護師に必要な資質を伸ばす努力をしてほしい。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

卒業研究[1448010]

科目名	卒業研究[1448010]
科目区分・科目種	卒業研究
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井Pak 雅子[看護学部 看護学科]
	金井 一薫[看護学部 看護学科]
	髙橋 正子[看護学部 看護学科]
	前田 樹海[看護学部 看護学科]
	大沼 幸子[看護学部 看護学科]
	掛本 知里[看護学部 看護学科]
	梶原 祥子[看護学部 看護学科]
	川上 嘉明[看護学部 看護学科]
	千葉 喜久也[看護学部 看護学科]
	杉田 和代[看護学部 看護学科]
	山下 雅子[看護学部 看護学科]
	高橋 雪子[看護学部 看護学科]
	臼井 美帆子[看護学部 看護学科]
	平田 美和[看護学部 看護学科]
	吉川 悦子[看護学部 看護学科]
	相田 京子[看護学部 看護学科]
	家吉 望み[看護学部 看護学科]
	北島 泰子[看護学部 看護学科]
	高畠 有理子[看護学部 看護学科]
	中村 充浩[看護学部 看護学科]
	江藤 千里[看護学部 看護学科]
	三木 祐子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
曜日・時限	通年 水曜 3.0～3.0
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：『APA論文作成マニュアル（第二版）』 米国心理学会(著) 前田樹海他(訳) 医学書院 2011

評価方法・評価割合

定期試験（50%）、レポート（50%）

授業の目的および到達目標

当該科目は、看護研究を通して、看護実践におけるさまざまな現象を科学的に探求する力を養う。臨地実習において深めるテーマを選択し、各自の研究テーマについて指導教員のもとで、文献検索、方法、データ収集・分析、結果、考察について、一連の研究プロセスを踏みながら、研究の基礎能力を養う。特に、文献に関しては、できるだけ広範囲にわたり検索を行うとともに、それぞれの文献に対して批判的にレビューできることを目指す。

テーマおよび内容

1. 提出する論文について

(1) 文献研究を主な研究方法とする。

(2) 文献研究で得られた結果を基に実験、調査研究等を行うことも可能であるが、その場合、その研究計画については、看護学科卒業研究倫理審査委員会（教授会）
の審査を経て研究を行うものとする。審査委員会への研究計画書の提出期限は2012年5月31日（木）とする。

(3) 提出する論文は、概ねA4判,15,000字（表紙、要旨、文献リストは含まない）とする。

(4) 論文の記述書式については、APA方式に準ずるものとし、表紙、要旨、序論、研究目的、研究方法、結果、考察、結論、結語、文献を含むものとする。

(5) 2014年9月（日時は後日提示）に卒論の予演会を実施する。この予演会での指摘を受け、論文を修正し、10月10日（金） 13:00（学務部）に提出する。

2. 日程

(1)オリエンテーション 2012年9月6日 （木）...終了

(2)希望テーマおよび領域の登録 2012年 11月30日（金）：テーマ登録システムへの登録

(3)領域の決定 2013年 1月15日（火）：担当教員への提示

(4)学生配置の掲示 2013年 1月28日（月）12:00

(5)担当別オリエンテーション 2013年2月18日（月）12:00以降

(6)研究計画書提出期限 2013年4月26日（金）：担当教員が科目責任者に提出（倫理審査委員会提出の場合）

(7)予演会 2013年9月6日(金)、18日(水)予定

(8)論文と抄録の提出 2013年10月11日（金） 13:00（学務部）時間厳守 期限を過ぎたものは受け取らない

２．試験について
11月から試験を開始する。1回で合格下場合は、50点として、2回目以降で合格した場合には、得点が減点される。核.

学生へのメッセージ

論文の作成および提出に関しては、マニュアルを参照のこと。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ組織論[1450010]

科目名	スポーツ組織論[1450010]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田簑 健太郎[非常勤講師]
	田中 宏和[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする。

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会） 参考書：特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
今やスポーツは人々の生活に分かちがたく深く切り結んでいるが、スポーツは単独で存在しているのではなく、社会事象の一部として存在する。したがって、スポーツを社会学的に理解しようとするとき、社会事象を踏まえることが必要不可欠である。とりわけ、現代の我が国に焦点を当てると、価値観の多様化、少子高齢化は、スポーツの側面からも看過することのできないものである。そこで、本講義では、スポーツを歴史・文化・社会の側面から捉えることによって、現代社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割について学習することによって、スポーツについて理解を深めるものである。また、わが国における行政とスポーツのかかわりの現状と課題について認識を深める。本講義では、スポーツ組織の経営や運営に必要な基礎的知識について学習するとともに、スポーツに関わる現代的課題について解説する。特に、我が国のスポーツ振興政策と行政とスポーツのかかわり、地域スポーツクラブや広域スポーツセンターの機能と役割、スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価等について教授する。

テーマおよび内容
（田簑健太郎） [1回] スポーツとは [2回] スポーツの概念と歴史について [3回] 文化としてのスポーツとその特性 [4回] 社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割 [5回] 我が国のスポーツプロモーション [6回] スポーツプロモーションの課題と展望

[7回] 高齢者及び障害者のためのスポーツ

（田中 宏和）

[8回] 総合型地域スポーツクラブの育成と運営

[9回] スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング

[10回] 地域スポーツクラブの機能と役割

[11回] スポーツ事業のプロモーション

[12回] 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり

[13回] 我が国のスポーツ振興施策①

[14回] 我が国のスポーツ振興施策②

[15回] 試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

発育発達論[1450020]

科目名	発育発達論[1450020]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	広瀬 統一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,スポーツプログラマー

授業の形態
講義

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目では、子どもの発育発達特性、スポーツ活動・運動が子どもの心身の成長に与える影響、発育発達期に過重負荷をかけることによる弊害などについて学習し、子どもたちのスポーツ活動・運動のあり方についての理解を深める。講義のポイントとして、発育発達過程の一般的ステージ分け（スキャモンの発育発達曲線）の理解や各ステージにおける身体的特徴や心理的特徴を理解させる。また、老化と体力運動能力、作業能力についてや、体力に及ぼす先天性や後天性の要因についても理解させる。

テーマおよび内容
[1回] 発育発達期の身体的特徴
[2回] 発育発達期の心理的特徴
[3回] 発育発達期に多いケガや病気
[4回] 発育発達期のプログラム
[5回] 中高年者とスポーツプログラム
[6回] 老化の過程と生体の構造と機能変化
[7回] 女性とスポーツ/身体的特徴について
[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日

スポーツ指導論[1450030]

科目名	スポーツ指導論[1450030]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	守屋 志保[非常勤講師]
	堀野 博幸[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意
身体を動かした指導実践することがあるため、必ず着替えを準備して授業に望むこと

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書：『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標
本科目は、国民の一人一人が、豊かで活力のある生活･暮らしを目指し、生涯を通じたライフステージにおいて、自己の能力・適正・興味・関心など、主体的にスポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツを構築していくという社会、いわゆる生涯スポーツ社会を実現していくための助言者と成りえるための知識を理解、習得させる。また、競技者育成システムという観点から、将来性豊かな競技者をいち早く「見つけ・育てて・世界で活躍させる」ための長期的展望に立脚した指導計画の重要性を認識させる。講義のポイントとして１週間、１年間などの一定期間内に行う指導を、どのように実施するかを示す指導計画立案に含まれるべき内容、項目の理解、さらに一定期間内だけではなく、将来、競技者として最高のパフォーマンスを発揮できるようにするために、指導計画に考慮すべき内容、項目を理解させる。

テーマおよび内容
（守屋志保） [1回] スポーツ指導者とは [2回] 指導者の心構え・視点 [3回] 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割 [4回] 指導計画のたて方 [5回] スポーツ活動と安全管理 [6回] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 [7回] スポーツと人権 [8回] プレーヤーと指導者の望ましい関係

[9回] ミーティングの方法

[10回] 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割

（堀野博幸）

[11回] トップアスリートを育てるために～指導者が持つべき視点～

[12回] トップアスリートの育成・強化の方法とその評価

[13回] 競技力向上のためのチームマネジメント

[14回] 競技力向上のための情報とその活用

[15回] 試験

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2014年5月28日